

令和4年度

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査

【報 告 書】

令和5年3月

大野城市

目次

I 調査の概要	1
1. 調査実施の目的.....	1
2. 調査対象者と調査方法.....	1
3. 回収状況.....	1
4. 調査項目.....	2
5. 圏域の分類.....	5
6. 集計分析上の注意事項.....	5
II 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	6
1. 回答者の基本属性.....	6
2. 生活状況.....	9
3. からだを動かすことについて.....	14
4. 食べることについて.....	22
5. 毎日の生活について.....	28
6. 地域での活動について.....	36
7. たすけあいについて.....	45
8. 健康について.....	51
9. 認知症に関する相談窓口の把握について.....	57
10. 成年後見制度について.....	59
11. 生活機能の低下・リスクについて.....	70
12. 日常生活圏域の特性.....	90
13. 大野城市全体の課題の整理.....	92
III 在宅介護実態調査	94
1. 回答者の基本属性.....	94
2. 主な介護者ご自身について.....	100
3. 生活状況.....	105
4. 介護保険サービスの利用について.....	110
5. 介護保険サービス以外の支援や利用について.....	126
6. 成年後見制度について.....	130
7. 主な介護者の勤務状況.....	141
8. 介護者が行う介護内容について.....	147
9. 介護者の状況について.....	151
10. ダブルケアについて.....	157
11. 仕事と介護の両立に向けた必要な支援・サービス等について.....	167

I 調査の概要

1. 調査実施の目的

本調査は、大野城市に在住する高齢者の日常生活や健康状態、在宅で生活する要介護者および介護者のニーズや実態を把握し、地域が抱える課題に対応して、今後の保健福祉行政に活かすとともに、「第9期大野城市介護保険事業計画及び高齢者保健福祉計画」策定のための基礎資料とすることを目的としてアンケート調査を実施した。

2. 調査対象者と調査方法

	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	在宅介護実態調査
調査対象者	一般高齢者、総合事業対象者、 要支援認定者 (65歳以上の高齢者 20,089人の うち無作為抽出した人)	要介護認定者 (要支援1・2、要介護1~5認定者 2,502人のうち無作為抽出した人)
対象数	4,016人	1,004人
調査期間	令和4年12月12日から令和5年1月10日	
調査方法	郵送による配布・回収	

3. 回収状況

	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	在宅介護実態調査
配付数	4,000件	1,000件
総回答数	2,438件	470件
有効回答数	2,438件	470件
有効回答率	61.0%	47.0%

※対象数は、アンケート抽出人数。配布数は、「死亡」「転出」「宛先不明」を除いた数。

4. 調査項目

(1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（国の設定する調査項目）

区分	問番号	設問	国の項目		市の独自項目
			基本項目	オプション項目	
基本情報	—	記入日／記入者	○		
本人の状況について	問 1-(1)	お住まいの地域			○
	問 1-(2)	性別			○
	問 1-(3)	年齢			○
	問 1-(4)	介護保険の認定状況			○
家族や生活状況について	問 2-(1)	家族構成	○		
	問 2-(2)	介護・介助の必要性	○		
	問 2-(2)-①	介護・介助が必要になった主な原因		○	
	問 2-(2)-②	どなたの介護・介助を受けているか		○	
	問 2-(3)	現在の暮らしの経済的状況	○		
	問 2-(1)	住まいの種類		○	
からだを動かすことについて	問 3-(1)	階段や手すりの昇降	○		
	問 3-(2)	椅子の立ち上がり	○		
	問 3-(3)	15分位続けて歩いているか	○		
	問 3-(4)	過去1年の転倒経験	○		
	問 3-(5)	転倒に対する不安	○		
	問 3-(6)	外出の頻度	○		
	問 3-(7)	外出回数が減っているか	○		
	問 3-(8)	外出を控えているか		○	
	問 3-(8)-①	外出を控えている理由		○	
	問 3-(9)	外出する際の移動手段		○	
食べることについて	問 4-(1)	身長・体重	○		
	問 4-(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなったか	○		
	問 4-(3)	お茶や汁物等でむせることがあるか		○	
	問 4-(4)	口の渇きが気になるか		○	
	問 4-(5)	歯みがきを毎日しているか		○	
	問 4-(6)	歯の数と入れ歯の利用状況	○		
	問 4-(6)-①	噛み合わせの良さ		○	
	問 4-(6)-②	毎日の入れ歯の手入れ		○	
	問 4-(7)	6か月間で2～3kgの体重減少		○	
問 4-(8)	共食の機会	○			
毎日の生活について	問 5-(1)	もの忘れが多いと感じるか	○		
	問 5-(2)	電話をかけることができるか		○	
	問 5-(3)	日にちがわからない時があるか		○	
	問 5-(4)	バスや電車を使って1人で外出しているか	○		
	問 5-(5)	食品・日用品の買物をしているか	○		
	問 5-(6)	食事の用意をしているか	○		
	問 5-(7)	請求書の支払いをしているか	○		
	問 5-(8)	預貯金の出し入れをしているか	○		
	問 5-(9)	年金などの書類が書けるか		○	
	問 5-(10)	新聞を読んでいるか		○	
	問 5-(11)	本や雑誌を読んでいるか		○	
	問 5-(12)	健康についての記事や番組に関心があるか		○	
	問 5-(13)	友人の家を訪ねているか		○	
	問 5-(14)	家族や友人の相談にのっているか		○	
	問 5-(15)	病人を見舞うことができるか		○	

区 分	問番号	設問	国の項目		市の独自項目
			基本項目	オプション項目	
毎日の生活について	問 5-(16)	若い人に自分から話しかけることがあるか		○	
	問 5-(17)	趣味はあるか		○	
	問 5-(18)	生きがいはあるか		○	
地域での活動について	問 6-(1)	会・グループ活動への参加頻度		○	
	問 6-(2)	地域づくりの活動に参加者として参加意向		○	
	問 6-(3)	地域づくりの活動に企画・運営として参加意向		○	
たすけあいについて	問 7-(1)	心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人	○		
	問 7-(2)	心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人	○		
	問 7-(3)	病気の看病や世話をしてくれる人	○		
	問 7-(4)	病気の看病や世話をしてあげる人	○		
	問 7-(5)	家族や友人・知人以外で相談する相手		○	
	問 7-(6)	友人・知人と会う頻度		○	
	問 7-(7)	1 か月間に会った友人・知人の数		○	
	問 7-(8)	よく会う友人・知人との関係		○	
健康について	問 8-(1)	主体的健康感	○		
	問 8-(2)	主体的幸福度	○		
	問 8-(3)	気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになることがあるか	○		
	問 8-(4)	物事に対して、興味がわからない、楽しめない感じがあるか	○		
	問 8-(5)	飲酒状況		○	
	問 8-(6)	喫煙状況	○		
	問 8-(7)	治療中、後遺症のある病気	○		
認知症にかかる相談窓口の把握について	問 9-(1)	認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるか	○		
	問 9-(2)	認知症に関する相談窓口の認知状況	○		
成年後見制度について	問 10-(1)	成年後見制度の認知状況			○
	問 10-(2)	成年後見制度の関心度			○
	問 10-(3)	成年後見制度に関する相談窓口の認知状況			○
	問 10-(4)	日常生活の中で将来不安に感じること			○
	問 10-(5)	成年後見制度の利用意向			○
	問 10-(5)-②	成年後見制度を利用しない理由			○
	問 8-(6)	成年後見制度の利用促進のために必要だと思うこと			○
	問 8-(7)	市民後見人の認知状況			○
	問 8-(8)	市民後見人としての活動への興味			○
	問 8-(9)	市民後見人の活用意向			○
	問 8-(9)-②	市民後見人を活用しない理由			○

(2) 在宅介護実態調査（国の設定する調査項目、市の独自項目）

区分	問番号	設問	国の項目		市の独自項目
			基本項目	オプション項目	
A票（調査対象者様ご本人について）					
回答者	問1	調査票の回答者	○		
対象者ご自身について	問2	世帯類型	○		
	問3	現在の住まい			○
	問4	調査対象者の性別	○		
	問5	調査対象者の年齢	○		
	問6	調査対象者の要介護度	○		
	問7	施設等への入所・入居の検討状況	○		
	問8	調査対象者が抱える傷病		○	
介護保険サービスの利用について	問9	介護保険サービスの利用	○		
	問10	1か月間のサービスの利用状況（A～L）	○		
	問11	介護保険サービスを利用していない理由		○	
介護保険サービス以外の支援や利用について	問12	現在、利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービス		○	
	問13	今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス		○	
	問14	現在、訪問診療を利用しているか		○	
成年後見制度について	問15	成年後見制度の認知状況			○
	問16	成年後見制度の関心度			○
	問17	成年後見制度に関する相談窓口の認知状況			○
	問18	日常生活の中で将来不安に感じること			○
	問19	成年後見制度の利用意向			○
	問20	成年後見制度を利用しない理由			○
	問21	成年後見制度の利用の促進を図るために必要だと思うこと			○
	問22	市民後見人の認知状況			○
	問23	市民後見人としての活動への興味			○
	問24	市民後見人の利用意向			○
問25	市民後見人を利用しない理由			○	
介護の状況	問26	家族や親族からの受ける介護の頻度	○		
自由回答	問27	必要とする支援や近所等の協力			○
B票（主な介護者の方について）					
主な介護者ご自身について	問1	介護を理由として仕事を辞めた方がいるか	○		
	問2	主な介護者の続柄		○	
	問3	主な介護者の性別		○	
	問4	主な介護者の年齢	○		
介護内容について	問5	主な介護者が行っている介護の内容		○	
	問6	主な介護者が不安に感じる介護の内容	○		
主な介護者の勤務形態	問7	主な介護者の勤務形態	○		
	問8	主な介護者が介護をするにあたって、働き方の調整等をしているか	○		
	問9	仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援		○	
	問10	今後も働きながら介護を続けていけそうか	○		
主な介護者の状況	問11	主な介護者の状況			○
	問12	18歳以下の子や孫に手伝ってもらっている介護の内容や頻度等			○
	問13	介護を手伝っている子や孫に対する必要な支援			○

区分	問番号	設問	国の項目		市の 独自項目
			基本 項目	オプション 項目	
自由回答	問 14	必要とする支援や近所等の協力			○
C票（ダブルケアについて）					
ダブルケアの 負担について	問 1	ダブルケアによる精神的、体力的、経済的に負担①子育て ②介護			○
	問 2	子育てに対して負担を感じる事			○
	問 3	介護に対して負担を感じる事			○
	問 4	ダブルケアのことを相談したことがあるか			○
ダブルケアの 相談について	問 5	ダブルケアについて相談した相手（機関）			○
	問 6	ダブルケアについて相談したことがない理由			○
ダブルケアの 支援策について	問 7	ダブルケアに必要な支援策			○
自由回答	問 8	必要とする支援や近所等の協力			○

5. 圏域の分類

圏域を4つに分け、アンケート調査を行った。

圏域	行政区
南コミュニティ（南地区）	牛額、若草、平野台、月の浦、南ヶ丘1、南ヶ丘2、つつじヶ丘
中央コミュニティ（中央地区）	上大利、下大利、東大利、下大利団地、白木原、瓦田
東コミュニティ（東地区）	釜蓋、井の口、中、乙金、乙金台、乙金東、大池
北コミュニティ（北地区）	上筒井、下筒井、山田、雑餉隈町、栄町、仲島、畑詰

6. 集計分析上の注意事項

- ・図表中の「N」または「n」は、各設問に対する回答者の総数であり、回答率（％）の母数をあらわしている。
- ・集計は小数点第二位以下を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも100.0%にならない場合がある。
- ・回答が複数になる場合、その回答比率の合計は原則として100.0%を超える。
- ・表、グラフに示す選択肢はスペースの関係で文言を短縮又は簡略化して表記している場合がある。
- ・両調査とも、前回調査（令和元年度調査）との比較検討が可能な項目については、グラフ内に示すこととする。

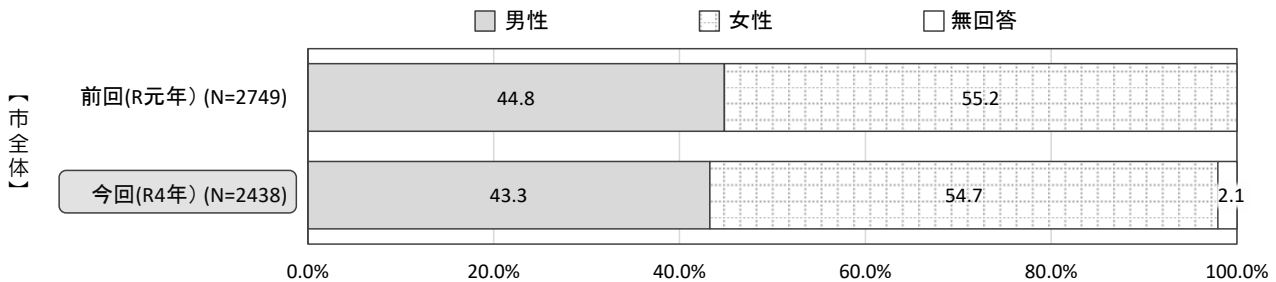
Ⅱ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

1. 回答者の基本属性

(1) 性別

回答者は全体で2,438人となっており、性別は「男性」が43.3%、女性が54.7%となっている。

【問1-(2) 性別】



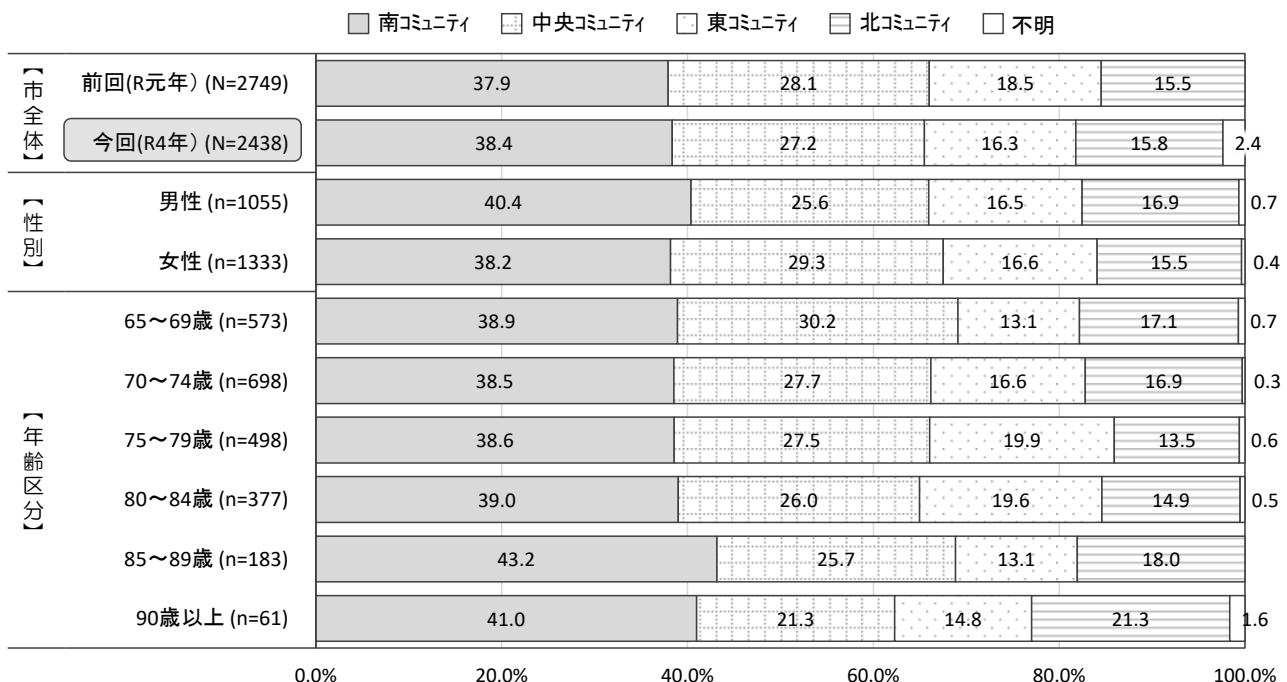
(2) 年齢階級

年齢階級は「70～74歳」が28.6%と最も高く、次いで「65～69歳」が23.5%となっており、これらを合わせた前期高齢者の割合が52.1%となっている。また、75歳以上の後期高齢者の割合は45.9%となっており、前回（令和元年）と比べて2.5ポイント増加している。

性別でみると、男性では前期高齢者が54.7%、後期高齢者が45.4%、女性では前期高齢者が51.9%、後期高齢者が48.0%となっている。

圏域でみると、前期高齢者は北コミュニティ（56.1%）や中央コミュニティ（55.4%）が高く、後期高齢者は東コミュニティ（51.8%）が高くなっている。

【問1-(3) 年齢】

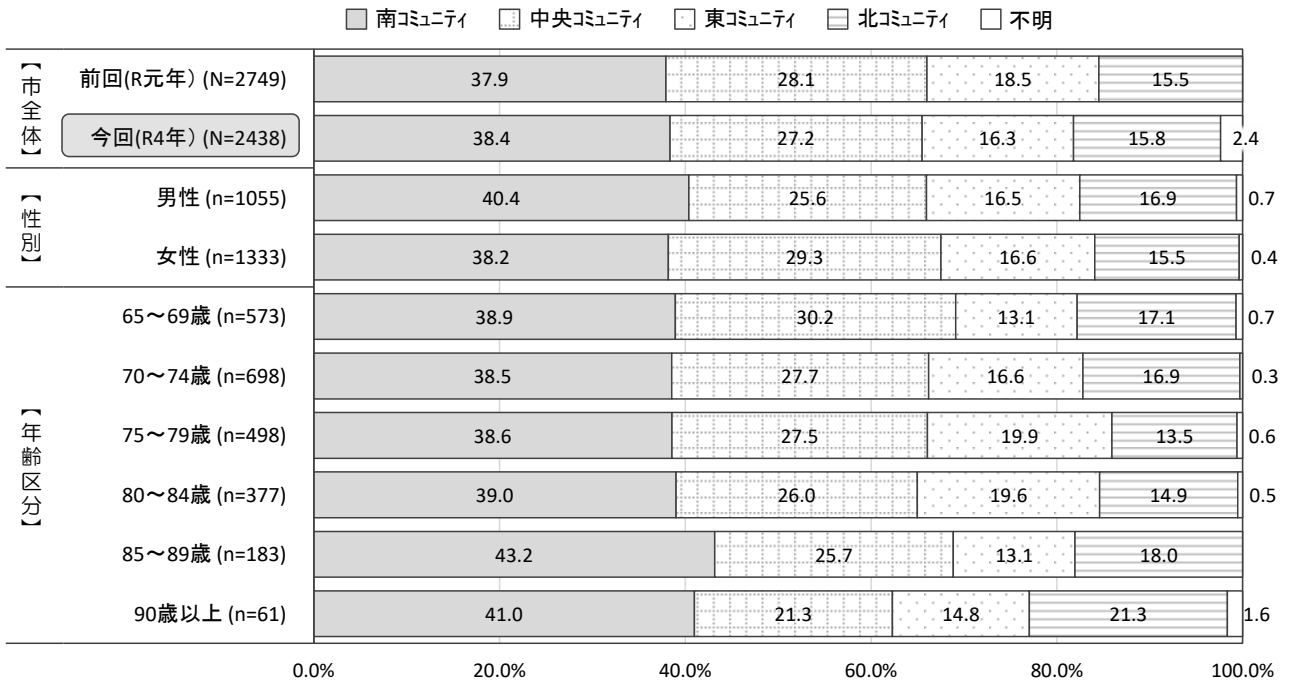


(3) 日常生活圏域

回答者の日常生活圏域は、南コミュニティが38.4%と最も高く、次いで中央コミュニティが27.2%、東コミュニティが16.3%、北コミュニティが15.8%と続く。

※圏域内の行政区については、5ページ参照

【問1-(1) お住まいの地域】

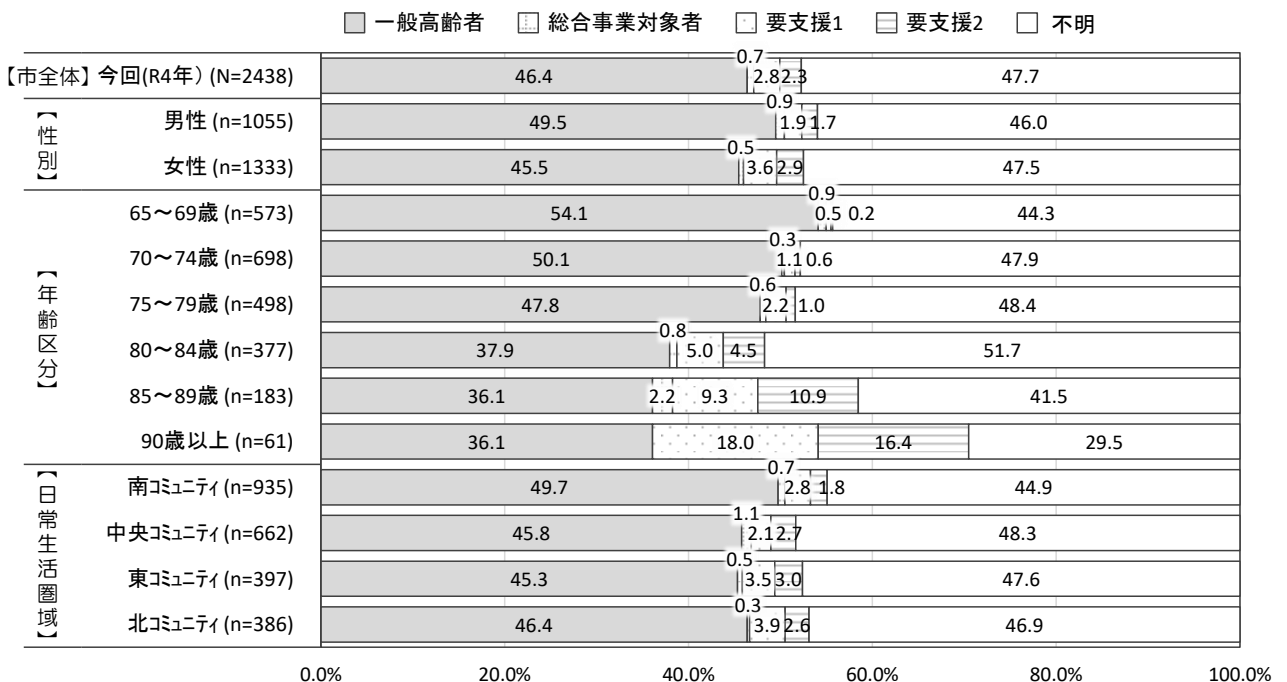


(4) 要介護状態

回答者の要介護状態は、市全体では「不明」(47.7%)を除くと「一般高齢者」が46.4%と最も高い。

年齢区分で見ると、年齢が上がるにつれて「一般高齢者」の割合は減少し、「要支援1」または「要支援2」の割合が増加している。

【回答者の要介護状態】



(5) 家族構成

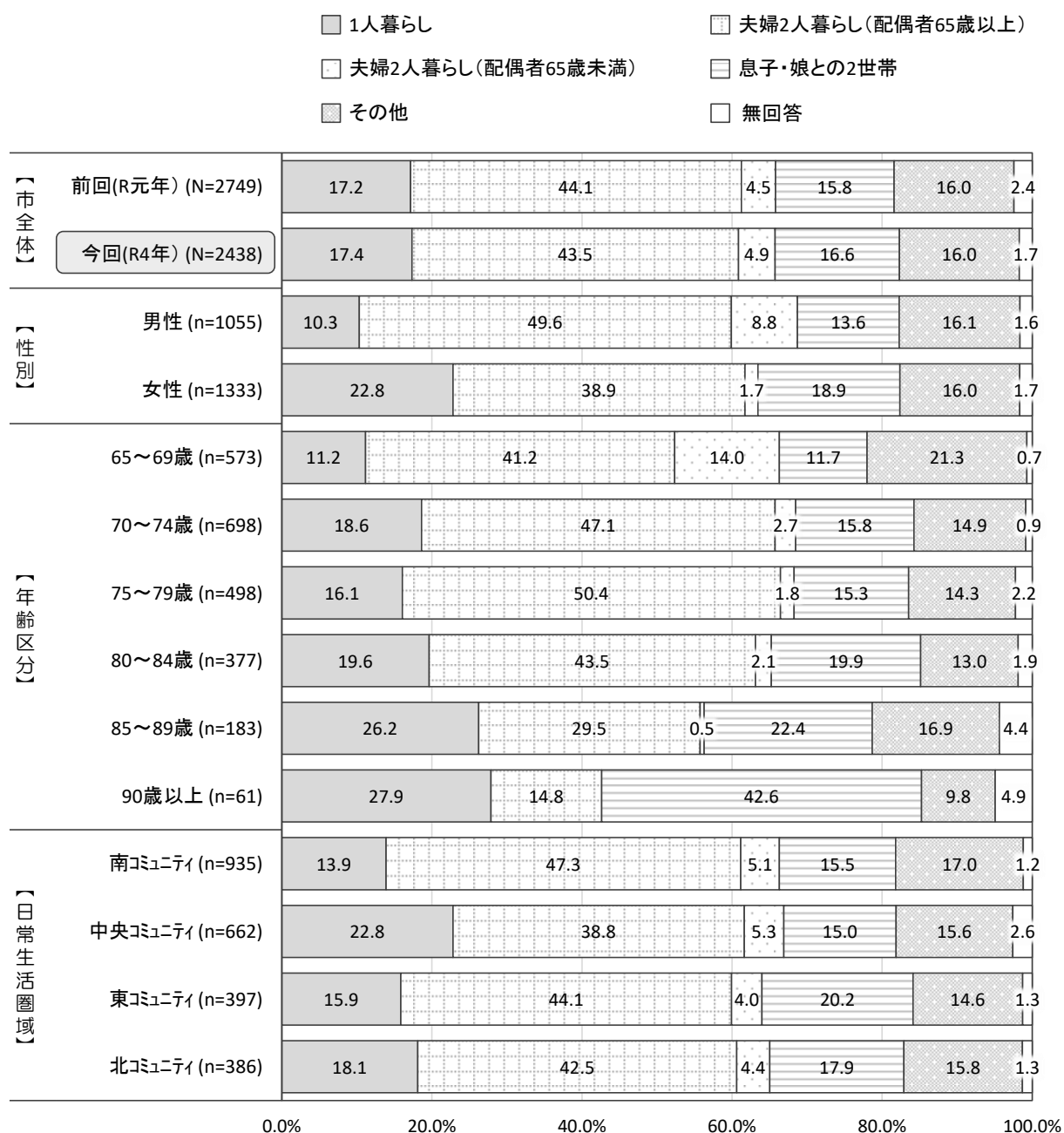
家族構成は、市全体で「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が43.5%と最も高く、次いで「1人暮らし」（17.4%）、「息子・娘との2世帯」（16.6%）と続く。

性別で見ると、「1人暮らし」の割合は男性が10.3%、女性が22.8%で約2倍となっている。

年齢別で見ると、84歳までは「1人暮らし」と「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が多くを占めているが、85歳以上になると「息子・娘との2世帯」が増加する。

圏域別にみると、中央コミュニティや北コミュニティでは「1人暮らし」、南コミュニティでは「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」、東コミュニティでは「息子・娘との2世帯」の割合がそれぞれ他の圏域に比べて高い

【問2-（1）家族構成】



2. 生活状況

(1) 介護・介助の必要性

回答者の現在の介護・介助の必要性は、市全体で「介護・介助の必要はない」が87.7%と多くを占めている。「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」を合わせた“介護・介助が必要”とする割合は10.3%となっている。

性別でみると、女性の方が「現在、何らかの介護を受けている」が6.1%と男性(4.5%)より1.6ポイント高い。

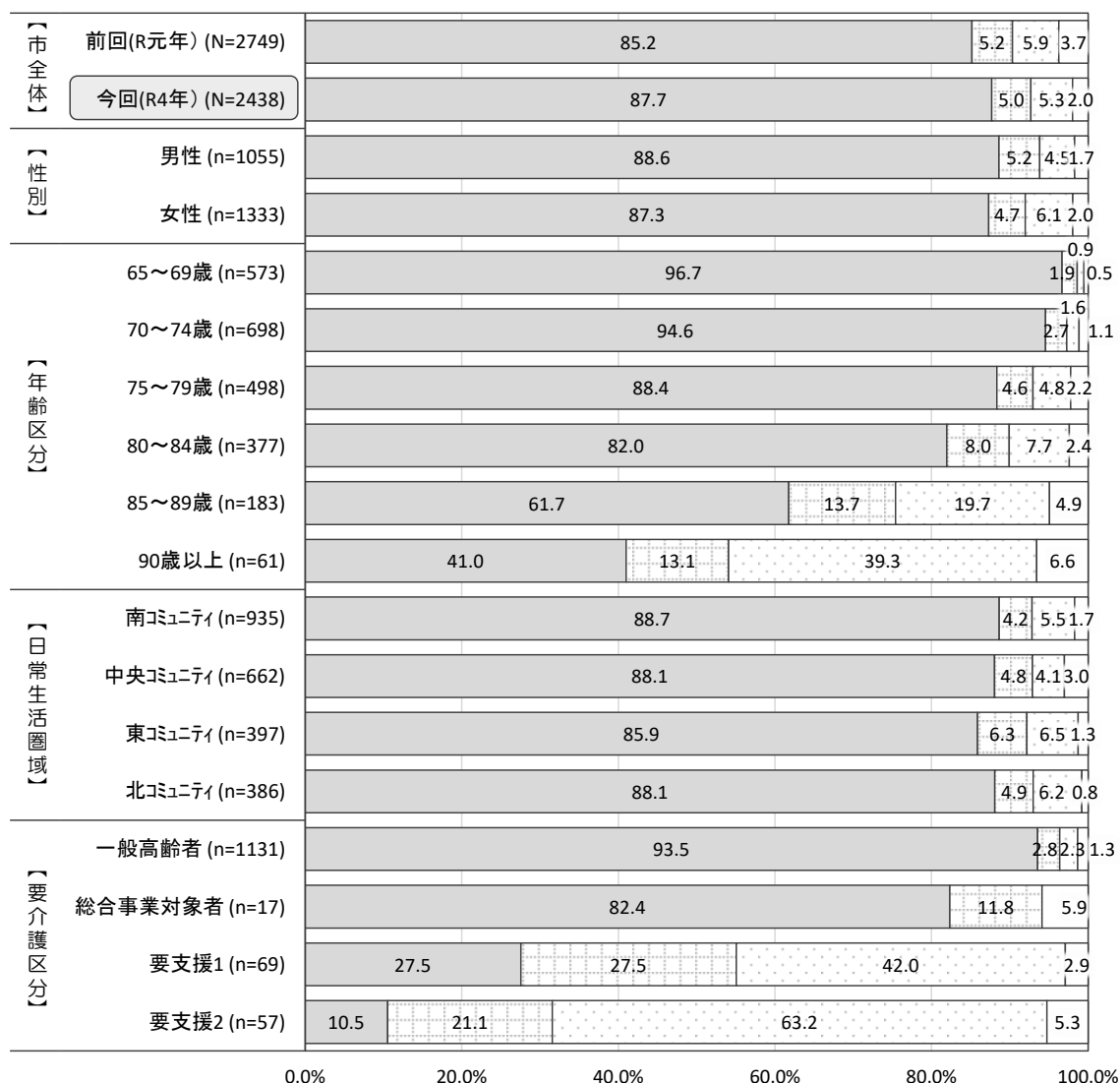
年齢別でみると、“介護・介助が必要”とする割合は、80～84歳では15.7%、85～89歳では33.4%、90歳以上では52.4%と年齢が上がるにつれて増加している。

圏域別でみると「現在、何らかの介護を受けている」が、東コミュニティでは6.5%と他の圏域に比べてやや高い。

要介護区分別でみると、“介護・介助が必要”とする割合は、総合事業対象者で11.8%、要支援1では69.5%、要支援2では84.3%となっている。

【問2-(2) 介護・介助の必要性】

- 介護・介助は必要ない
- 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
- 現在、何らかの介護を受けている(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)
- 無回答

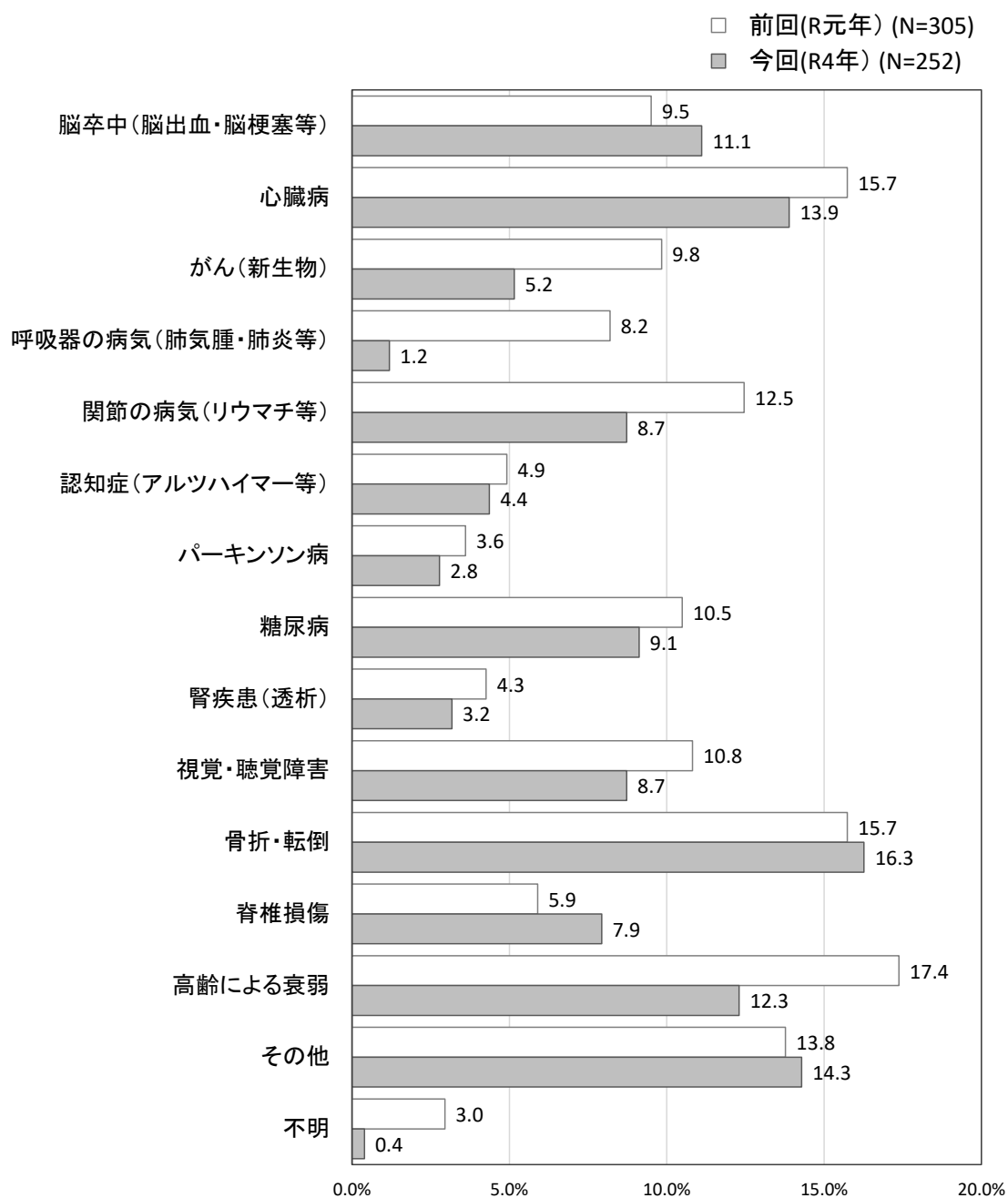


(2) 介護・介助が必要な方の状況

① 介護・介助が必要になった主な原因

「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」もしくは「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」と回答した人のうち、介護・介助が必要になった主な原因は、「骨折・転倒」が16.3%と最も高く、次いで「その他」(14.3%)、「心臓病」(13.9%)、「高齢による衰弱」(12.3%)の順に続く。

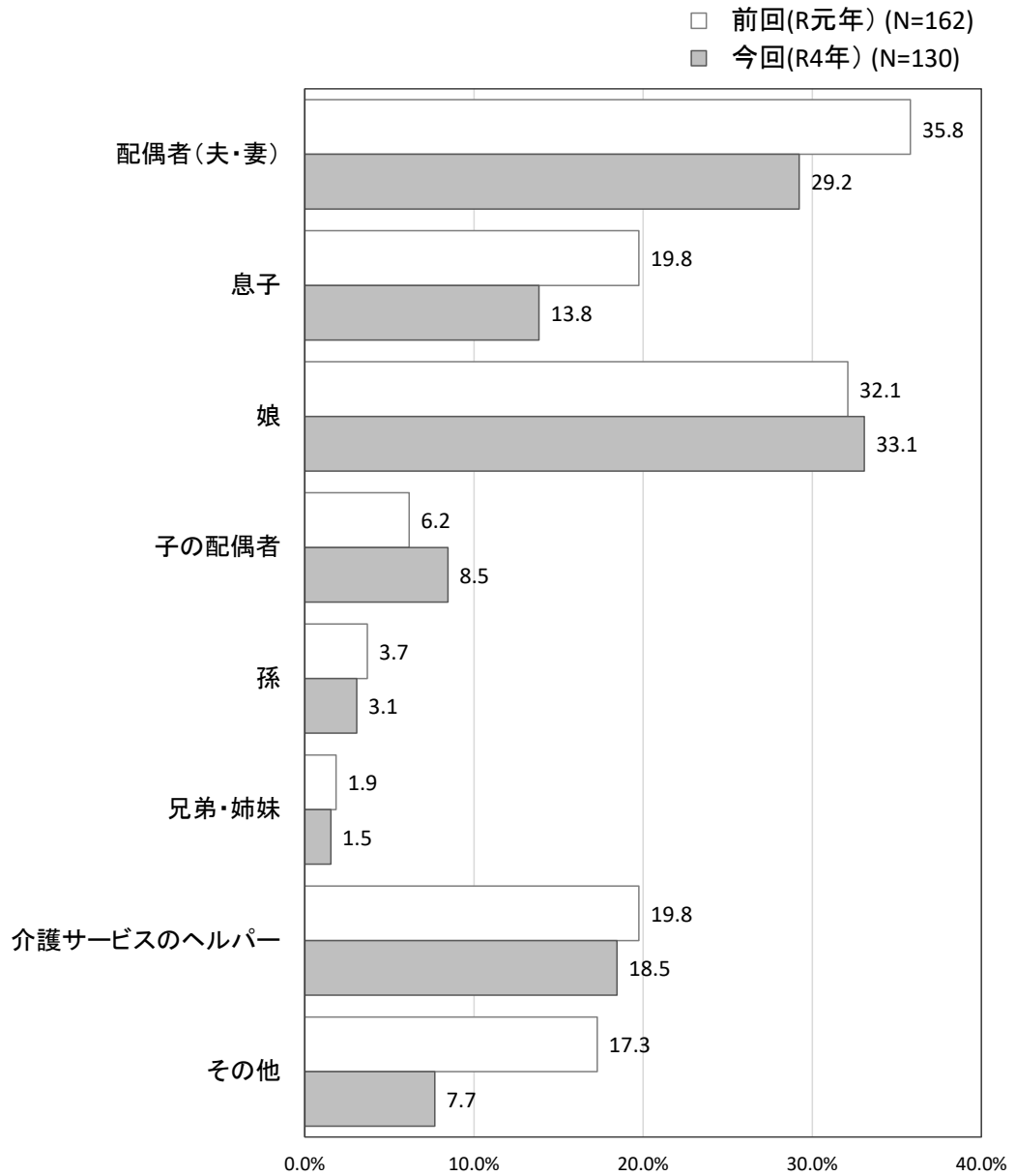
【問2-(2)-① 介護・介助が必要になった主な原因】



② 主な介護者・介助者

主な介護者・介助者は、「娘」が33.1%と最も高く、次いで「配偶者(夫・妻)」(29.2%)、「介護サービスのヘルパー」(18.5%)と続く。

【問2-(2)-② 主な介護者・介助者】



(3) 経済状況

現在の経済的状況は、市全体で「ふつう」とする割合が60.1%と最も高く、次いで「やや苦しい」(24.0%)、「ややゆとりがある」(6.9%)の順位続く。また、「大変苦しい」(5.7%)と「やや苦しい」(24.0%)を合わせた“苦しい”とする割合は29.7%となっており、前回調査(27.9%)と比べて1.8ポイント増加している。

性別でみると、“苦しい”は、男性が30.0%と女性が29.0%と大きな差はない。

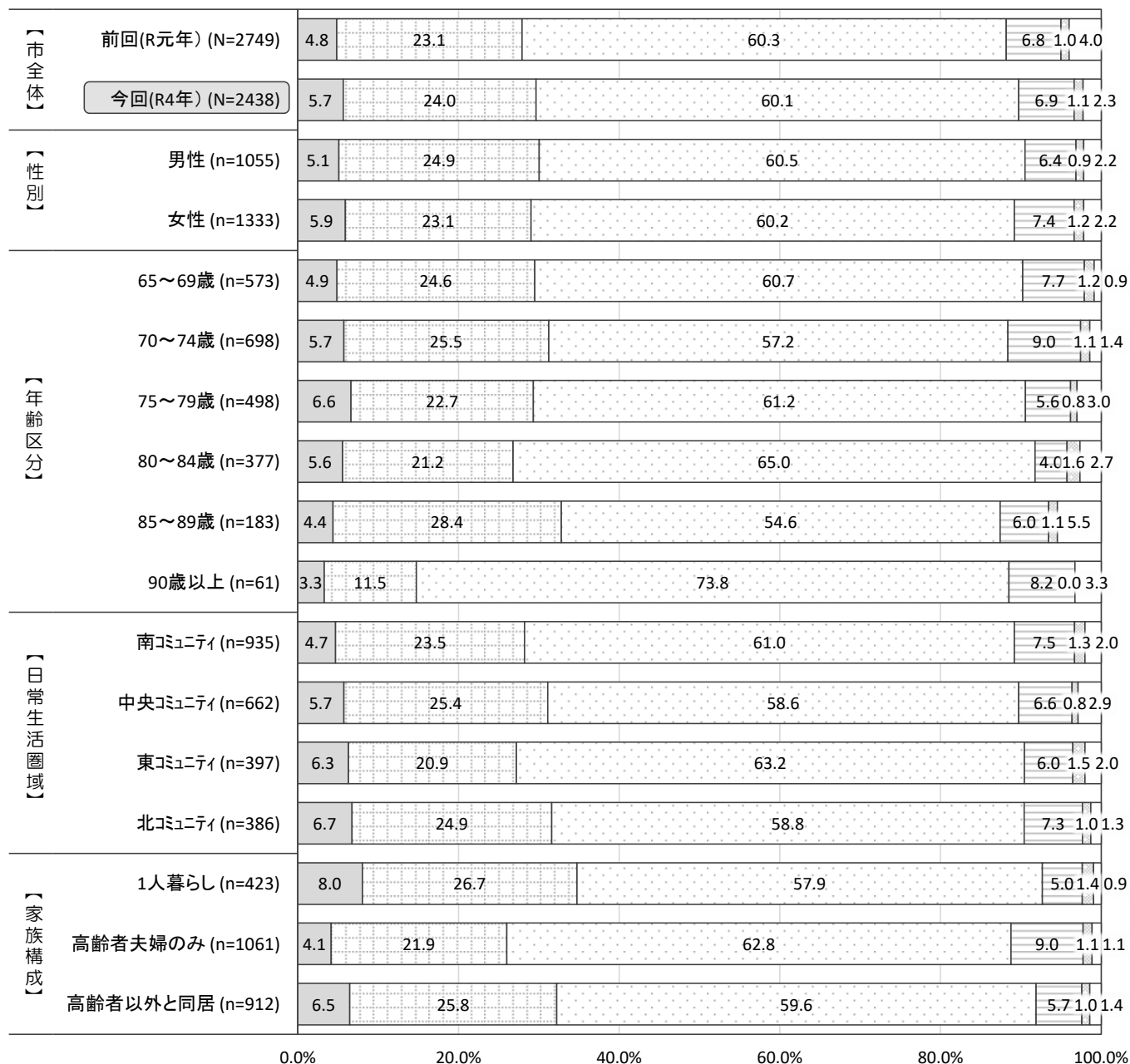
年齢別でみると、“苦しい”は、85～89歳では32.8%と他の年代に比べてやや高い。

圏域別でみると、“苦しい”は、北コミュニティでは31.6%と他の圏域に比べてやや高い。

家族構成別でみると、“苦しい”は、1人暮らしが34.7%と他の家族構成に比べて高い。

【問2-(3) 暮らしの経済状況】

■ 大変苦しい □ やや苦しい □ ふつう □ ややゆとりがある □ 大変ゆとりがある □ 無回答



(4) 住まいの種類

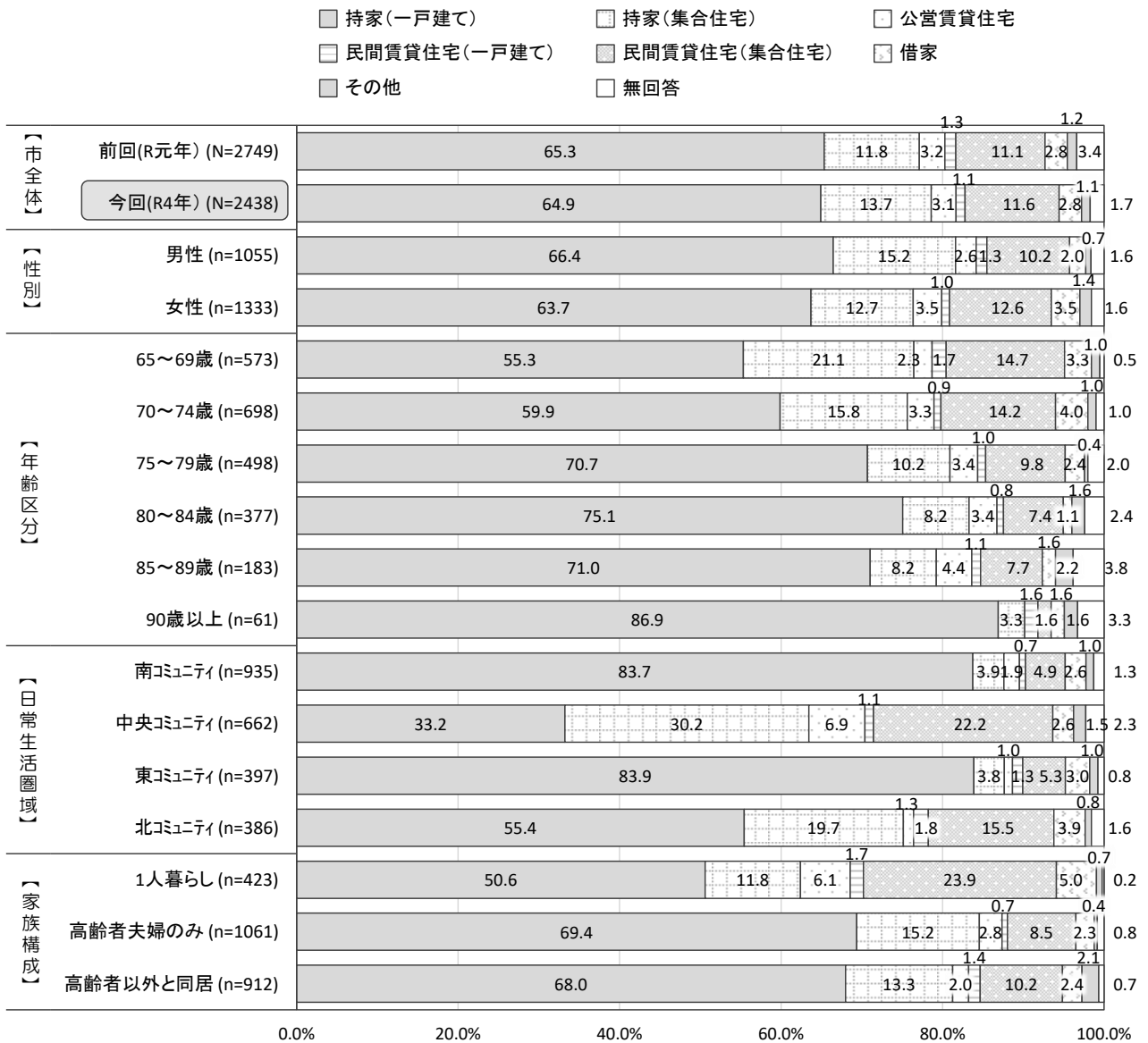
現在の住居の種類は、市全体で「持家（一戸建て）」が64.9%と最も高く、次いで「持家（集合住宅）」（13.7%）、「民間賃貸住宅（集合住宅）」（11.6%）の順に続く。“賃貸住宅”（「公営賃貸住宅」「民間賃貸住宅（一戸建て）」「民間賃貸住宅（集合住宅）」「借家」を合わせた割合）は18.6%となっている。

年齢別でみると、「持家（一戸建て）」の割合は90歳以上が86.9%と最も高い。65～69歳では「持家（集合住宅）」（21.1%）や「民間賃貸住宅（集合住宅）」（14.7%）の“集合住宅”で暮らす割合が高い。

圏域別でみると、南コミュニティや東コミュニティでは「持家（一戸建て）」が80%を超えている。一方、中央コミュニティでは“賃貸住宅”が32.8%と市全体に比べて特に高い。

家族構成別でみると、1人暮らしは「民間賃貸住宅（集合住宅）」が23.9%と他の家族構成と比べて高い。

【問2-（4） 住まいの種類】



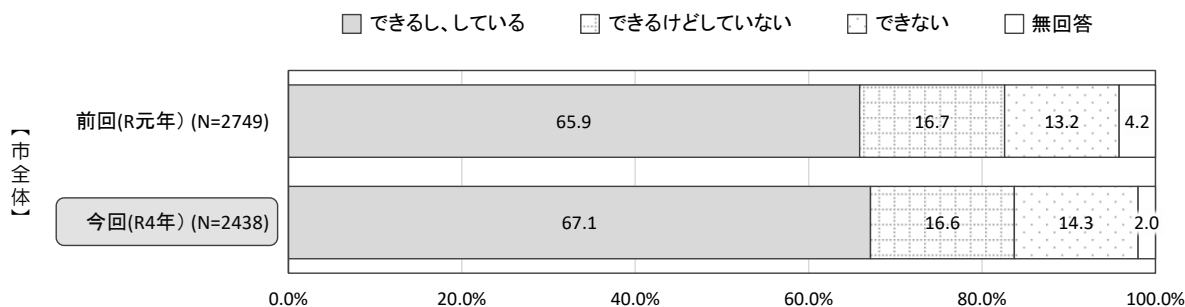
3. からだを動かすことについて

(1) 階段昇降や歩行について

① 階段昇降について

階段を手すりや壁をつたわずに昇れるか尋ねたところ、市全体では「できるし、している」が67.1%と最も高く、次いで「できるけどしていない」(16.6%)、「できない」(14.3%)の順に続く。

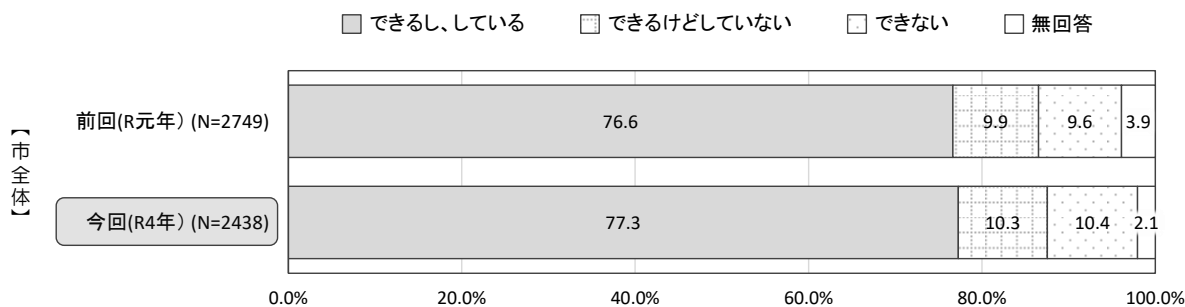
【問3-(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇れるか】



② 椅子からの立ち上がり

椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか尋ねたところ、市全体では「できるし、している」が77.3%と最も高く、次いで「できない」(10.4%)、「できるけどしていない」(10.3%)の順に続く。

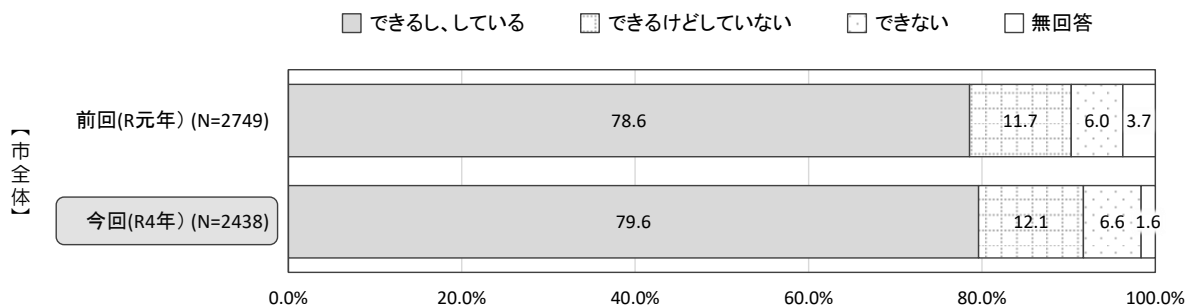
【問3-(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか】



③ 歩行について

15分位続けて歩いているか尋ねたところ、市全体では「できるし、している」が79.6%と最も高く、次いで「できるけどしていない」(12.1%)、「できない」(6.6%)の順に続く。

【問3-(3) 15分位続けて歩いているか】



(2) 転倒について

① 過去1年間の転倒経験の有無

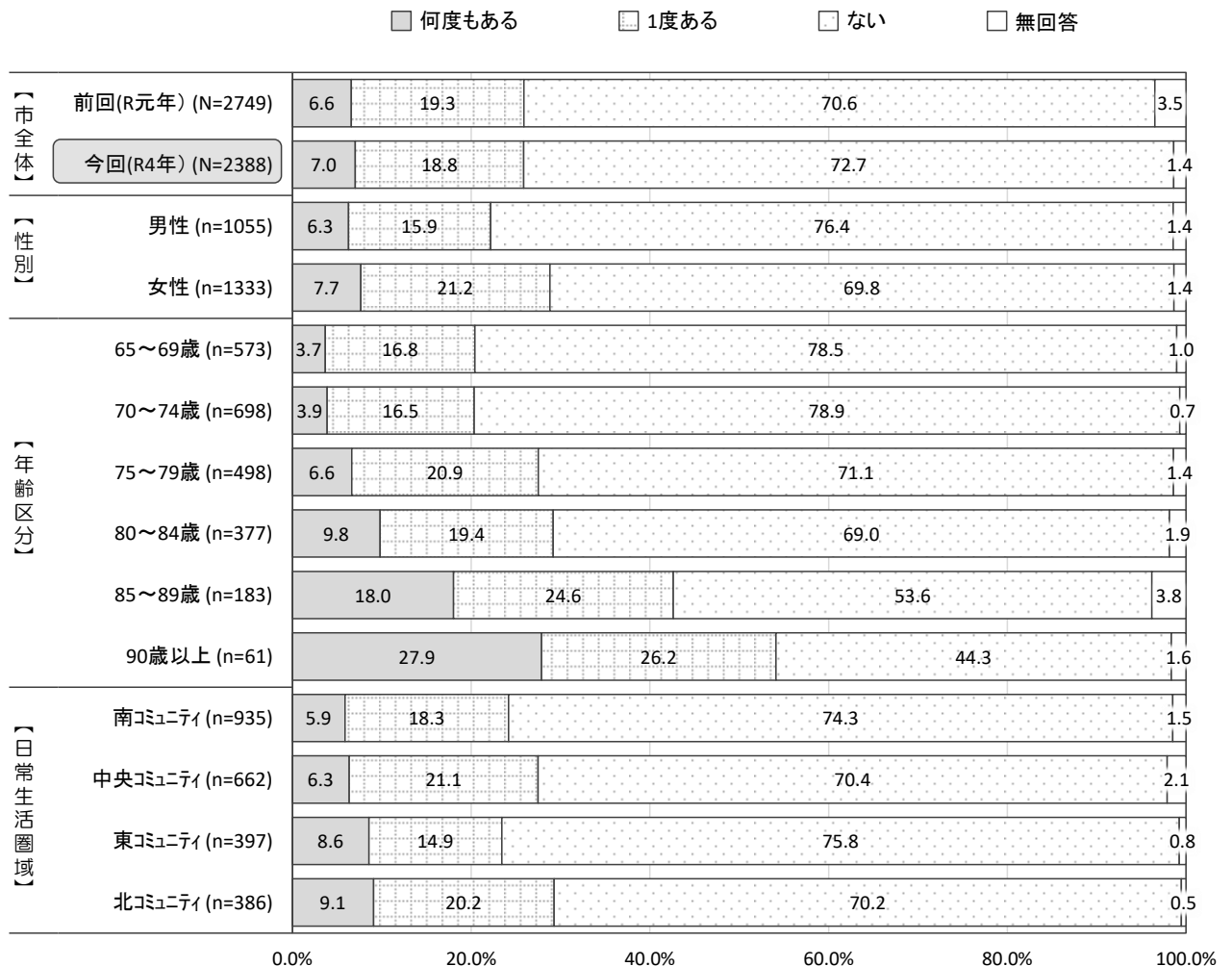
過去1年間の転倒経験について、市全体で「ない」が72.7%と最も高く、次いで「1度ある」(18.8%)、「何度もある」(7.0%)の順に続く。「何度もある」と「1度ある」を合わせた“転倒経験者”は25.8%となっており、前回調査(25.9%)と比べても大きな差はない。

性別でみると、“転倒経験者”は男性が22.2%、女性が28.9%となっている。

年齢別でみると、“転倒経験者”の割合は、80～84歳が29.2%、85～89歳が42.6%、90歳以上が54.1%となっており、年齢が上がるにつれて増加している。

圏域によって大きな差は見られないが「何度もある」は北コミュニティが9.1%と他の圏域に比べて高く、“転倒経験者”は北コミュニティが29.3%と最も高い。

【問3-(4) 過去1年間の転倒経験の有無】



② 転倒に対する不安

転倒に対する不安について、市全体では「やや不安である」が33.8%と最も高く、次いで「あまり不安でない」(29.8%)、「不安でない」(24.2%)、「とても不安である」(10.7%)の順に続く。「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた44.5%が転倒に対して“不安”を感じている。

性別でみると、“不安”とする割合は、女性が53.3%と半数を超えており、男性の32.9%に比べて20.4ポイント高くなっている。

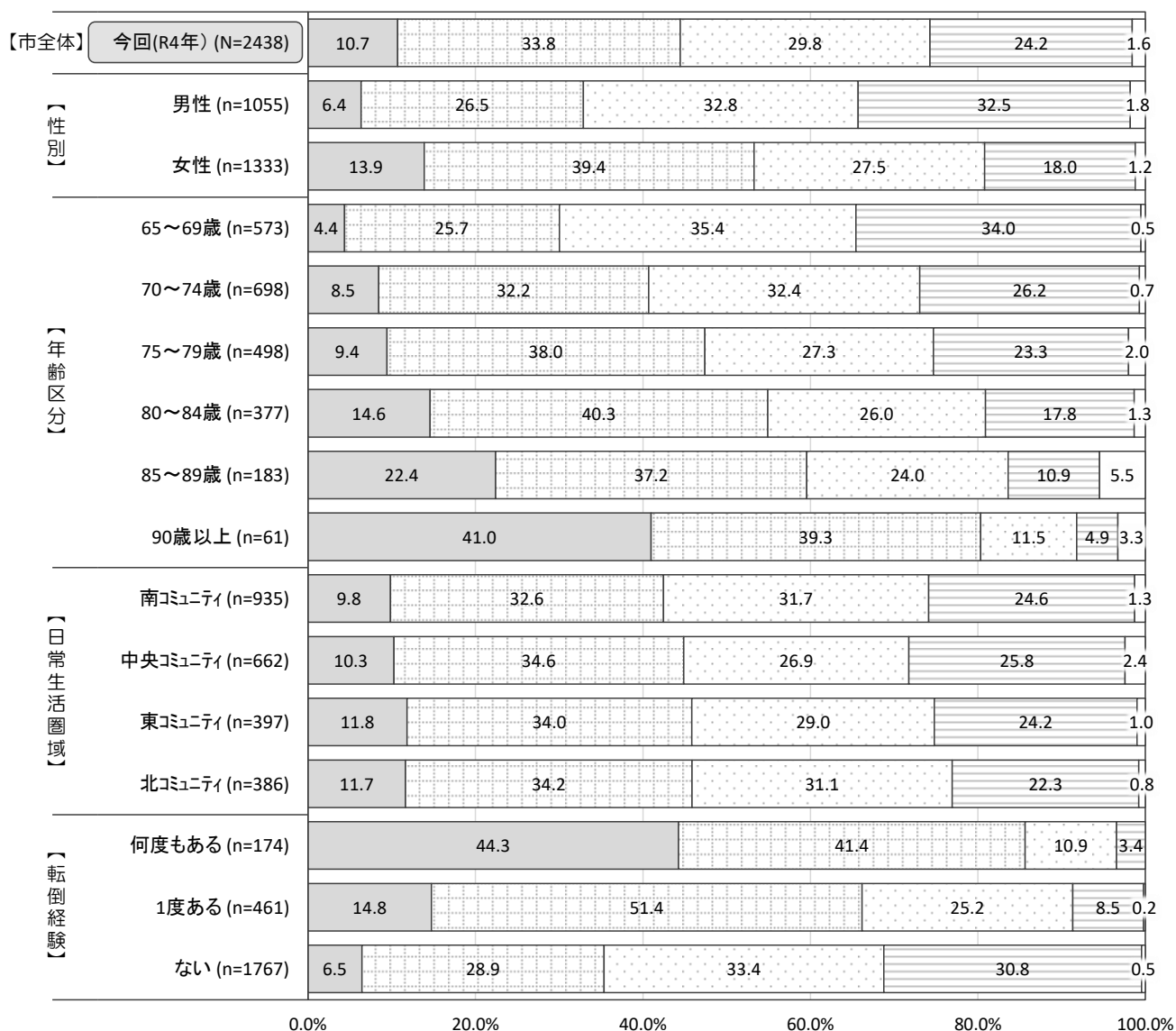
年齢別でみると、“不安”とする割合は、年齢が上がるにつれて増加し、80～84歳では54.9%、85～89歳では59.6%、90歳以上では80.3%となっている。

圏域別でみると、“不安”とする割合は、北コミュニティが45.9%、東コミュニティが45.8%と高い。

転倒経験別でみると、“不安”とする割合は「何度もある」が85.7%、「1度ある」が66.2%、「ない」が35.4%となっており、転倒したことがある人の不安は高い。

【問3-（5） 転倒に対する不安】

□ とても不安である □ やや不安である □ あまり不安でない □ 不安でない □ 無回答



(3) 外出について

① 外出の頻度

外出の頻度について、市全体で「週5回以上」が42.1%と最も高く、次いで「週2～4回」(41.8%)、「週1回」(8.6%)、「ほとんど外出しない」(4.8%)となっている。「週1回以下」とする割合は13.4%となっており、前回調査(11.5%)と比べて1.9ポイント増加している。

性別でみると、「週1回以下」とする割合は、女性が15.5%と男性(11.0%)に比べて高く、女性の外出頻度は少ない。

年齢別でみると、「週1回以下」の割合は年齢が上がるにつれて増加しており、85～89歳では31.1%、90歳以上では50.8%と高い。

圏域別でみると、「週1回以下」の割合は、東コミュニティが16.7%と他の圏域に比べて高い。

転倒経験別でみると、「週1回以下」の割合は「何度もある」が32.8%、「1度ある」が17.4%、「ない」が10.5%となっており、転倒経験により、外出頻度が減少することがうかがえる。

【問2-(6) 外出の頻度】

□ ほとんど外出しない □ 週1回 □ 週2～4回 □ 週5回以上 □ 無回答



② 外出回数の減少について

昨年と比べて外出回数が減っているかについて、市全体で「減っていない」が40.4%と最も高く、次いで「あまり減っていない」(29.1%)、「減っている」(24.4%)、「とても減っている」(4.1%)となっている。「とても減っている」と「減っている」を合わせた“外出減少”とする割合は28.5%となっており、前回調査(20.9%)と比べて7.6ポイント増加している。

性別でみると、“外出減少”の割合が、女性では32.7%と男性(23.2%)に比べて9.5ポイント高い。

年齢別でみると、年齢が上がるにつれて“外出減少”の割合が増加傾向にあり、80歳以上になると30%を超える。

圏域別でみると、“外出減少”の割合が東コミュニティでは30.0%、中央コミュニティでは29.5%と他の圏域に比べてやや高い。

転倒経験別でみると、“外出減少”の割合は「何でもある」が55.7%、「1度ある」が34.2%、「ない」が24.1%となっており、転倒経験によって、外出減少がみられる。

【問2-(7) 外出回数の減少】

とても減っている
 減っている
 あまり減っていない
 減っていない
 無回答



③ 外出を控えているか

外出を控えているかについて、市全体で「はい」が28.7%となっており、前回調査と比べて14.3ポイント増加している。

性別で見ると、「はい」の割合が、女性では33.2%と男性（23.1%）に比べて10.1ポイント高い。

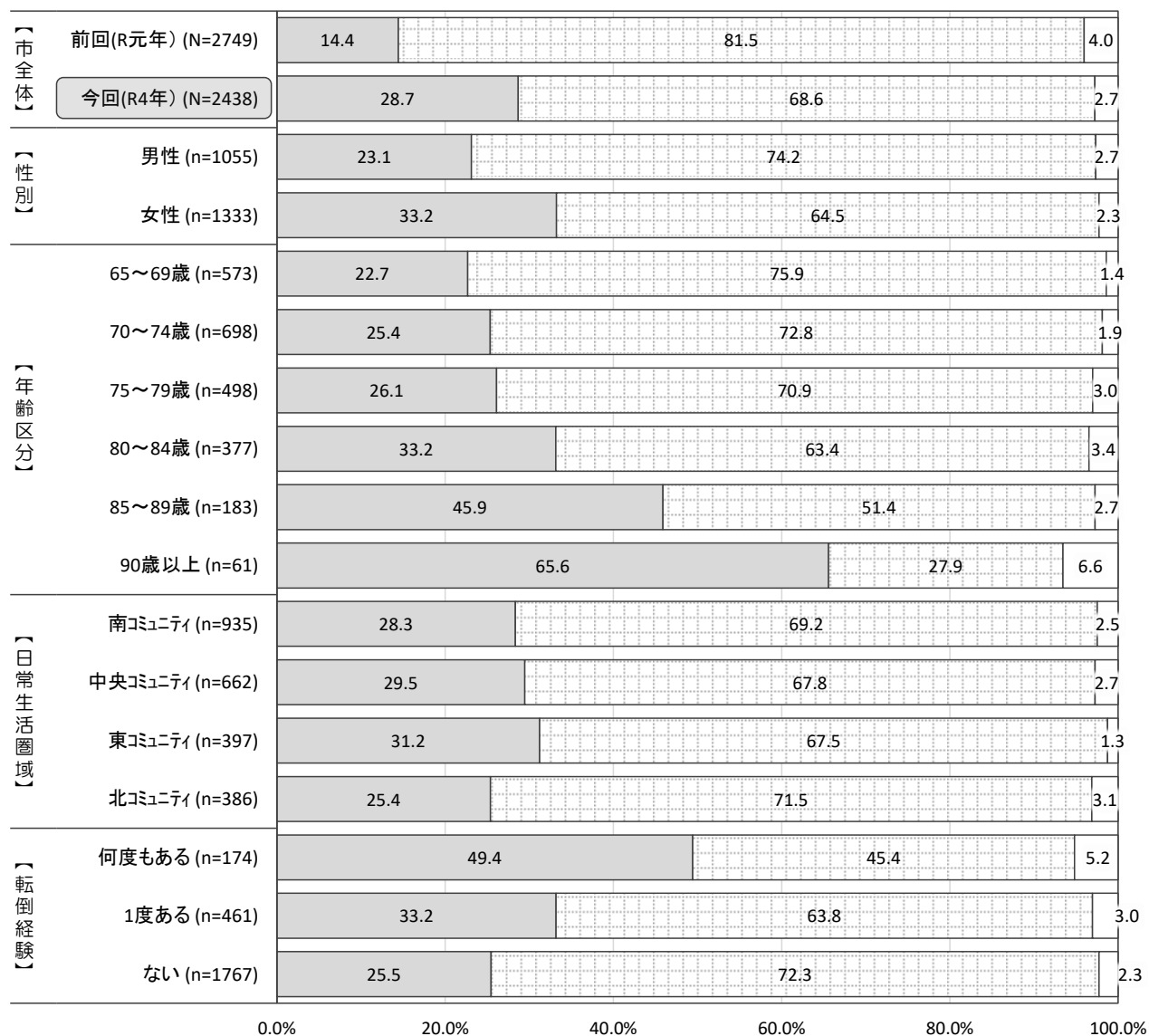
年齢別で見ると、年齢が上がるにつれて「はい」の割合が増加傾向にあり、80歳以上になると30%を超える。

圏域別で見ると、「はい」の割合は、東コミュニティ（31.2%）が他の圏域に比べてやや高い。

転倒経験別で見ると、「はい」の割合は「何度もある」が49.4%、「1度ある」が33.2%、「ない」が25.5%となっており、転倒経験により外出を控える傾向がみられる。

【問2-（8） 外出を控えているか】

■ はい ■ いいえ □ 無回答

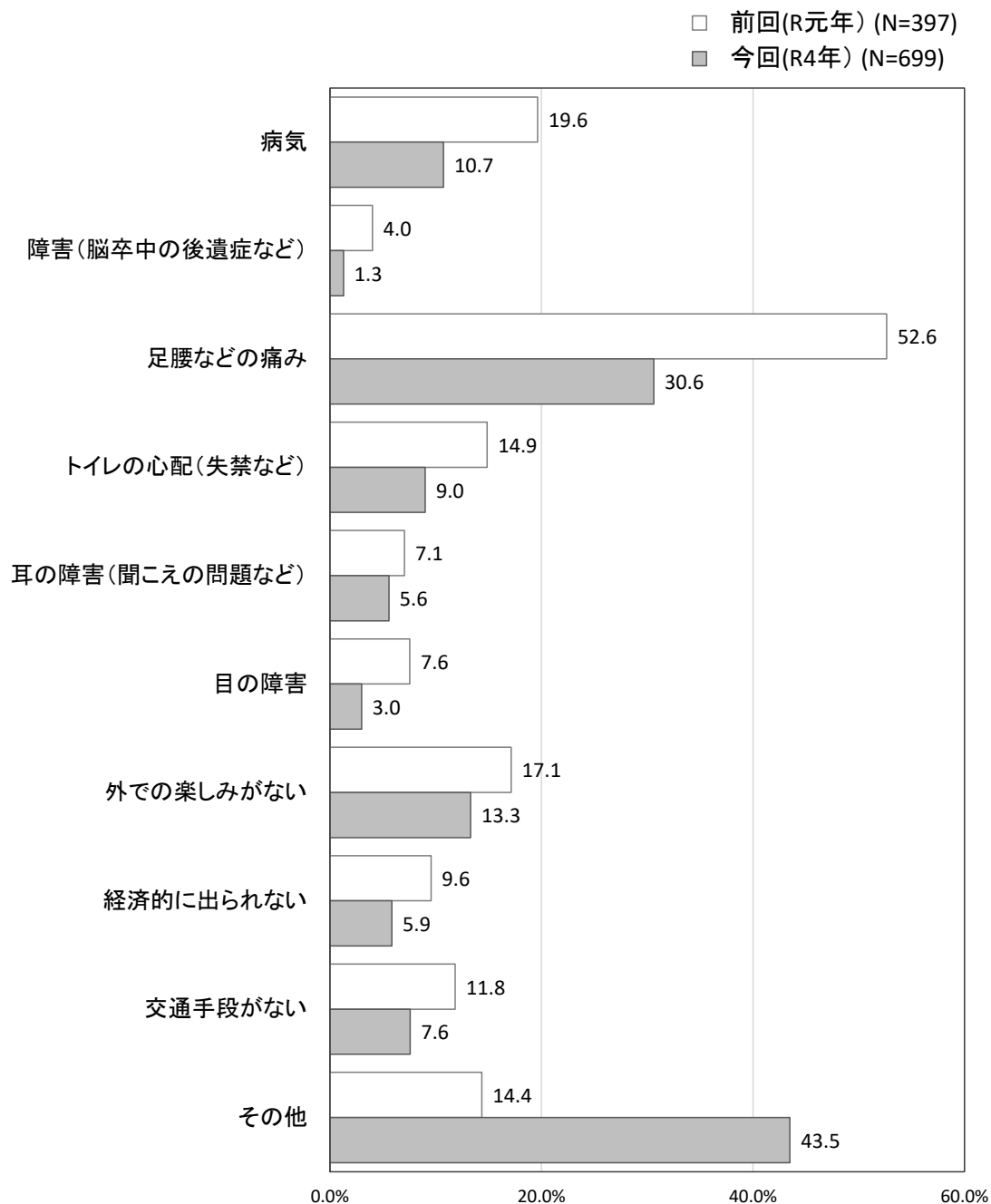


④ 外出を控える理由について

外出を控えている人にその理由を尋ねたところ、市全体で「その他」が43.5%と最も高く、次いで「足腰などの痛み」(30.6%)、「外での楽しみがない」(13.3%)と続いている。「その他」として、「新型コロナウイルス感染症予防のため」との回答が多い。

また、前回調査と比較して「交通手段がない」(7.6%)は4.2ポイント減少している。

【問3-(8)-① 外出を控える理由】



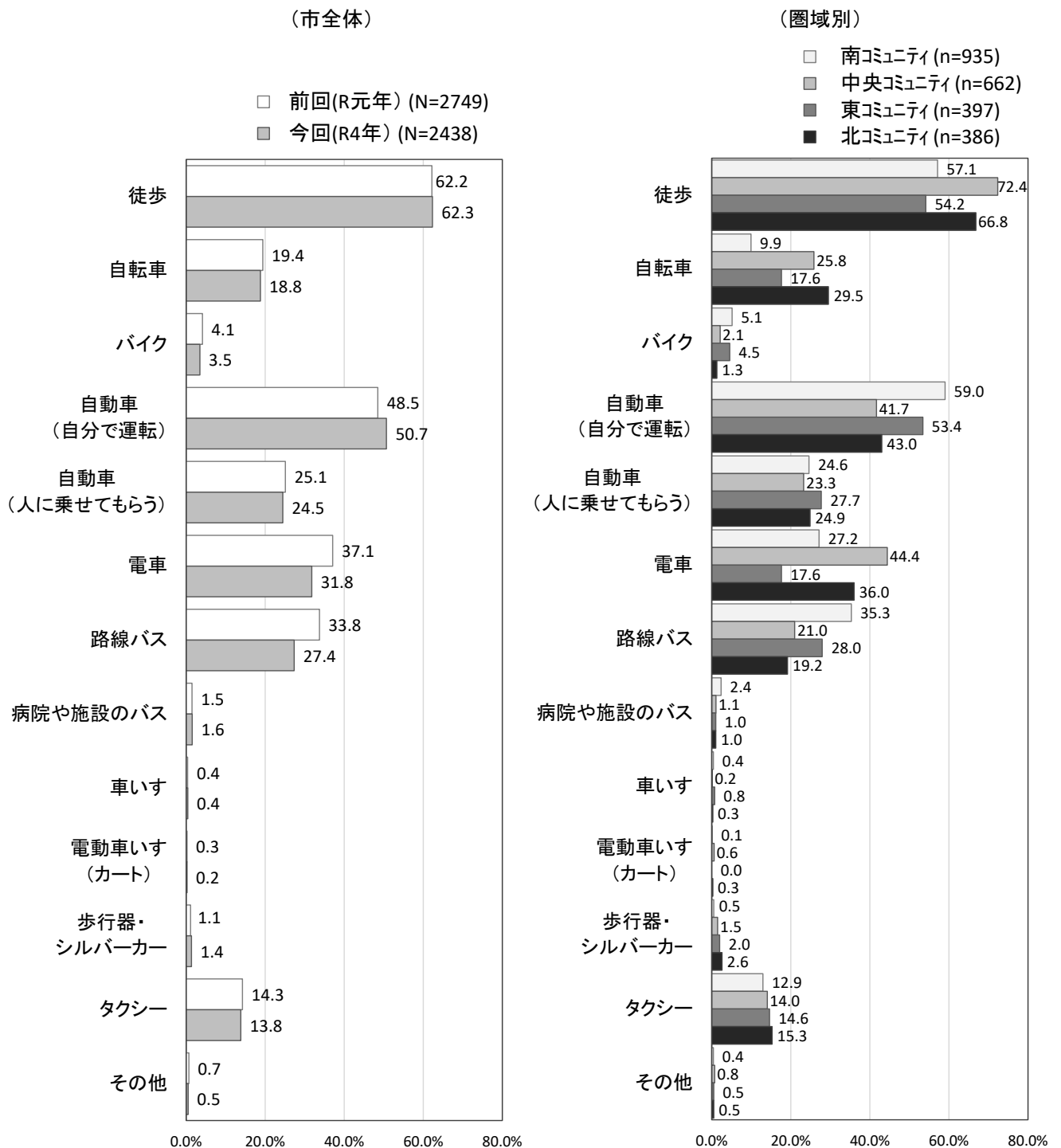
⑤ 外出する際の移動手段

外出する際の移動手段は、市全体で「徒歩」が62.3%と最も高く、次いで「自動車（自分で運転）」(50.7%)、「電車」(31.8%)、「路線バス」(27.4%)の順に続く。

圏域別でみると、南コミュニティと東コミュニティでは「自動車（自分で運転）」、「徒歩」、「路線バス」の順に高い。特に、南コミュニティでは「自動車（自分で運転）」が59.0%と他の圏域に比べて高くなっている。

中央コミュニティでは「徒歩」の割合が70%を超えている。また、中央コミュニティでは「電車」が44.4%と他の圏域に比べて高い。また、北コミュニティでは「自転車」(29.5%)や「タクシー」(15.3%)が他の圏域に比べて高い。

【問3-(9) 外出する際の移動手段】



4. 食べることについて

(1) 栄養状態

① BMI

身長と体重からBMI（肥満度を示す体格指数）を算出すると、市全体で「標準（BMI 18.5以上25.0未満）」が68.8%と最も高く、次いで「肥満（BMI 25.0以上）」が19.0%、「やせ（BMI 18.5未満）」が7.5%の順に高くなっている。前回調査と比べて大きな差はない。

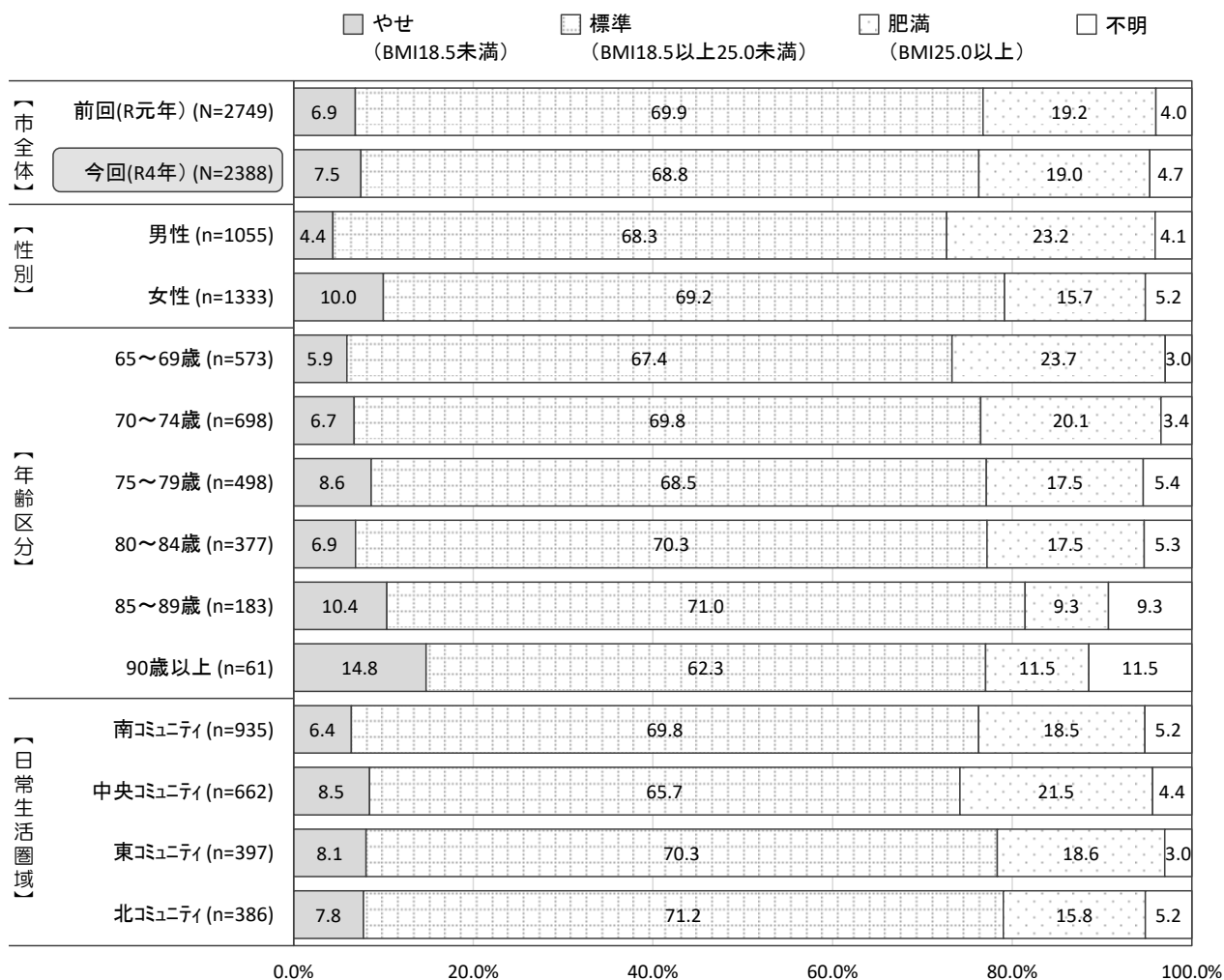
性別でみると、男性は「肥満」の割合が23.2%、女性は「やせ」の割合が10.0%とそれぞれ市全体の割合よりも高い。

年齢別でみると、「やせ」の割合は75～79歳が8.6%、85～89歳が10.4%、90歳以上が14.8%と市全体の割合よりも高くなっている。

圏域別でみると、「肥満」の割合は中央コミュニティが21.5%と市全体の割合よりも高くなっている。

南コミュニティは「標準」の割合が69.8%と高く、また「やせ」「肥満」の割合が市全体の割合を下回っていることから、痩せすぎや太りすぎによって引き起こされる病気にかかるリスクが低いことが推察される。

【問4-（1） BMI（肥満度を示す体格指数）】



② 体重減少

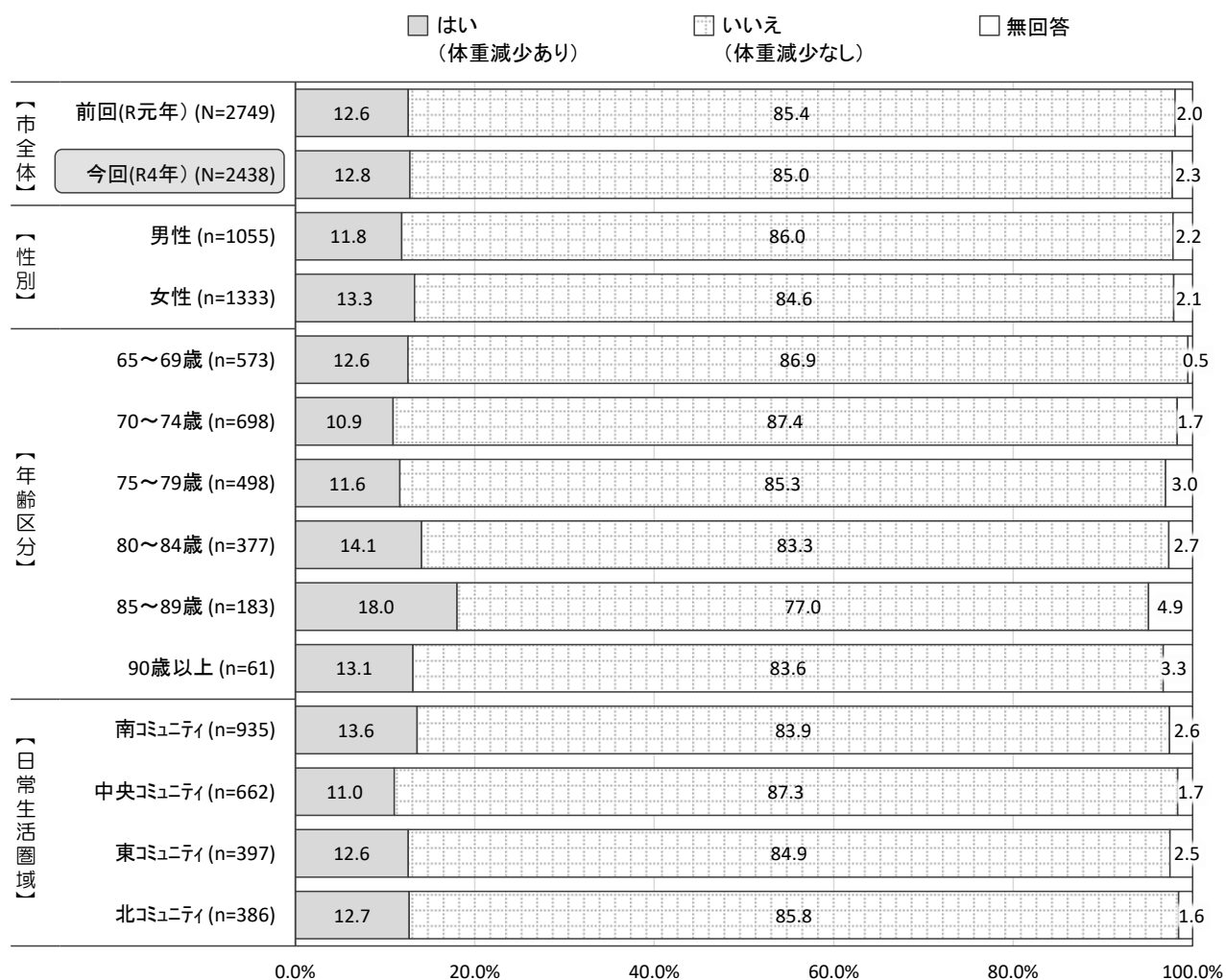
6か月間で2～3kg以上の体重減少の有無について、市全体で「いいえ（体重減少なし）」が85.0%、「はい（体重減少あり）」が12.8%となっている。

性別でみると、「はい（体重減少あり）」の割合は、女性が13.3%と男性（11.8%）に比べて1.5ポイント高い。

年齢別でみると、「はい（体重減少あり）」の割合は80～84歳（14.1%）、85～89歳（18.0%）、90歳以上（13.1%）が市全体の割合より高くなっている。

圏域別でみると、「はい（体重減少あり）」の割合は南コミュニティが13.6%と他の圏域に比べてやや高い。

【問4-（7） 6か月間で2～3kg以上の体重減少の有無】



(2) 共食の機会について

共食の機会（どなたかと食事をする機会）について、市全体で「毎日ある」が 59.4%と最も高く、次いで「月に何度かある」（11.3%）、「年に何度かある」（10.2%）、「週に何度かある」（8.9%）、「ほとんどない」（8.1%）の順に続く。

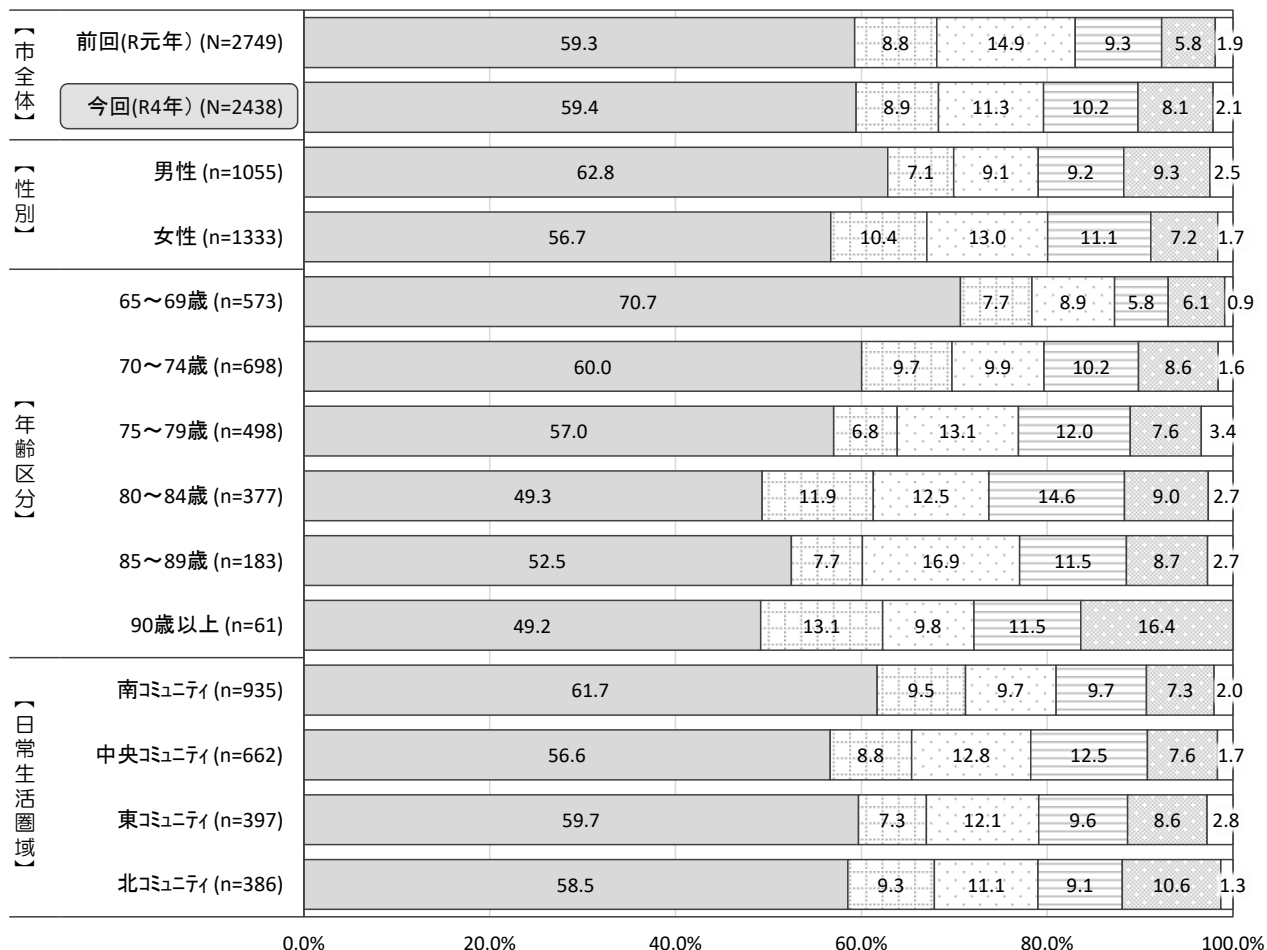
性別でみると、「毎日ある」は、男性が 62.8%と女性（56.7%）より 6.1ポイント高い。ただし、「ほとんどない」の割合も男性（9.3%）の方が女性（7.2%）よりも高くなっている。

年齢別でみると、「毎日ある」は 80～84 歳、90 歳以上で 50%を下回っている。

圏域別でみると、「毎日ある」は中央コミュニティが 56.6%と他の圏域に比べて低い。80 歳以上や中央コミュニティでは、1 人暮らしが多いことが要因として考えられる。

【問 4-（8） 共食の機会について】

- 毎日ある 週に何度かある 月に何度かある
 年に何度かある ほとんどない 無回答

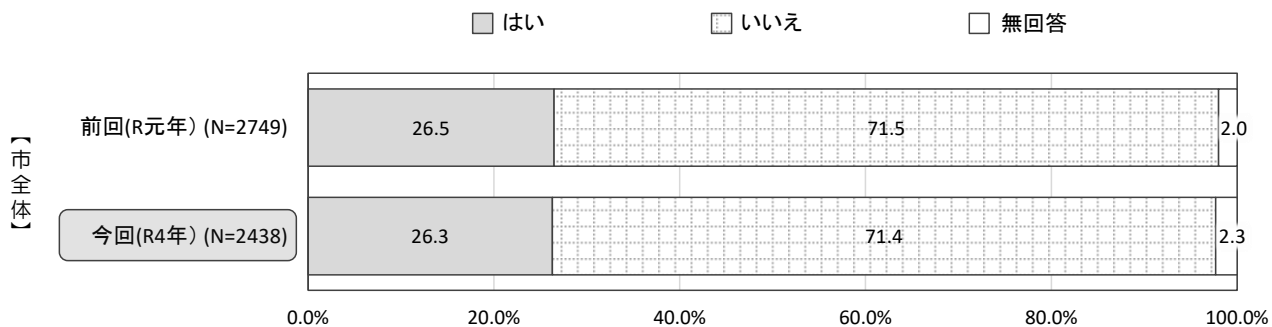


(3) 口腔の状況について

① 固いものが食べにくくなったか

半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについて、「いいえ（食べにくくなっていない）」が71.4%、「はい（食べにくくなった）」が26.3%となっている。

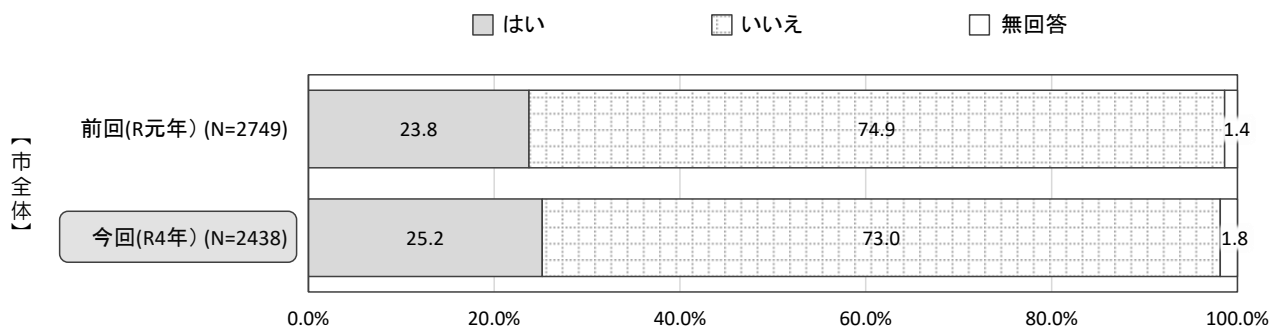
【問4-（2） 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか】



② お茶や汁物等でむせることがあるか

お茶や汁物等でむせることがあるかについて、「いいえ（むせることはない）」が73.0%、「はい（むせることがある）」が25.2%となっている。前回調査と比べて「はい」の割合が1.4ポイント増加している。

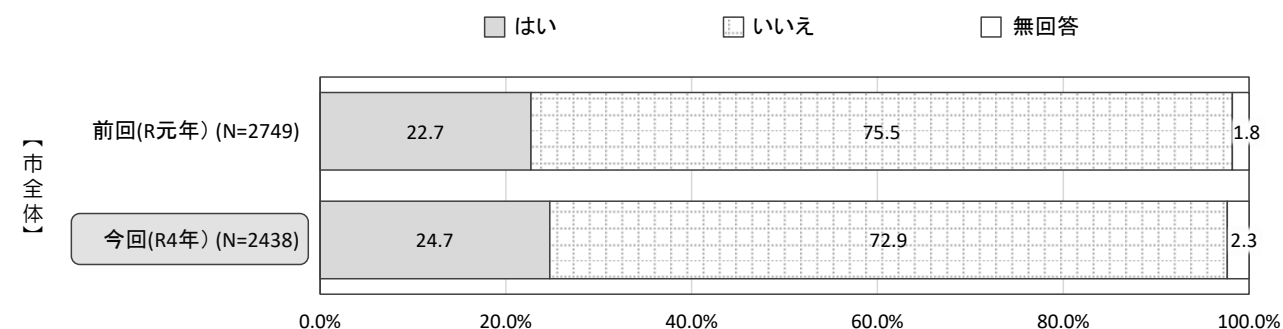
【問4-（3） お茶や汁物等でむせることがあるか】



③ 口の渇きが気になるか

口の渇きが気になるかについて、「いいえ（気にならない）」が72.9%、「はい（気になる）」が24.7%となっている。

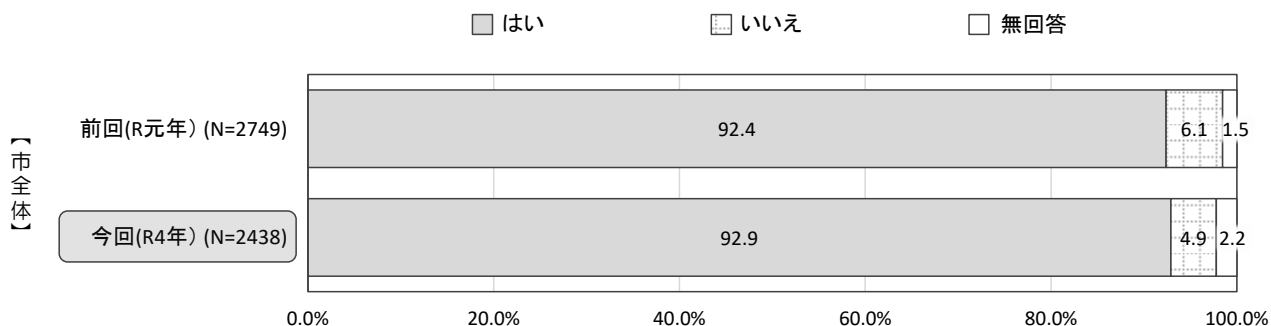
【問4-（4） 口の渇きが気になるか】



④ 歯みがきを毎日しているか

歯みがき（人にやってもらう場合も含む）を毎日しているかについて、「はい（毎日している）」が92.9%、「いいえ（毎日していない）」が4.9%となっている。

【問3-（5） 歯みがきを毎日しているか】



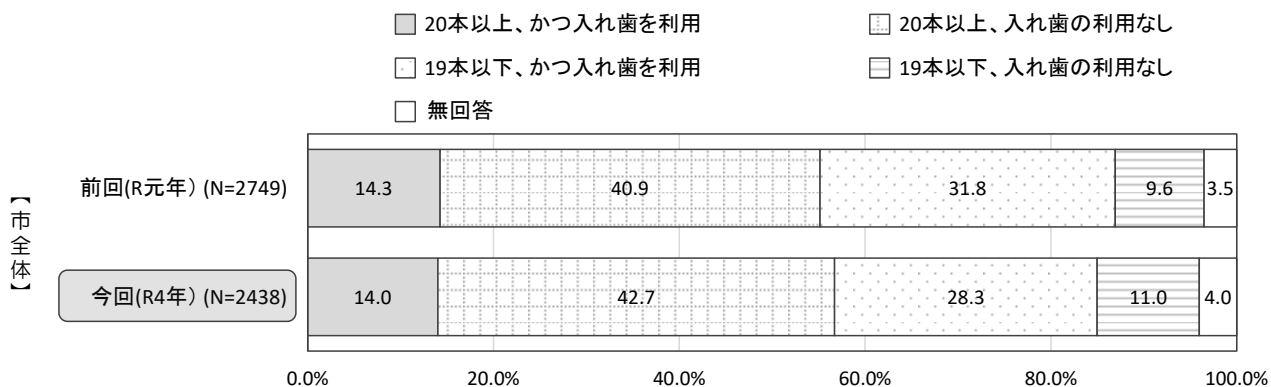
⑤ 歯の数と入れ歯の利用状況

歯の状況と入れ歯の利用状況は、「20本以上、入れ歯の利用なし」が42.7%と最も高く、次いで「19本以下、かつ入れ歯を利用」（28.3%）、「20本以上、かつ入れ歯を利用」（14.0%）、「19本以下、入れ歯の利用なし」（11.0%）の順に続く。

「20本以上、かつ入れ歯を利用」と「20本以上、入れ歯の利用なし」を合わせた“自分の歯は20本以上”とする割合は56.7%と前回調査（55.2%）と比べて1.5ポイント増加している。

また、「20本以上、かつ入れ歯を利用」と「19本以下、かつ入れ歯を利用」を合わせた“入れ歯を利用”とする割合は42.3%と前回調査（46.1%）と比べて3.8ポイント減少している。

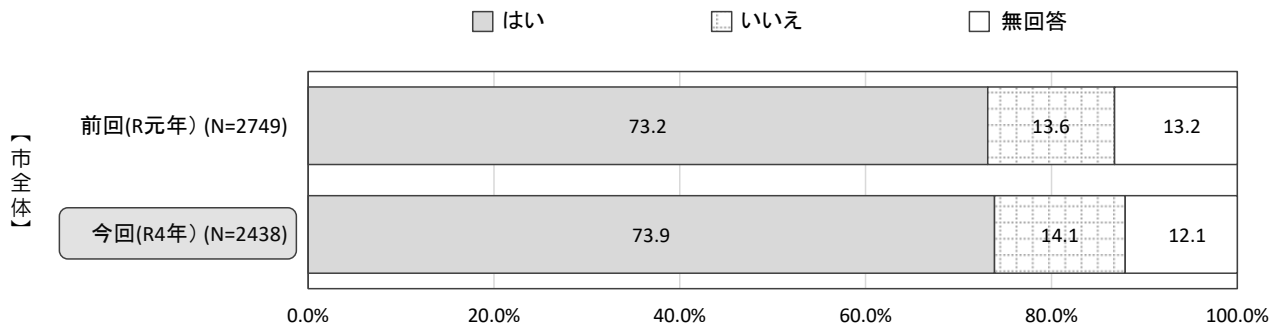
【問3-（6） 歯の数と入れ歯の利用状況】



⑥ 噛み合わせの状況

噛み合わせについて、「はい（良い）」が73.9%、「いいえ（良くない）」が14.1%となっている。

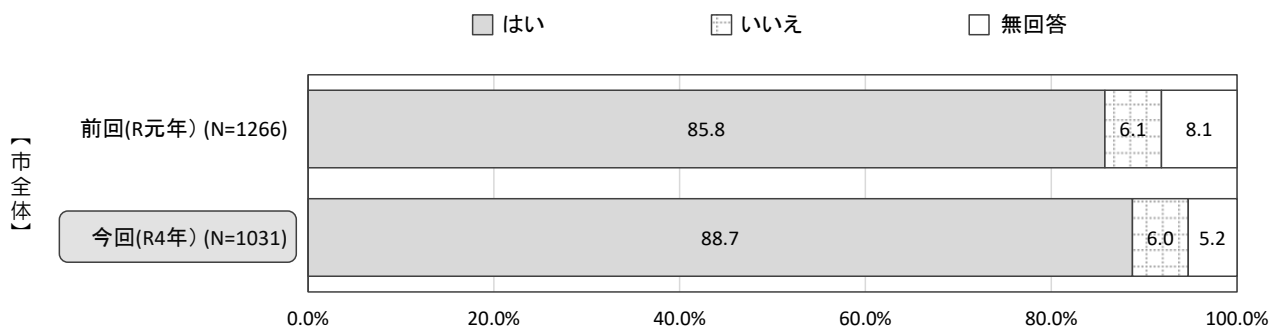
【問4-(6)-① 噛み合わせの状況】



⑦ 入れ歯の手入れ

現在、入れ歯を利用している人のうち、毎日の入れ歯の手入れについて、「はい（毎日手入れしている）」が88.7%、「いいえ（毎日していない）」が6.0%となっている。前回調査と比べて「はい」の割合が2.9ポイント増加している。

【問4-(6)-② 噛み合わせの状況】



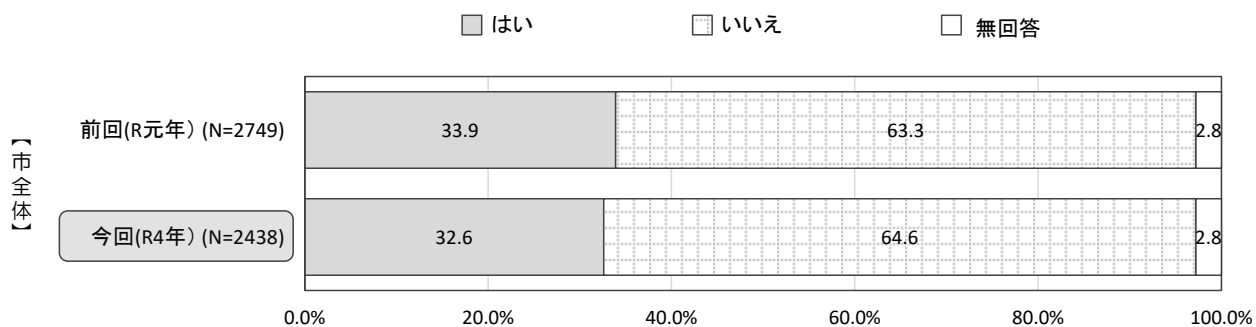
5. 毎日の生活について

(1) 認知機能

① 物忘れについて

物忘れが多いと感じるかについて、市全体で「はい（多いと感じる）」が 32.6%となっており、前回調査と比べて 1.3 ポイント減少している。

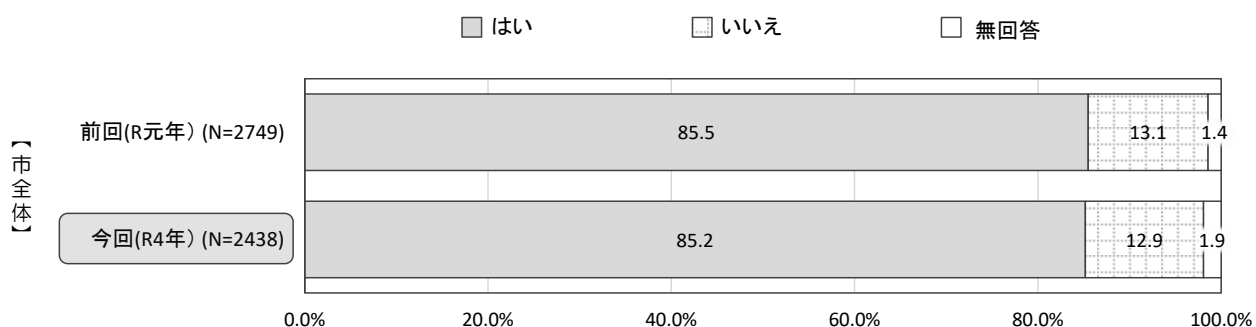
【問5-（1） 物忘れについて】



② 電話をかけること

自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしているかについて、市全体で「はい（かけている）」が 85.2%となっており、前回調査と比べて 0.3 ポイント減少している。

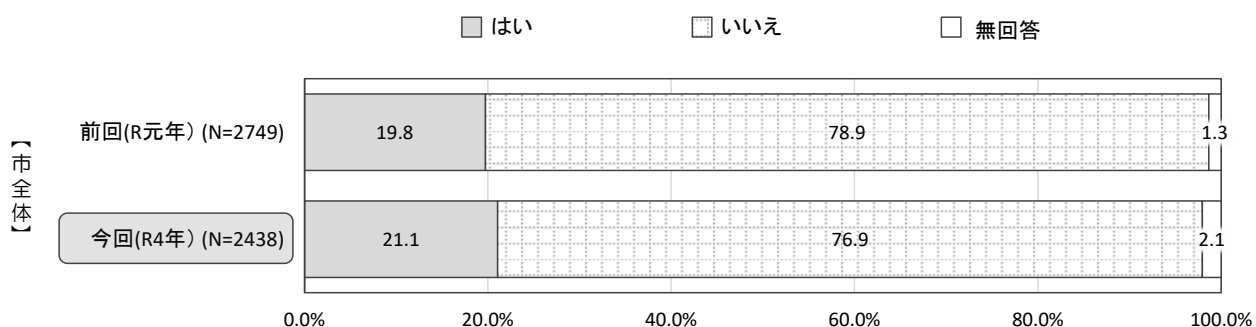
【問5-（2） 電話をかけること】



③ 日にちの認知状況

今日が何月何日かわからない時があるかについて、市全体で「いいえ」が 76.9%、「はい」が 21.1%となっている。「はい」の割合が、前回調査と比べて 1.3 ポイント増加している。

【問5-（3） 日にちの認知状況】

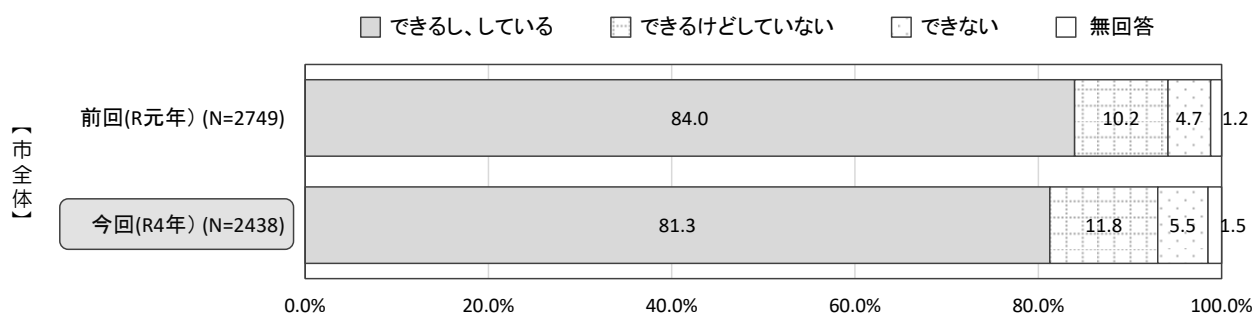


(2) 自立した日常生活動作

① バスや電車を使って1人で外出しているか

バスや電車を使って1人で外出しているかについて、市全体で「できるし、している」が81.3%と多くを占めている。次いで「できるけどしていない」が11.8%、「できない」が5.5%となっている。

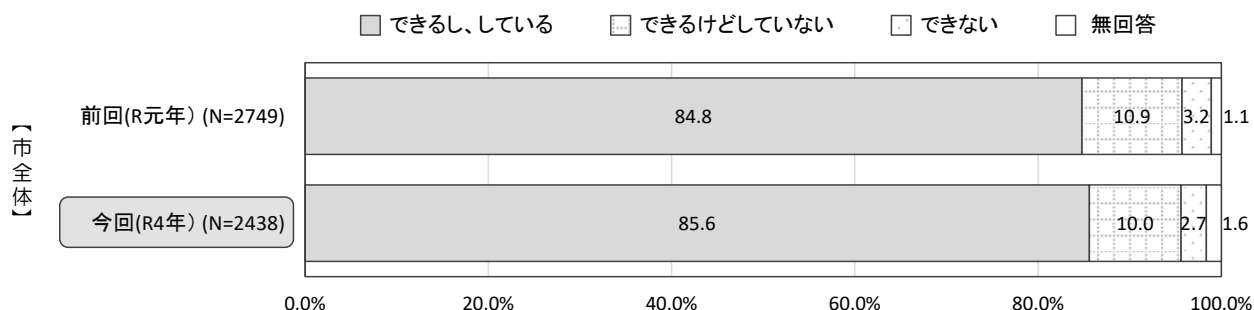
【問5-(4) バスや電車を使って1人で外出しているか】



② 自分で食品・日用品の買物をしているか

自分で食品・日用品の買物をしているかについて、市全体で「できるし、している」が85.6%と多くを占めている。次いで「できるけどしていない」が10.0%、「できない」が2.7%となっている。

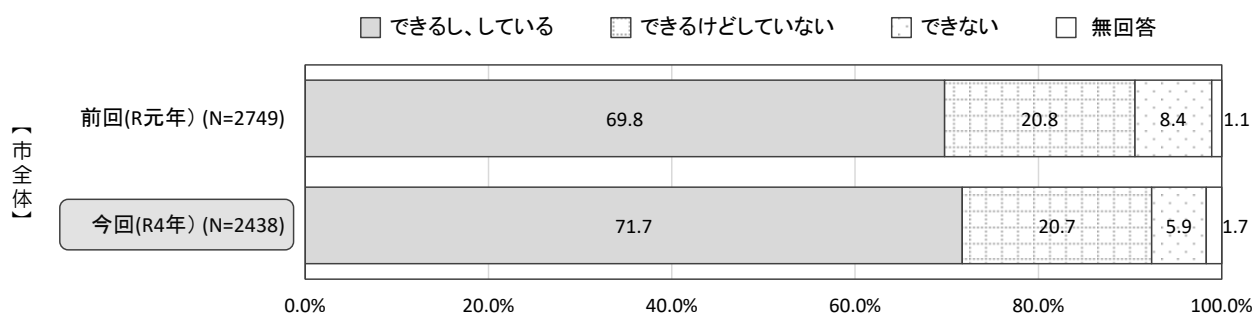
【問5-(5) 自分で食品・日用品の買物をしているか】



③ 自分で食事の用意をしているか

自分で食事の用意をしているかについて、市全体で「できるし、している」が71.7%と多くを占めている。次いで「できるけどしていない」が20.7%、「できない」が5.9%となっている。

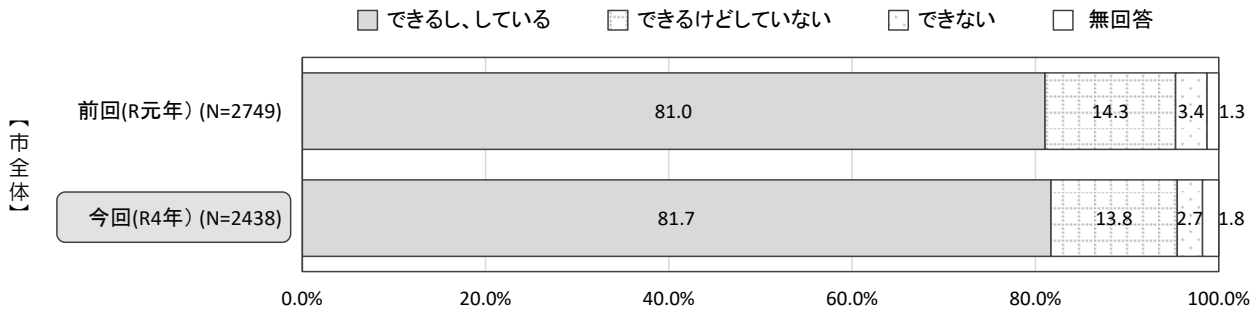
【問5-(6) 自分で食事の用意をしているか】



④ 自分で請求書の支払いをしているか

自分で請求書の支払いをしているかについて、市全体で「できるし、している」が81.7%と多くを占めている。次いで「できるけどしていない」が13.8%、「できない」が2.7%となっている。

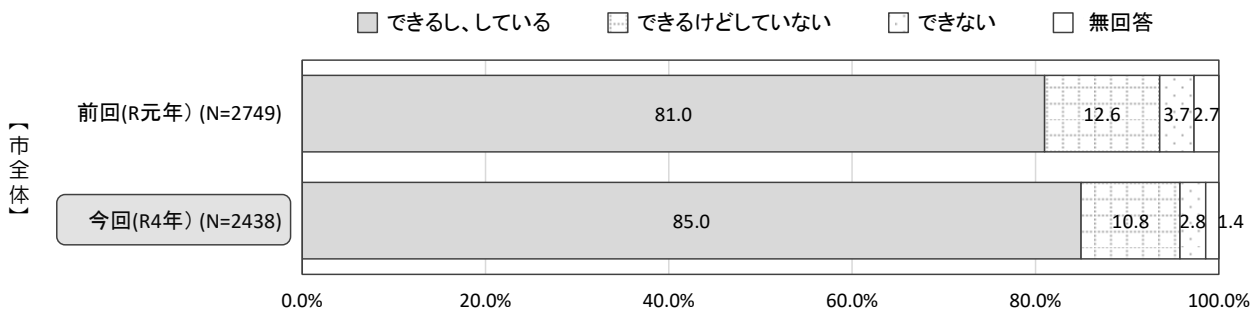
【問5-(7) 自分で請求書の支払いをしているか】



⑤ 自分で預貯金の出し入れをしているか

自分で預貯金の出し入れをしているかについて、市全体で「できるし、している」が85.0%と多くを占めている。次いで「できるけどしていない」が10.8%、「できない」が2.8%となっている。

【問5-(8) 自分で預貯金の出し入れをしているか】

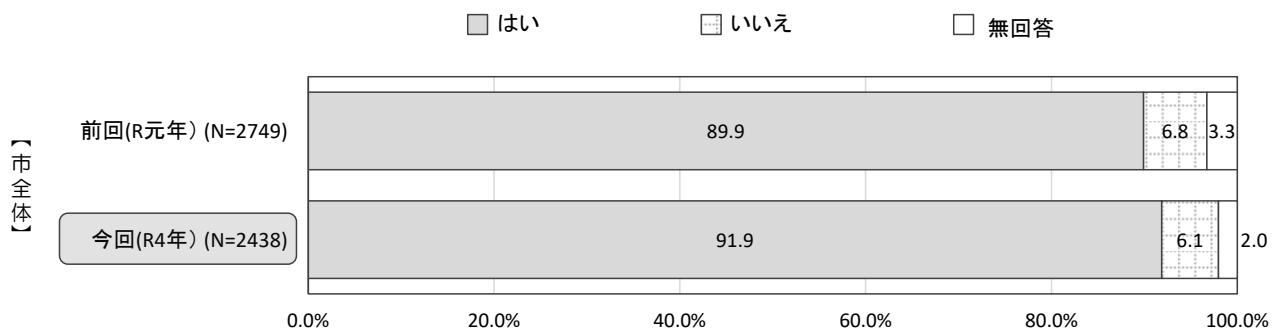


(3) 知的活動

① 年金などの書類が書けるか

年金等の書類が書けるかについて、市全体で「はい（書ける）」が91.9%、「いいえ（書けない）」が6.1%となっている。

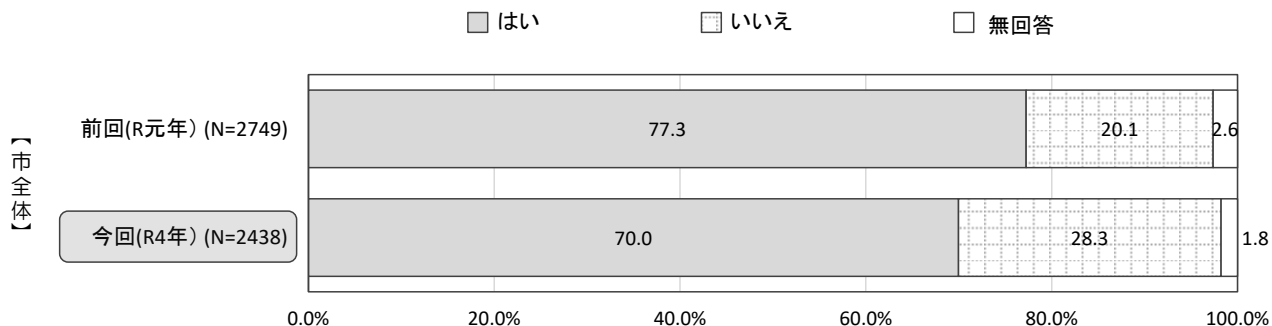
【問5-（9） 年金などの書類が書けるか】



② 新聞を読んでいるか

新聞を読んでいるかについて、市全体で「はい（読んでいる）」が70.0%、「いいえ（読んでいない）」が28.3%となっている。前回調査と比べて、「はい（読んでいる）」が7.3ポイント減少している。

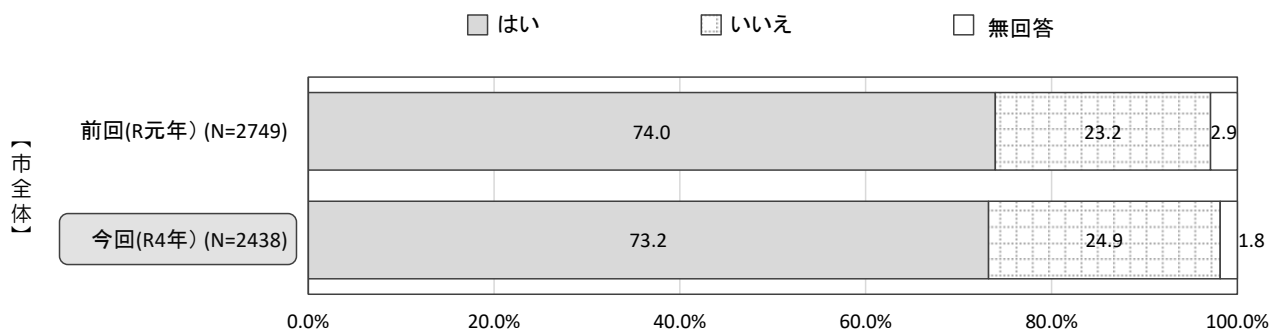
【問5-（10） 新聞を読んでいるか】



③ 本や雑誌を読んでいるか

本や雑誌を読んでいるかについて、市全体で「はい（読んでいる）」が73.2%、「いいえ（読んでいない）」が24.9%となっている。

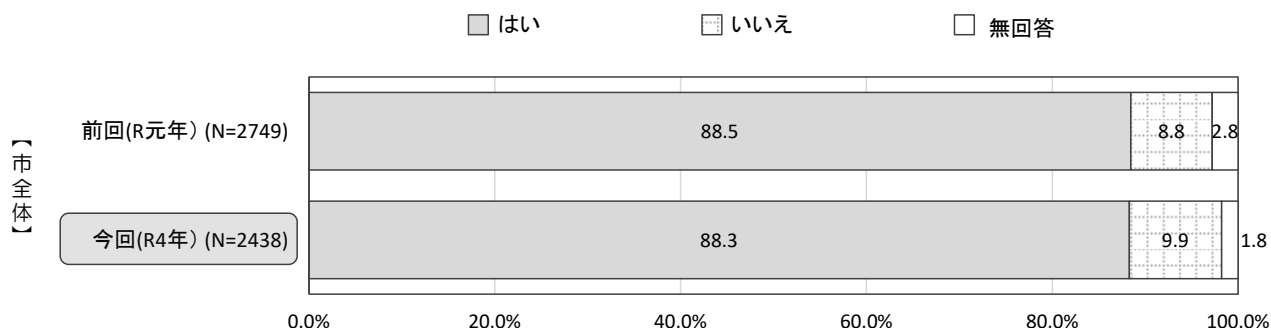
【問5-（11） 本や雑誌を読んでいるか】



④ 健康についての記事や番組に関心があるか

健康についての記事や番組に関心があるかについて、市全体で「はい（関心がある）」が88.3%、「いいえ（関心がない）」が9.9%となっている。

【問5-（12） 健康についての記事や番組に関心があるか】

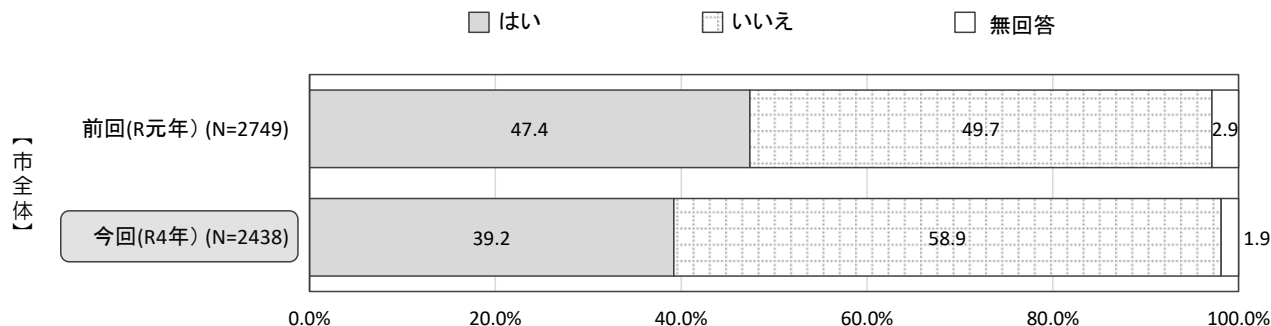


（4）相互扶助の関係

① 友人の家を訪ねているか

友人の家を訪ねているかについて、市全体で「はい（訪ねている）」が39.2%、「いいえ（訪ねていない）」が58.9%となっている。前回調査と比べて、「はい（訪ねている）」が8.2ポイント減少している。

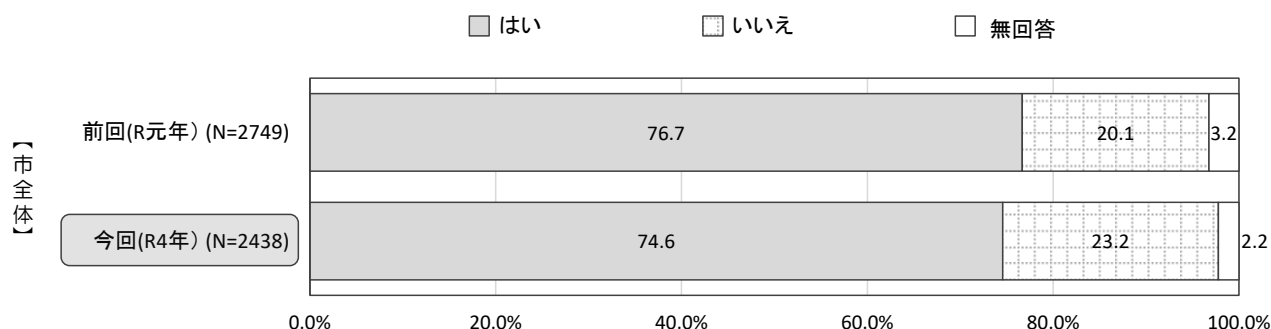
【問5-（13） 友人の家を訪ねているか】



② 家族や友人の相談にのっているか

家族や友人の相談にのっているかについて、市全体で「はい（のっている）」が74.6%、「いいえ（のっていない）」が23.2%となっている。

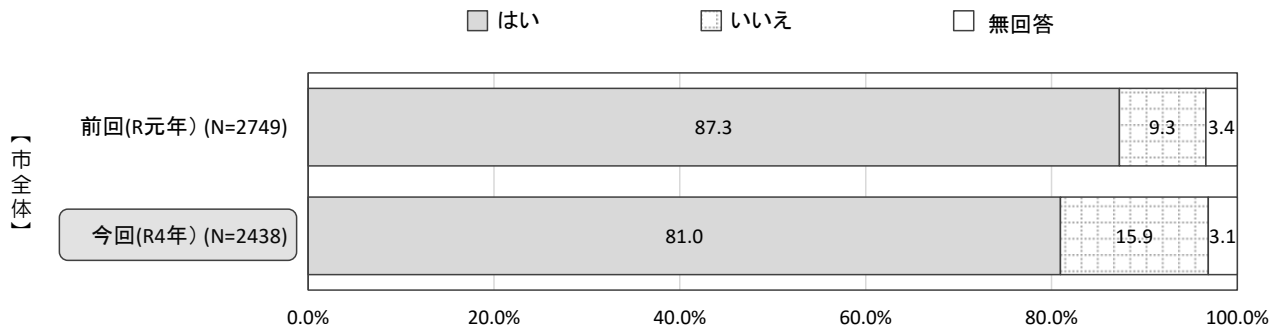
【問5-（14） 家族や友人の相談にのっているか】



③ 病人を見舞うことができるか

病人を見舞うことができるかについて、市全体で「はい（見舞うことができる）」が81.0%、「いいえ（見舞うことができない）」が15.9%となっている。前回調査と比べて、「はい（見舞うことができる）」が6.3ポイント減少している。

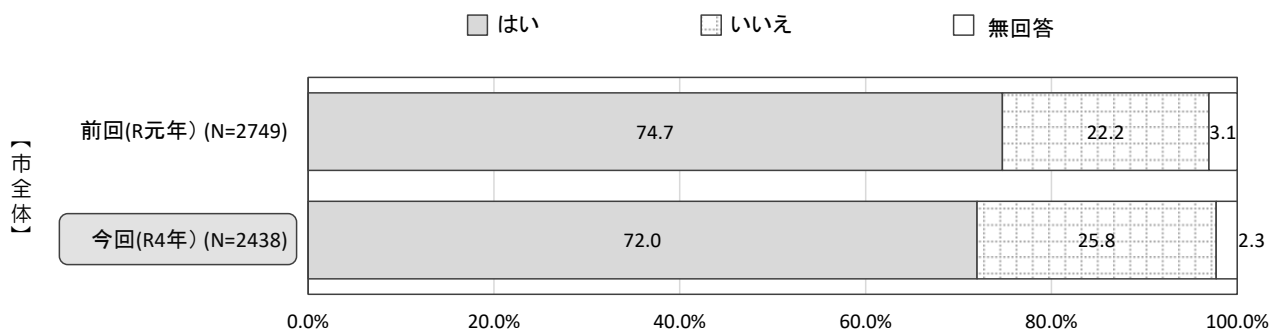
【問5-（15） 病人を見舞うことができるか】



④ 若い人に自分から話しかけることがあるか

若い人に自分から話しかけることがあるかについて、市全体で「はい（話しかけることがある）」が72.0%、「いいえ（話しかけることがない）」が25.8%となっている。

【問5-（16） 若い人に自分からはなしかけることがあるか】



(5) 趣味や生きがいについて

① 趣味の有無

趣味の有無について、市全体で「趣味あり」が64.5%、「思いつかない」が25.1%となっており、「趣味あり」の割合は、前回調査と比べて5.9ポイント減少している。

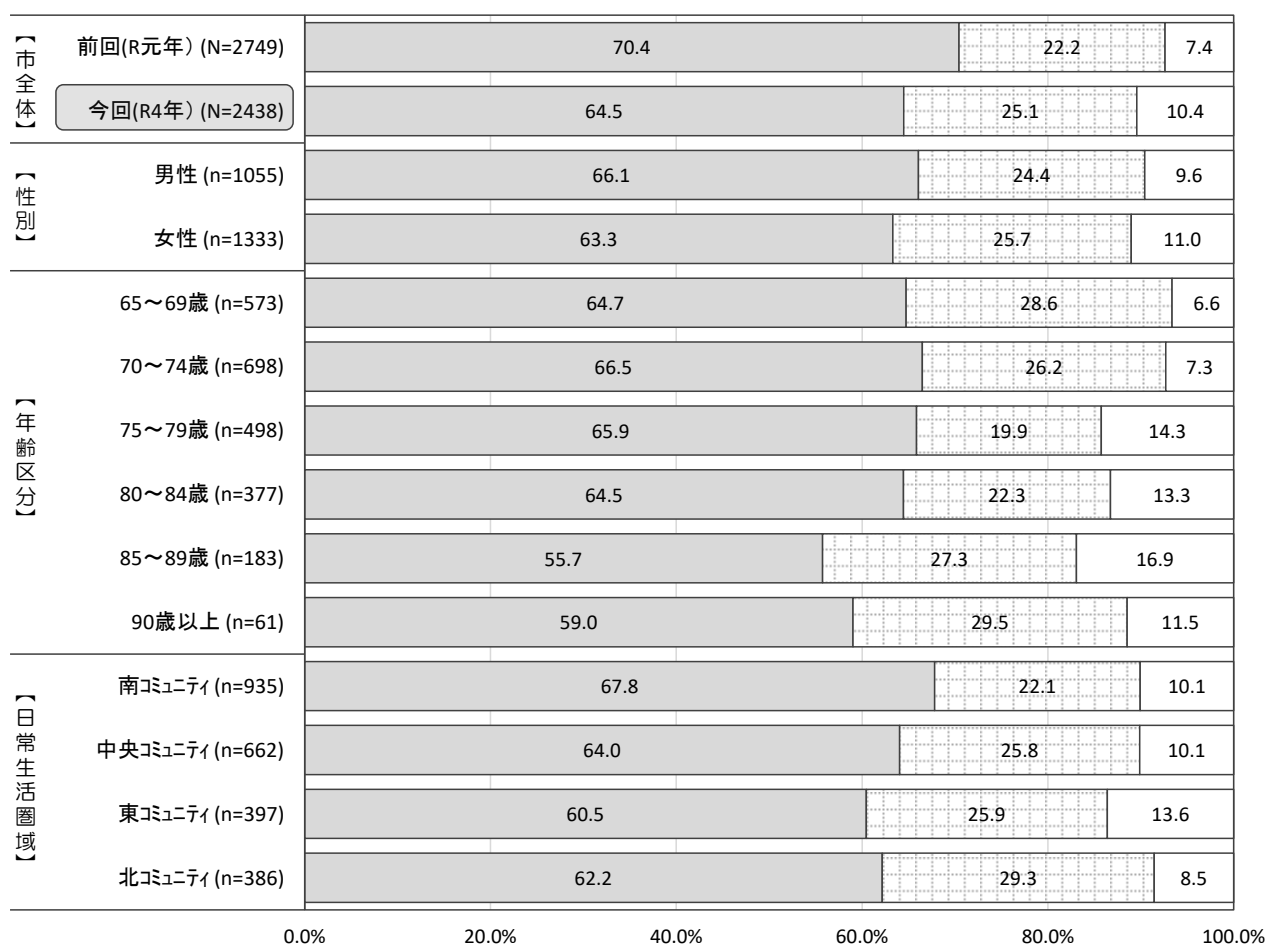
性別でみると、「趣味あり」は男性が66.1%、女性が63.3%とやや男性の方が高い。

年齢別でみると、「趣味あり」は70～74歳が66.5%と最も高く、80歳以上になるとその割合は減少している。

圏域別でみると、「趣味あり」は、南コミュニティが67.8%と他の圏域に比べて高くなっており、他の圏域では市全体の割合を下回っている。

【問5-(17) 趣味の有無】

□ 趣味あり □ 思いつかない □ 無回答



【趣味の主な内容】

- ・読書 ・ゴルフ ・ウォーキング ・カラオケ ・旅行 ・ボウリング ・テニス
- ・ガーデニング ・歌や楽器の演奏 ・音楽鑑賞 ・絵画や絵手紙 ・グラウンドゴルフ
- ・映画鑑賞 ・編み物 ・手芸 ・野菜作り (家庭菜園) ・釣り ・登山 ・囲碁 等

② 生きがいの有無

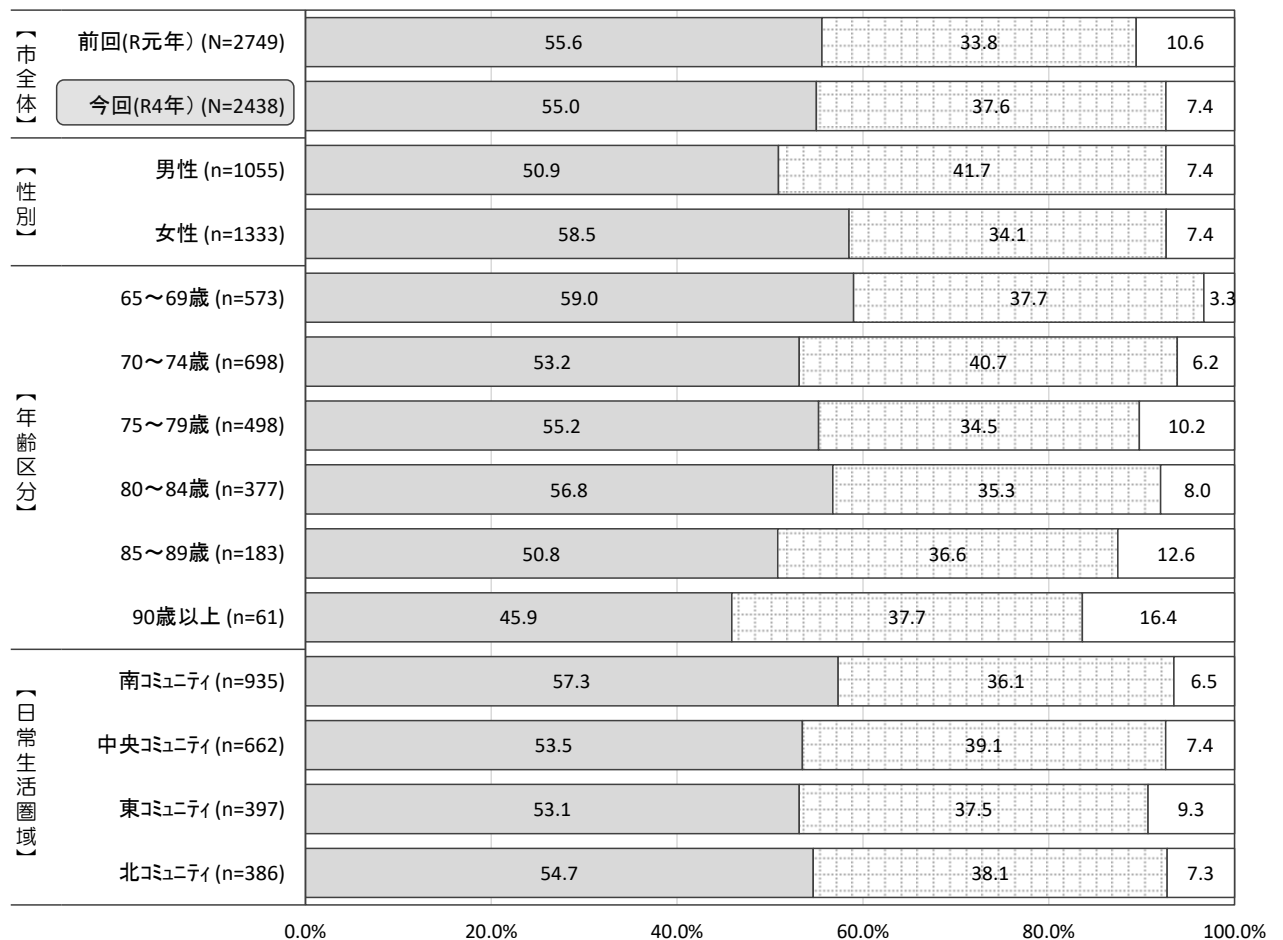
生きがいの有無について、市全体で「生きがいあり」が 55.0%、「思いつかない」が 37.6%となっている。

性別でみると、「生きがいあり」は男性が 50.9%、女性が 58.5%と女性の方が高い。
年齢別でみると、「生きがいあり」は 65～69 歳が 59.0%と最も高い。

圏域別でみると、「生きがいあり」は、南コミュニティが 57.3%と他の圏域に比べて高くなっている。

【問5- (18) 生きがいの有無】

■ 生きがいあり ■ 思いつかない □ 無回答



【生きがいの主な内容】

- ・ 孫、ひ孫の成長（世話）
- ・ 家族（子供）と過ごすこと
- ・ 健康に暮らすこと
- ・ 趣味
- ・ 仕事
- ・ 旅行
- ・ 友人との付き合い
- ・ スポーツをすること
- ・ 畑の野菜作り
- ・ 庭の手入れ、ガーデニング
- ・ ボランティア 等

6. 地域での活動について

(1) 地域の会・グループ活動等への参加

① ボランティアのグループ

ボランティアのグループへの参加頻度は、市全体で「参加していない」が66.0%と最も高く、次いで「月1～3回」(4.3%)、「年に数回」(3.8%)の順に続く。“月に1回以上”（「週4回以上」～「月1～3回」）とする割合は、市全体で8.2%となっており、前回調査(9.2%)より1.0ポイント減少している。

性別でみると、“月に1回以上”の割合は、男性が7.9%、女性が8.1%と女性の方がやや高い。

年齢別でみると、“月に1回以上”の割合は、75～79歳が10.0%と他の年齢に比べて高い。

圏域別でみると、“月に1回以上”の割合は、北コミュニティが8.0%と最も高く、最も低い中央コミュニティ(6.9%)とは、1.1ポイントの差がみられる。

【問6-(1)-① ボランティアのグループへの参加頻度】

単位：%

		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
市全体	前回(R元年) (N=2749)	0.9	2.0	1.7	4.6	4.5	61.1	25.2
	今回(R4年) (N=2438)	0.9	1.6	1.4	4.3	3.8	66.0	22.0
性別	男性 (n=1055)	0.9	1.3	1.2	4.5	4.7	70.2	17.1
	女性 (n=1333)	0.9	1.6	1.5	4.1	3.0	63.3	25.7
年齢別	65～69歳 (n=573)	0.7	1.2	0.3	3.0	4.0	79.1	11.7
	70～74歳 (n=698)	1.0	1.6	1.3	5.6	3.3	72.1	15.2
	75～79歳 (n=498)	1.6	1.6	2.4	4.4	4.8	58.6	26.5
	80～84歳 (n=377)	0.5	1.3	2.4	3.7	4.2	51.7	36.1
	85～89歳 (n=183)	0.5	2.2	0.0	4.9	2.2	56.3	33.9
	90歳以上 (n=61)	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	63.9	34.4
圏域別	南コミュニティ (n=935)	1.2	1.4	1.7	4.1	3.5	66.0	22.1
	中央コミュニティ (n=662)	0.9	1.8	1.5	2.7	3.3	70.5	19.2
	東コミュニティ (n=397)	0.3	1.0	1.3	6.5	4.3	63.2	23.4
	北コミュニティ (n=386)	1.0	1.6	0.5	4.9	4.7	63.2	24.1

② スポーツ関係のグループやクラブ

スポーツ関係のグループやクラブへの参加頻度は、市全体で「参加していない」が 56.7% となっており、前回調査と比べて 4.5 ポイント増加している。また、“月に 1 回以上” とする割合は、市全体で 22.4% となっている。

性別で見ると、“月に数回以上” の割合は、男性が 20.2%、女性が 24.5% となっており、さらに、“週に 1 回以上”（「週 4 回以上」～「週 1 回」）の割合は、男性が 15.2% に対して、女性は 21.4% と高く、女性の方がスポーツ関係の活動に参加する頻度は多い。

年齢別で見ると、“月に 1 回以上” の割合は、80～84 歳が 26.7% と他の年齢に比べて高い。

圏域別で見ると、“月に 1 回以上” の割合は、南コミュニティが 26.1% と最も高く、最も低い中央コミュニティ（19.6%）とは、6.5 ポイントの差がみられる。

【問 6 - (1) - ② スポーツ関係のグループやクラブへの参加頻度】

単位：%

		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
市全体	前回(R元年) (N=2749)	4.6	8.8	4.8	3.9	2.9	52.2	22.7
	今回(R4年) (N=2438)	4.6	8.9	5.0	3.9	2.7	56.7	18.1
性別	男性 (n=1055)	4.9	6.6	3.7	5.0	4.0	61.9	13.8
	女性 (n=1333)	4.5	10.7	6.2	3.1	1.7	52.7	21.0
年齢別	65～69歳 (n=573)	3.0	6.6	5.4	4.5	3.1	68.2	9.1
	70～74歳 (n=698)	4.7	10.2	6.7	3.6	2.4	59.2	13.2
	75～79歳 (n=498)	6.6	8.6	4.8	3.4	3.2	52.0	21.3
	80～84歳 (n=377)	5.8	11.4	4.5	5.0	2.4	43.8	27.1
	85～89歳 (n=183)	3.3	8.2	1.1	3.3	2.7	49.7	31.7
	90歳以上 (n=61)	1.6	6.6	1.6	1.6	0.0	59.0	29.5
圏域別	南コミュニティ (n=935)	5.9	9.2	6.1	4.9	3.2	53.4	17.3
	中央コミュニティ (n=662)	3.8	8.2	4.7	2.9	2.7	62.2	15.6
	東コミュニティ (n=397)	3.3	8.8	4.3	5.5	1.8	57.2	19.1
	北コミュニティ (n=386)	4.9	10.1	4.1	1.6	2.6	54.9	21.8

③ 趣味関係のグループ

趣味関係のグループへの参加頻度は、市全体で「参加していない」が 54.4% となっており、前回調査と比べて 5.4 ポイント増加している。また、“月に 1 回以上” とする割合は、市全体で 22.8% となっている。

性別で見ると、“月に 1 回以上” の割合は、男性が 20.3%、女性が 24.7% と女性の方が高い。

年齢別で見ると、“月に 1 回以上” の割合は、75～79 歳が 28.1% と他の年齢に比べて高い。

圏域別で見ると、“月に 1 回以上” の割合は、南コミュニティが 27.1% と最も高く、最も低い東コミュニティ（18.1%）とは、9.0 ポイントの差がみられる。

【問6-(1)-③ 趣味関係のグループへの参加頻度】

単位: %

		週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に数回	参加していない	無回答
市全体	前回(R元年) (N=2749)	2.5	5.0	6.3	10.7	4.7	49.0	21.7
	今回(R4年) (N=2438)	2.1	5.3	5.0	10.4	4.3	54.4	18.5
性別	男性 (n=1055)	2.1	4.9	4.6	8.7	6.3	58.8	14.6
	女性 (n=1333)	2.2	5.5	5.2	11.8	2.9	51.2	21.4
年齢別	65~69歳 (n=573)	1.2	2.6	4.2	10.3	5.2	66.8	9.6
	70~74歳 (n=698)	1.9	6.3	4.9	9.9	4.2	58.3	14.6
	75~79歳 (n=498)	2.8	5.4	7.2	12.7	4.6	46.8	20.5
	80~84歳 (n=377)	3.2	5.3	4.8	10.6	4.0	42.7	29.4
	85~89歳 (n=183)	2.2	8.7	2.7	8.2	3.3	44.8	30.1
	90歳以上 (n=61)	1.6	4.9	3.3	4.9	0.0	59.0	26.2
圏域別	南コミュニティ (n=935)	2.4	6.2	5.9	12.6	3.7	51.9	17.3
	中央コミュニティ (n=662)	2.0	3.8	3.9	9.5	4.2	60.3	16.3
	東コミュニティ (n=397)	2.3	4.0	4.5	7.3	5.0	54.9	21.9
	北コミュニティ (n=386)	1.8	6.5	5.2	9.3	5.4	50.5	21.2

④ 学習・教養サークル

学習・教養サークルへの参加頻度は、市全体で「参加していない」が 68.3%となっており、前回調査と比べて 7.3 ポイント増加している。また、“月に1回以上”とする割合は、市全体で 6.5%となっている。

性別でみると、“月に1回以上”の割合は、男性が 4.3%、女性が 8.6%と女性の方が高い。

年齢別でみると、“月に1回以上”の割合は、80~84歳が 8.0%と他の年齢に比べて高い。

圏域別でみると、“月に1回以上”の割合は、南コミュニティが 7.3%と最も高く、最も低い東コミュニティ (5.6%) とは、1.7 ポイントの差がみられる。

【問6-(1)-④ 学習・教養サークルへの参加頻度】

単位: %

		週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に数回	参加していない	無回答
市全体	前回(R元年) (N=2749)	0.4	1.4	1.6	4.4	3.9	61.0	27.3
	今回(R4年) (N=2438)	0.6	0.8	1.4	3.7	2.1	68.3	23.0
性別	男性 (n=1055)	0.4	0.3	0.9	2.7	1.9	75.2	18.8
	女性 (n=1333)	0.8	1.1	2.0	4.7	2.2	63.4	25.9
年齢別	65~69歳 (n=573)	0.3	0.7	1.6	3.7	2.1	81.0	10.6
	70~74歳 (n=698)	0.3	0.6	2.1	3.4	2.0	74.4	17.2
	75~79歳 (n=498)	0.8	1.6	1.0	4.0	2.6	61.8	28.1
	80~84歳 (n=377)	1.6	0.5	1.1	4.8	1.9	54.4	35.8
	85~89歳 (n=183)	0.5	0.0	1.1	3.8	1.6	55.7	37.2
	90歳以上 (n=61)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	65.6	34.4
圏域別	南コミュニティ (n=935)	0.9	0.6	1.9	3.9	2.0	67.4	23.3
	中央コミュニティ (n=662)	0.5	0.8	1.1	4.1	2.1	72.8	18.7
	東コミュニティ (n=397)	0.5	1.3	1.8	2.0	2.0	67.3	25.2
	北コミュニティ (n=386)	0.5	0.5	0.8	4.7	2.1	65.8	25.6

⑤ 介護予防のための通いの場

介護予防のための通いの場への参加頻度は、市全体で「参加していない」が 69.8%となっており前回調査と比べて 5.8 ポイント増加している。また、“月に 1 回以上”とする割合は 6.5%となっている。

性別でみると、“月に 1 回以上”の割合は、男性が 3.2%、女性が 9.0%と女性の方が高い。年齢別でみると、“月に 1 回以上”の割合は、80～84 歳が 13.6%と他の年齢に比べて高い。

圏域別でみると、“月に 1 回以上”の割合は、東コミュニティが 8.1%と最も高く、最も低い中央コミュニティ (4.6%) とは、3.5 ポイントの差がみられる。

【問 6- (1) -⑤ 「足元気教室」「音楽サロン」「健康づくりミニデイ」など介護予防のための通いの場への参加頻度】

単位：%

		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
市全体	前回(R元年) (N=2749)	0.5	1.2	1.5	4.0	3.6	64.0	25.3
	今回(R4年) (N=2438)	0.5	1.1	1.3	3.6	2.3	69.8	21.4
性別	男性 (n=1055)	0.3	0.9	0.6	1.4	1.3	77.3	18.2
	女性 (n=1333)	0.5	1.2	2.0	5.3	3.1	64.4	23.6
年齢別	65～69歳 (n=573)	0.2	0.9	1.6	1.0	0.5	85.2	10.6
	70～74歳 (n=698)	0.3	0.6	0.4	3.2	1.9	77.7	16.0
	75～79歳 (n=498)	0.4	0.8	1.2	3.8	3.2	63.3	27.3
	80～84歳 (n=377)	0.8	2.4	2.4	8.0	4.0	51.7	30.8
	85～89歳 (n=183)	0.5	1.1	2.7	3.8	3.8	54.6	33.3
	90歳以上 (n=61)	1.6	3.3	0.0	3.3	1.6	55.7	34.4
圏域別	南コミュニティ (n=935)	0.4	0.7	1.5	4.0	1.7	70.1	21.6
	中央コミュニティ (n=662)	0.3	1.1	1.1	2.1	2.6	74.5	18.4
	東コミュニティ (n=397)	0.5	1.5	1.3	4.8	3.0	66.5	22.4
	北コミュニティ (n=386)	0.5	1.6	1.6	4.1	2.6	66.3	23.3

⑥ シニアクラブ

シニアクラブへの参加頻度は、市全体で「参加していない」が 71.4%となっており、前回調査と比べて 5.6 ポイント増加している。また、“月に 1 回以上”とする割合は、市全体で 5.9%となっている。

性別でみると、“月に 1 回以上”の割合は、男性が 5.7%、女性が 6.0%と女性の方がやや高い。

年齢別でみると、“月に 1 回以上”の割合は、80～84 歳が 16.0%と他の年齢に比べて高い。

圏域別でみると、“月に 1 回以上”の割合は、北コミュニティが 6.2%、南コミュニティが 6.0%とやや高い。

【問6-(1)-⑥ シニアクラブへの参加頻度】

単位：%

		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
市全体	前回(R元年) (N=2749)	0.5	1.0	0.4	4.1	2.3	65.8	25.8
	今回(R4年) (N=2438)	0.6	0.9	0.9	3.5	1.5	71.4	21.1
性別	男性 (n=1055)	0.8	0.9	0.9	3.1	1.2	77.0	16.2
	女性 (n=1333)	0.5	0.8	0.9	3.8	1.7	67.7	24.5
年齢別	65～69歳 (n=573)	0.0	0.0	0.3	0.5	0.3	87.4	11.3
	70～74歳 (n=698)	0.0	0.0	0.6	2.0	0.7	80.2	16.5
	75～79歳 (n=498)	0.2	0.4	0.6	4.4	1.6	65.5	27.3
	80～84歳 (n=377)	2.1	3.2	2.7	8.0	2.7	52.0	29.4
	85～89歳 (n=183)	3.3	2.2	0.5	6.6	4.4	51.9	31.1
	90歳以上 (n=61)	0.0	3.3	1.6	4.9	4.9	59.0	26.2
圏域別	南コミュニティ (n=935)	0.7	0.7	1.2	3.4	0.7	71.2	21.9
	中央コミュニティ (n=662)	0.6	1.1	0.8	3.0	1.7	75.5	17.4
	東コミュニティ (n=397)	0.3	0.5	0.5	4.3	2.5	70.0	21.9
	北コミュニティ (n=386)	0.8	1.0	0.8	3.6	2.1	68.7	23.1

⑦ 区（自治会）・隣組（町内会）

区（自治会）・隣組（町内会）への参加頻度は、市全体で「参加していない」が56.0%と最も高く、次いで「年に数回」（16.4%）、「月1～3回」（4.1%）の順に続く。また、“月に1回以上”とする割合は、市全体で5.9%となっており、前回調査（6.9%）と比べて1.0ポイント減少している。

性別でみると、“月に1回以上”の割合は、男性が5.5%、女性が6.0%と女性の方が高い。年齢別でみると、“月に1回以上”の割合は、75～79歳が7.2%と他の年齢に比べて高い。

圏域別でみると、“月に1回以上”の割合は、東コミュニティと北コミュニティが6.7%と最も高く、最も低い中央コミュニティ（3.7%）とは、3.0ポイントの差がみられる。

【問6-(1)-⑦ 区（自治会）・隣組（町内会）への参加頻度】

単位：%

		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
市全体	前回(R元年) (N=2749)	1.2	0.4	0.7	4.6	19.8	48.5	24.9
	今回(R4年) (N=2438)	0.6	0.5	0.7	4.1	16.4	56.0	21.8
性別	男性 (n=1055)	0.9	0.6	0.3	3.7	15.5	62.1	16.9
	女性 (n=1333)	0.3	0.3	0.9	4.5	17.1	51.6	25.3
年齢別	65～69歳 (n=573)	0.7	0.2	0.3	3.0	15.7	69.5	10.6
	70～74歳 (n=698)	0.7	0.3	0.6	5.0	17.3	59.6	16.5
	75～79歳 (n=498)	0.4	0.4	0.8	5.6	18.1	48.4	26.3
	80～84歳 (n=377)	0.5	1.1	1.3	4.0	16.4	42.4	34.2
	85～89歳 (n=183)	0.0	0.5	0.0	2.2	14.2	48.6	34.4
	90歳以上 (n=61)	1.6	0.0	0.0	0.0	8.2	60.7	29.5
圏域別	南コミュニティ (n=935)	0.7	0.3	0.9	4.6	16.6	54.9	22.0
	中央コミュニティ (n=662)	0.3	0.3	0.5	2.6	15.7	61.6	19.0
	東コミュニティ (n=397)	0.3	0.8	0.3	5.3	21.9	49.1	22.4
	北コミュニティ (n=386)	1.0	0.5	0.8	4.4	11.9	57.5	23.8

⑧ 収入のある仕事

収入のある仕事への参加頻度は、市全体で「参加していない」が56.6%と最も高く、次いで「週4回以上」(13.3%)、「週2～3回」(6.4%)の順に続く。また、“月に1回以上”とする割合は、市全体で22.2%となっており、前回調査(22.2%)と変わらない。

性別でみると、“月に1回以上”の割合は、男性が27.9%、女性が17.5%と男性が女性より10.4ポイント高くなっている。

年齢別でみると、“月に1回以上”の割合は、65～69歳が40.8%と最も高く、次いで70～74歳(27.9%)、75～79歳(15.4%)の順に続く。

圏域別でみると、“月に1回以上”の割合は、中央コミュニティが23.6%と最も高く、最も低い東コミュニティ(19.5%)とは、4.1ポイントの差がみられる。

【問6-(1)-⑧ 収入のある仕事】

単位：%

		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
市全体	前回(R元年) (N=2749)	13.5	5.6	1.2	1.9	1.4	52.1	24.3
	今回(R4年) (N=2438)	13.3	6.4	1.3	1.2	1.3	56.6	20.0
性別	男性 (n=1055)	18.1	6.8	1.5	1.5	2.0	55.2	14.9
	女性 (n=1333)	9.5	6.0	1.1	0.9	0.8	58.1	23.6
年齢別	65～69歳 (n=573)	29.3	8.9	1.2	1.4	1.7	49.6	7.9
	70～74歳 (n=698)	15.0	9.5	2.0	1.4	1.3	58.0	12.8
	75～79歳 (n=498)	7.8	5.2	1.2	1.2	1.4	59.6	23.5
	80～84歳 (n=377)	1.3	1.6	1.1	0.8	1.3	57.0	36.9
	85～89歳 (n=183)	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	61.2	36.6
	90歳以上 (n=61)	0.0	1.6	0.0	1.6	0.0	67.2	29.5
圏域別	南コミュニティ (n=935)	12.9	6.6	1.1	1.5	1.5	55.8	20.5
	中央コミュニティ (n=662)	14.5	6.5	1.8	0.8	1.2	58.9	16.3
	東コミュニティ (n=397)	10.6	6.3	1.3	1.3	1.5	57.2	21.9
	北コミュニティ (n=386)	15.5	5.7	1.0	1.0	0.8	54.1	21.8

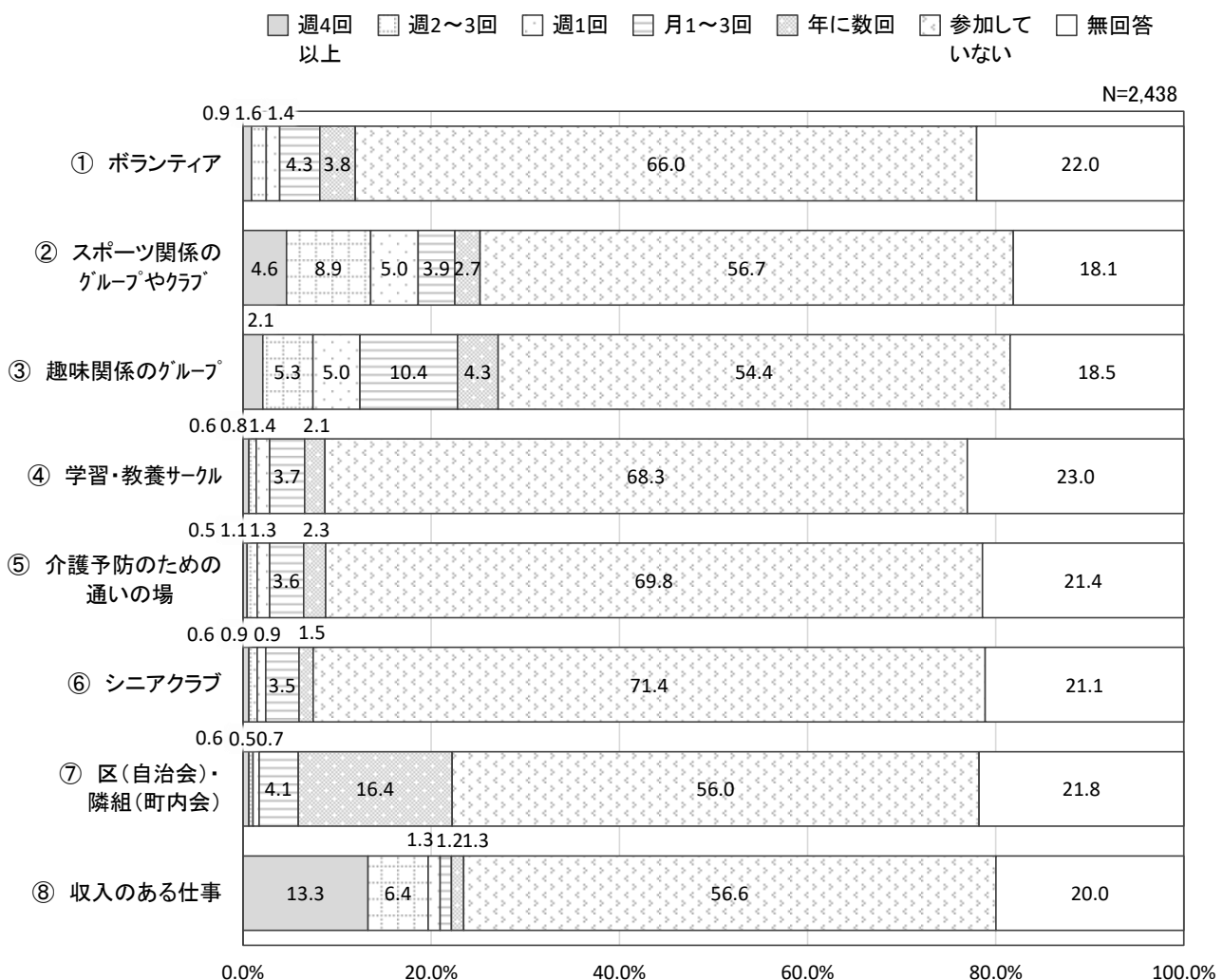
⑨ 地域の会・グループ活動等への参加（全体）

地域の会やグループ活動等への参加状況について、「週4回以上」参加している割合が最も高いのは、「⑧収入のある仕事」で13.3%、次いで「②スポーツ関係のグループやクラブ」（4.6%）、「③趣味関係のグループ」（2.1%）の順に続く。

“月に1回以上”の割合は、「③趣味関係のグループ」が22.8%と最も高く、次いで「②スポーツ関係のグループやクラブ」（22.4%）、「⑧収入のある仕事」（22.2%）の順に続く。

一方、「参加していない」とする割合が最も高いのは、「⑥シニアクラブ」で71.4%、次いで「⑤介護予防のための通いの場」（69.8%）、「④学習・教養サークル」（68.3%）の順に続く。

【問6-（1）会・グループ等への参加頻度】



(2) 地域の会・グループ活動等への参加意向

① 参加者としての参加意向

地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、その活動に参加者として参加してみたいと思うか尋ねたところ、市全体で「参加してもよい」が43.1%と最も高く、次いで「参加したくない」が40.4%、「是非参加したい」(5.7%)の順に続く。「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた“参加者としての参加意向あり”とする割合は48.8%となっており、前回調査(49.6%)と比べて0.8ポイント減少している。

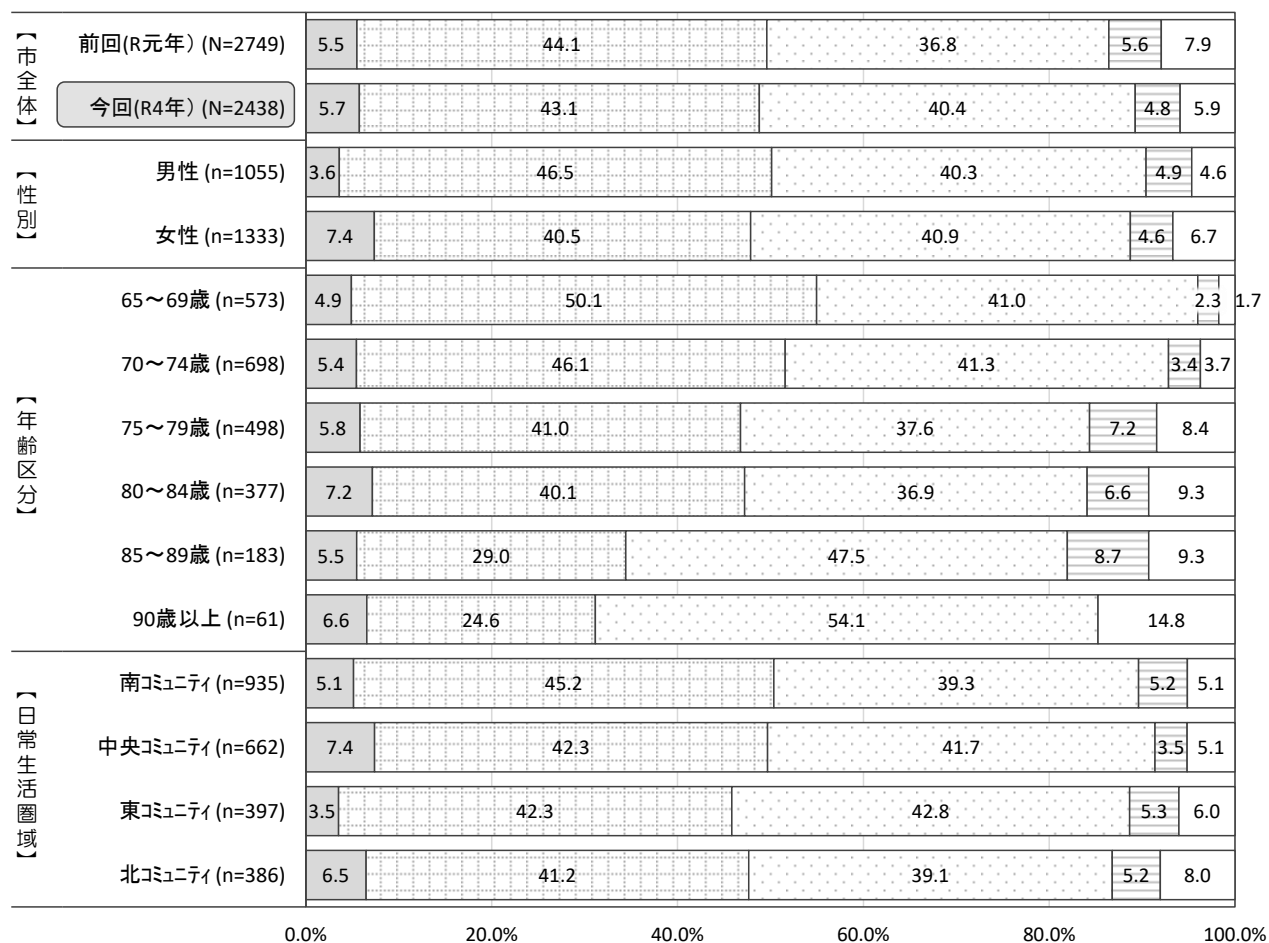
性別でみると、“参加者としての参加意向あり”の割合は、男性が50.1%、女性が47.9%と男性の方が2.2ポイント高い。

年齢別でみると、“参加者としての参加意向あり”の割合は、65～69歳が55.0%と最も高い。また、「既に参加している」は85～89歳が8.7%と他の年代に比べて高い。

圏域別でみると、“参加者としての参加意向あり”の割合は、南コミュニティが50.3%と最も高く、最も低い東コミュニティ(45.8%)との差は4.5ポイントとなっている。ただし、「既に参加している」は東コミュニティが5.3%と他の圏域に比べてやや高い。

【問6-(2) 参加者としての参加意向】

■ 是非参加したい □ 参加してもよい □ 参加したくない □ 既に参加している □ 無回答



② 企画・運営（お世話役）としての参加意向

地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、その活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思うか尋ねたところ、市全体で「参加たくない」が61.6%と最も高く、次いで「参加してもよい」が26.4%、「既に参加している」（4.0%）の順に続く。「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた“企画・運営（お世話役）としての参加意向あり”とする割合は28.3%となっており、前回調査（29.1%）と比べて0.8ポイント減少しているが、「既に参加している」は4.0%と前回調査と比べてやや増加している。

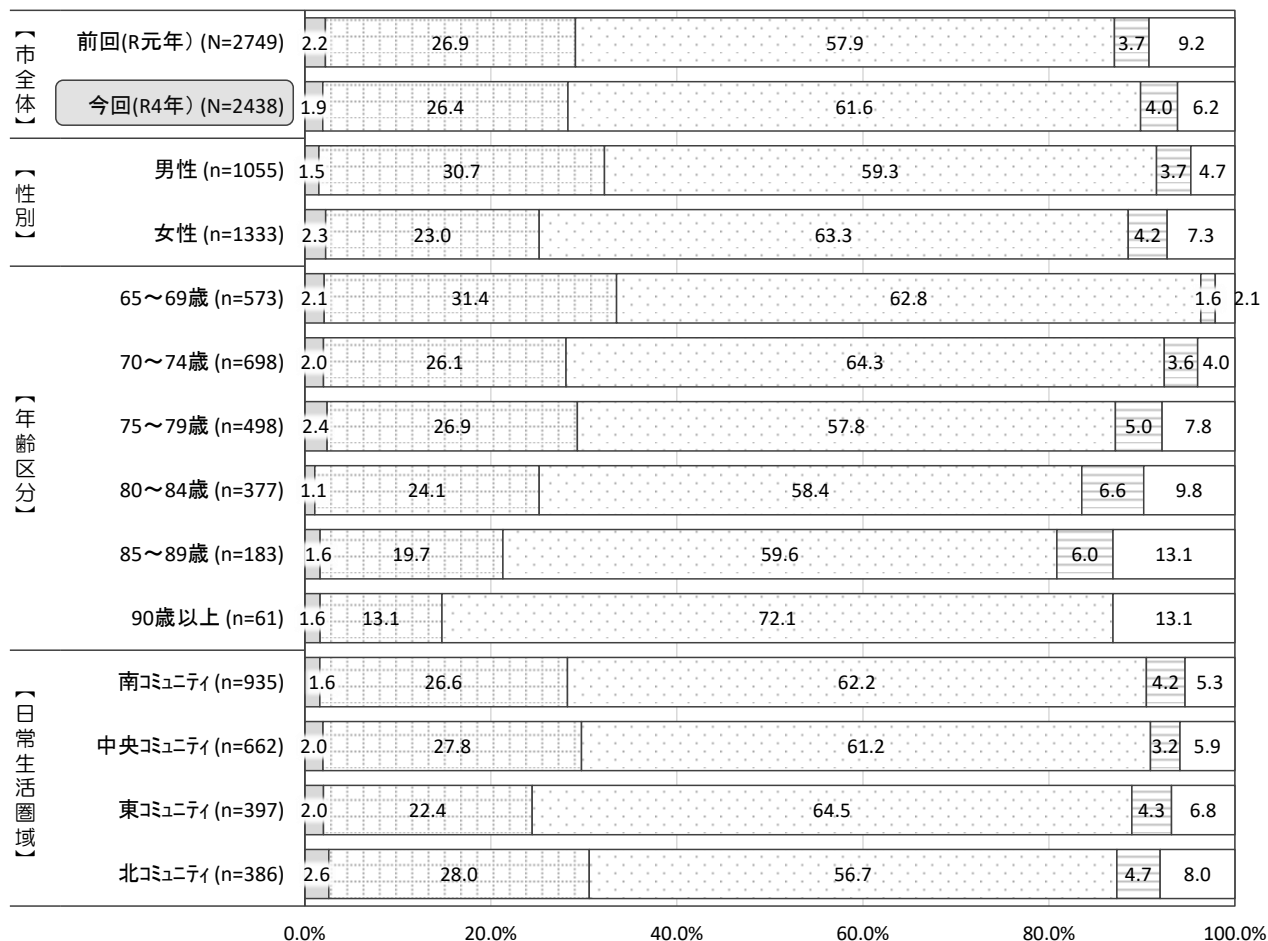
性別でみると、“企画・運営（お世話役）としての参加意向あり”の割合は、男性が32.2%、女性が25.3%と男性の方が6.9ポイント高い。

年齢別でみると、“企画・運営（お世話役）としての参加意向あり”の割合は、65～69歳が33.5%と最も高い。また、「既に参加している」は80～84歳が6.6%と他の年代に比べて高い。

圏域別でみると、“企画・運営（お世話役）としての参加意向あり”の割合は、北コミュニティが30.6%と最も高く、最も低い東コミュニティ（24.4%）との差は6.2ポイントとなっている。また、「既に参加している」は北コミュニティが4.7%と他の圏域に比べて高い。

【問5-（3）企画・運営（お世話役）としての参加意向】

■ 是非参加したい ■ 参加してもよい □ 参加たくない □ 既に参加している □ 無回答



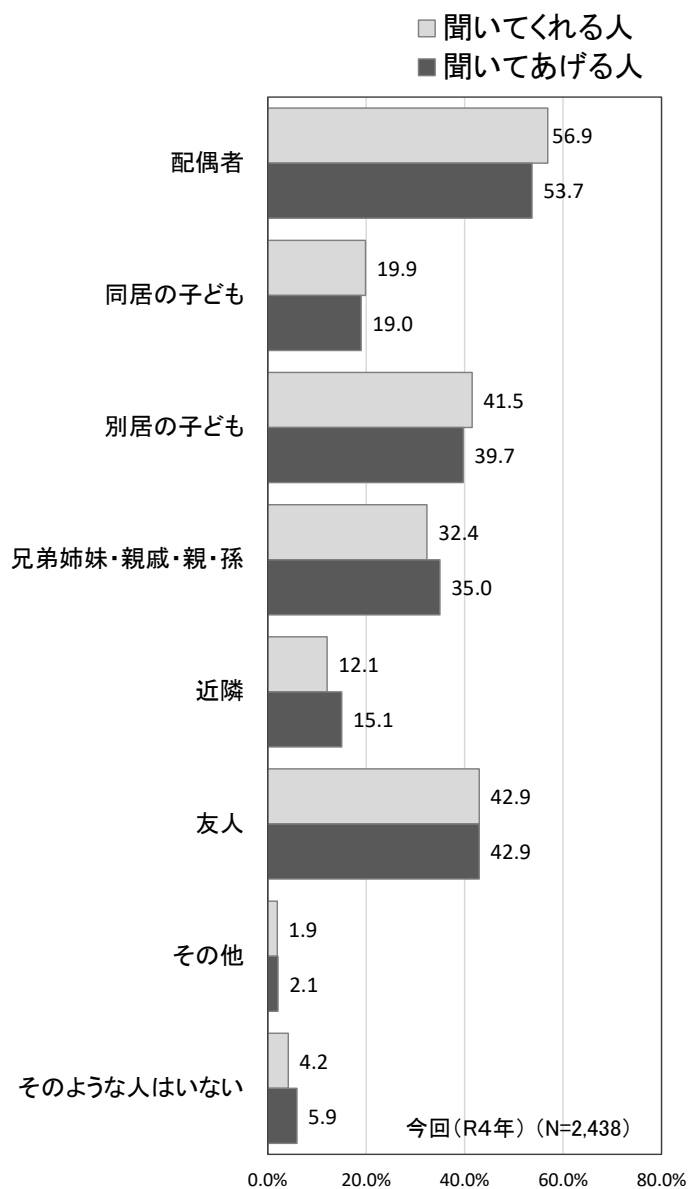
7. たすけあいについて

(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人・聞いてあげる人

普段、心配事や愚痴を聞いてくれる人は、「配偶者」が56.9%と最も高く、次いで「友人」(42.9%)、「別居の子ども」(41.5%)の順に続く。

一方、心配事や愚痴を聞いてあげる人は、「配偶者」が53.7%と最も高く、次いで「友人」(42.9%)、「別居の子ども」(39.7%)の順に続く。

【問7-(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人／(2) 聞いてあげる人】

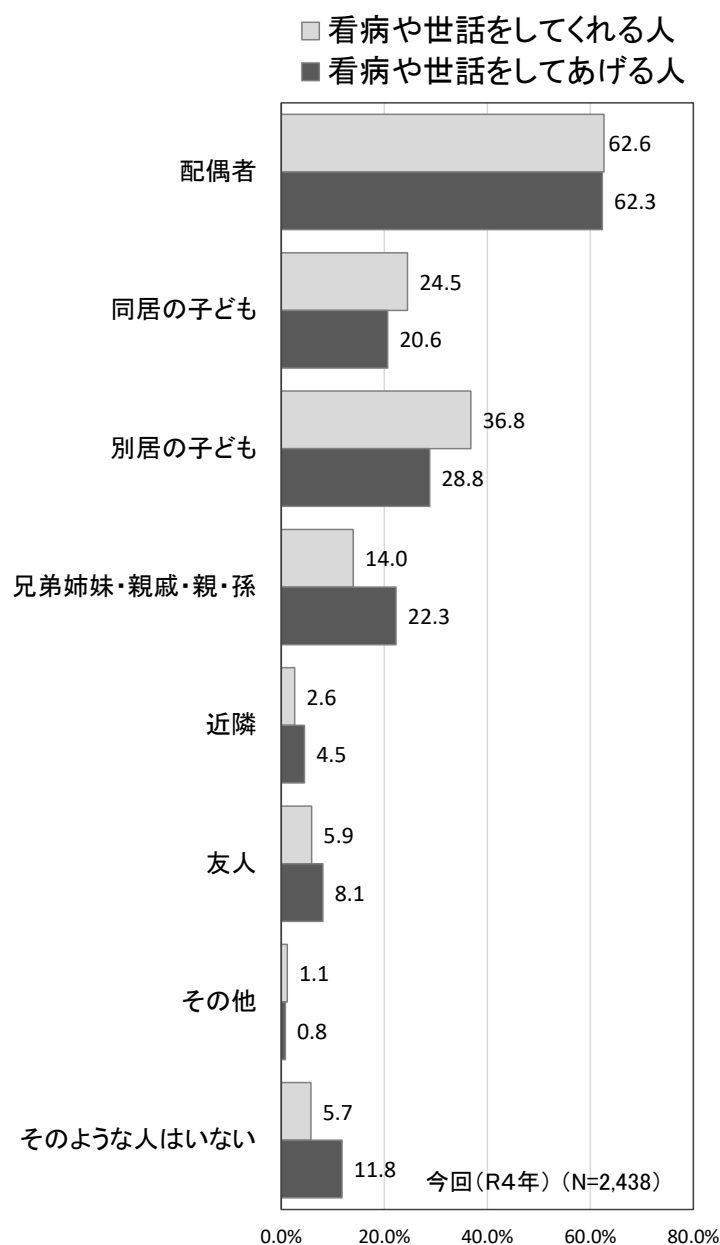


(2) 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人・してあげる人

病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人は、「配偶者」が 62.6%と最も高く、次いで「別居の子ども」(36.8%)、「同居の子ども」(24.5%)と続く。

一方、看病や世話をしてあげる人は、「配偶者」が 62.3%と最も高く、次いで「別居の子ども」(28.8%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(22.3%)と続く。

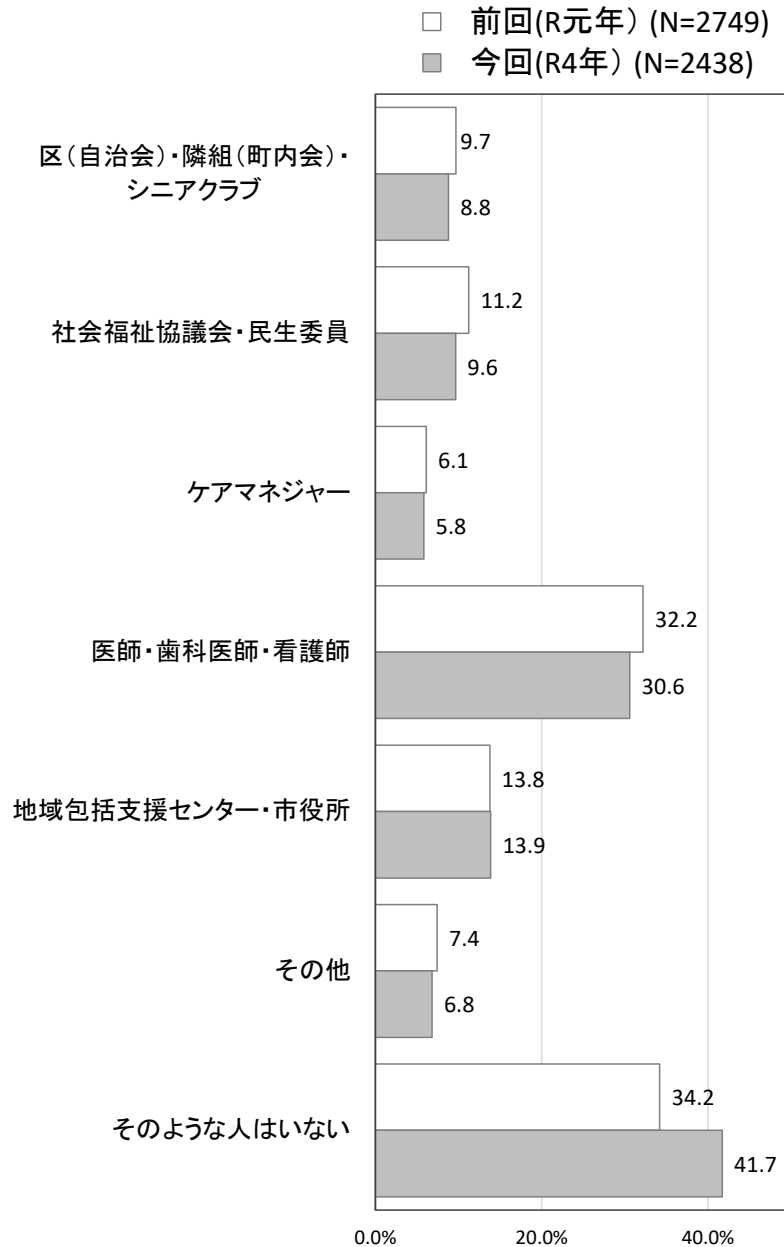
【問7-(3) 看病や世話をしてくれる人／(4) してあげる人】



(3) 相談する相手

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手について、「そのような人はいない」が41.7%と最も高く、前回調査(34.2%)と比べて7.5ポイント増加している。相談する相手がいる人では、「医師・歯科医師・看護師」が30.6%と最も高く、次いで「地域包括支援センター・市役所」(13.9%)、「社会福祉協議会・民生委員」(9.6%)の順に続く。

【問7-(5) 何かあったときに相談する相手】



(4) 友人・知人との交流

① 友人・知人と会う頻度

友人・知人と会う頻度について、市全体で「週に何度かある」が 26.4%と最も高く、次いで「月に何度かある」(25.4%)、「年に何度かある」(18.8%)の順に続く。「毎日ある」「週に何度かある」「月に何度かある」を合わせた割合は 59.5%となっている。

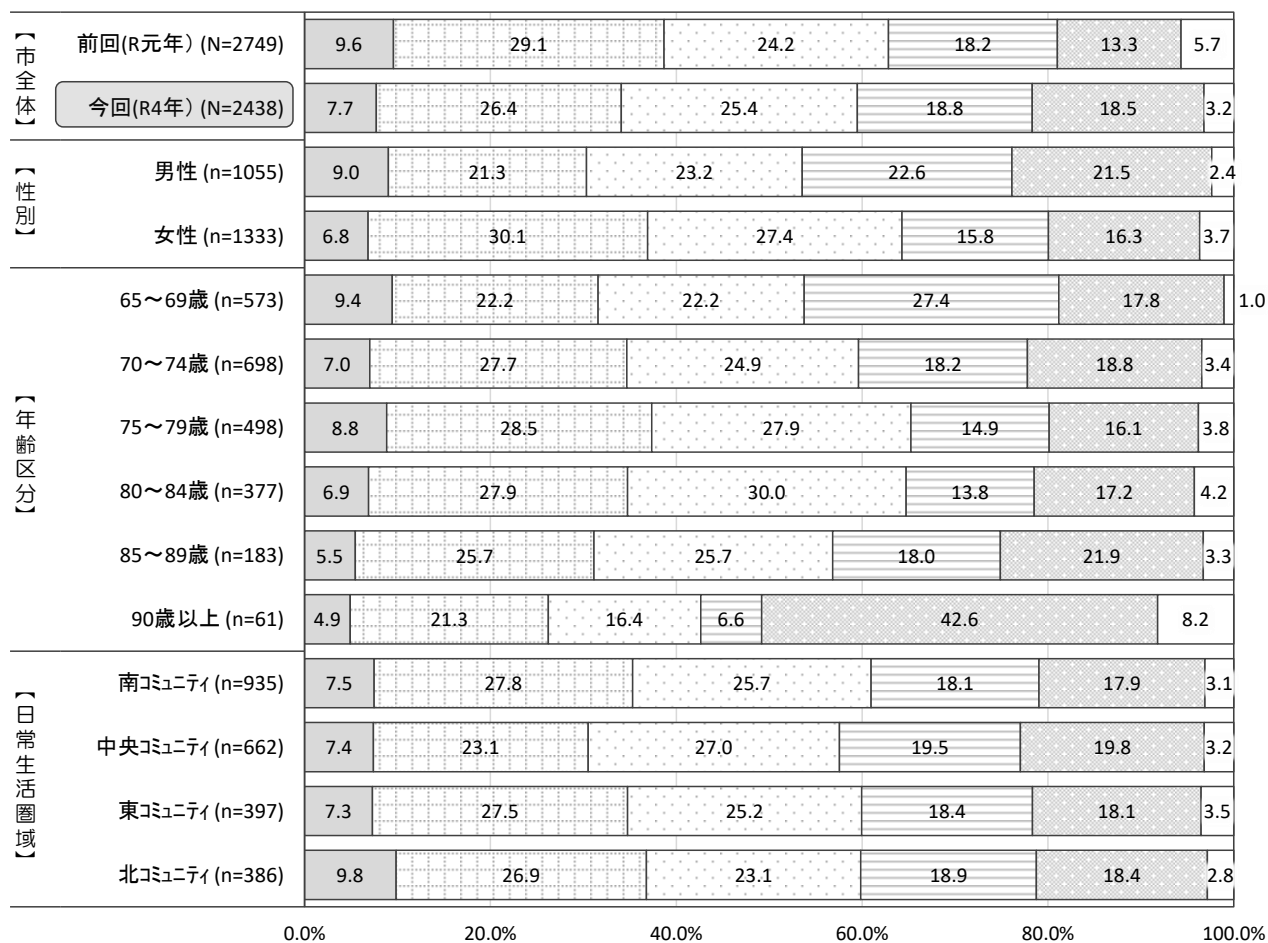
性別でみると、男性では「月に何度かある」が 23.2%と最も高く、女性では「週に何度かある」が 30.1%と最も高い。「毎日ある」「週に何度かある」「月に何度かある」を合わせた割合は、男性では 53.5%、女性では 64.3%と女性の方が 10.8 ポイント高い。

年齢別でみると、「毎日ある」「週に何度かある」「月に何度かある」を合わせた割合は、75～79歳が 65.2%と他の年代に比べて高くなっており、80歳以上になるとその割合は減少し、90歳以上になると 42.6%と半数を下回っている。

圏域別でみると、「毎日ある」が北コミュニティでは 9.8%と最も高くなっている。

【問7-(6) 友人・知人と会う頻度】

毎日ある 週に何度かある 月に何度かある
 年に何度かある ほとんどない 無回答



② 1か月間で会った友人・知人の数

この1か月間で会った友人・知人の数は、市全体で「10人以上」が24.3%と最も高く、次いで「3～5人」(22.8%)、「1～2人」(21.9%)の順に続く。「0人(いない)」の割合も17.5%みられる。「1人以上」(「1～2人」～「10人以上」)の割合は79.4%と前回調査(81.4%)と比べて2.0ポイント減少している。

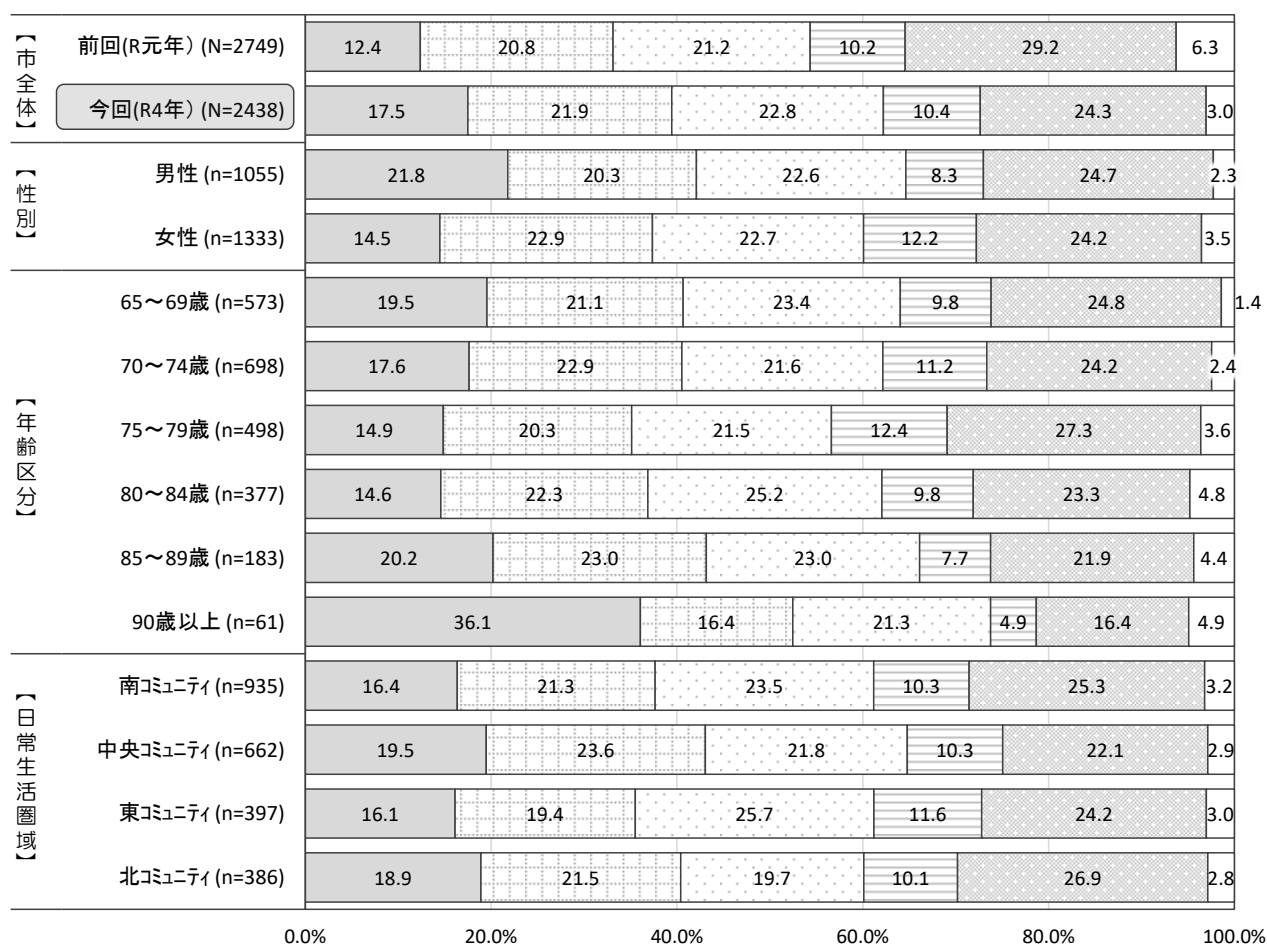
性別で見ると、男性では「0人(いない)」の割合が21.8%と女性(14.5%)より7.3ポイント高い。

年齢別で見ると、「1人以上」の割合は、65～84歳までは80%程度みられるが、85歳以上になると75.6%、90歳以上になると59.0%まで減少する。

圏域別で見ると大きな差はみられないが、「0人(いない)」は、中央コミュニティ(19.5%)や北コミュニティ(18.9%)が市全体の割合よりも高い。

【問7-(7) 会った友人・知人の数】

□ 0人(いない) □ 1～2人 □ 3～5人 □ 6～9人 □ 10人以上 □ 無回答



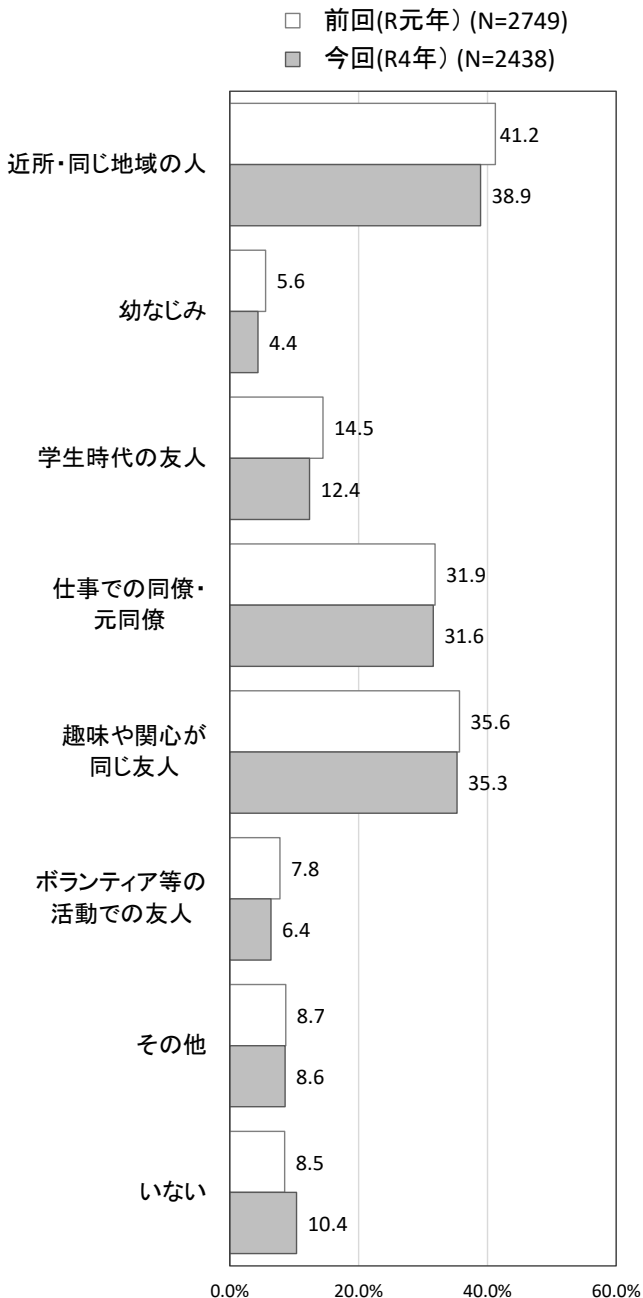
③ よく会う友人・知人との関係

よく会う友人・知人との関係は、市全体で「近所・同じ地域の人」が38.9%と最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」(35.3%)、「仕事での同僚・元同僚」(31.6%)の順に続いており、前回調査と同様の傾向がみられる。

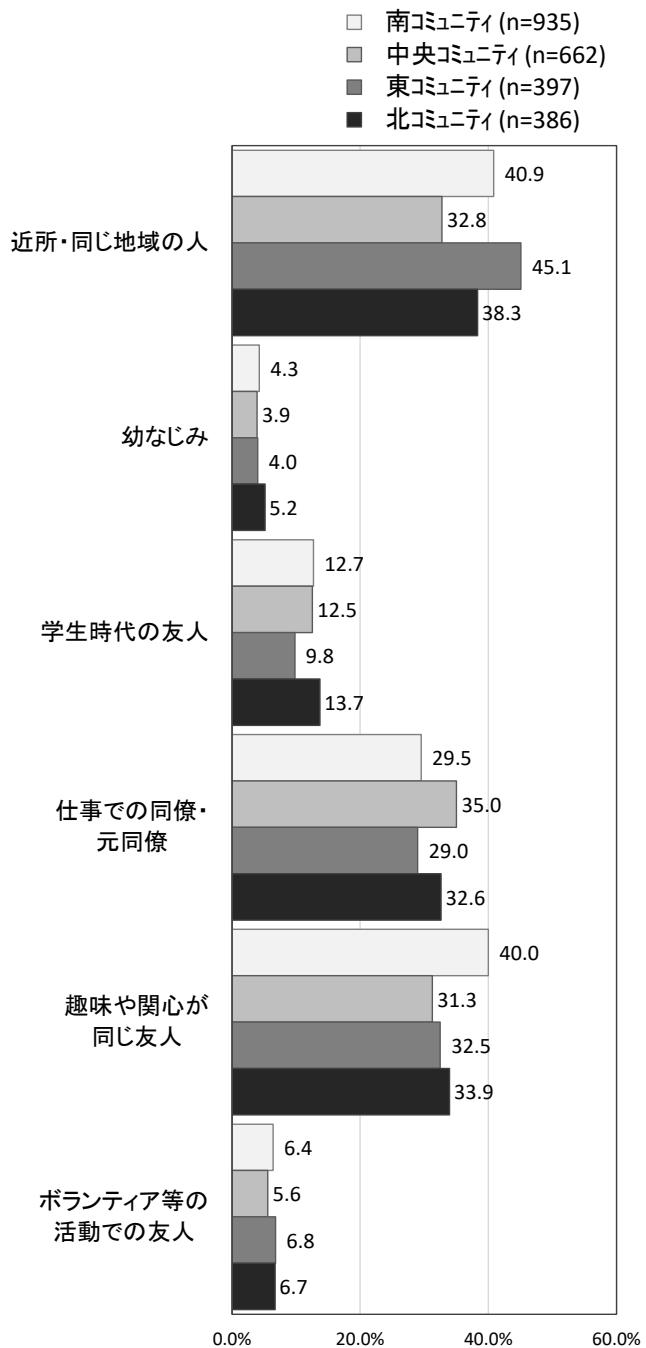
圏域別でみると、南コミュニティでは「趣味や関心が同じ友人」の割合が40.0%と他の圏域に比べて高い。中央コミュニティでは「仕事での同僚・元同僚」の割合が35.0%と他の圏域に比べて高い一方で、「近所・同じ地域の人」の割合が32.8%と低くなっている。東コミュニティでは「近所・同じ地域の人」が45.1%と他の圏域と比べて高い一方で、「学生時代の友人」(9.8%)や「仕事での同僚・元同僚」(29.0%)の割合が他の圏域に比べて低く、昔からの友人・知人との交流が少ない傾向がみられる。

【問7-(8) よく会う友人・知人との関係】

【市全体】



【日常生活圏域】



8. 健康について

(1) 健康状態

① 主体的健康観

現在の健康状態（主体的健康観）について、市全体で「まあよい」が69.0%と最も高く、次いで「あまりよくない」(16.2%)、「とてもよい」(10.1%)、「よくない」(2.5%)の順に続く。「とてもよい」と「まあよい」を合わせた“良好である”とする割合は79.1%と前回調査(76.8%)に比べて2.3ポイント増加し、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた“良好でない”とする割合は18.7%と前回調査(17.9%)に比べて0.8ポイント増加している。

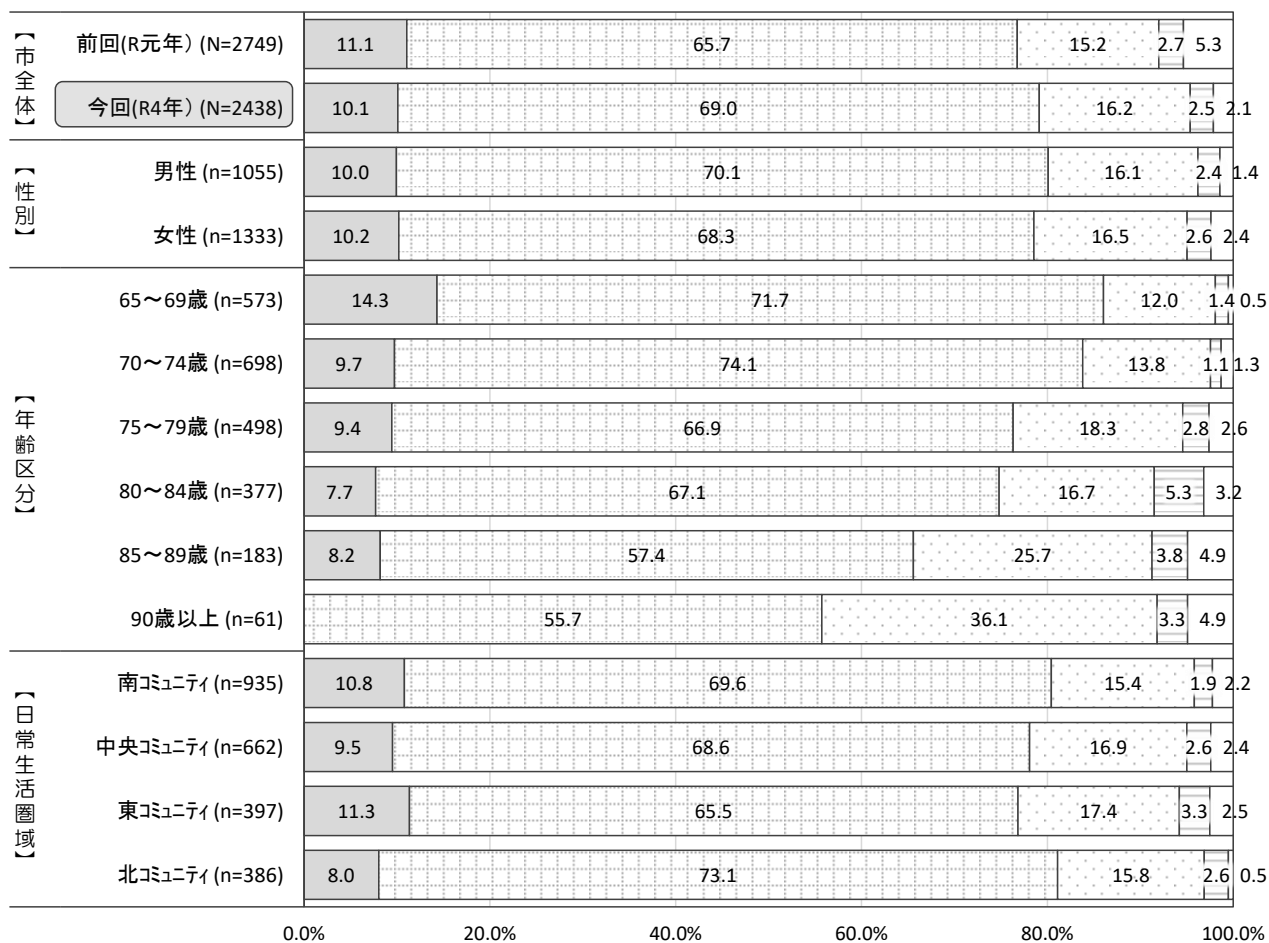
性別でみると、“良好である”の割合は、男性が80.1%、女性が78.5%と男性の方が1.6ポイント高い。

年齢別でみると、「とてもよい」の割合は70歳以上になると10%を下回るようになり、90歳以上では0.0%まで減少している。

圏域別でみる、“良好でない”とする割合は、東コミュニティが20.7%と最も高く、最も低い南コミュニティ(17.3%)との差は3.4ポイントとなっている。

【問8-(1) 主体的健康観】

□ とてもよい □ まあよい □ あまりよくない □ よくない □ 無回答



② 主体的幸福観

心の健康状態（主体的幸福観）を10点満点で表すと、市全体で「8点」が25.0%と最も高く、次いで「5点」（16.7%）、「7点」（15.8%）の順に続く。比較的幸福点数が高い「8～10点」は49.7%、反対に幸福点数が低い「0～3点」は3.7%となっている。

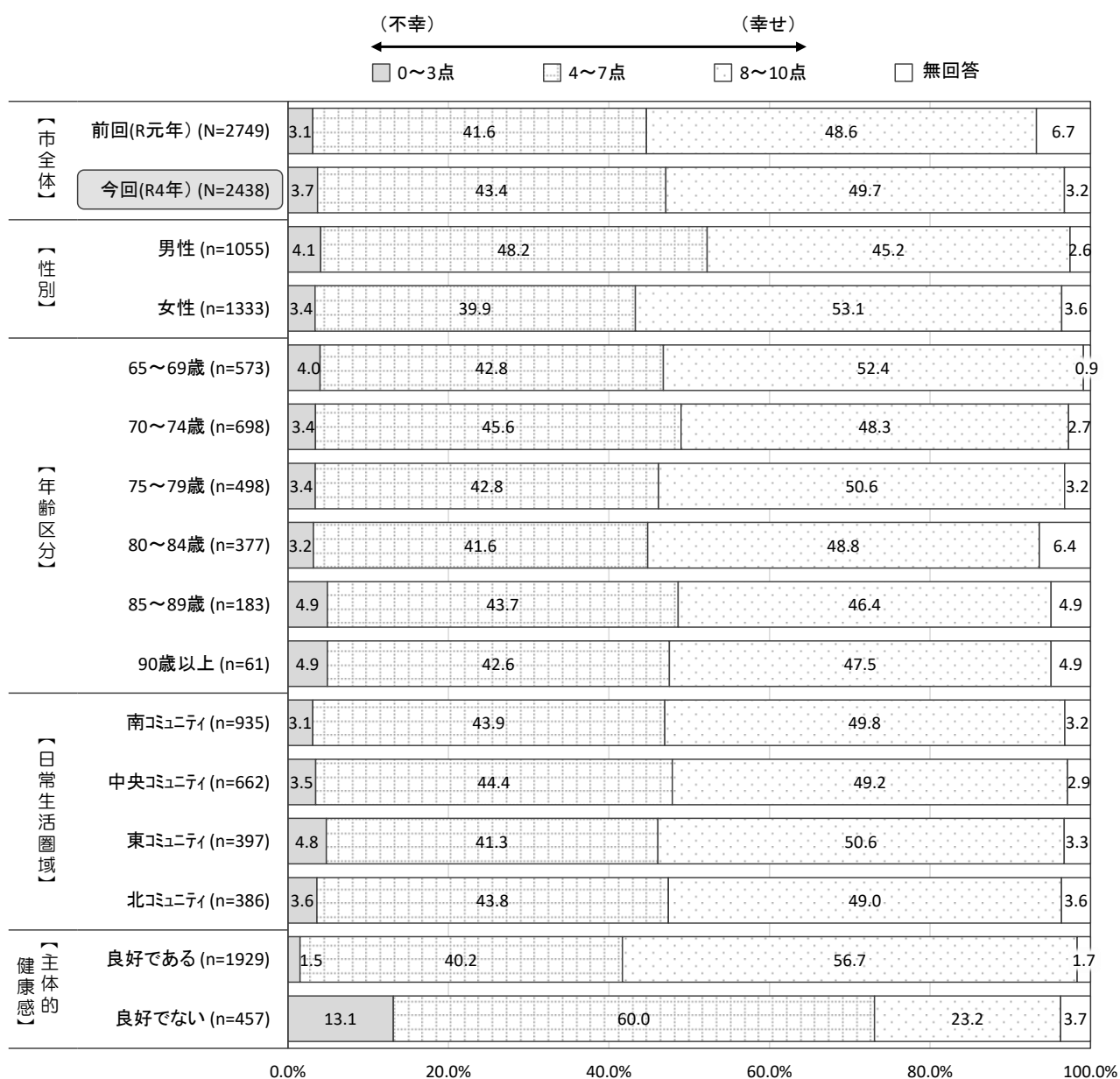
性別でみると、「8～10点」の割合は、男性が45.2%、女性が53.1%と女性の方が7.9ポイント高い。

年齢別でみると、「8～10点」の割合は、65～69歳が52.4%と最も高く、次いで、75～79歳（50.6%）、80～84歳（48.8%）の順に続く。また、85歳以上になると「0～3点」の割合は4.9%と他の年代に比べて高い。

圏域別でみると、「0～3点」の割合は、東コミュニティが4.8%と他の圏域に比べて高くなっている。

前問の主体的健康観と主体的幸福観の相関について、主体的幸福観が「8～10点」の割合は、“健康状態が良好である”が56.7%に対して、“健康状態が良好でない”では23.2%と半数程度に留まる。また、「0～3点」の割合は、“健康状態が良好である”では1.5%、“健康状態が良好でない”では13.1%と11.6ポイントの差がみられ、身体的な健康の悪化は心の健康にも影響を及ぼすことがうかがえる。

【問8-（2）主体的幸福観】



【問8-(2) 主体的幸福観】(点数詳細)

←
ととも
不幸
→
ととも
幸せ
→ 単位: %

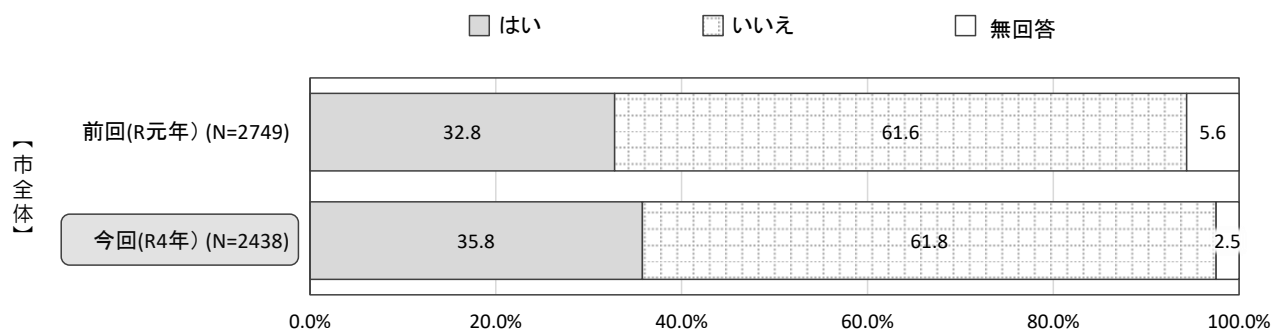
		0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答
市全体	前回(R元年) (N=2749)	0.5	0.2	0.6	1.7	2.5	15.8	8.5	14.8	23.2	9.3	16.0	6.7
	今回(R4年) (N=2438)	0.5	0.2	0.6	2.4	2.3	16.7	8.7	15.8	25.0	10.3	14.3	3.2
性別	男性 (n=1055)	0.5	0.2	0.6	2.8	2.4	19.3	8.7	17.7	24.1	8.9	12.2	2.6
	女性 (n=1333)	0.5	0.3	0.5	2.1	2.0	14.6	8.8	14.6	26.3	11.3	15.6	3.6
年齢別	65～69歳 (n=573)	0.3	0.5	0.9	2.3	1.7	16.2	8.7	16.1	26.9	12.0	13.4	0.9
	70～74歳 (n=698)	0.4	0.1	0.1	2.7	2.7	14.3	9.6	18.9	26.1	10.2	12.0	2.7
	75～79歳 (n=498)	0.4	0.0	0.4	2.6	1.4	17.1	8.8	15.5	25.7	9.6	15.3	3.2
	80～84歳 (n=377)	0.5	0.3	1.1	1.3	2.7	17.2	8.2	13.5	22.3	9.0	17.5	6.4
	85～89歳 (n=183)	0.5	0.5	0.5	3.3	3.3	23.5	7.1	9.8	24.6	9.8	12.0	4.9
	90歳以上 (n=61)	1.6	0.0	0.0	3.3	0.0	18.0	6.6	18.0	18.0	8.2	21.3	4.9
圏域別	南コミュニティ (n=935)	0.6	0.2	0.6	1.6	1.7	15.7	9.5	16.9	26.1	9.1	14.7	3.2
	中央コミュニティ (n=662)	0.5	0.0	0.8	2.3	2.0	17.5	8.9	16.0	23.4	11.2	14.7	2.9
	東コミュニティ (n=397)	0.3	0.5	0.0	4.0	2.3	16.1	7.3	15.6	23.2	11.8	15.6	3.3
	北コミュニティ (n=386)	0.0	0.3	0.5	2.8	3.4	18.4	7.8	14.2	28.8	9.8	10.4	3.6
健康 主 体的 感 別	良好である (n=1929)	0.2	0.1	0.2	1.0	1.3	14.4	8.4	16.0	28.1	11.7	16.8	1.7
	良好でない (n=457)	1.8	0.9	2.0	8.5	6.6	27.6	10.1	15.8	13.6	5.0	4.6	3.7

(2) うつに関する心身の状況

① 気分の落ち込み

この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあるかについて、市全体で「いいえ（ない）」が61.8%、「はい（ある）」が35.8%となっており、前回調査と比べて「はい（ある）」の割合が3.0ポイント増加している。

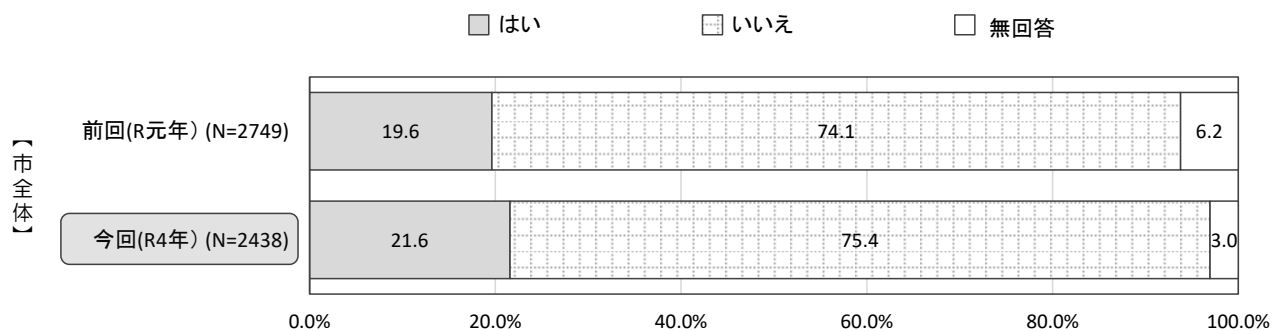
【問8-（3）気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあるか】



② 意欲の低下

この1か月間、物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがあるかについて、市全体で「いいえ（ない）」が75.4%、「はい（ある）」が21.6%となっており、前回調査と比べて「はい（ある）」の割合が2.0ポイント増加している。

【問8-（4）物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがあるか】

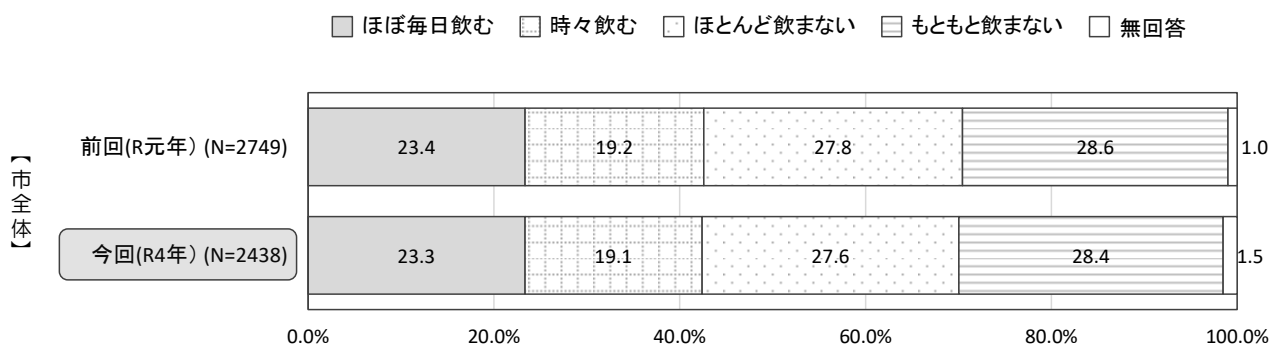


(3) 飲酒・喫煙の習慣

① 飲酒の習慣

飲酒の習慣について、市全体で「もともと飲まない」が28.4%と最も高く、次いで「ほとんど飲まない」(27.6%)、「ほぼ毎日飲む」(23.3%)、「時々飲む」(19.1%)の順に続く。「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」を合わせた“飲酒の習慣あり”とする割合は42.4%となっており、前回調査(42.6%)と大きな差はない。

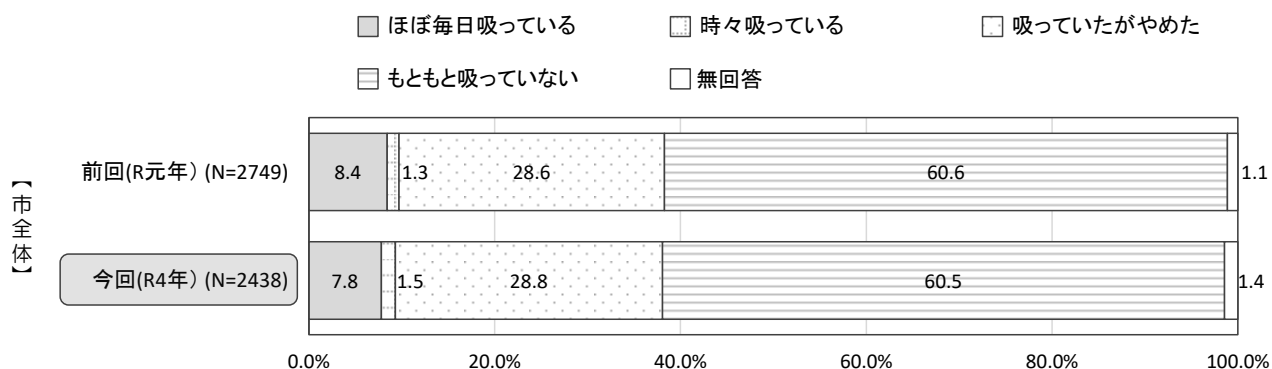
【問8-(5) 飲酒の習慣】



② 喫煙の習慣

喫煙の習慣について、市全体で「もともと吸っていない」が60.5%と最も高く、次いで「吸っていたがやめた」(28.8%)、「ほぼ毎日吸っている」(7.8%)、「時々吸っている」(1.5%)の順に続く。「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせた“喫煙の習慣あり”とする割合は9.3%となっており、前回調査(9.7%)と比較して大きな差はない。

【問8-(6) 喫煙の習慣】

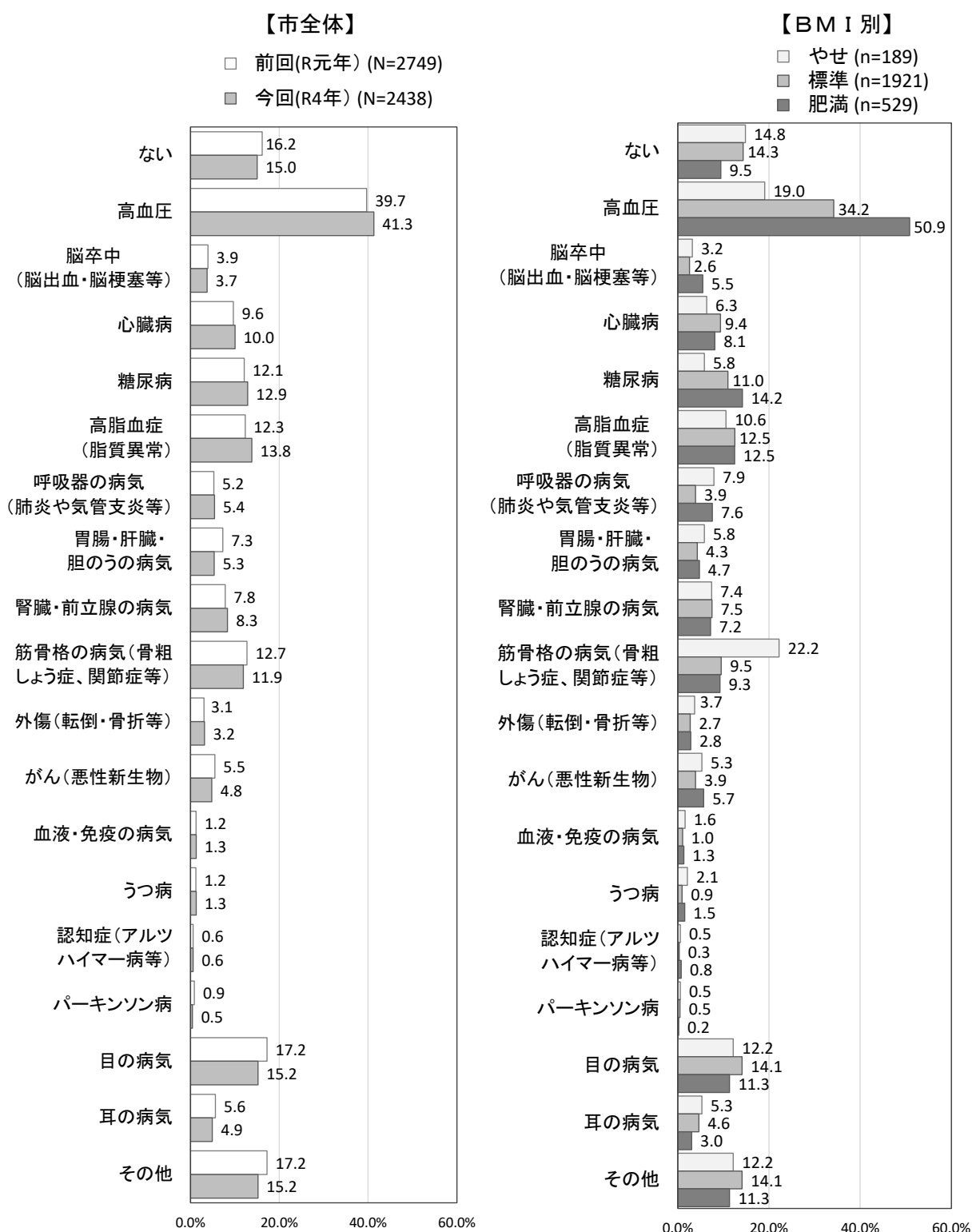


(4) 現在治療中、または後遺症のある病気

現在治療中、または後遺症のある病気について、市全体で「高血圧」が41.3%と最も高く、次いで「目の病気」「その他」(15.2%)、「高脂血症(脂質異常)」(13.8%)、「糖尿病」(12.9%)、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」(11.9%)の順に続く。

BMI別でみると、やせと判定された人では「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」(22.2%)が他のBMI判定者よりも高い傾向にある。また、肥満と判定された人では「高血圧」が50.9%と突出して高く、その他にも「糖尿病」(14.2%)や「高脂血症(脂質異常)」(12.5%)が高い。

【問7-(7) 現在治療中、または後遺症のある病気】



9. 認知症に関する相談窓口の把握について

(1) 本人または家族の認知症状の有無

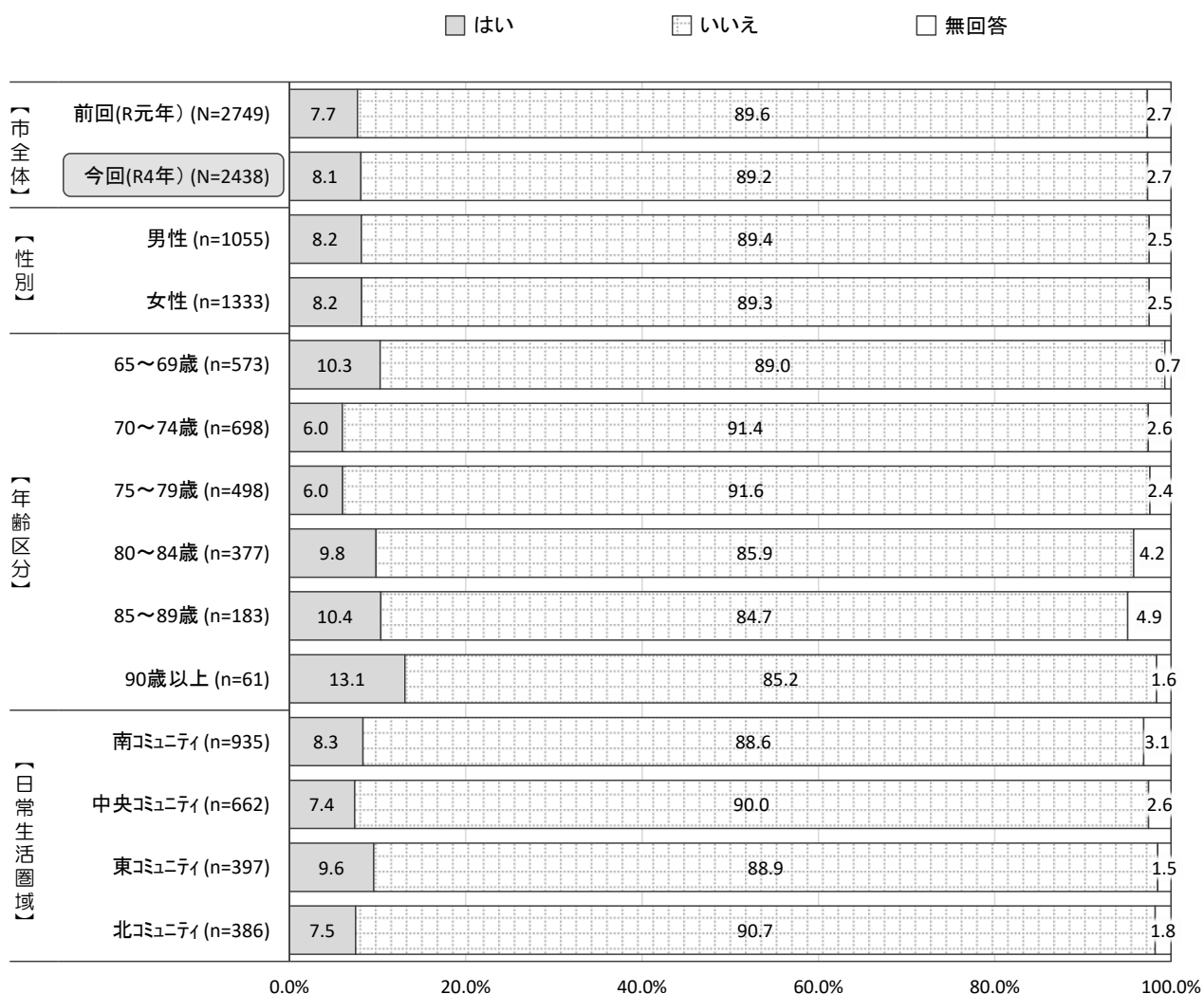
本人または家族に認知症の症状がある人がいるかについて、市全体で「いいえ (いない)」が 89.2%と多くを占めており、「はい (いる)」は 8.1%となっている。

性別でみると、「はい (いる)」は、男性・女性ともに 8.2%と大きな差はみられない。

年齢別でみると、「はい (いる)」の割合が 65～69 歳では 10.3%、70 歳代では 6.0%に減少するが、80 歳代では 9.8%前後、90 歳以上では 13.1%と高くなっている。

圏域別でみると、「はい (いる)」が東コミュニティでは 9.6%と他の圏域に比べて高くなっている。

【問 8 - (2) 本人または家族の認知症状の有無】



(2) 認知症に関する相談窓口の認知状況

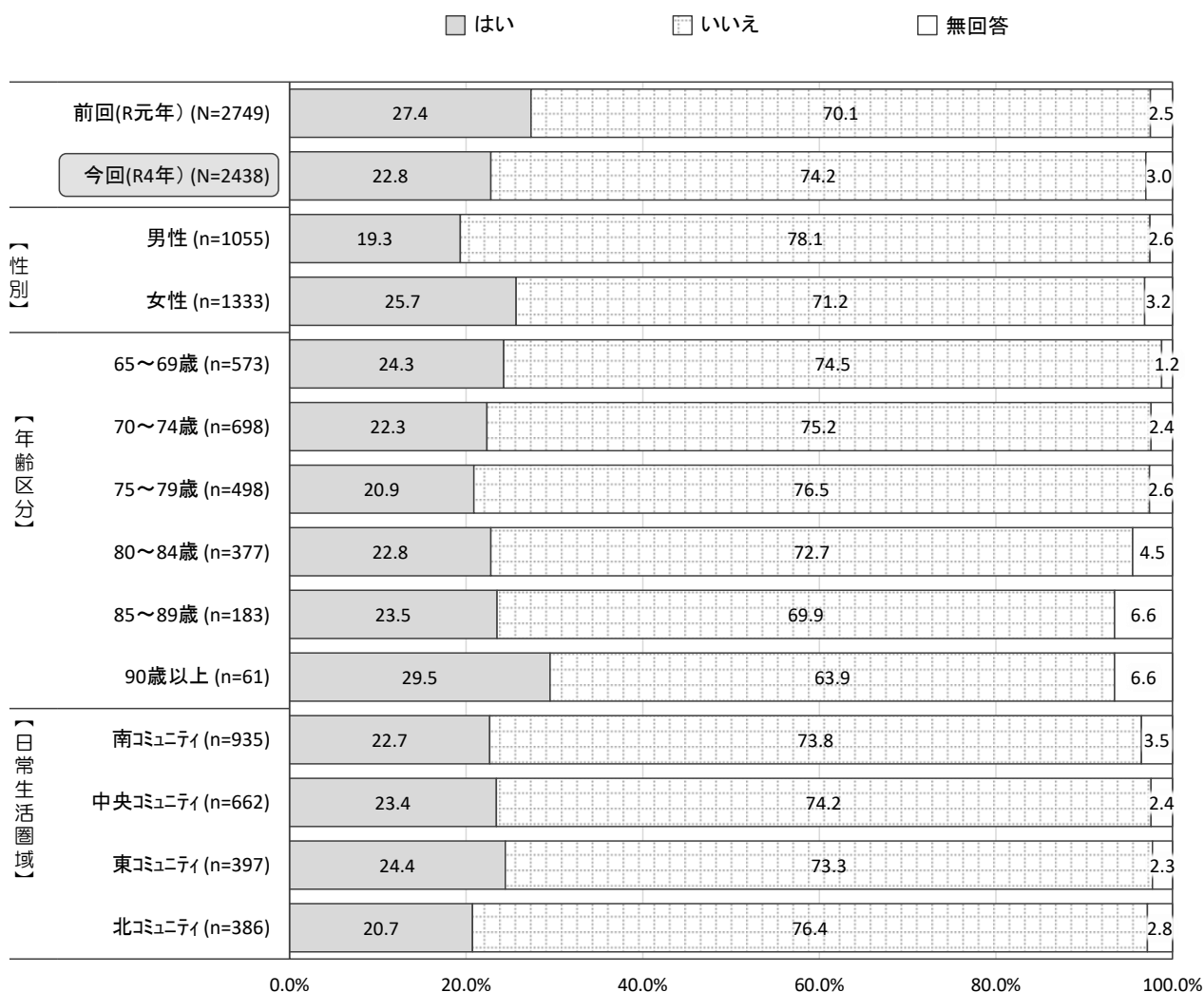
認知症に関する相談窓口の認知状況について、市全体で「いいえ(知らない)」が74.2%、「はい(知っている)」が22.8%となっており、知らない人の方が多い。「はい(知っている)」は前回調査(27.4%)と比べて4.6ポイント減少している。

性別で見ると、「はい(知っている)」は、男性が19.3%、女性が25.7%と女性の方が6.4ポイント高い。

年齢別で見ると、「はい(知っている)」は、65～69歳(24.3%)、85～89歳(23.5%)、90歳以上(29.5%)が市全体の割合を上回っている。

圏域別で見ると、「はい(知っている)」は、東コミュニティが24.4%と他の圏域に比べて高くなっている。

【問8-(2) 認知症に関する相談窓口の認知状況】



10. 成年後見制度について

(1) 成年後見制度の認知状況

成年後見制度の認知状況について、市全体で「制度の名称は知っているが、制度の内容は詳しくは知らない」が41.1%と最も高く、次いで「制度の名称は聞いたことがある」(22.9%)、「全く知らない」(17.1%)の順に続く。

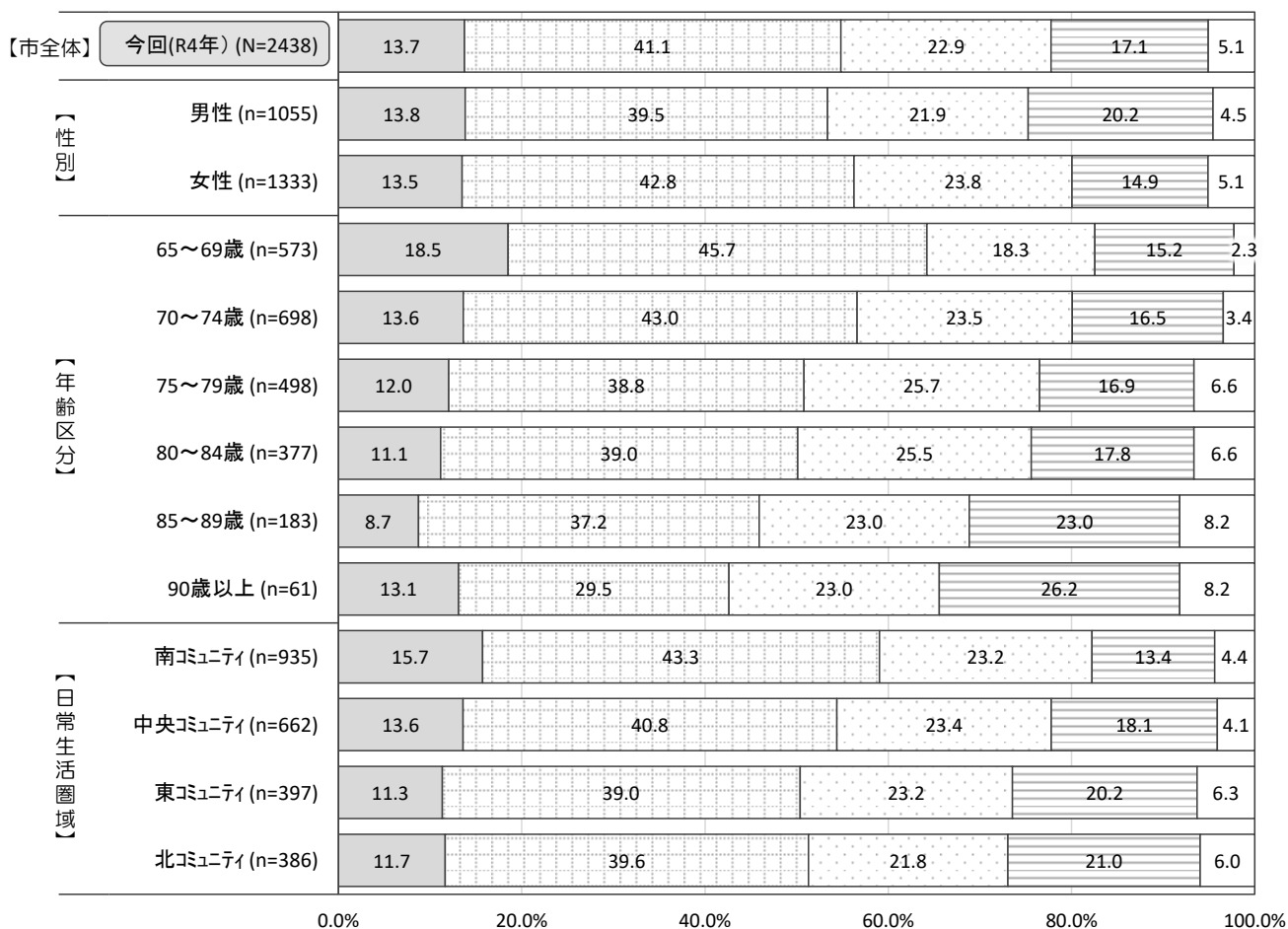
性別でみると、「全く知らない」は、男性が20.2%、女性が14.9%と男性の方が5.3ポイント高い。

年齢別でみると、「全く知らない」の割合は年齢が上がるにつれて高くなっており、85歳以上では20%を超えている。

圏域別でみると、「制度の名称だけではなく、制度の内容も知っている」が南コミュニティでは15.7%と他の圏域に比べて高くなっている。

【問10- (1) 成年後見制度の認知状況】

- 制度の名称だけでなく、制度の内容も知っている
- 制度の名称は知っているが、制度の内容は詳しくは知らない
- 制度の名称は聞いたことがある
- 全く知らない
- 無回答



(2) 成年後見制度の関心度

成年後見制度の関心度について、市全体で「あまり関心がない」が56.1%と最も高く、次いで「関心がある」(22.9%)、「全く関心がない」(13.0%)、「大いに関心がある」(2.2%)の順に続く。「大いに関心がある」「関心がある」を合わせた“関心がある”割合は25.1%となっている。

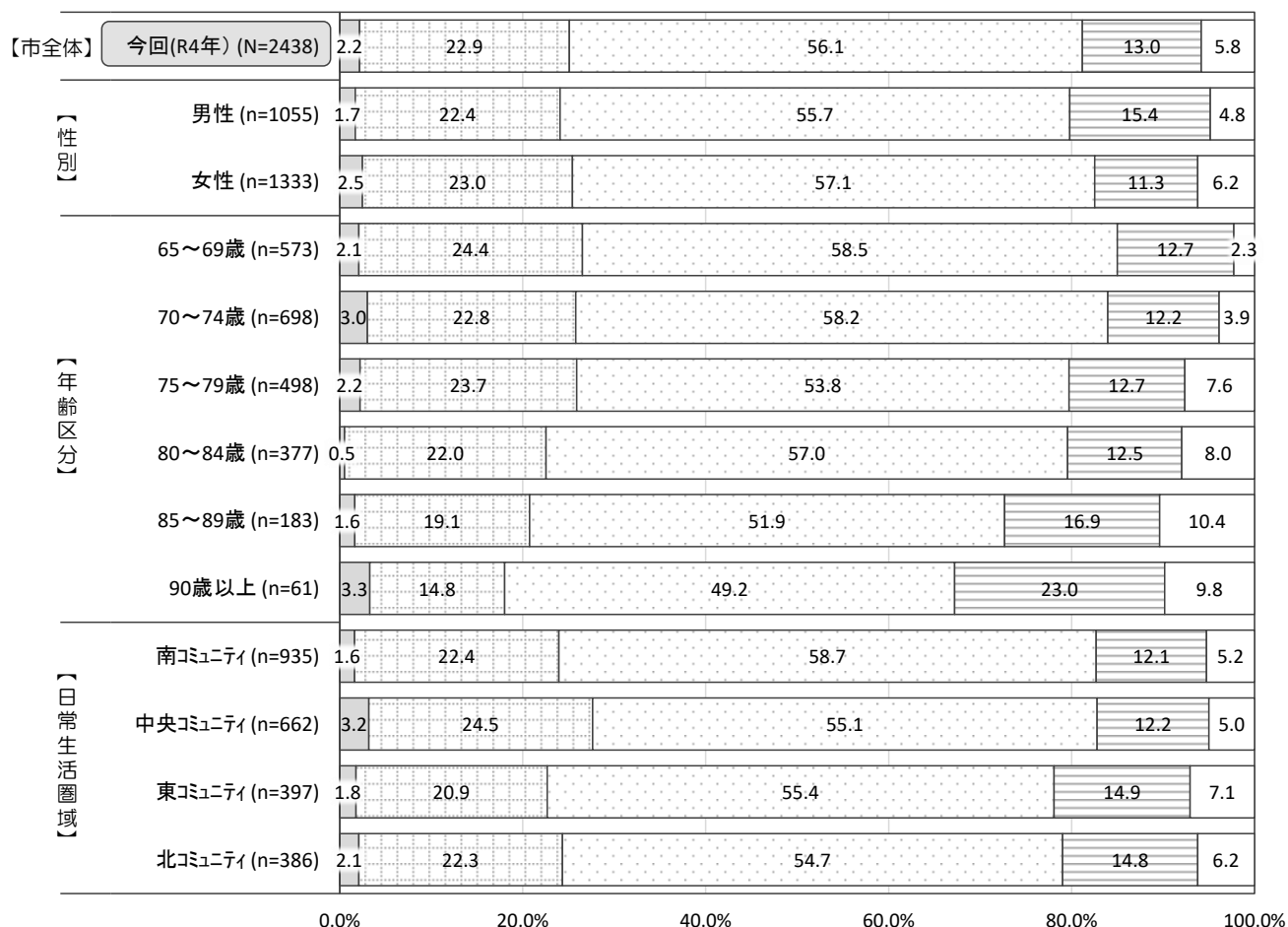
性別でみると、“関心がある”割合は、男性が24.1%、女性が25.5%と女性の方がやや高い。

年齢別でみると、“関心がある”割合は年齢が上がるにつれて減少し、90歳以上では18.1%となっている。

圏域別でみると、“関心がある”割合は、中央コミュニティが27.7%と他の圏域に比べて高くなっている。

【問10- (2) 成年後見制度の関心度】

大いに関心がある
 関心がある
 あまり関心がない
 全く関心がない
 無回答

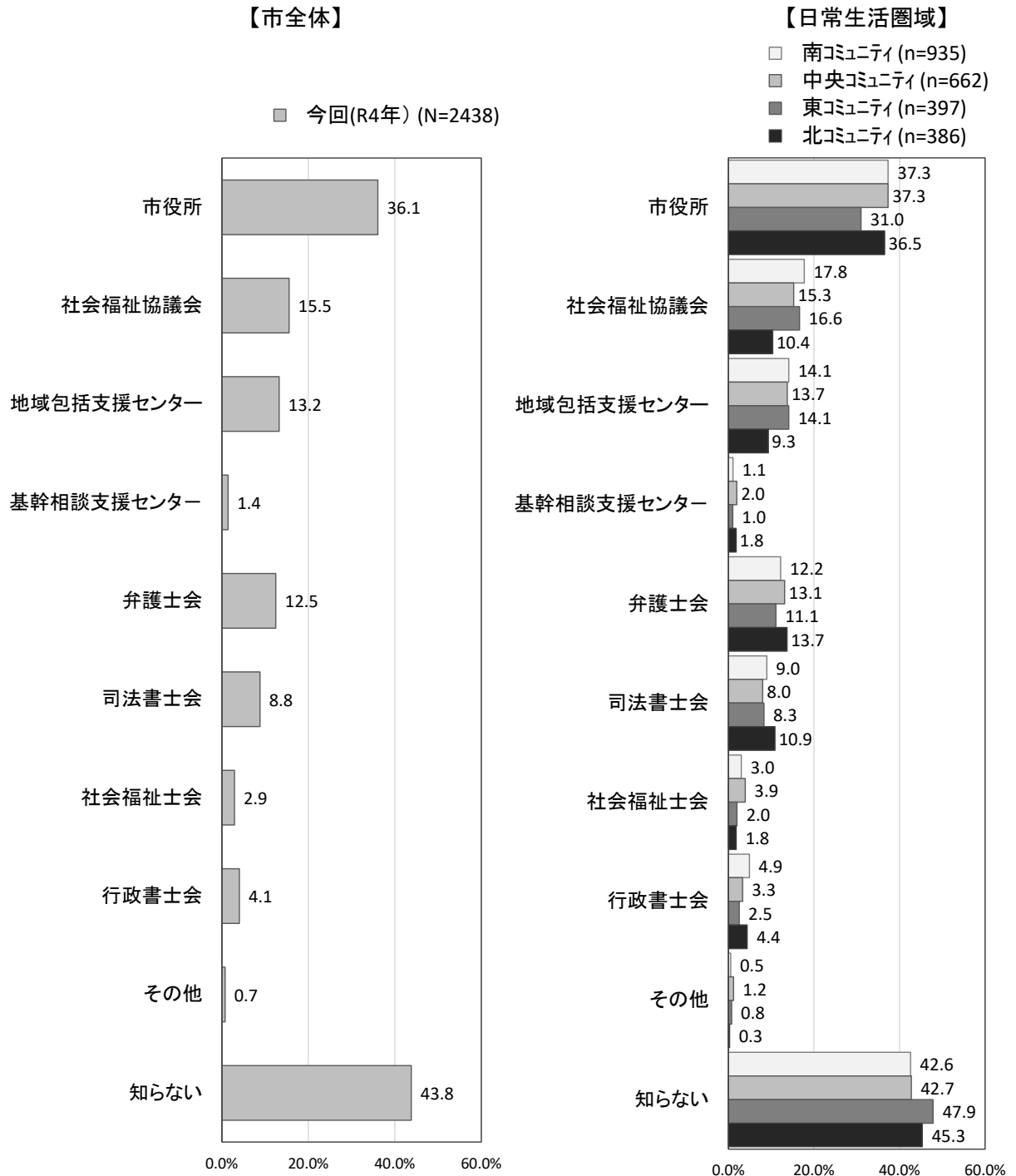


(3) 成年後見制度に関する相談窓口の認知状況

成年後見制度に関する相談窓口の認知状況について、市全体で「知らない」が43.8%と最も高く、次いで「市役所」(36.1%)、「社会福祉協議会」(15.5%)、「地域包括支援センター」(13.2%)の順に続く。

圏域別でみると、東コミュニティでは「知らない」が47.9%と他の圏域に比べて高くなっている。

【問10-(3) 成年後見制度に関する相談窓口の認知状況】



(4) 日常生活の中で将来不安に感じること

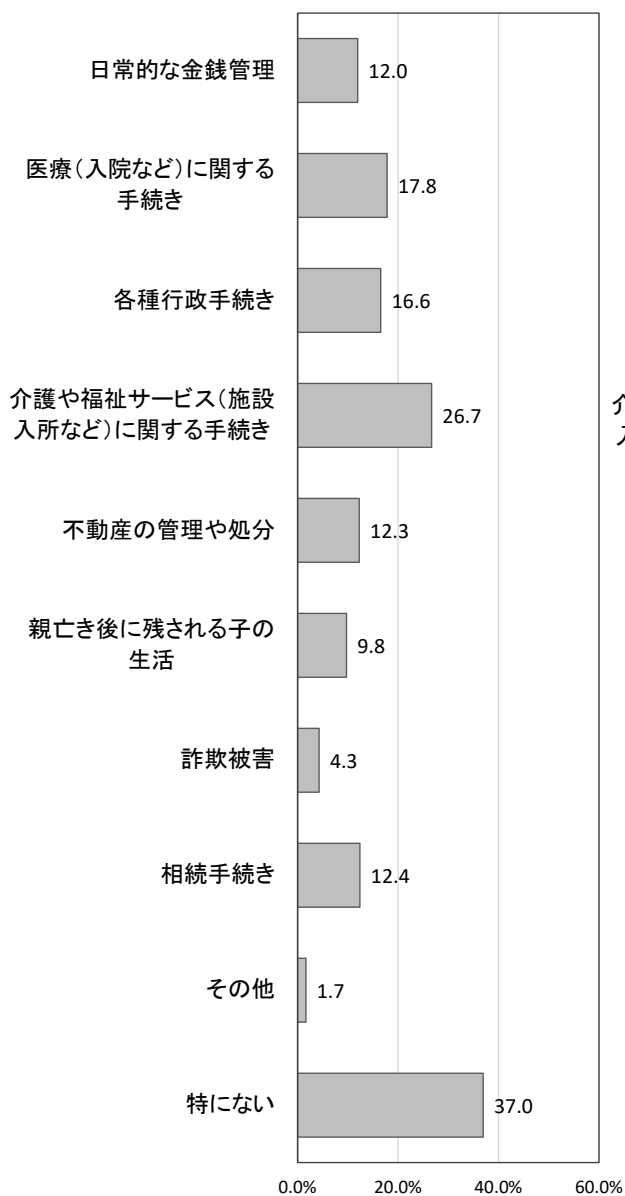
日常生活の中で将来不安に感じることについて、市全体で「特にない」が37.0%と最も高く、次いで「介護や福祉サービス（施設入所など）に関する手続き」（26.7%）、「医療（入院など）に関する手続き」（17.8%）、「各種行政手続き」（16.6%）の順に続く。

圏域別でみると、「特にない」を除くと、南コミュニティでは「不動産の管理や処分」（13.8%）、中央コミュニティでは「医療（入院など）に関する手続き」（20.7%）、東コミュニティでは「相続手続き」（15.9%）、北コミュニティでは「日常的な金銭管理」（15.5%）が他の圏域に比べて高くなっている。

【問10-（4）日常生活の中で将来不安に感じること】

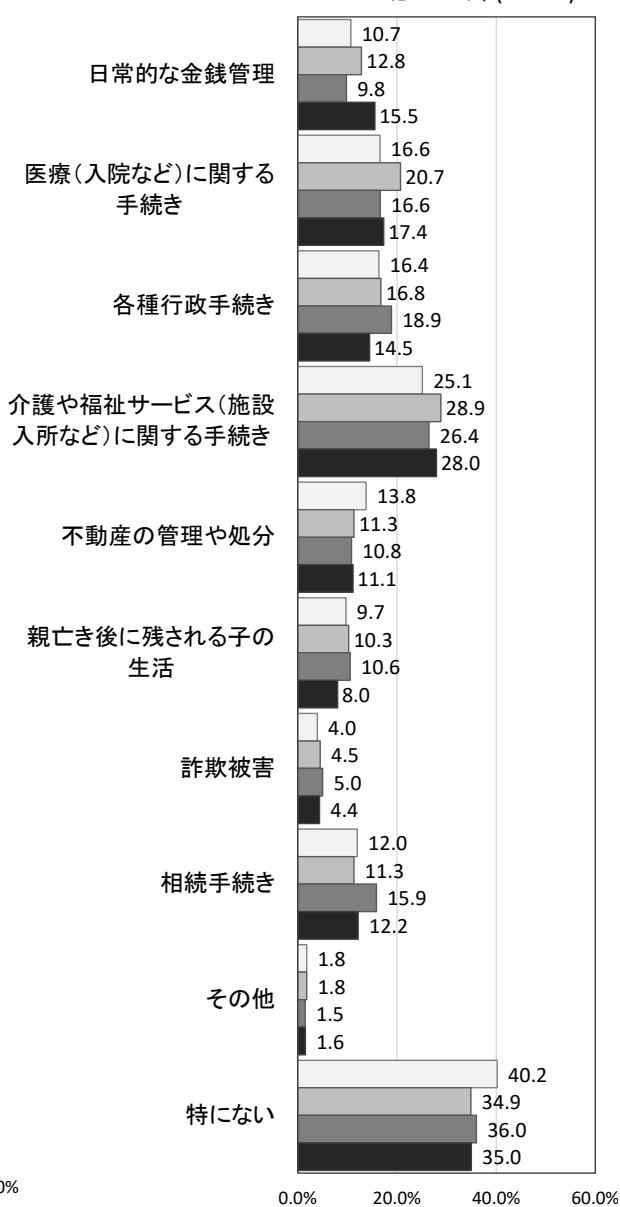
【市全体】

■ 今回(R4年) (N=2438)



【日常生活圏域】

□ 南コミュニティ (n=935)
 ■ 中央コミュニティ (n=662)
 ■ 東コミュニティ (n=397)
 ■ 北コミュニティ (n=386)



(5) 成年後見制度の利用意向

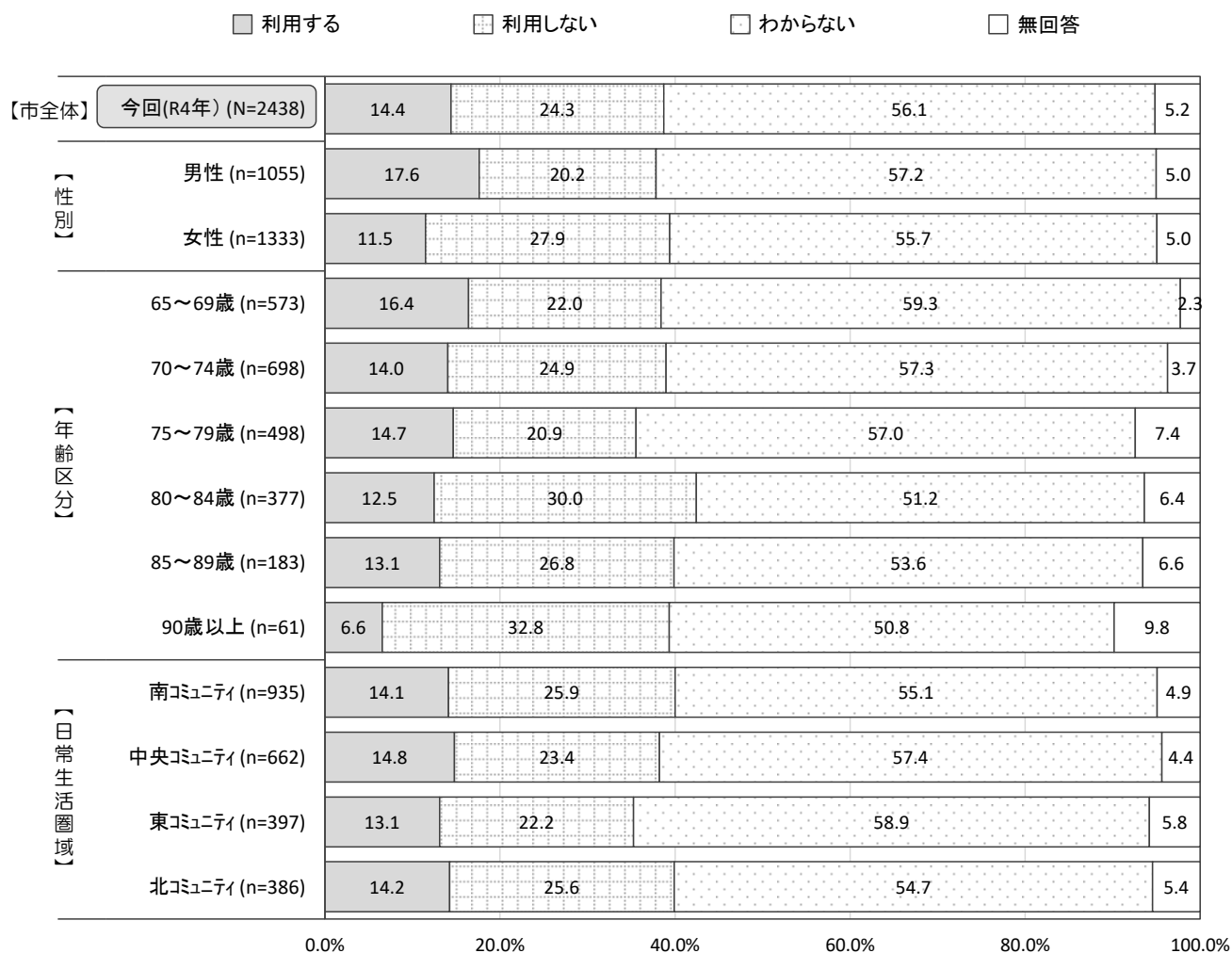
成年後見制度の利用意向について、市全体で「わからない」が56.1%と最も高く、次いで「利用しない」(24.3%)、「利用する」(14.4%)の順に続く。

性別でみると、「利用する」は、男性が17.6%、女性が11.5%と男性の方が6.1ポイント高い。

年齢別でみると、「利用する」の割合65～69歳では16.4%と他の年代よりも高い。

圏域別でみると大きな差はみられないが、「利用する」が中央コミュニティでは14.8%と他の圏域に比べてやや高くなっている。

【問 10- (5) 成年後見制度の利用意向】



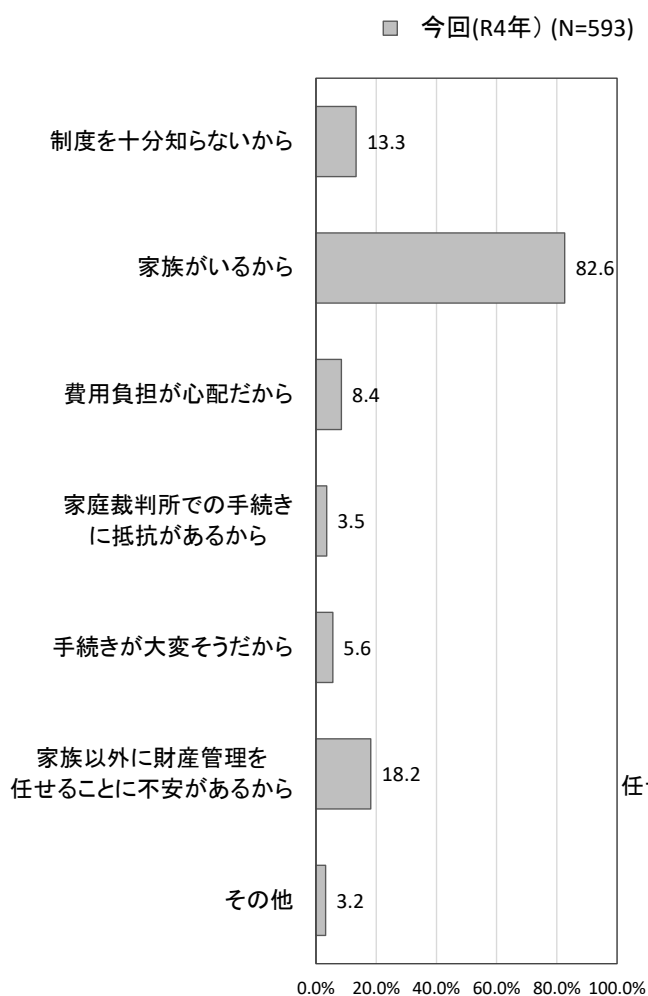
(6) 成年後見制度を利用しない理由

成年後見制度を利用しない理由について、市全体で「家族がいるから」が82.6%と最も高く、次いで「家族以外に財産管理を任せることに不安があるから」(18.2%)、「制度を十分に知らないから」(13.3%)の順に続く。

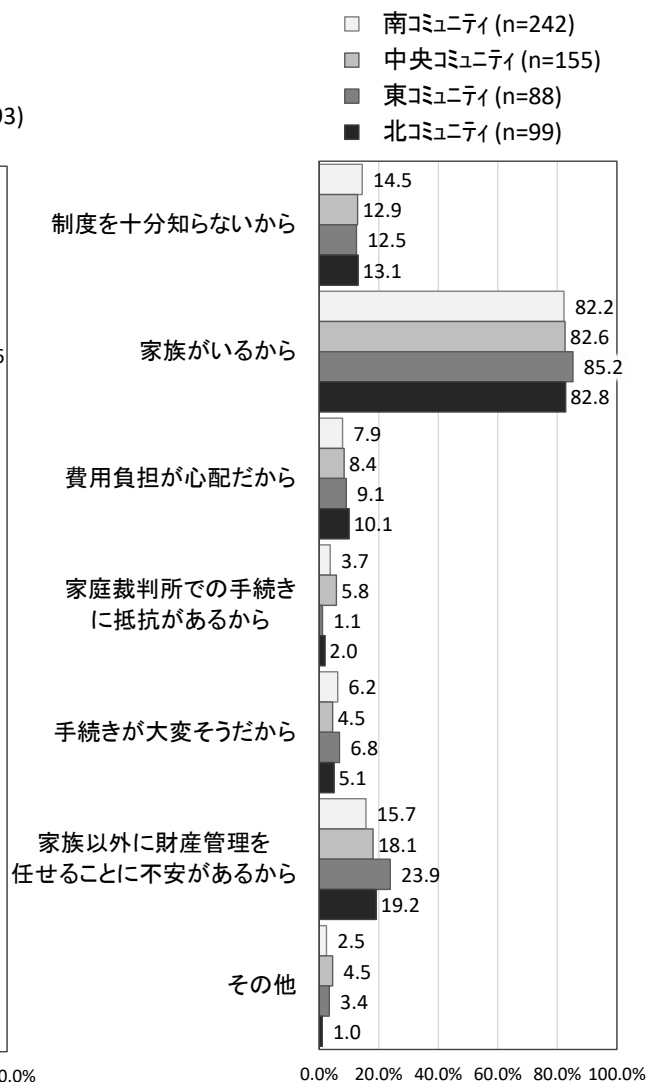
圏域別でみると大きな差はみられないが、「家族以外に財産管理を任せることに不安があるから」が東コミュニティでは23.9%と他の圏域に比べて高くなっている。

【問10-(5)-② 成年後見制度を利用しない理由】

【市全体】



【日常生活圏域】

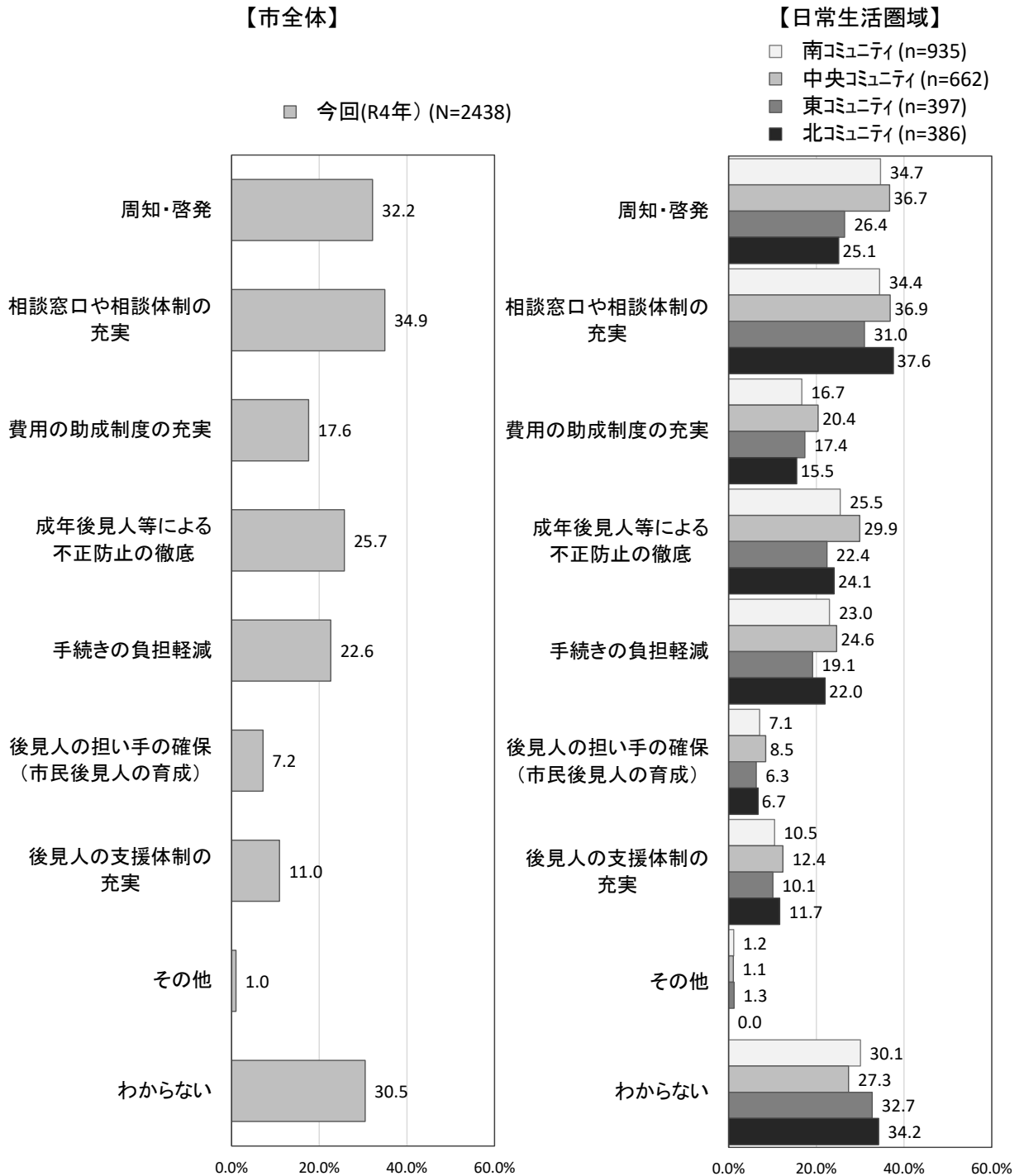


(7) 成年後見制度の利用の促進を図るために必要だと思うこと

成年後見制度の利用の促進を図るために必要だと思うことについて、市全体で「相談窓口や相談体制の充実」が34.9%と最も高く、次いで「周知・啓発」(32.2%)、「わからない」(30.5%)、「成年後見人等による不正防止の徹底」(25.7%)の順に続く。

圏域別でみると、「相談窓口や相談体制の充実」が中央コミュニティでは36.9%、北コミュニティでは37.6%と市全体(34.9%)を上回っている。

【問10-(7) 成年後見制度の利用の促進を図るために必要なこと】



(8) 市民後見人の認知状況

市民成年後見人の認知状況について、市全体で「全く知らない」が65.7%と最も高く、次いで「名称は聞いたことがある」(15.6%)、「名称は知っているが内容は詳しくは知らない」(13.9%)、「名称だけでなく内容も知っている」(1.8%)の順に続く。

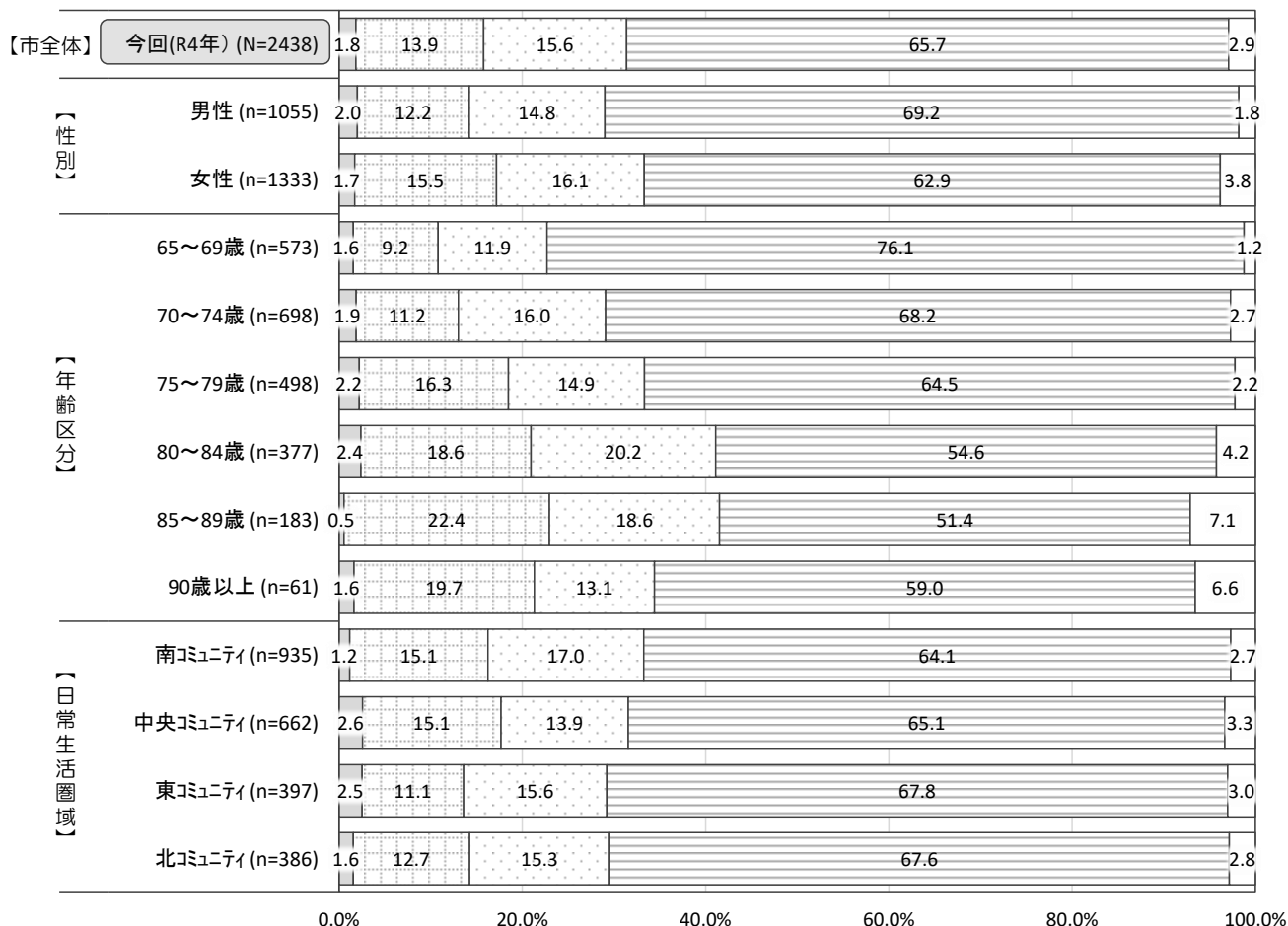
性別で見ると、「名称だけでなく内容も知っている」は、男性が2.0%、女性が1.7%と大きな差はない。

年齢別で見ると、「名称だけでなく内容も知っている」は、80～84歳では2.4%と他の年代より高くなっている。

圏域別で見ると、「名称だけでなく内容も知っている」は、中央コミュニティでは2.6%、東コミュニティでは2.5%と他の圏域に比べて高くなっている。

【問10-(7) 市民後見人の認知状況】

- 名称だけでなく内容も知っている
- 名称は知っているが内容は詳しくは知らない
- 名称は聞いたことがある
- 全く知らない
- 無回答



(9) 市民後見人としての活動への興味

市民後見人としての活動について、市全体で「興味はない」が74.8%と最も高く、次いで「少し興味がある（話しを聞いてみたい）」(17.1%)、「興味がある（研修を受けたい）」(1.7%)の順に続く。「興味がある（研修を受けたい）」「少し興味がある（話しを聞いてみたい）」を合わせた“興味がある”割合は18.8%となっている。

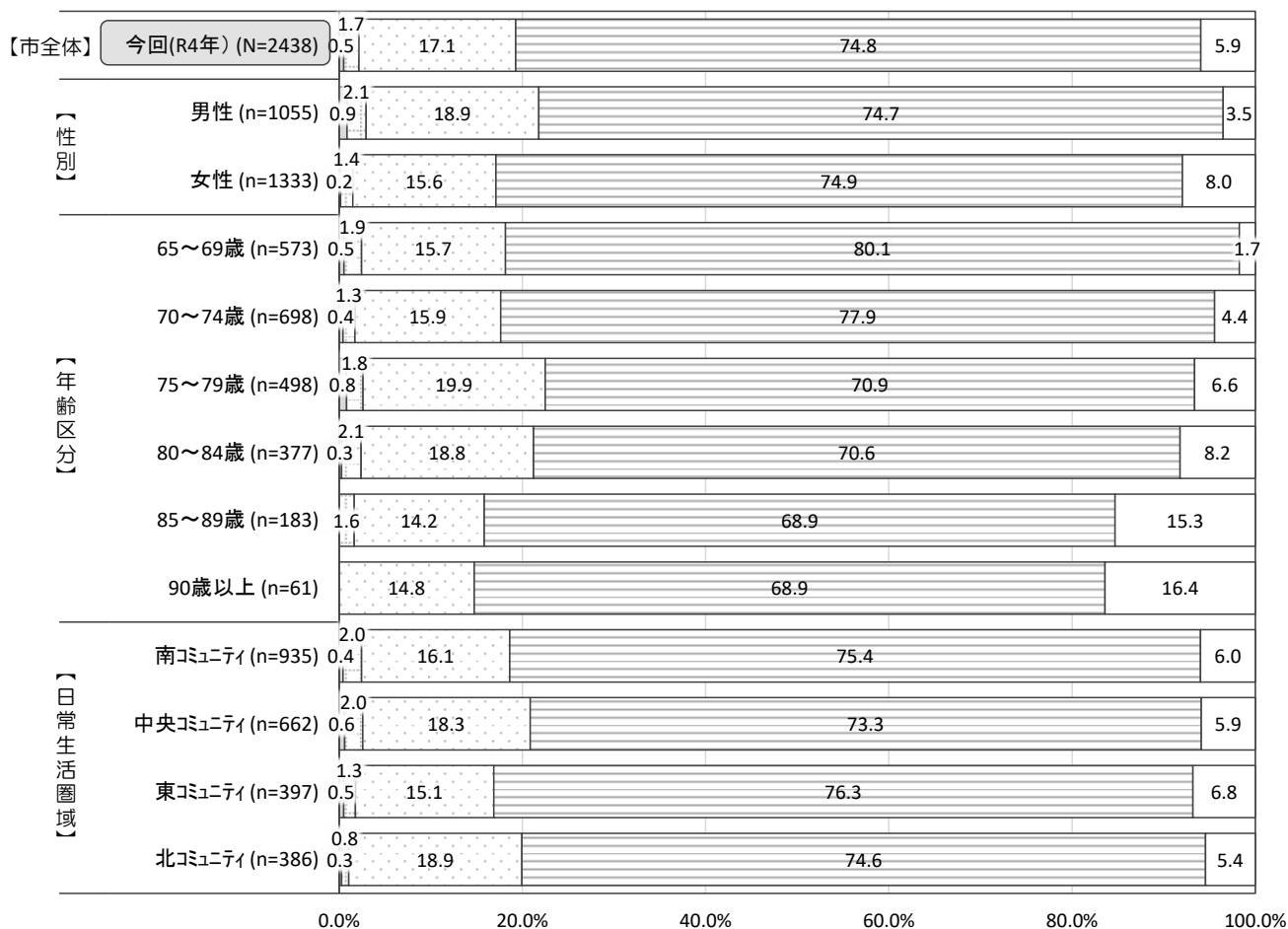
性別でみると、“興味がある”割合は、男性が21.0%、女性が17.0%と男性の方が4.0ポイント高い。

年齢別でみると、“興味がある”割合は、75～79歳では21.7%と他の年代よりも高い。

圏域別でみると大きな差はみられないが、“興味がある”割合が中央コミュニティでは20.3%と他の圏域に比べてやや高くなっている。

【問10-（8）市民後見人としての活動への興味について】

- 機会があれば市民後見人として活動してみたい
- 興味がある(研修を受けたい)
- 少し興味がある(話しを聞いてみたい)
- 興味はない
- 無回答



(10) 市民後見人の活用意向

市民後見人の活用について、市全体で「わからない」が68.8%と最も高く、次いで「活用しない」(21.7%)、「活用する」(6.2%)の順に続く。

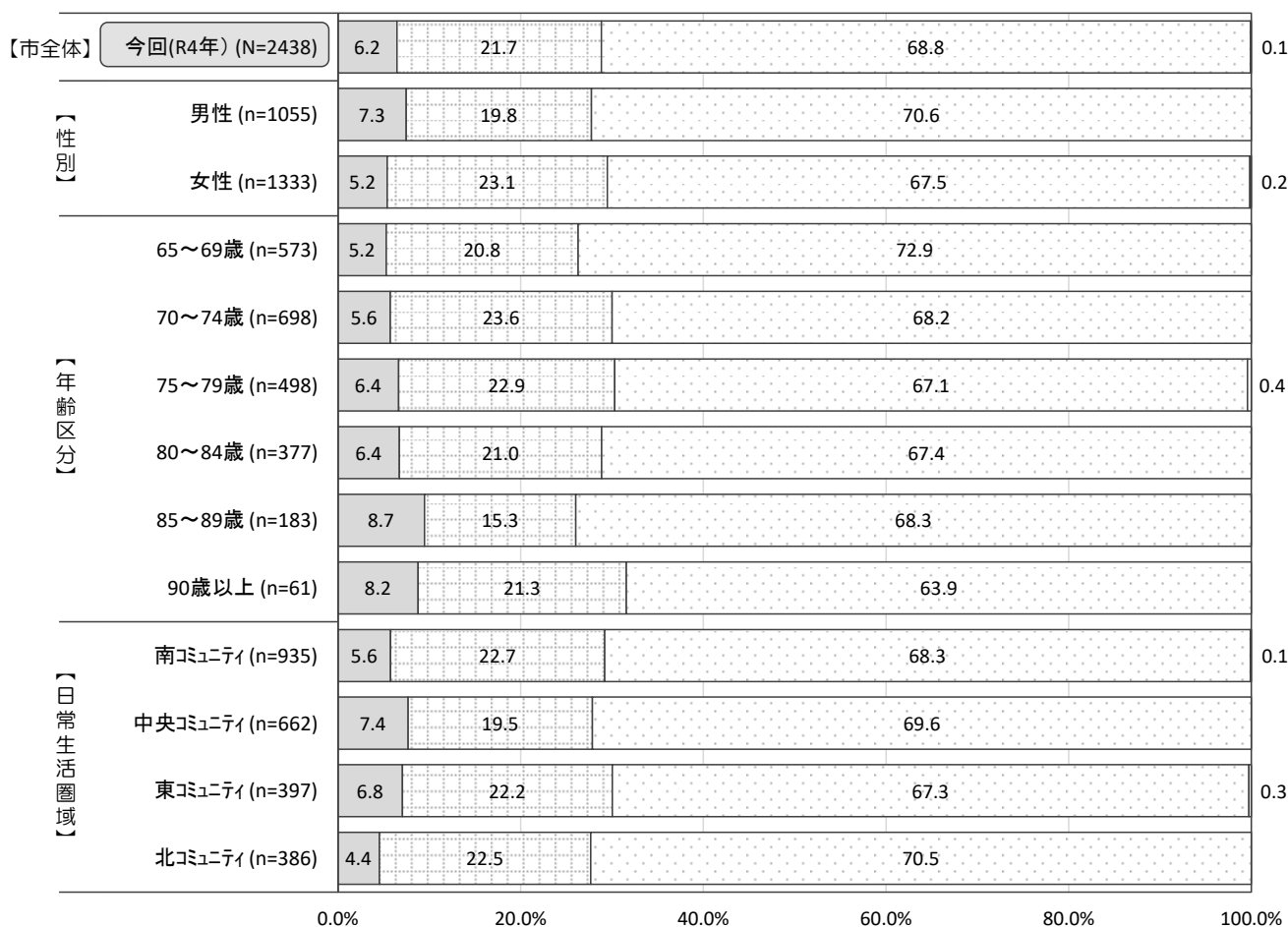
性別で見ると、「活用する」は、男性が7.3%、女性が5.2%と男性の方が高い。

年齢別で見ると、「活用する」は89歳までは年齢が上がるにつれて増加し、85～89歳では8.7%となっている。

圏域別で見ると、「活用する」は中央コミュニティが7.4%と他の圏域に比べてやや高くなっている。

【問 10- (9) 市民後見人の利用意向】

■ 活用する ■ 活用しない ■ わからない □ 無回答



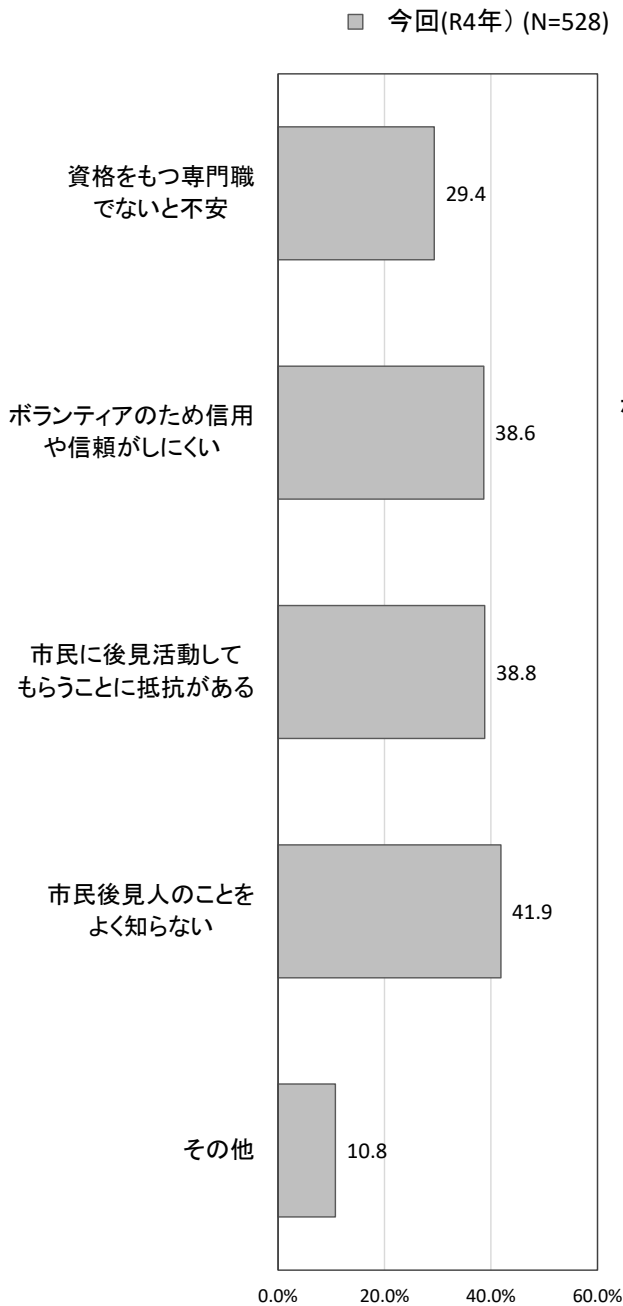
(11) 市民後見人を活用しない理由

市民後見人を活用しない理由について、市全体で「市民後見人のことをよく知らない」が41.9%と最も高く、次いで「市民に後見活動してもらうことに抵抗がある」(38.8%)、「ボランティアのため信用や信頼がしにくい」(38.6%)の順に続く。

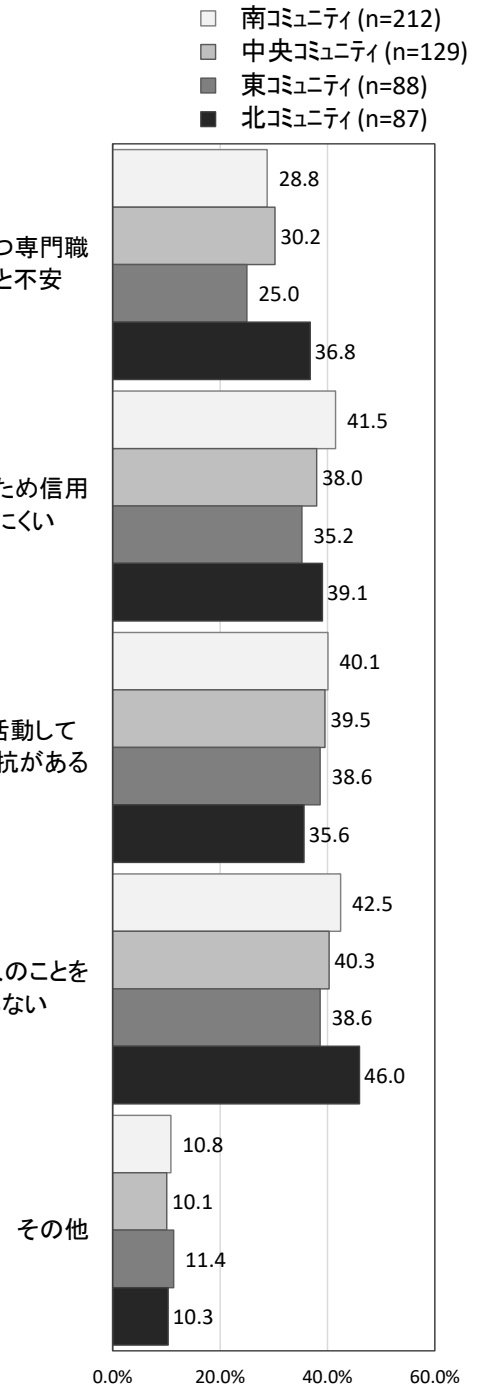
圏域別でみると大きな差はみられないが、「市民後見人のことをよく知らない」が中央コミュニティでは46.0%と他の圏域に比べて高くなっている。

【問10-(9)-② 市民後見人を活用しない理由】

【市全体】



【日常生活圏域】



11. 生活機能の低下・リスクについて

(1) 運動器機能低下について

運動器機能の低下状況について、5点満点で評価し、3点以上を「該当」として判定する。

運動器機能の低下に「該当」と判定された割合は、市全体で22.2%となっている。

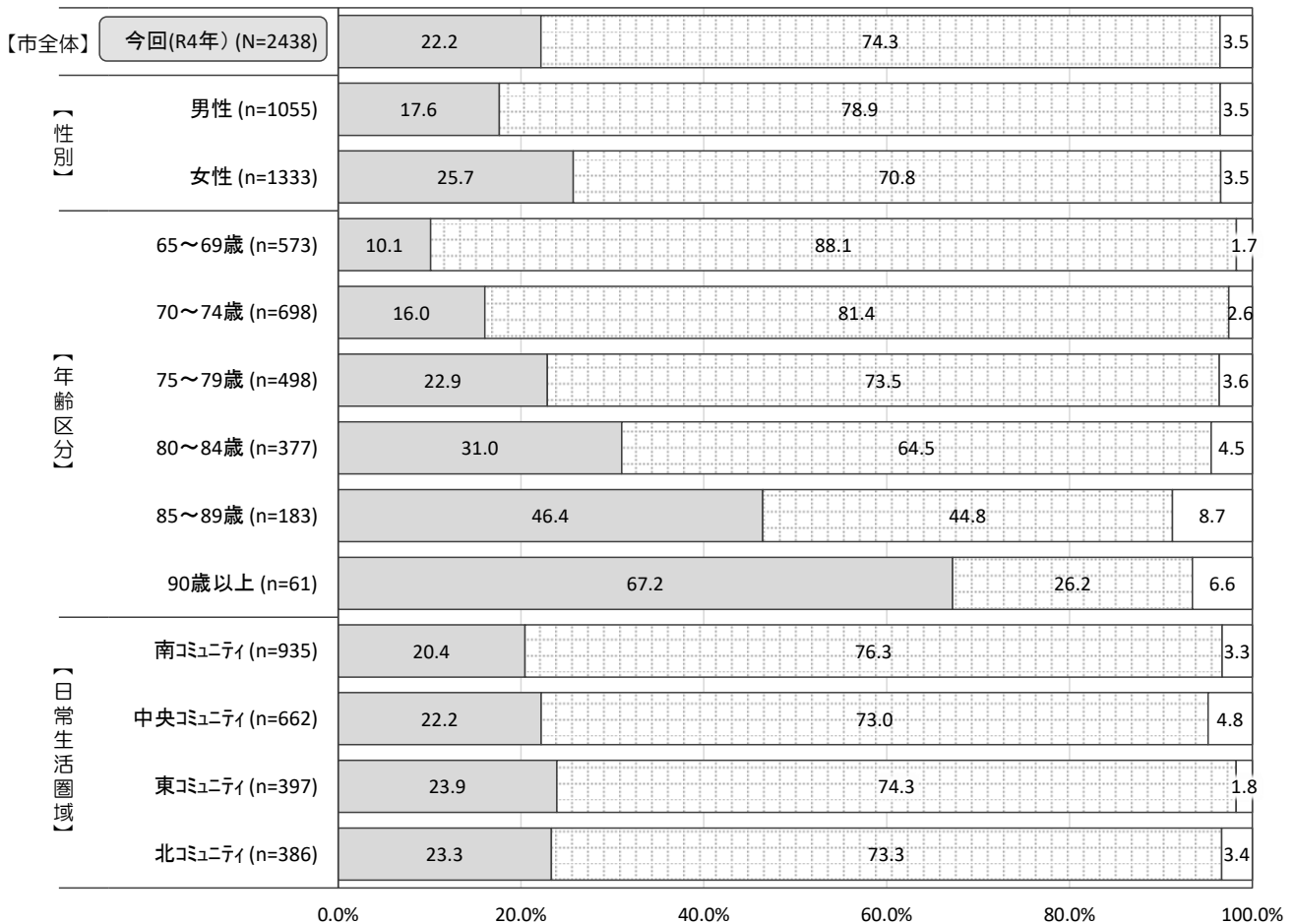
性別でみると、「該当」は男性が17.6%、女性が25.7%と女性の方が8.1ポイント高い。

年齢別でみると、「該当」の割合は、年齢が上がるにつれて増加しており、75歳以上になると市全体の割合を上回るようになる。

圏域別でみると、「該当」の割合は、東コミュニティが23.9%と他の圏域に比べて高く、最も低い南コミュニティ(20.4%)との差は3.5ポイントとなっている。

【運動器機能低下判定】

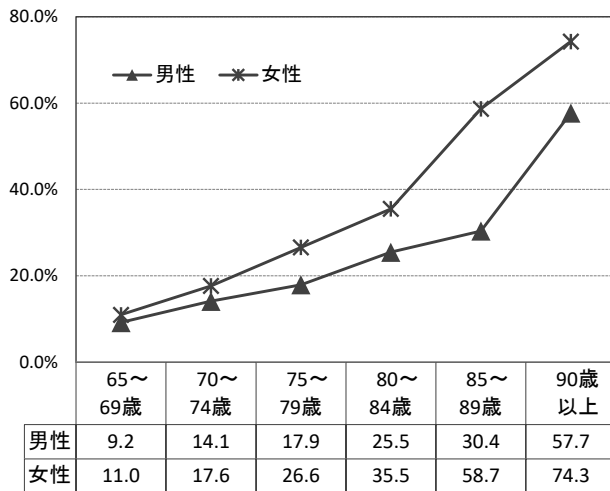
該当 (3点以上)
 非該当 (2点以下)
 判定不可



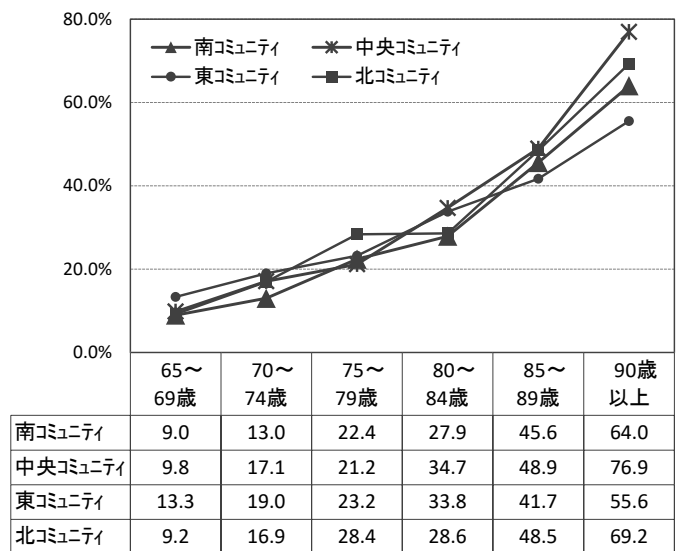
性・年齢別でみると、「該当」の割合は、男性は80～84歳、女性は75～79歳で市全体（22.2%）の割合を上回るようになる。また、90歳以上の男性では57.7%、90歳以上の女性では74.3%が運動器機能の低下がみられる。

圏域・年齢別でみると、「該当」の割合は、南コミュニティ、東コミュニティ、北コミュニティでは75～79歳、中央コミュニティでは80～84歳で市全体の割合を上回るようになる。また、中央コミュニティでは90歳以上の「該当」が76.9%となっている。

【運動器機能低下該当者（性・年齢別）】



【運動器機能低下該当者（圏域・年齢別）】



《運動器機能低下における評価項目》

設問番号	項目	配点	回答
問3-(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	0	「1. できるし、している」
		1	「2. できるけどしていない」
		1	「3. できない」
問3-(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	0	「1. できるし、している」
		1	「2. できるけどしていない」
		1	「3. できない」
問3-(3)	15分位続けて歩いていますか	0	「1. できるし、している」
		1	「2. できるけどしていない」
		1	「3. できない」
問3-(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	1	「1. 何度もある」
		1	「2. 1度ある」
		0	「3. ない」
問3-(5)	転倒に対する不安は大きいですか	1	「1. とても不安である」
		1	「2. 不安である」
		0	「3. あまり不安でない」
		0	「4. 不安でない」

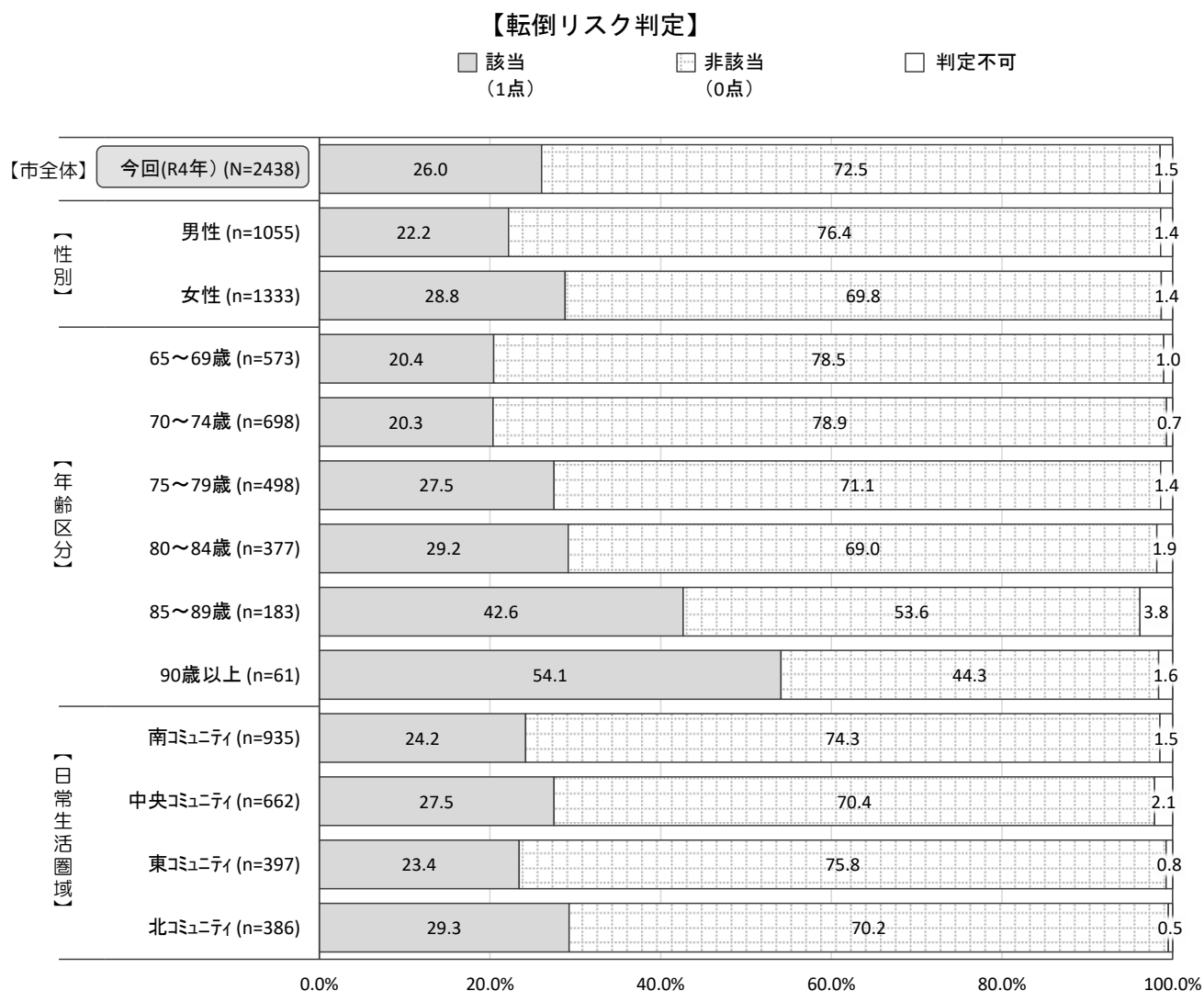
(2) 転倒リスクについて

転倒リスクについて、1点（過去1年間に転倒経験あり）を「該当」として判定する。転倒リスクに「該当」と判定された割合は、市全体で26.0%となっている。

性別でみると、「該当」は男性が22.2%、女性が28.8%と女性の方が6.6ポイント高い。

年齢別でみると、「該当」の割合は、年齢が上がるにつれて増加しており、75歳以上になると市全体の割合を上回るようになる。また、65～74歳の前期高齢者においても約20%が「該当」となっている。

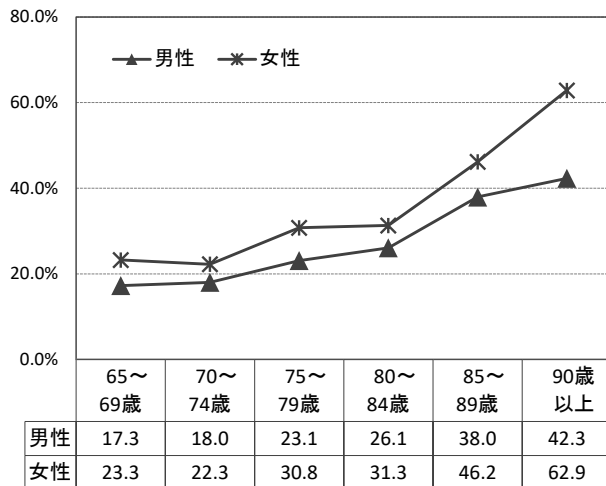
圏域別でみると、「該当」の割合は北コミュニティが29.3%と最も高く、最も低い東コミュニティ（23.4%）との差は5.9ポイントとなっている。



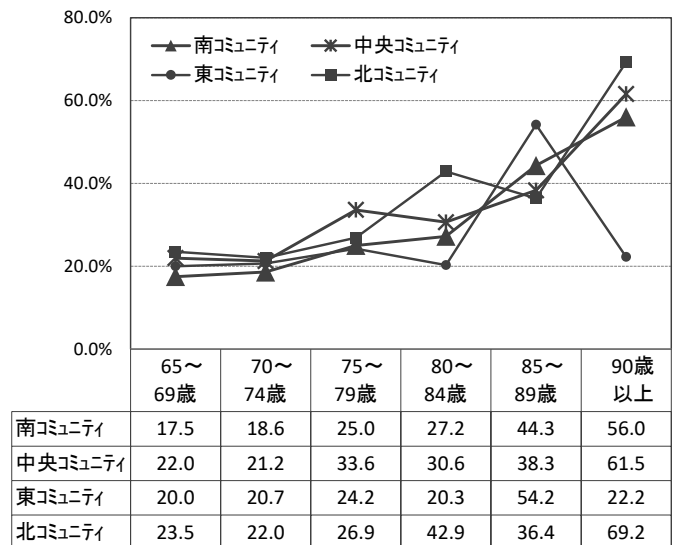
性・年齢別でみると、「該当」の割合は、男性は80～84歳、女性は75～79歳で市全体（26.0%）の割合を上回るようになる。また、90歳以上の女性では62.9%が転倒リスクを抱えている。

圏域・年齢別でみると、「該当」の割合は、南コミュニティでは80～84歳、中央コミュニティや北コミュニティでは75～79歳で市全体の割合を上回るようになり、東コミュニティでは85～89歳が市全体の割合を上回っている。また、中央コミュニティと北コミュニティでは90歳以上の「該当」が60%を超えている。

【転倒リスク該当者（性・年齢別）】



【転倒リスク該当者（圏域・年齢別）】



《転倒リスクにおける評価項目》

設問番号	項目	配点	回答
問3-(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか。	1	「1. 何度もある」
		1	「2. 1度ある」
		0	「3. ない」

(3) 閉じこもり予防について

閉じこもり予防について、1点（外出が週に1回以下）を「該当」として判定する。

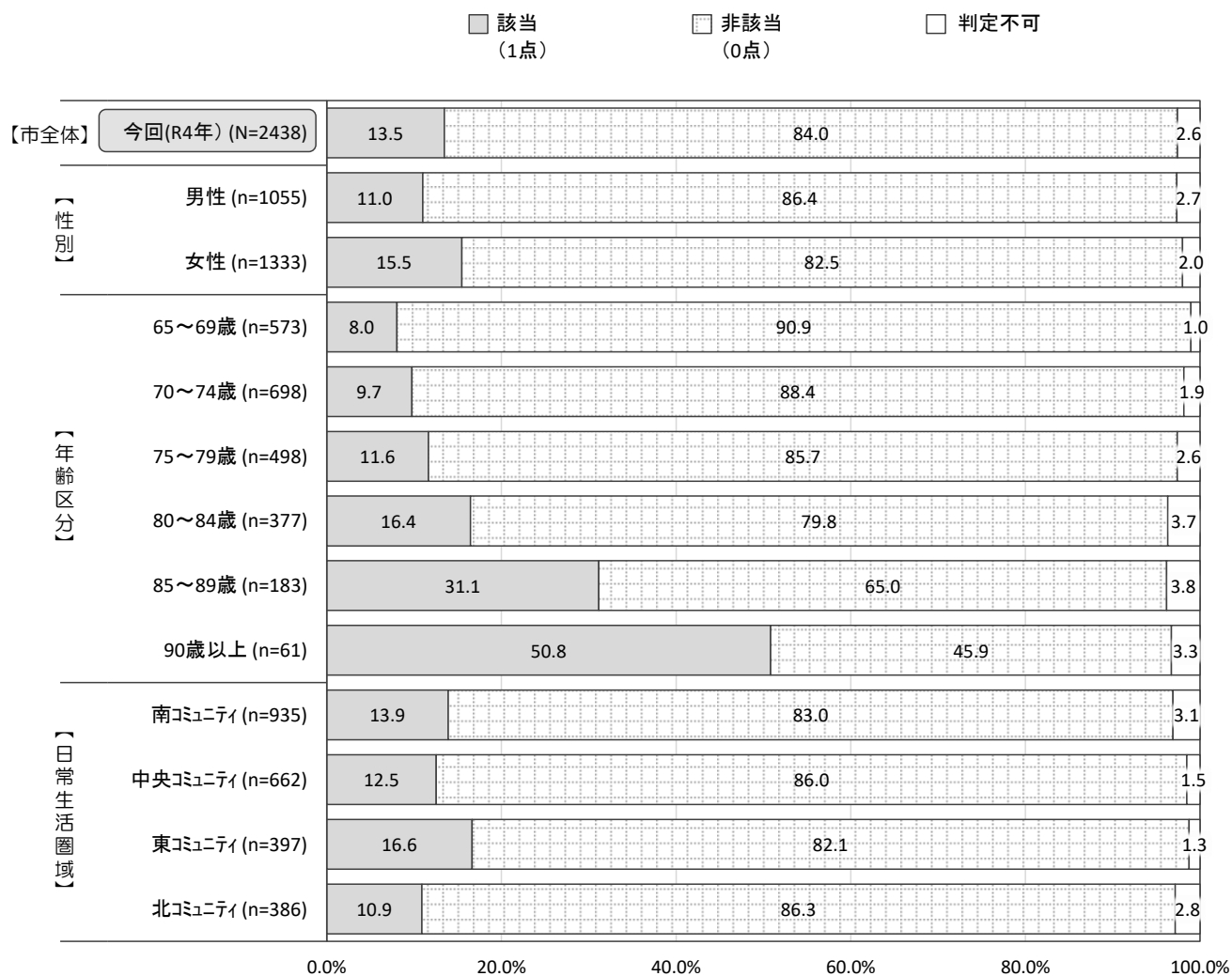
閉じこもり予防に「該当」と判定されたのは、市全体で13.5%となっている。

性別でみると、男性が11.0%、女性が15.5%と女性の方が4.5ポイント高い。

年齢別でみると、「該当」の割合は、年齢が上がるにつれて増加傾向にあり、80歳以上になると市全体の割合を上回るようになる。

圏域別でみると、「該当」の割合は、東コミュニティが16.6%と他の圏域に比べて高く、最も低い北コミュニティ（10.9%）との差は5.7ポイントとなっている。

【閉じこもり予防判定】

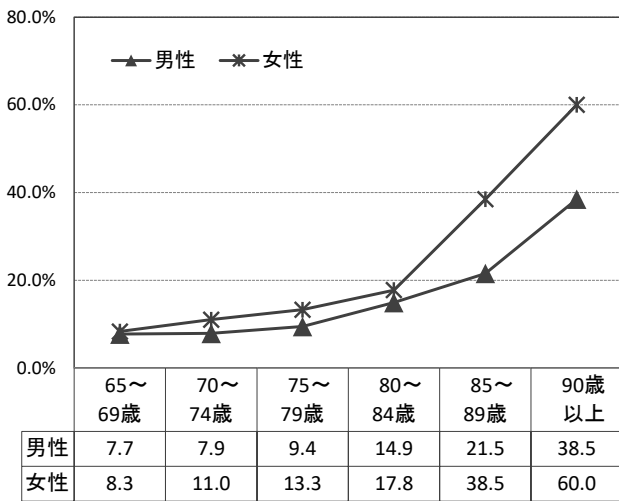


性・年齢別でみると、「該当」の割合は、男女ともに80～84歳で市全体（13.5%）の割合を上回るようになる。

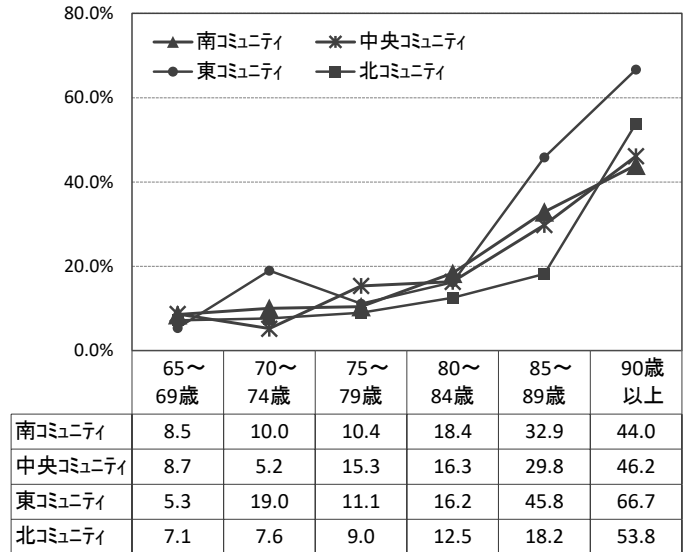
圏域・年齢別でみると、「該当」の割合は、南コミュニティでは80～84歳、中央コミュニティでは75～79歳、北コミュニティでは85～89歳で市全体の割合を上回るようになる。東コミュニティでは70～74歳と80歳以上で市全体の割合を上回っている。

また、90歳以上における「該当」の割合は、東コミュニティでは66.7%と4圏域の中で最も高く、最も低い南コミュニティ（44.0%）とは22.7ポイントと大きく差がみられる。

【閉じこもり予防該当者（性・年齢別）】



【閉じこもり予防該当者（圏域・年齢別）】



《閉じこもり傾向における評価項目》

設問番号	項目	配点	回答
問3-(6)	週に1回以上は外出していますか	1	「1. ほとんど外出しない」
		1	「2. 週1回」
		0	「3. 週2～4回」
		0	「4. 週5回以上」

(4) 低栄養リスクについて

低栄養リスクについて、2点満点で評価し、2点を「該当」として判定する。

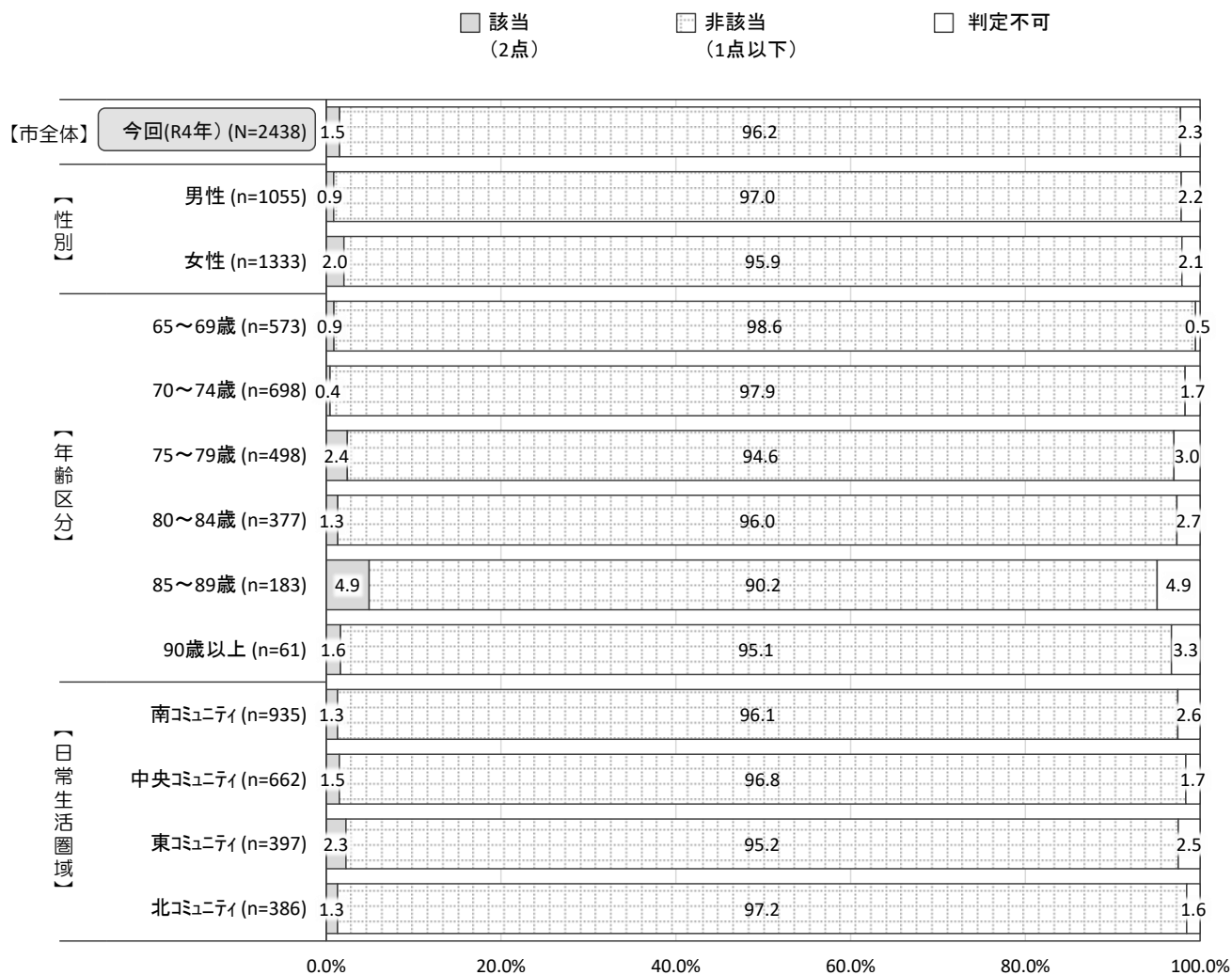
低栄養リスクに「該当」と判定されたのは、市全体で1.5%となっている。

性別でみると、男性が0.9%、女性が2.0%と女性の方がやや高い。

年齢別でみると、「該当」の割合は、75～79歳と85歳以上では市全体の割合を上回っており、85～89歳では4.9%と他の年齢に比べて高い。

圏域別でみると、「該当」の割合は、東コミュニティが2.3%と他の圏域に比べて高く、最も低い南コミュニティ、北コミュニティ（1.3%）との差は1.0ポイントとなっている。

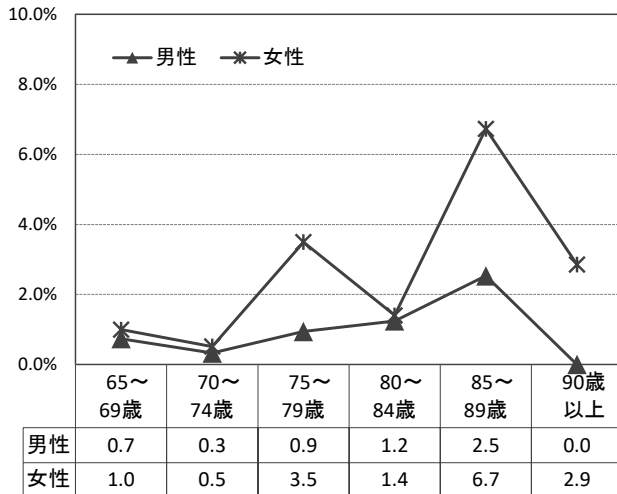
【低栄養リスク判定】



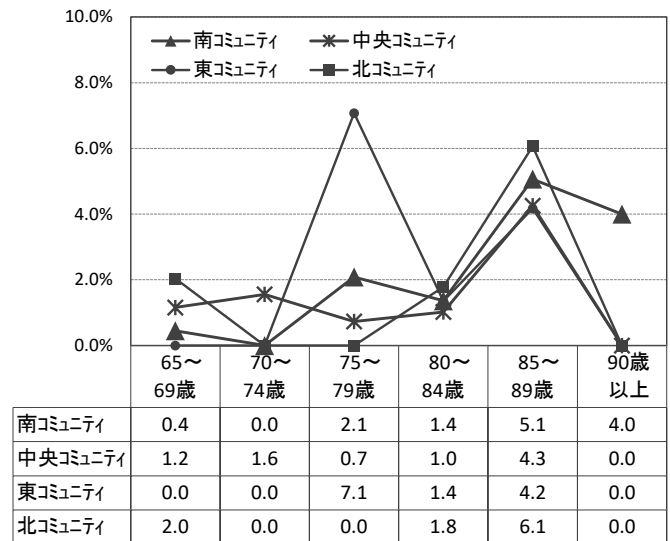
性・年齢別で見ると、「該当」の割合は、男性では85～89歳、女性では75～79歳、85歳以上で市全体（1.5%）の割合を上回っている。また、女性の85～89歳では6.7%が低栄養リスクを抱えている。

圏域・年齢別で見ると、「該当」の割合は、東コミュニティの75～79歳が7.1%、北コミュニティの85～89歳が6.1%と他の圏域や他の年齢別比べて特に高い。

【低栄養リスク該当者（性・年齢別）】



【低栄養リスク該当者（圏域・年齢別）】



《低栄養リスクにおける評価項目》

設問番号	項目	配点	回答
問4-(1)	身長 () cm 体重 () kg	1	BMI < 18.5 未満
問4-(7)	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」

(5) 口腔機能について

口腔機能低下について、3点満点で評価し、2点以上を「該当」として判定する。

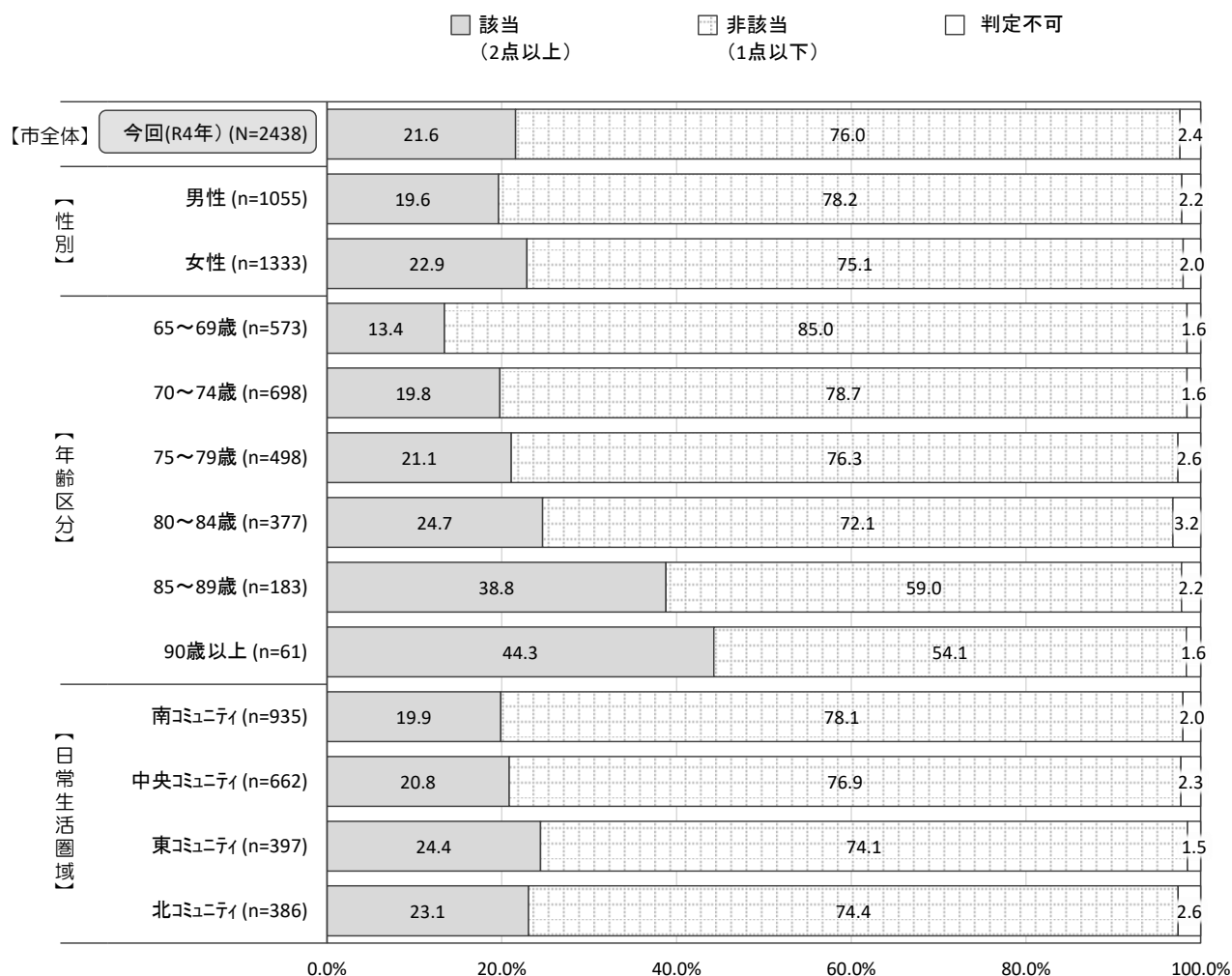
口腔機能低下に「該当」と判定されたのは、市全体で21.6%となっている。

性別でみると、男性が19.6%、女性が22.9%と女性の方がやや高い。

年齢別でみると、「該当」の割合は、年齢が上がるにつれて増加傾向にあり、80～84歳になると市全体の割合を上回るようになる。

圏域別でみると、「該当」の割合は、東コミュニティが24.4%と他の圏域に比べて高く、最も低い南コミュニティ(19.9%)との差は4.5ポイントとなっている。

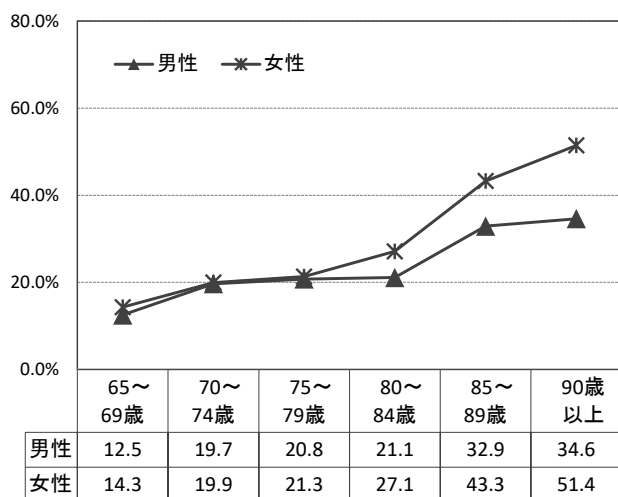
【口腔機能低下判定】



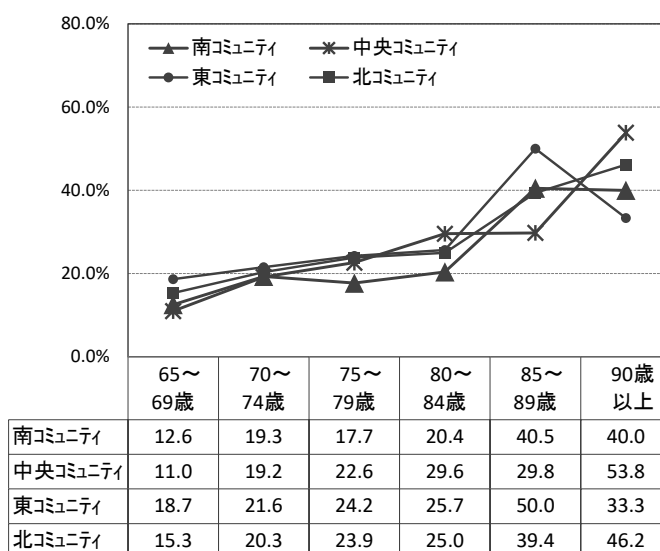
性・年齢別で見ると、「該当」の割合は、男性では85～89歳、女性では80～84歳で市全体（21.6%）の割合を上回るようになる。

圏域・年齢別で見ると、「該当」の割合は、中央コミュニティ、東コミュニティ、北コミュニティでは75～79歳、南コミュニティでは80～84歳で市全体の割合を上回る。また、中央コミュニティでは90歳以上の割合が53.8%、東コミュニティでは85～89歳の割合が50.0%と他の圏域に比べて高い。

【口腔機能低下該当者（性・年齢別）】



【口腔機能低下該当者（圏域・年齢別）】



《口腔機能における評価項目》

設問番号	項目	配点	回答
問4-(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」
問4-(3)	お茶や汁物等でむせることがありますか	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」
問4-(4)	口の渇きが気になりますか	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」

(6) 認知機能について

認知機能低下について、3点満点で評価し、1点以上を「該当」として判定する。

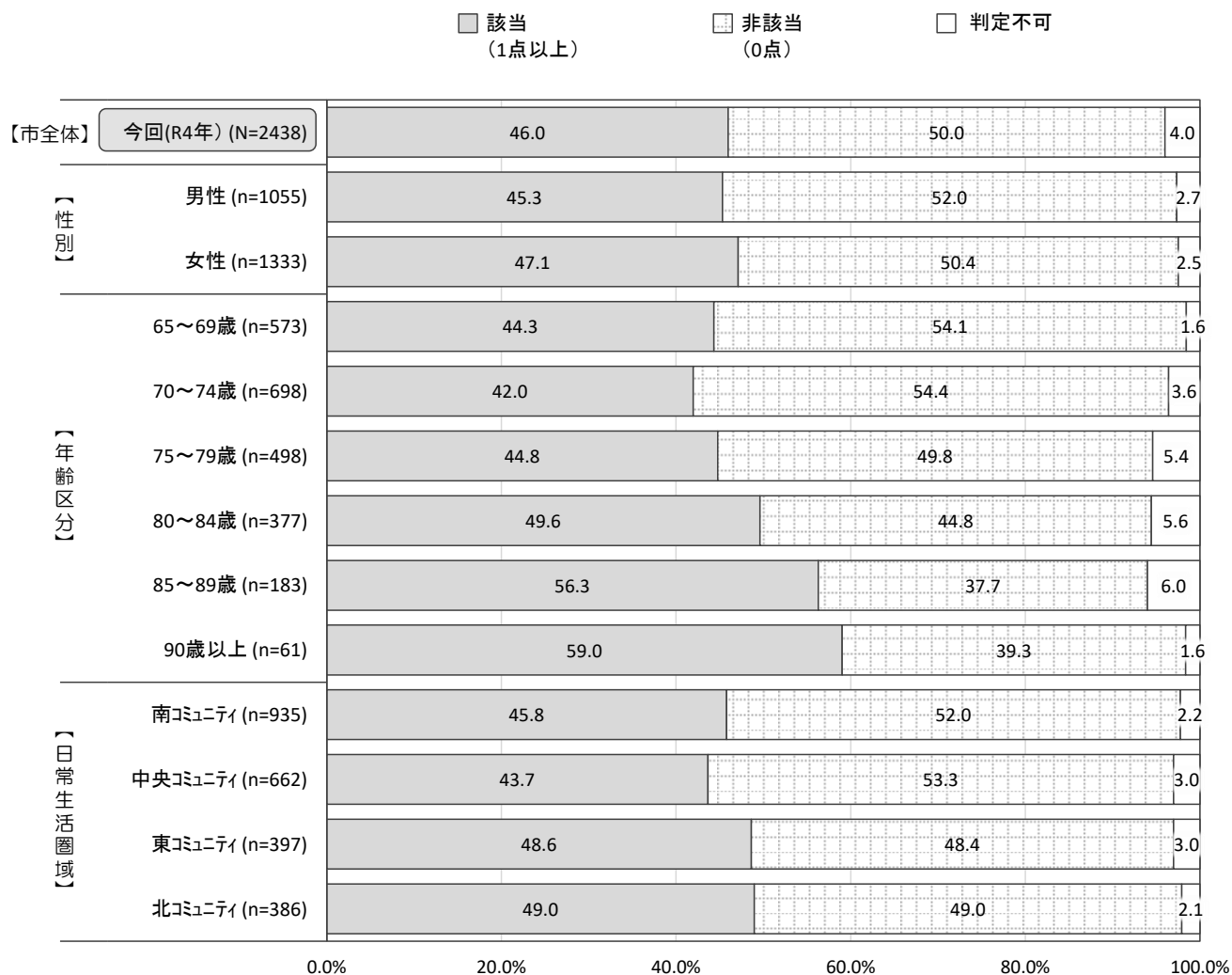
認知機能低下に「該当」と判定されたのは、市全体で46.0%となっている。

性別でみると、男性が45.3%、女性が47.1%と女性の方がやや高い。

年齢別でみると、「該当」の割合は、80歳以上では市全体の割合を上回っている。

圏域別でみると、「該当」の割合は、東コミュニティと北コミュニティで市全体の割合を上回っている。

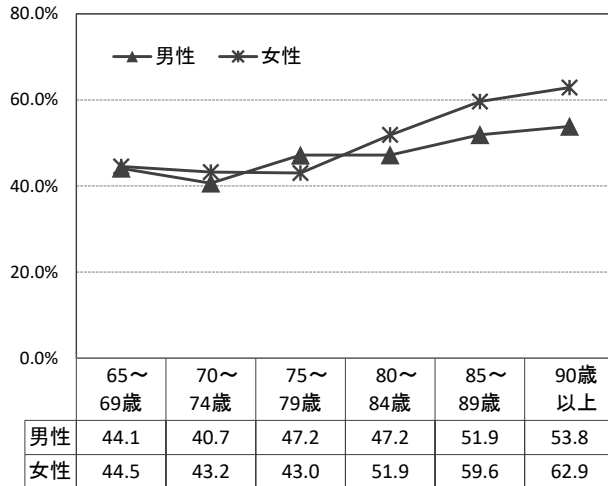
【認知機能低下判定】



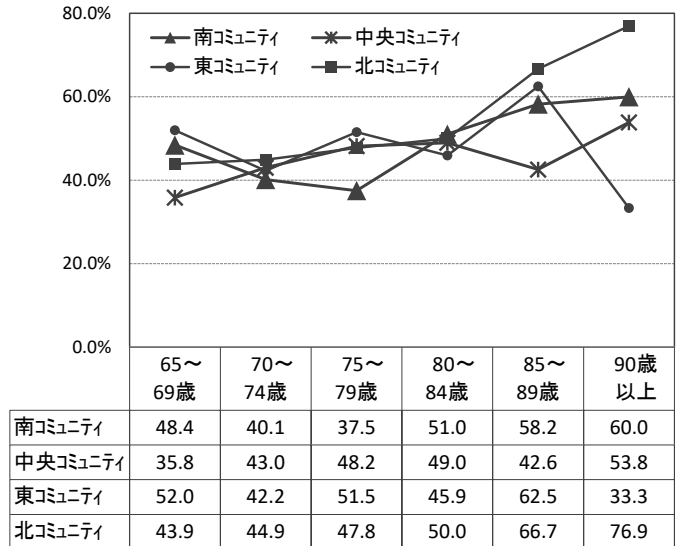
性・年齢別で見ると、「該当」の割合は、男性では75歳以上、女性では80歳以上で市全体（46.0%）の割合を上回る。

圏域・年齢別で見ると、「該当」の割合は、東コミュニティでは65～69歳が52.0%、北コミュニティでは85～89歳が66.7%、90歳以上では76.9%とそれぞれ他の圏域に比べて高くなっている。

【認知機能低下該当者（性・年齢別）】



【認知機能低下該当者（圏域・年齢別）】



《認知機能低下における評価項目》

設問番号	項目	配点	回答
問5-(1)	物忘れが多いと感じますか	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」
問5-(2)	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	0	「1. はい」
		1	「2. いいえ」
問5-(3)	今日が何月何日かわからない時がありますか	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」

(7) うつ予防について

うつ予防について、2点満点で評価し、1点以上を「該当」として判定する。

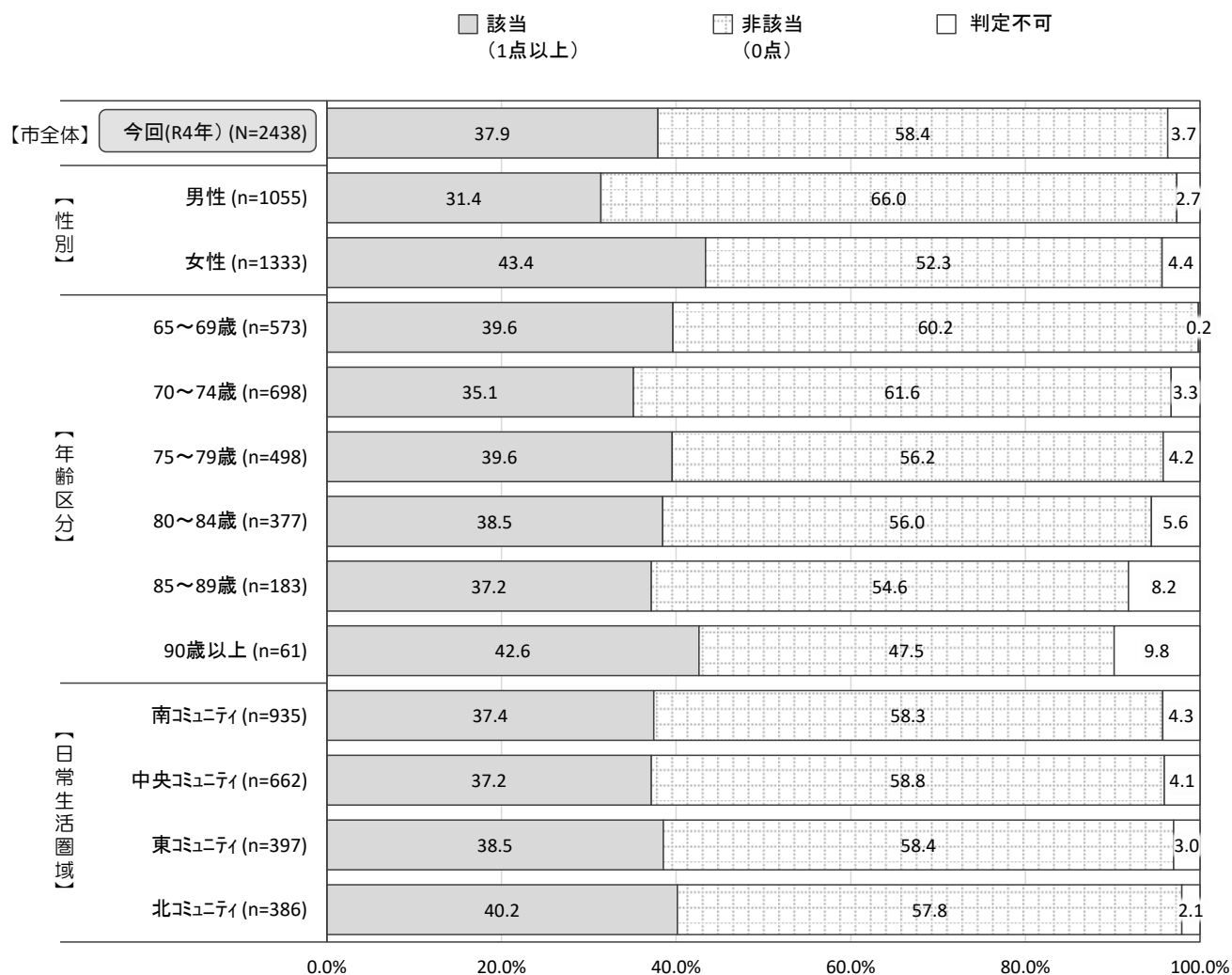
うつ予防に「該当」と判定されたのは、市全体で37.9%となっている。

性別でみると、男性が31.4%、女性が43.4%と女性の方が12.0ポイント高い。

年齢別でみると、「該当」の割合は、90歳以上では42.6%と他の年齢に比べて高い。

圏域別でみると、「該当」の割合は、北コミュニティが40.2%と他の圏域に比べて高くなっている。

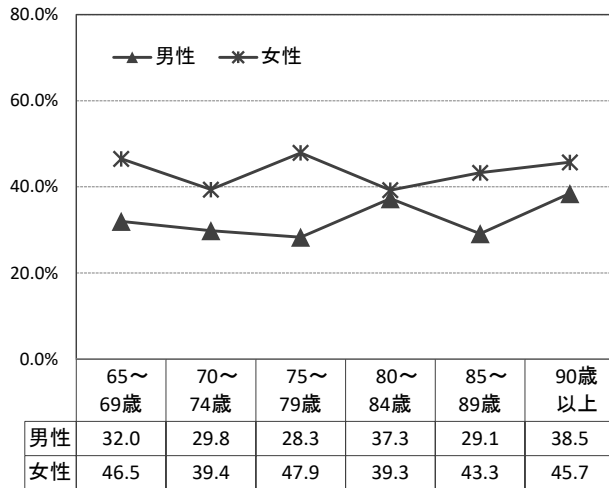
【うつ予防判定】



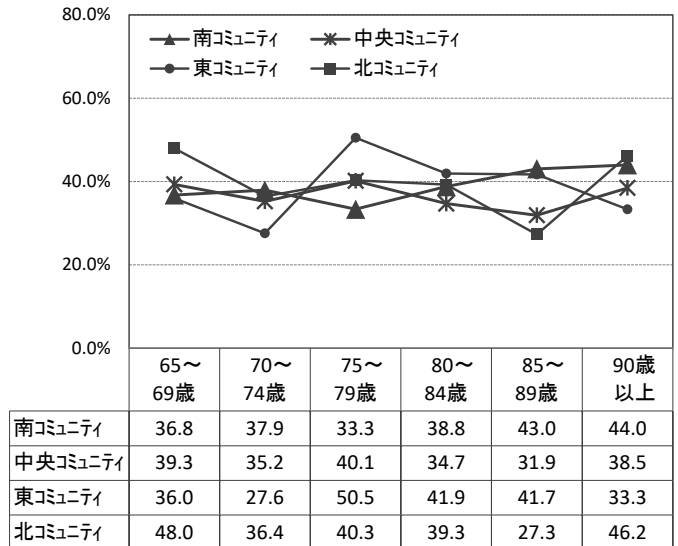
性・年齢別でみると、「該当」の割合は、男性では90歳以上、女性は65歳以上で市全体（37.9%）の割合を上回っており、女性は早い段階でうつ傾向がみられる。

圏域・年齢別でみると、「該当」の割合は、北コミュニティでは65～69歳が48.0%と4圏域の中で最も高く、最も低い東コミュニティ（36.0%）との差は12.0ポイントと大きい。また、東コミュニティでは75～79歳が50.5%と4圏域の中で最も高く、最も低い南コミュニティ（33.3%）との差は17.2ポイントと大きい。

【うつ予防該当者（性・年齢別）】



【うつ予防該当者（圏域・年齢別）】



《うつリスクにおける評価項目》

設問番号	項目	配点	回答
問 8- (3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」
問 8- (4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」

(8) 手段的自立度 (I A D L) 低下者の割合

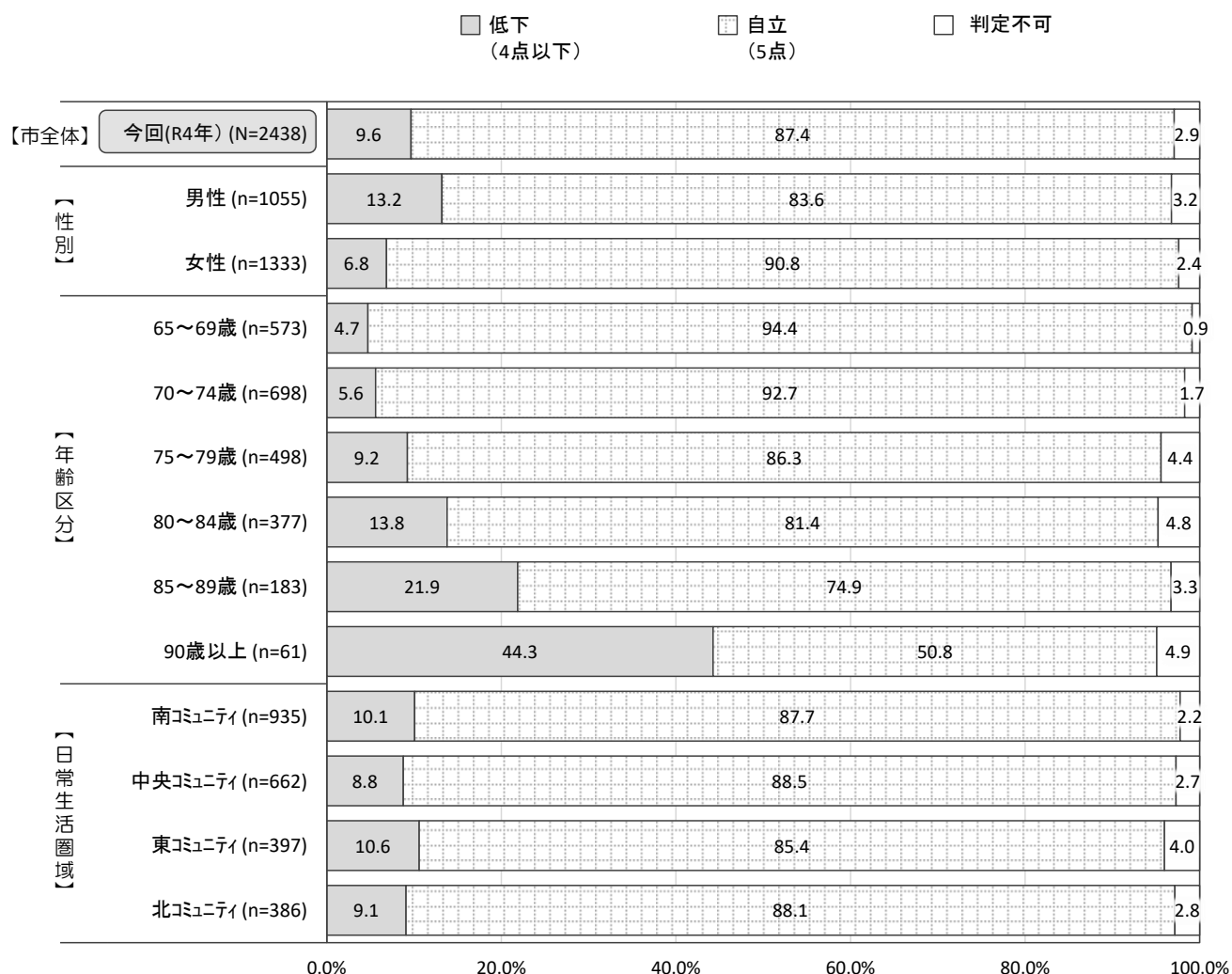
手段的自立度 (I A D L) とは、日常生活動作の中でも複雑で高次な行動のことを言い、自ら手段を選択し、生活を自己完結する能力が低下することは、生活の質 (Q O L) の質を左右するため、維持や向上を図ることが非常に重要とされている。

手段的自立度 (I A D L) は、5点満点で評価し、4点以下を「低下」として判定する。手段的自立度 (I A D L) が「低下」と判定されたのは、市全体で9.6%となっている。性別でみると、「低下」の割合は男性が13.2%、女性が6.8%と男性が女性を6.4ポイント上回っている。

年齢別でみると、「低下」の割合は年齢が上がるにつれて増加傾向にあり、80～84歳になると市全体の割合を上回るようになる。

圏域別では、東コミュニティでは10.6%と他の圏域に比べてやや高い。また、市全体の割合を下回るのは中央コミュニティ(8.8%)と北コミュニティ(9.1%)となっている。

【手段的自立度 (I A D L) 低下の判定】

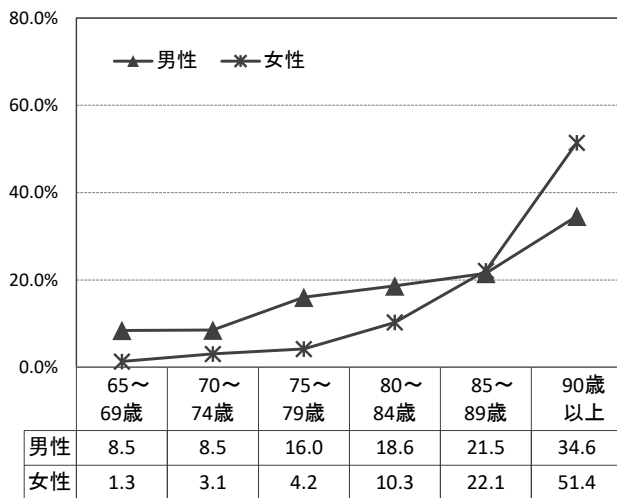


性・年齢別で見ると、「低下」の割合は、男性では75歳以上、女性は80歳以上で市全体（9.6%）の割合を上回っている。

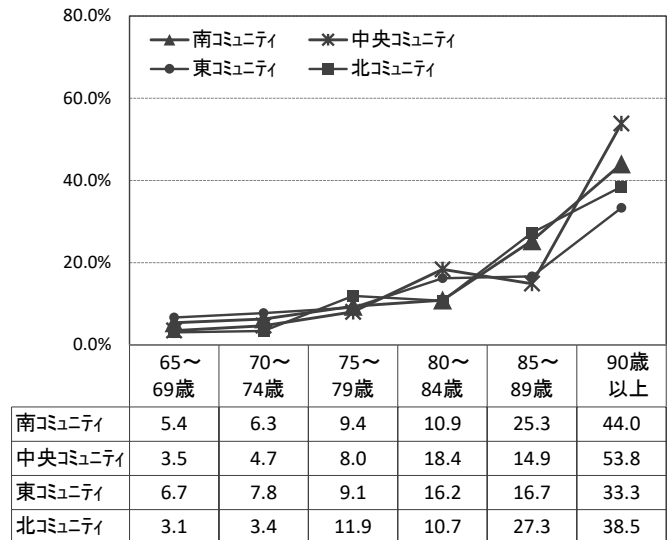
圏域・年齢別で見ると、「低下」の割合は東コミュニティが65～69歳で6.7%、70～74歳で7.8%と他の圏域に比べて高くなっている。また、中央コミュニティでは90歳以上が53.8%と4圏域の中で最も高く、最も低い東コミュニティ（33.3%）との差は20.5ポイントと大きい。

また、中央コミュニティと東コミュニティでは89歳まで「低下」の割合が20%を下回っており、年齢が高くなっても日常生活動作や生活能力はある程度維持されていることがうかがえる。一方、北コミュニティでは75～79歳以上で10%を超えている。

【手段的自立度低下者（性・年齢別）】



【手段的自立度低下者（圏域・年齢別）】



《手段的自立度（IADL）判定における評価項目》

設問番号	項目	配点	回答
問5- (4)	バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）	1	「1. できるし、している」
		1	「2. できるけどしていない」
		0	「3. できない」
問5- (5)	自分で食品・日用品の買物をしていただけますか	1	「1. できるし、している」
		1	「2. できるけどしていない」
		0	「3. できない」
問5- (6)	自分で食事の用意をしていますか	1	「1. できるし、している」
		1	「2. できるけどしていない」
		0	「3. できない」
問5- (7)	自分で請求書の支払いをしていますか	1	「1. できるし、している」
		1	「2. できるけどしていない」
		0	「3. できない」
問5- (8)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	1	「1. できるし、している」
		1	「2. できるけどしていない」
		0	「3. できない」

(9) 知的能動性低下者の割合

知的能動性は、自ら情報を収集し、知的な活動をする能力にあたる。知的能動性が低下すると、状況に対応する能力、表現や感情の豊かさが失われると考えられるため、可能な限り高齢者自らが情報を収集し、その情報を元にコミュニケーションを図る機会が重要となる。

知的能動性は、4点満点で評価し、3点以下を「低下」として判定する。

知的能動性が「低下」として判定されたのは、市全体で44.3%となっている。

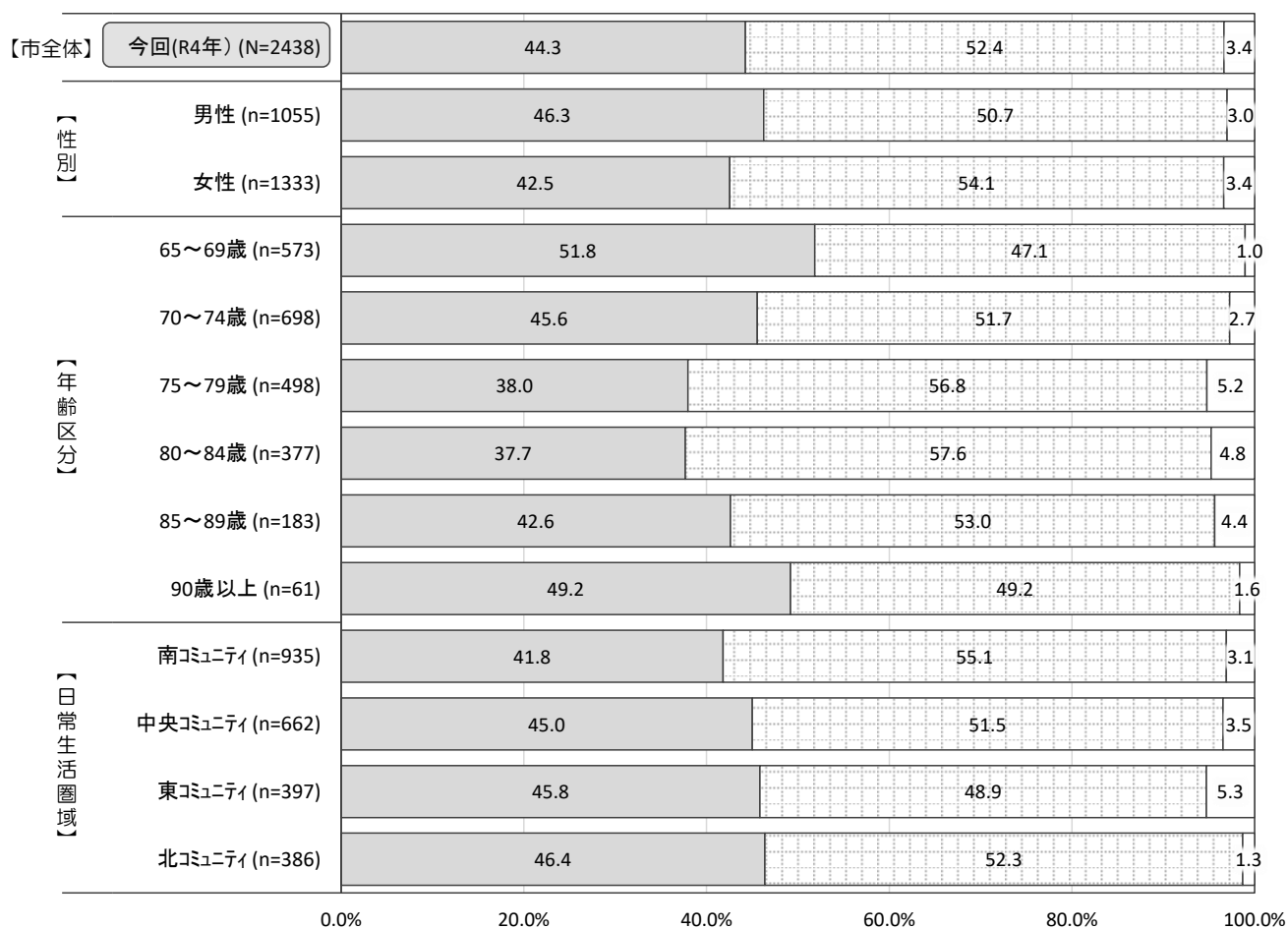
性別でみると、「低下」の割合は男性が46.3%、女性が42.5%と男性の方が女性より3.8ポイント高い。

年齢別にみると、「低下」の割合は65～69歳で51.8%と既に高く、早い段階から知的能動性の低下がみられる。

圏域別でみると「低下」の割合が最も高いのは北コミュニティで46.4%となっており、最も低い南コミュニティ(41.8%)との差は4.6ポイントとなっている。

【知的能動性低下の判定】

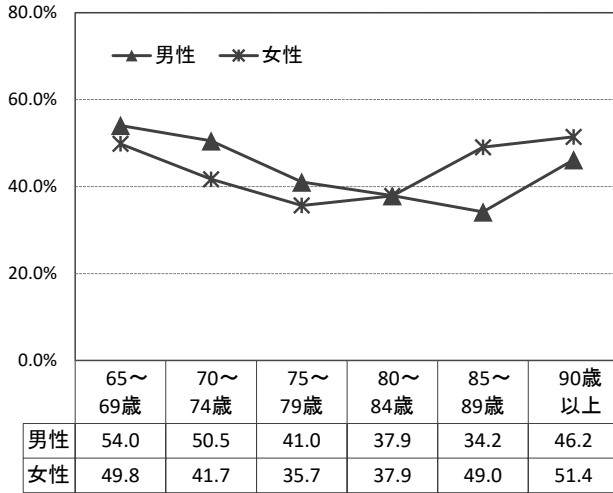
■ 低下 (3点以下) ■ 自立 (4点) □ 判定不可



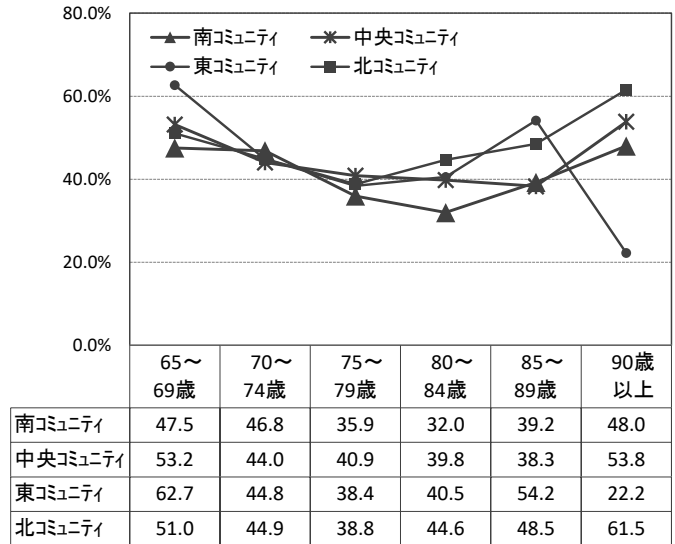
性・年齢別で見ると、「低下」の割合は、男性は65～69歳の54.0%が最も高く、年齢が上がるにつれてその割合は減少傾向となる。また、女性は75～79歳と80～84歳以外では市全体（44.3%）の割合を上回っている。

圏域・年齢別で見ると、「低下」の割合は、東コミュニティでは65～69歳が62.7%と4圏域の中で最も高く、最も低い南コミュニティ（47.5%）との差は15.2ポイントと大きい。

【知的能動性低下者（性・年齢別）】



【知的能動性低下者（圏域・年齢別）】



《知的能動性における評価項目》

設問番号	項目	配点	回答
問 5- (9)	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」
問 5- (10)	新聞を読んでいますか	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」
問 5- (11)	本や雑誌を読んでいますか	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」
問 5- (12)	健康についての記事や番組に関心がありますか	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」

(10) 社会的役割低下者の割合

社会的役割は、人を思いやることや様々な世代との積極的な交流、地域の活動に参加する能力にあたる。社会的役割が低下すると、余暇の時間を楽しめなくなったり、一日何もしない時間が増えてしまい、閉じこもりやうつ、認知症などの誘因にもつながる可能性があり、自己の役割形成につながるような機会や場の提供が重要となる。

社会的役割は、4点満点で評価し、3点以下を「低下」として判定する。

社会的役割が「低下」として判定されたのは、市全体で63.9%となっている。

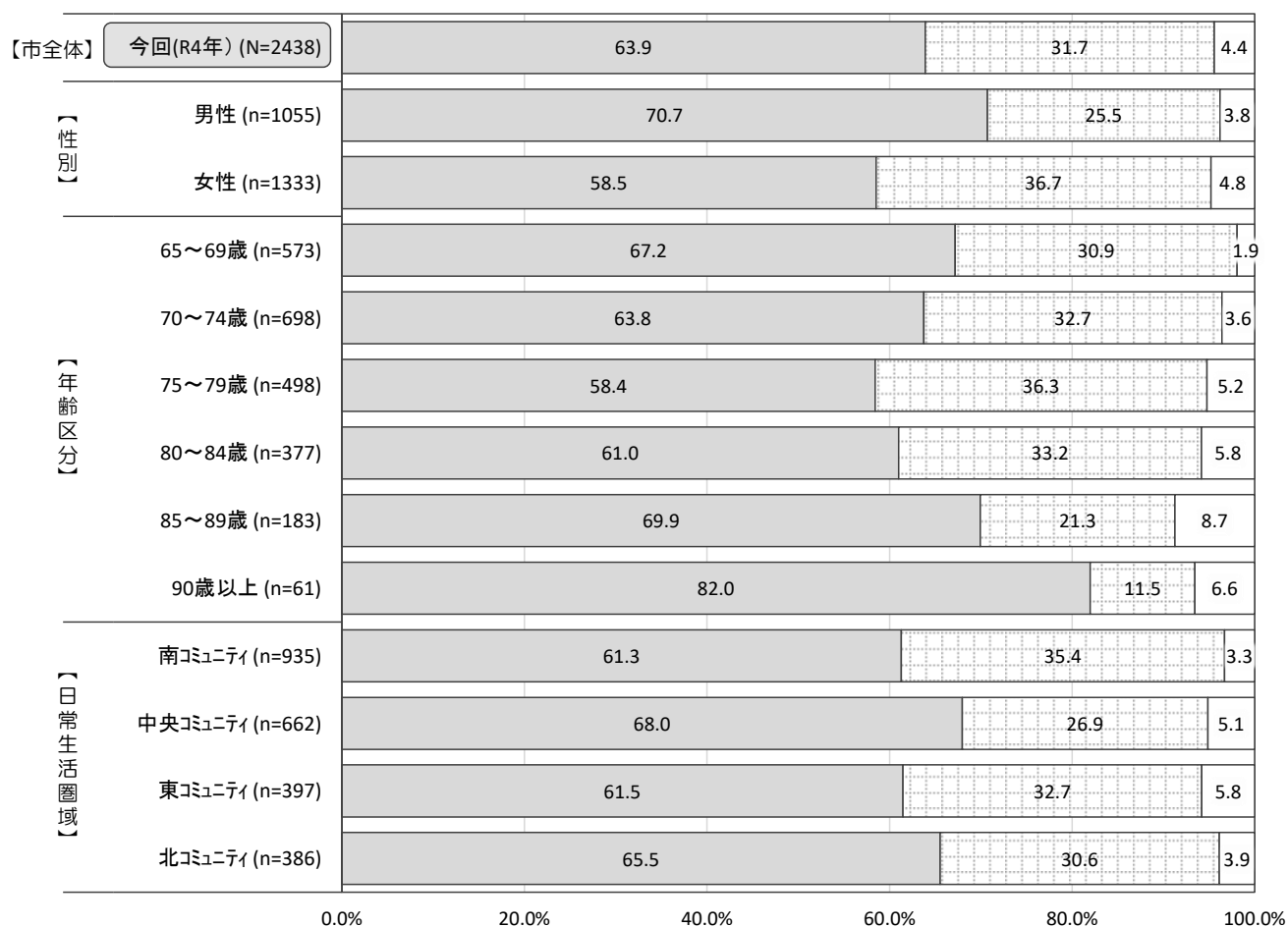
性別でみると、「低下」の割合は、男性が70.7%、女性が58.5%と男性の方が女性より12.2ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「低下」の割合は、65～69歳の67.2%から75～79歳になると58.4%まで低下するが、80歳以上では60%を超えるようになる。

圏域別でみると、「低下」の割合は、中央コミュニティで68.0%となっており、最も低い南コミュニティ（61.3%）とは6.7ポイントの差がみられる。

【社会的役割低下の判定】

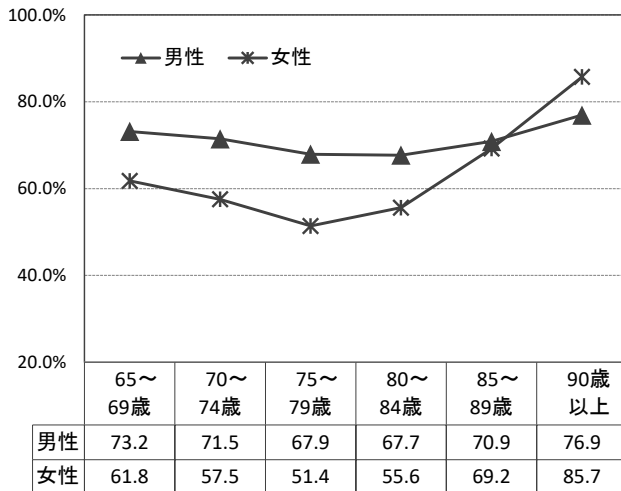
■ 低下 (3点以下) ▨ 自立 (4点) □ 判定不可



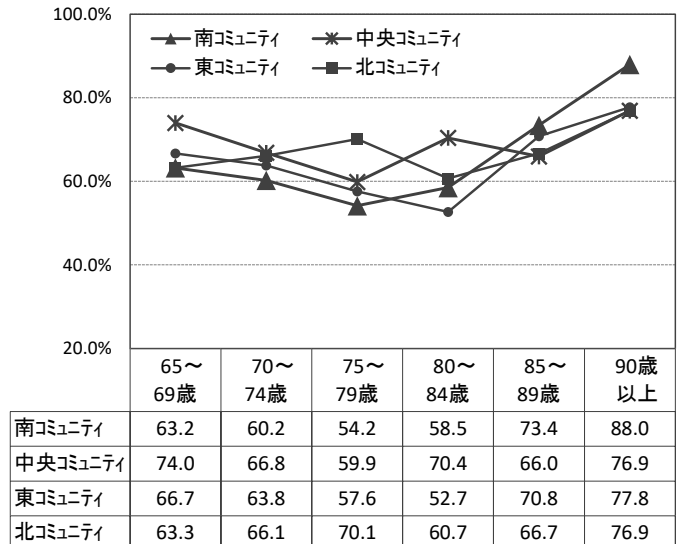
性・年齢別でみると、「低下」の割合は65～69歳で、男性は73.2%、女性は61.8%と11.4ポイントの差がある。男性は各年齢において市全体（63.9%）の割合を上回っている。女性は、85歳以上になると市全体の割合を上回るようになる。

圏域・年齢別でみると、「低下」の割合は、中央コミュニティでは65～69歳（74.0%）が他の圏域に比べて高くなっている。また、南コミュニティでは90歳以上になると80%を超える。

【社会的役割低下者（性・年齢別）】



【社会的役割低下者（圏域・年齢別）】



《社会的役割における評価項目》

設問番号	項目	配点	回答
問 5- (13)	友人の家を訪ねていますか	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」
問 5- (14)	家族や友人の相談にのっていますか	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」
問 5- (15)	病人を見舞うことができますか	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」
問 5- (16)	若い人に自分から話しかけることがありますか	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」

12. 日常生活圏域の特性

■ 南コミュニティの特性や課題

南コミュニティは、市の中心部から南部にかけて位置しており、昭和 40 年代からの大型団地開発により、急速な住宅地化とともに移り住んだ住民が一気に高齢者となり、南コミュニティ全体の高齢化が顕著となっている。

調査結果では、後期高齢者が 2 番目に多い。暮らしの状況は、高齢者夫婦 2 人暮らしが多く、持家（一戸建て）で暮らす高齢者が東コミュニティの次に多い。また、経済状況にゆとりがあると感じている高齢者も比較的多い。

趣味や生きがいを持って生活する高齢者が非常に多く、地域のスポーツ関係、趣味関係のグループやクラブへの参加頻度も他の圏域に比べて多い。

生活機能の低下状況をみると、運動器機能低下、口腔機能低下、知的能動性低下の該当者は少なく、市の平均を下回っている。現在介護・介助が必要な高齢者は少ない。

外出する際の移動手段は、自動車（自分で運転）が多く、転倒経験や転倒に対する不安も少ない傾向にあるが、一年前と比べて外出回数が減少している高齢者も多い。また、閉じこもりの状況は、市の平均をやや上回っており、85 歳以上になると閉じこもり予防該当者が増加している。

今後の地域の会・グループ活動等への参加意向は、参加者、企画・運営（お世話役）ともに参加意向は高い。高齢者の趣味や生きがいを活用できる地域活動等の機会を充実させ、意欲のある高齢者の参加を促し、閉じこもりや認知症のリスクを減らす取組が必要となる。

■ 中央コミュニティの特性や課題

中央コミュニティは、市の中心部に位置し、市役所や市の主要駅、商業施設などもあり、近年、市の中で最も人口が増加している地域となっており、高齢化率の上昇も市全体と比べて緩やかに進んでいる。

調査結果では、前期高齢者が 2 番目に多く、高齢者のみの世帯（1 人暮らしや高齢者夫婦世帯）が多い。また、他の圏域に比べて集合住宅や賃貸住宅で暮らす高齢者が多い。

外出する際の移動手段は徒歩や電車が他の圏域に比べて圧倒的に多いが、外出頻度が週 5 回以上の高齢者は市の平均を下回っており、一年前と比べて外出回数が減少している高齢者も多い。

生活機能の低下状況をみると、認知機能低下、うつ予防該当者、手段的自立（IADL）低下者は少なく、市の平均を下回っている。しかし、社会的役割低下者の割合は、4 圏域の中で最も高く、65～69 歳の早い段階から 70%を超えている。

地域での活動について、収入のある仕事をしている人が 4 圏域の中で最も多く、ボランティアのグループや区（自治会）・隣組（町内会）への参加頻度は他の圏域より少ない。また、共食の機会や近所・同じ地域の人と会う高齢者も少ない。仕事を退職した後の閉じこもりや社会的な孤立感を防止するために、地域での活動への参加を促す取組が必要である。

■ 東コミュニティの特性や課題

東コミュニティは、市の東部に位置し、市街地と中山間地域の両方を有しており、新規住宅開発により若い世代の人口が増加する一方、高齢化率は市全体の割合を上回る。

調査結果では、後期高齢者の割合が最も高く、息子・娘との2世帯が他の圏域に比べて多くなっている。また、持家（一戸建て）で暮らす高齢者は最も多い。

生活機能の低下状況を見ると、運動器機能低下、閉じこもり予防該当者、低栄養リスク該当者、口腔機能低下、手段的自立度（IADL）低下者が最も多くなっている。

日頃から友人・知人と会う頻度も多く、近所・同じ地域の人との交流機会も多い。また、区（自治会）・隣組（町内会）の活動に年に数回以上参加している高齢者も30%程度と他の圏域よりも多い。しかし、趣味や生きがいがある高齢者は少なく、主体的幸福観が低い（0～3点）割合は他の圏域に比べて高い。心の健康を維持することは、閉じこもりやうつ予防につながるため、高齢者が地域の中で生きがいや役割を持ち続けられるように、地域ぐるみで介護予防・健康づくりの取組を充実させる必要がある。

外出の状況は週1回以下や外出を控えている割合が他の圏域に比べて多い。また、介護・介助の必要性がある高齢者や要支援認定者も他の圏域に比べて多くなっている。一方、介護予防のための通いの場に週1回以上参加している高齢者や、健康づくり活動や趣味等のグループ活動に既に参加している高齢者が他の圏域に比べて多くみられ、介護予防や健康づくりに対する取組は積極的に行われている。閉じこもりや運動機能の低下を予防するために地域での活動への、より一層の参加促進が必要である。

■ 北コミュニティの特性や課題

北コミュニティは、市の北部に位置し、福岡市や春日市と隣接しており、交通の利便性にも恵まれ、住宅地、商工、農地が混在する地域となっており、高齢化率は市全体の割合を下回っている。

調査結果では、前期高齢者が最も多く、1人暮らしが中央コミュニティの次に多い。持家（一戸建て・集合住宅）や民間賃貸住宅（集合住宅）で暮らす高齢者も多い。経済状況について苦しいと感じる割合は4圏域の中で最も高い。

外出する際の移動手段は、徒歩や自転車、自動車（自分で運転）、電車など多様な交通手段がある。タクシーの利用も他の圏域に比べてやや多い。

地域活動への参加状況は、趣味関係のグループ、介護予防のための通いの場、シニアクラブの参加頻度は多い。また、健康づくり活動や趣味等のグループ活動等への参加意向は、企画・運営（お世話役）としての参加意向は他の圏域に比べて高くなっている。自己の役割形成につながるような機会や場を提供し、地域での活動に意欲のある高齢者の積極的な参加を促すことが重要である。

生活機能の低下状況を見ると、閉じこもり予防該当者は少なく、市の平均を下回っている。しかし、転倒リスク、認知機能低下、うつ予防、知的能動性低下に該当する割合が4圏域の中で最も高い。日常生活動作や生活能力（手段的自立度）は高齢になってもある程度維持されているが、知的能動性や社会的役割は早い段階で低下している。知的能動性の低下は、生活の質や心身の健康状態にも影響を及ぼすため、維持・向上を図ることが重要である。また、認知機能の低下者は80～85歳で50%を超えており、認知症の予防や早期発見、早期治療に取り組む必要がある。

13. 大野城市全体の課題の整理

(1) 基本属性

- 調査対象者の年齢は、前期高齢者（65～74歳）が52.1%、後期高齢者（75歳以上）が45.9%となっており、前回調査（令和元年度）と比べて後期高齢者が2.5ポイント増加している。（6頁）
- 家族構成は、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が43.5%と最も多く、「1人暮らし」（17.4%）を合わせると“高齢者のみの世帯”が60.9%となっている。前回調査と比べて、“高齢者のみの世帯”は0.4ポイント減少している。（8頁）

(2) 生活環境

- 本人及び家族の回答に基づく要介護状態は、「一般高齢者」が46.4%、「総合事業対象者」が0.7%、「要支援1」が2.8%、「要支援2」が2.3%となっている。（7頁）
- 本人及び家族の回答に基づく“介護・介助の必要性あり”は10.3%となっており、前回調査と比べて0.8ポイント減少している。要支援認定者では27.5%程度が自立した生活（「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と回答）を送っている。（9頁）
- 経済状況は、“苦しい”と感じている高齢者は29.7%となっており、前回調査と比べて1.8ポイント増加している。家族構成で見ると、“苦しい”と感じているのは、1人暮らしが34.7%と最も高く、市全体の割合を5.0ポイント上回っている。（12頁）
- 住まいの種類は、“持家（一戸建て・集合住宅）”が78.6%と多くを占めており、“賃貸住宅”は18.6%となっている。1人暮らしでは“賃貸住宅”が36.7%と市全体の割合を大きく上回る。（13頁）
- 前回調査と比べて、外出の頻度は「週5回以上」は減少、“外出機会が減少している”や「外出を控えている」は増加しており、外出を控える理由として「新型コロナウイルス感染症予防のため」との回答が多い。（17～20頁）
- 外出する際の移動手段は、「徒歩」「自動車（自分で運転）」「電車」が多い。（21頁）

(3) 健康状態

- 主体的健康観は“良好である”が79.1%と多くを占めており、“良好でない”は18.7%と前回調査より0.8ポイント増加している。主体的幸福感は「8～10点」の割合が49.7%を占めている。主体的健康観が“良好である”とする高齢者では「8～10点」が56.7%と多くなっているが、“良好でない”とする高齢者では「8～10点」が23.2%に留まっている。身体の状態の悪化は、心の健康状態の悪化につながるおそれがある。（51～52頁）
- BMIのうち「やせ」は7.5%、「肥満」は19.0%となっている。前回調査と比べて、「やせ」はやや増加している。（22頁）
- 現在治療中、または後遺症のある病気は、「高血圧」「目の病気」「高脂血症（脂質異常）」が上位にあがっている。BMI別で見ると、「やせ」の高齢者では「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」が「標準体重」や「肥満」の高齢者に比べて高い。また、「肥満」の高齢者では「高血圧」や「糖尿病」が「標準体重」や「やせ」の高齢者に比べて高い。（56頁）

(4) 毎日の生活

- 普段の共食の機会について「毎日ある」が59.4%を占めている。しかし、「ほとんどない」が8.1%となっており、前回調査と比べて2.3ポイント増加している。(24頁)
- 歯の状態は、“自分の歯は20本以上”が56.7%を占めており、前回調査より1.5ポイント増加している。「お茶や汁物等でむせることがある」が25.2%となっており、前回調査と比べて1.4ポイント増加している。(25～26頁)
- 認知機能の低下がみられる高齢者は46.0%となっており、特に「物忘れが多いと感じる」は全体の32.6%を占めている。(28・80頁)
- 手段的自立度(IADL)の低下がみられる高齢者は9.6%となっており、日常生活動作の中でも、自立した外出や買い物、請求書の支払いや預貯金の管理は80%以上が「できるし、している」と回答しているが、自立した食事の用意については「できるし、している」が71.7%に留まっている。(29～30・84頁)
- 知的能動性の低下がみられる高齢者は44.3%を占めている。知的活動のうち、新聞を読んでいる割合が70.0%と比較的少ない。(31・86頁)
- 趣味や生きがいが「ある」とする割合は、前回調査と比べてやや減少している。また、社会的役割の低下がみられる高齢者は63.9%となっており、特に男性に多く、年齢は65～69歳の時点で73.2%と高い。(34～35・88～89頁)

(5) 地域活動や介護予防活動への参加

- 地域の会やグループ活動等への参加頻度は「趣味関係のグループ」「スポーツ関係のグループやクラブ」「収入のある仕事」が多く、「シニアクラブ」「介護予防のための通いの場」「学習・教養サークル」は少ない。(42頁)
- 市独自の足元教室、音楽サロン、健康づくりミニデイなどの通いの場への参加頻度が“週1回以上”の割合は2.9%に留まり、月1～3回(3.6%)を合わせても10%未満となっている。通いの場に関する周知や参加しやすい環境づくりが必要となる。(39頁)
- 今後、地域づくりを進めるにあたって、参加者として「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」を合わせると53.6%の参加意向がみられる。企画・運営(お世話役)としての参加意向は32.3%に留まっており、高齢者の自主的な介護予防活動の意義や効果について普及・啓発し、立ち上げを後押しする取り組みが必要となる。(43～44頁)

(6) 心配事や悩みに関する相談

- 心配事を相談する相手は、「配偶者」や「友人」「子ども」が多い。また、家族や友人・知人以外では「医師・歯科医師・看護師」「地域包括支援センター・市役所」が多い。また、「そのような人はいない」は前回調査より増加している。(45・47頁)
- 本人または家族に認知症状がある割合は8.1%と低い。また、認知症に関する相談窓口を知らない人は74.2%となっており、周知が必要となる。(57～58頁)

(7) 成年後見制度について

- 成年後見制度を「全く知らない」高齢者は17.1%となっており、“関心がある”割合は25.1%と低い。相談窓口についても43.8%の人が知らないと回答している。(59～61頁)
- 市民後見人を「全く知らない」高齢者は65.7%と高く、市民後見人を活用しない理由の上位には「市民後見人のことをよく知らない」があがっている。(66・69頁)

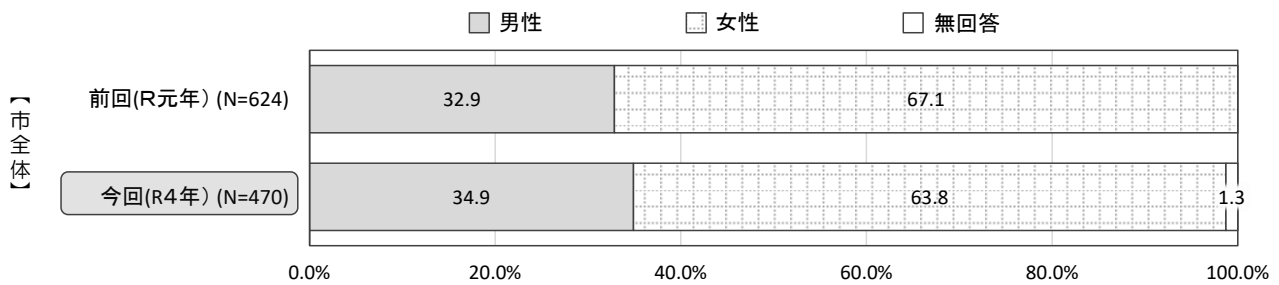
Ⅲ 在宅介護実態調査

1. 回答者の基本属性

(1) 性別

回答者は全体で470人となっており、性別は「男性」が34.9%、女性が63.8%となっている。前回調査と同様の傾向がみられる。

【回答者の性別】

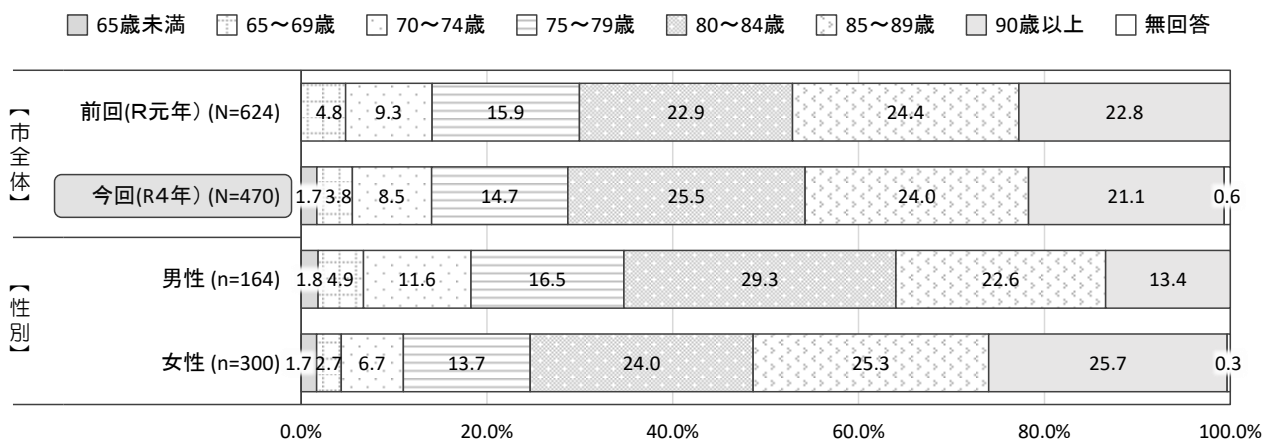


(2) 年齢階級

年齢階級は「80～84歳」が25.5%と最も高く、次いで「85～89歳」が24.0%、「90歳以上」が21.1%の順に続く。また、前期高齢者（65～74歳）の割合は14.7%、75歳以上の後期高齢者の割合は85.3%となっており、前回（令和元年）と同様の傾向がみられる。

性別でみると、男性では「80～84歳」が29.3%、女性では「90歳以上」が25.7%とそれぞれ最も高くなっている。また、前期高齢者の割合は女性が9.4%に対し、男性では16.5%と高い。

【回答者の年齢】



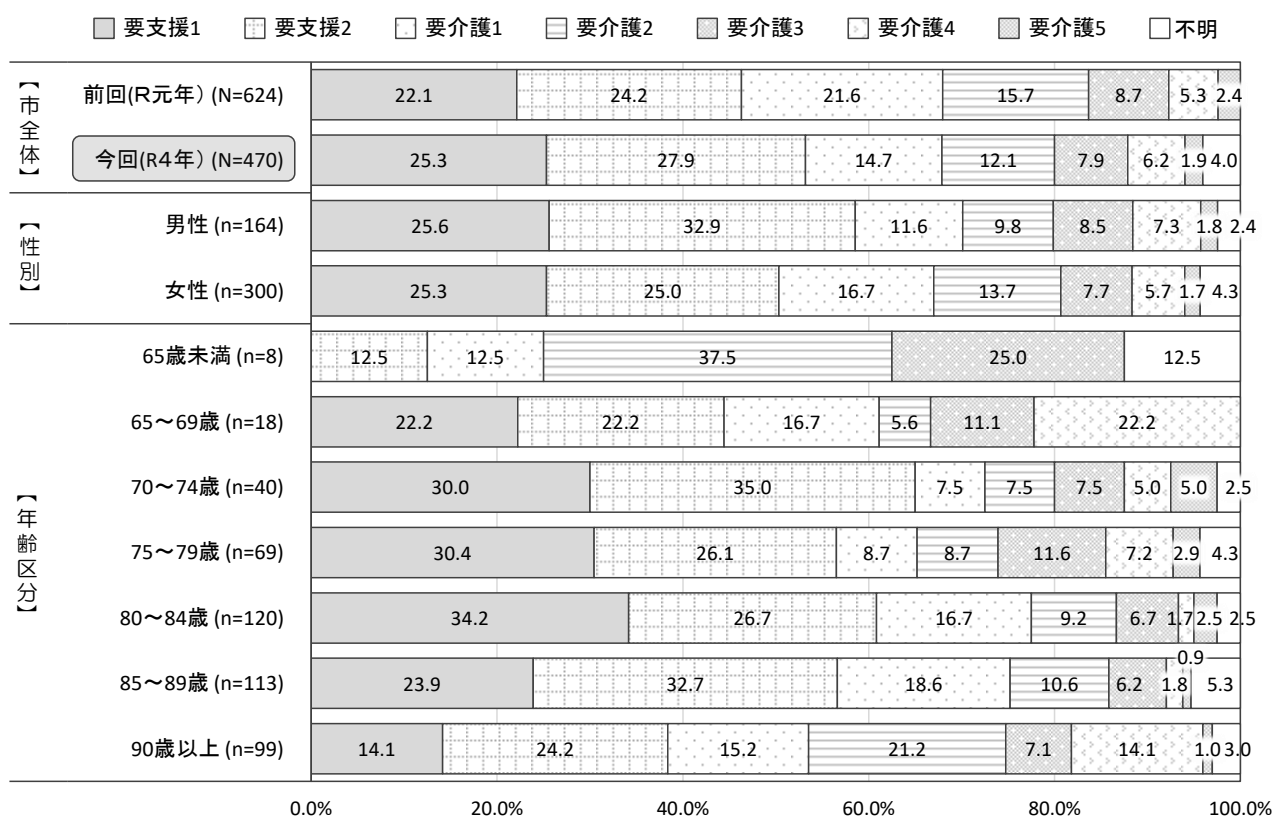
(3) 要介護度

回答者の要介護度は、市全体では「要支援2」が27.9%と最も高く、次いで「要支援1」(25.3%)、「要介護1」(14.7%)の順に続く。“要支援認定者”(「要支援1」「要支援2」)は53.2%、“軽度認定者”(「要介護1」「要介護2」)は26.8%、“中重度認定者”(「要介護3」～「要介護5」)は16.0%となっており、前回調査と比べて、“要支援認定者”は増加し、“軽度認定者”は減少している。

性別でみると、“要支援認定者”の割合は、男性が58.5%、女性が50.3%となっており、男性の方がやや高くなっている。また、男性では“要支援認定者”が占める割合が高くなっている。

年齢別でみると、70～74歳、80～84歳では“要支援認定者”が60%を超えている。また、“中重度認定者”の割合は、65～69歳で33.3%、90歳以上で22.2%と他の年齢に比べて高い。

【回答者の要介護度】

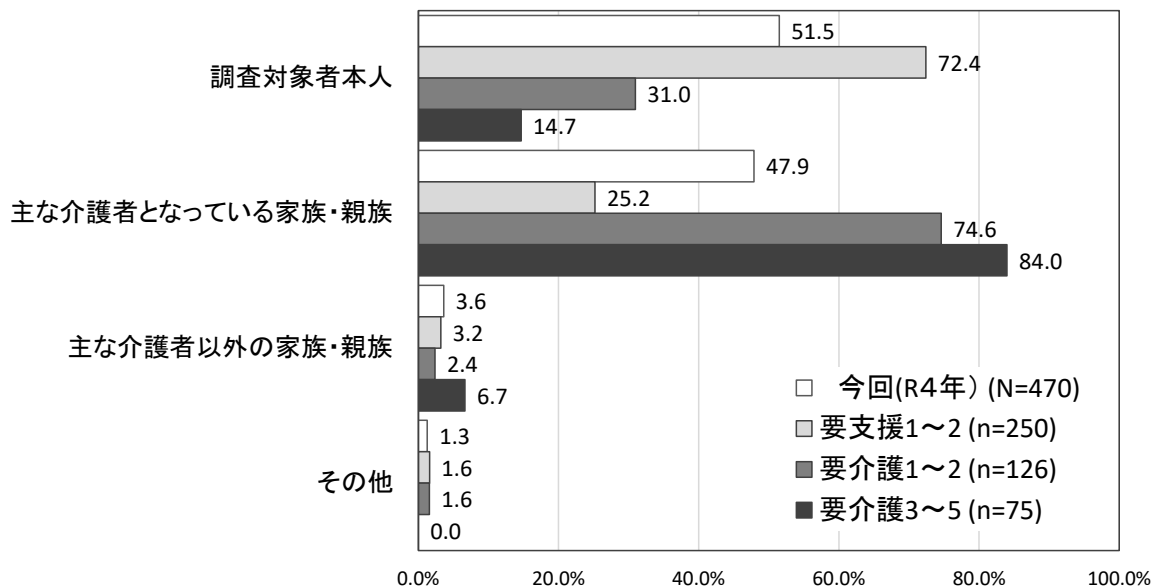


(4) 調査票の記入者

調査票の記入者は、市全体では「調査対象者本人」が51.5%と最も高く、次いで「主な介護者となっている家族・親族」が47.9%となっている。

要介護区分別でみると、要支援1～2認定者では「調査対象者本人」、要介護1～5認定者では「主な介護者となっている家族・親族」が高くなっている。

【調査票の記入者】



(5) 世帯類型

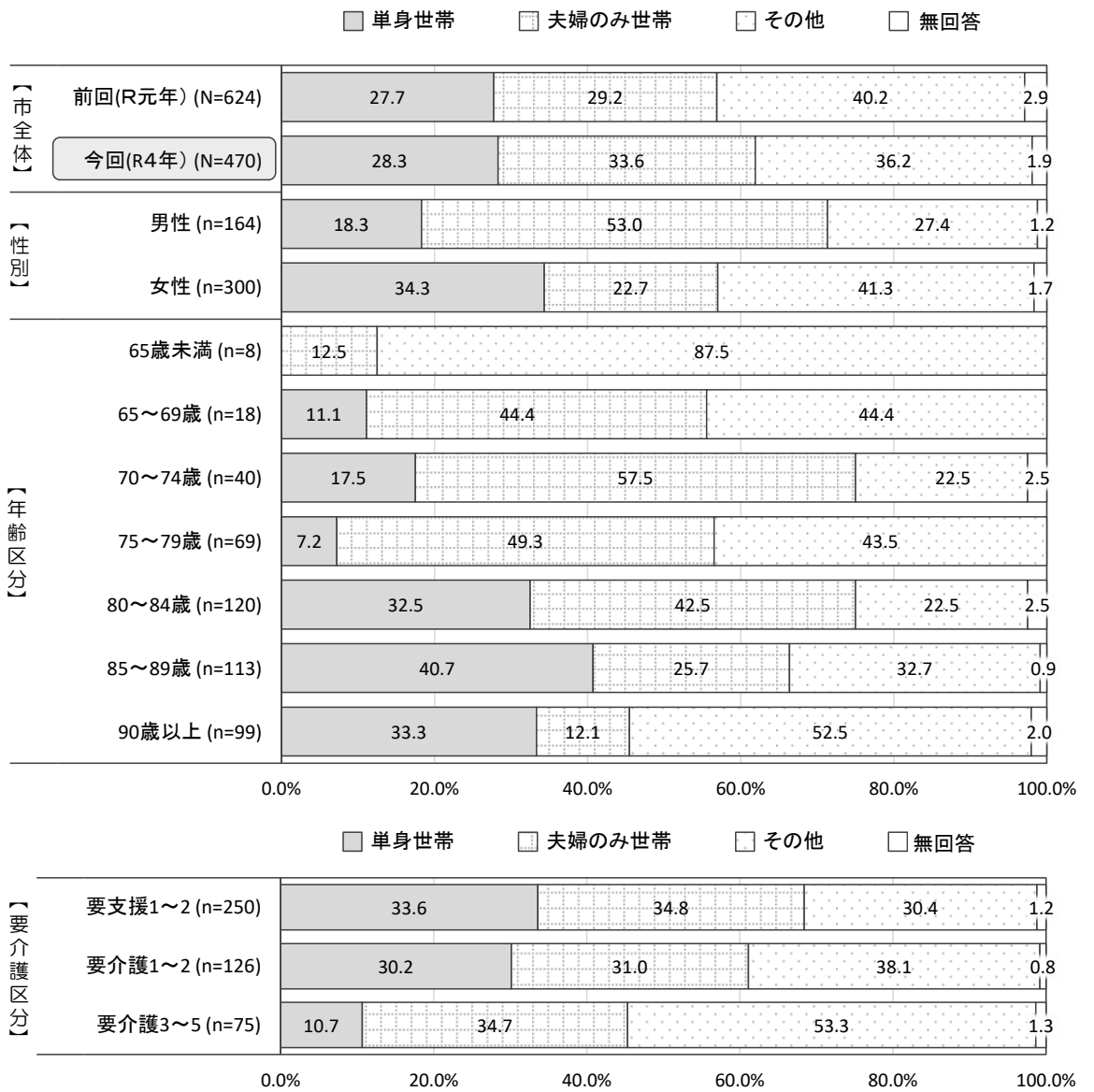
世帯類型は、市全体では「その他」が 36.2%と最も高く、次いで「夫婦のみ世帯」(33.6%)、「単身世帯」(28.3%)の順に続く。前回調査と比べて、「その他」が減少し、「夫婦のみ世帯」「単身世帯」が増加している。

性別でみると、「単身世帯」は、女性が 34.3%と男性 (18.3%) より 16.0 ポイント高く、「夫婦のみ世帯」は、男性が 53.0%と女性 (22.7%) より 30.3 ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「単身世帯」は、80 歳以上で 30%を超えている。また、90 歳以上では「単身世帯」や「夫婦のみ世帯」が減少し、「その他」が増加する。

要介護区分でみると、要支援 1～2 では「単身世帯」(33.6%)、要介護 3～5 では「その他」(53.3%) が他の要介護区分に比べて高い。

【A票-問2 世帯類型】



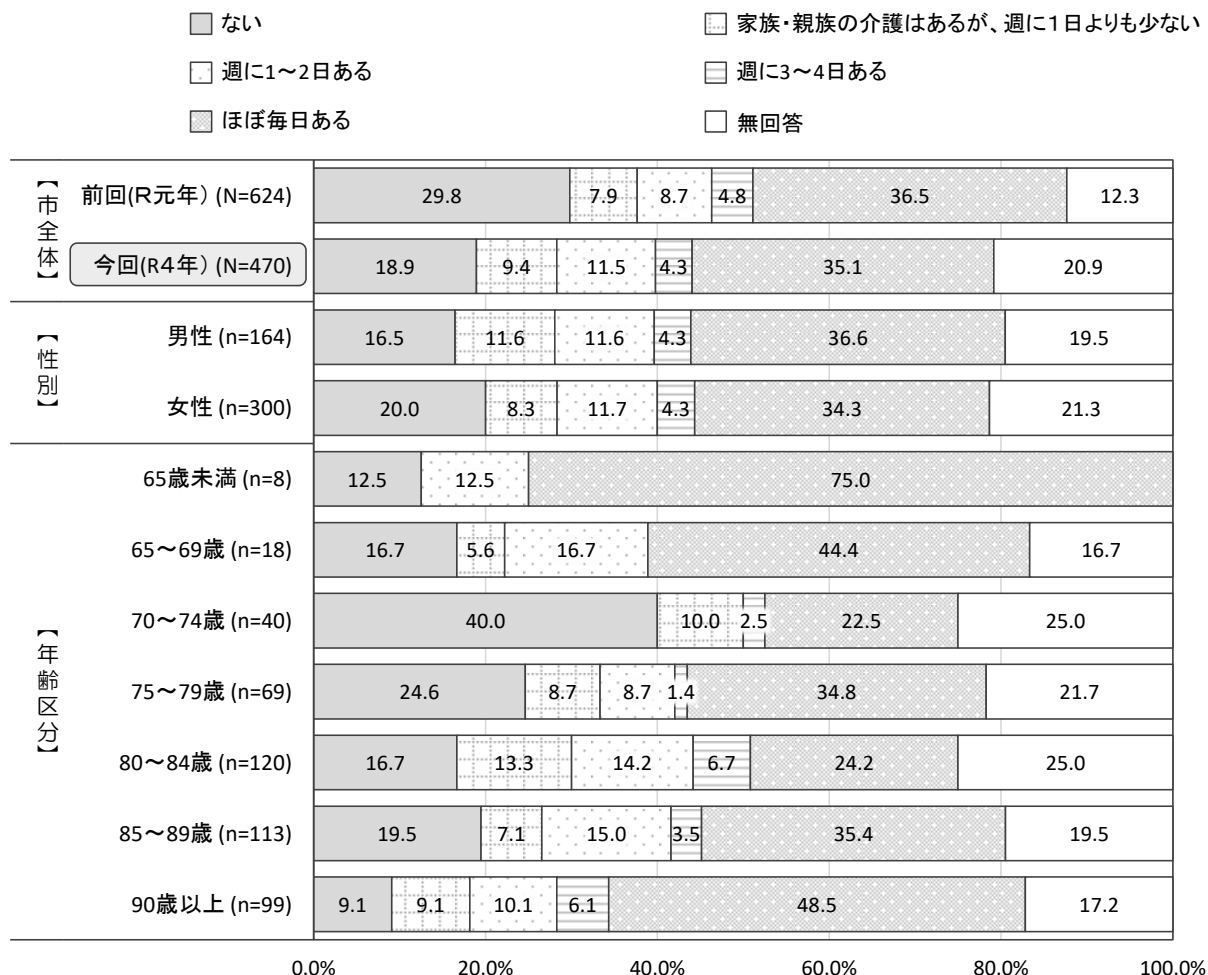
(6) 家族や親族からの介護の頻度

家族や親族からの介護の頻度について、市全体で「ほぼ毎日ある」が35.1%と最も高く、次いで「ない」(18.9%)、「週に1～2日ある」(11.5%)と続く。“家族等からの介護はある”(「家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない」～「ほぼ毎日ある」)とする割合は60.3%となっており、前回調査(57.9%)と比べて2.4ポイント増加している。

性別でみると、「ほぼ毎日ある」は男性が36.6%と女性(34.3%)より2.3ポイント高い。また、“家族等からの介護はある”とする割合は、男性が64.1%と女性(58.6%)より5.5ポイント高い。

年齢別でみると、「ほぼ毎日ある」は65歳未満が75.0%と最も高く、次いで90歳以上(48.5%)、65～69歳(44.4%)の順に続く。“家族等からの介護はある”とする割合は、65歳未満(87.5%)、65～69歳(66.7%)、85～89歳(61.0%)、90歳以上(73.8%)で市全体の割合を上回っている。

【A票-問26 家族・親族からの介護の頻度】

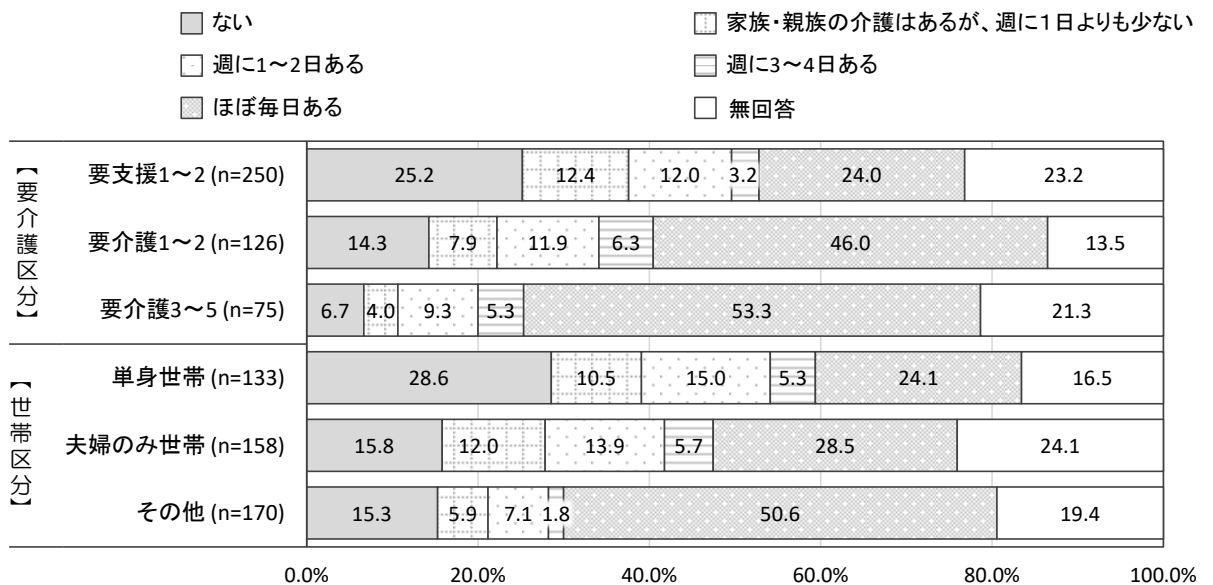


要介護度別でみると、「ほぼ毎日ある」は要介護3～5が53.3%と最も高く、次いで要介護1～2(46.0%)、要支援1～2(24.0%)の順に続く。“家族等からの介護はある”とする割合は、要介護1～2(72.1%)、要介護3～5(71.9%)に比べて、要支援1～2では51.6%と低くなっている。

世帯区分でみると、「ほぼ毎日ある」は、その他の世帯が50.6%と他の世帯区分に比べて高い。また、単身世帯では“家族等からの介護はある”が54.9%と他の世帯区分に比べて低くなっている。

要支援認定者や単身世帯では、家族・親族からの介護なしで在宅生活を継続している状況がうかがえる。

【A票-問26 家族・親族からの介護の頻度】



2. 主な介護者ご自身について

(1) 主な介護者の続柄

家族・親族からの介護がある要介護者（回答者）と主な介護者との続柄は、市全体で「子」が51.6%と最も高く、次いで「配偶者」（29.0%）、「子の配偶者」（5.7%）の順に続く。前回調査と同様の傾向がみられるが、「子の配偶者」が減少している。

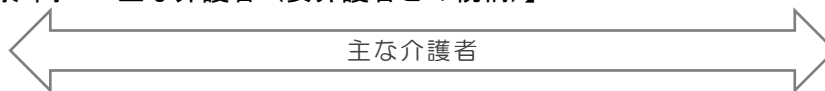
性別でみると、要介護者が男性の場合、主な介護者は「配偶者」（52.4%）、要介護者が女性の場合、主な介護者は「子」（62.5%）がそれぞれ最も高く、性別によって差がみられる。

年齢別でみると、要介護者の年齢が80歳以上になると、「配偶者」は減少し、「子」や「子の配偶者」が増加する。

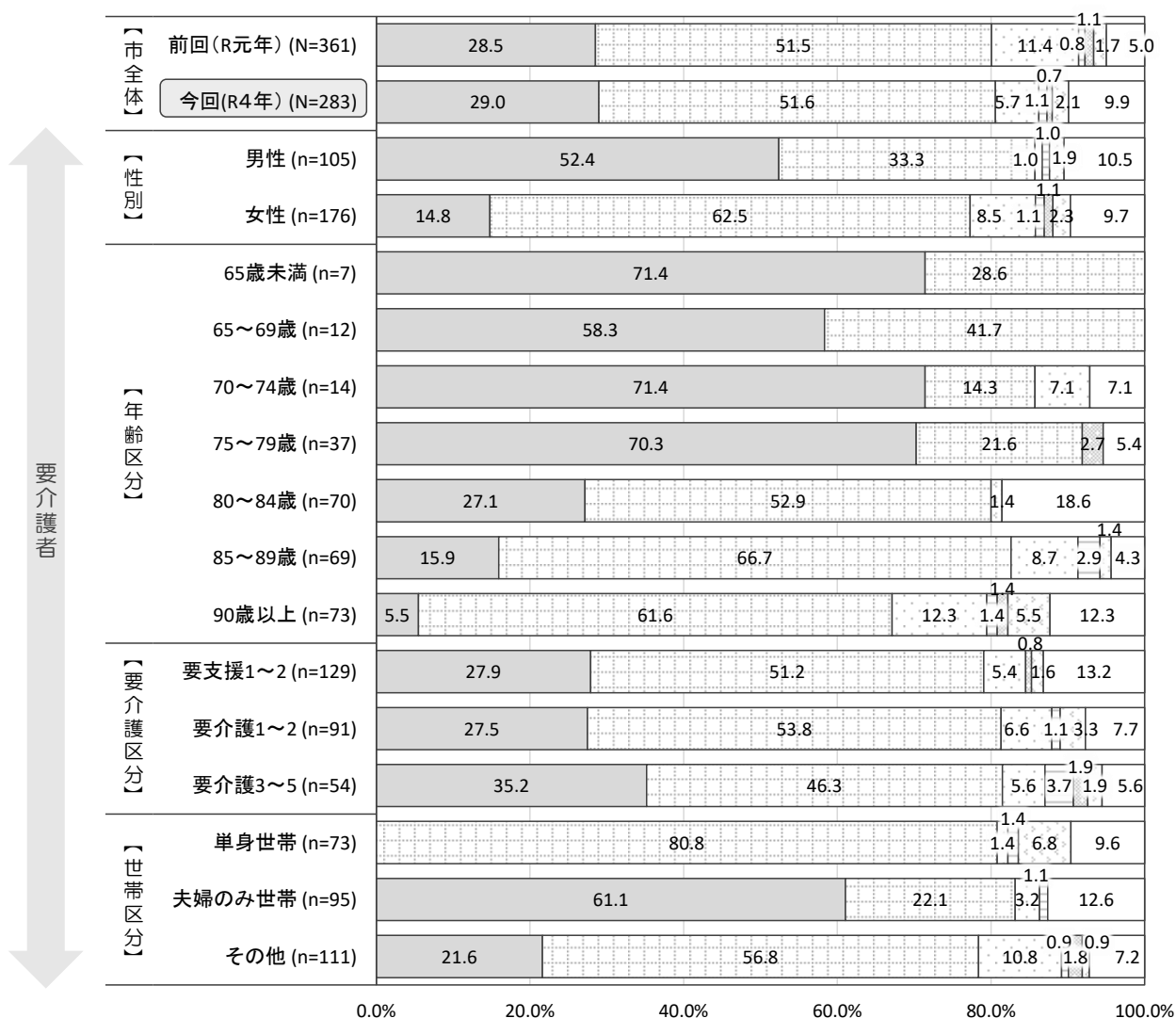
要介護区分でみると、要介護1～2では「子の配偶者」、要介護3～5では「配偶者」がそれぞれ他の要介護区分に比べて高くなっている。

世帯区分でみると、単身世帯やその他の世帯では「子」、夫婦のみ世帯では「配偶者」がそれぞれ最も高くなっている。

【B票-問2 主な介護者（要介護者との続柄）】



■ 配偶者 ■ 子 ■ 子の配偶者 ■ 孫 ■ 兄弟・姉妹 ■ その他 □ 無回答



(2) 主な介護者の性別

主な介護者の性別は、市全体で「女性」が65.7%、「男性」が26.1%と39.6ポイントの差がある。前回調査と同様の傾向がみられる。

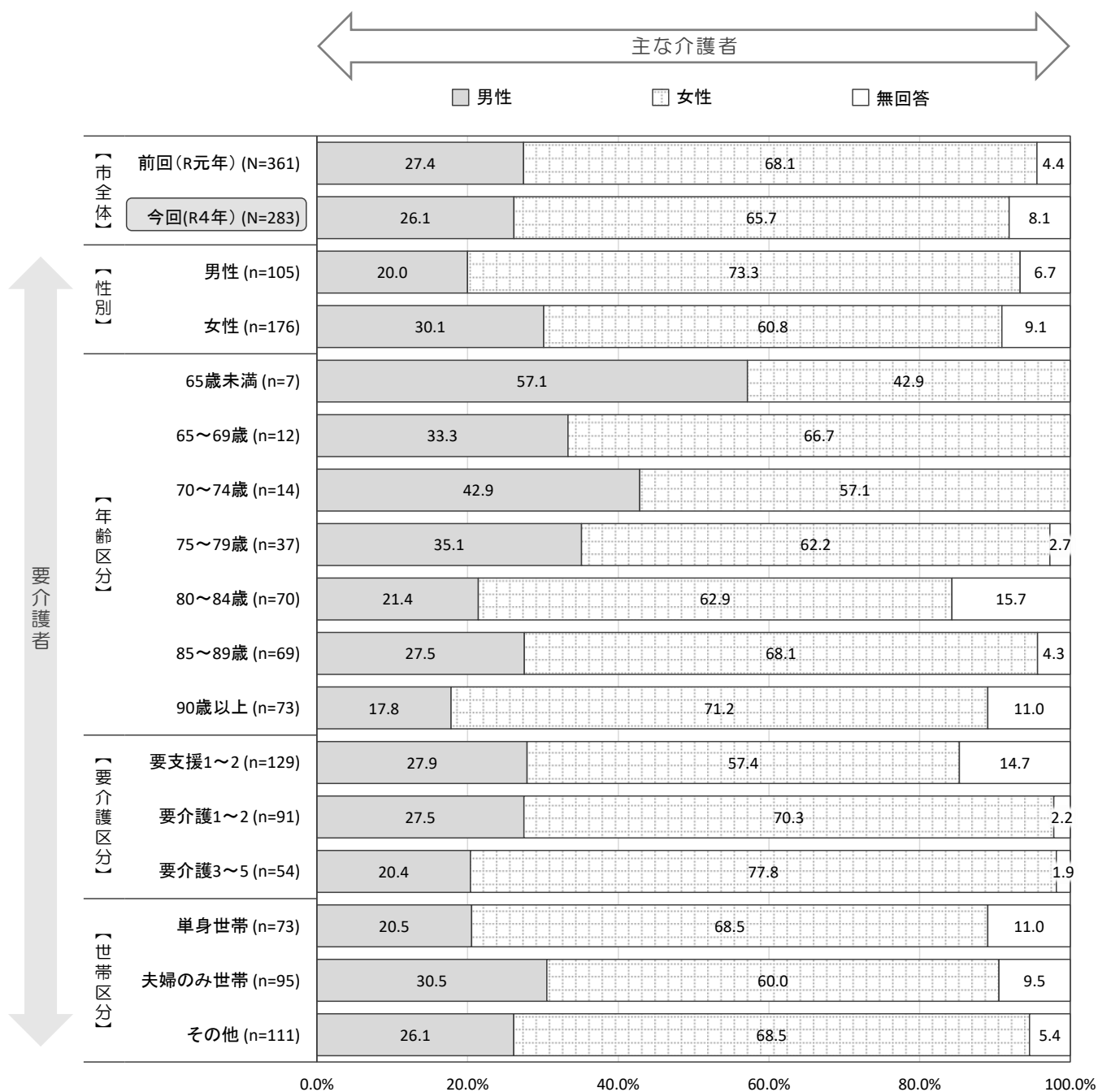
要介護者の性別にみると、男女ともに「女性」が「男性」よりも高い。

要介護者の年齢別でみると、65歳未満以外の年齢では「女性」が「男性」より高い。

要介護区分でみると、すべての要介護区分において「女性」が「男性」より高い。また、要介護3～5では「男性」が20.4%と他の要介護区分に比べて低くなっている。

世帯区分でみると、すべての世帯区分において「女性」が「男性」より高い。また、夫婦のみ世帯では「男性」が30.5%と他の世帯区分に比べて高くなっている。

【B票-問3 主な介護者の性別】



(3) 主な介護者の年齢

主な介護者の年齢は、市全体で「60代」(32.5%)、「50代」(23.3%)、「70代」(16.6%)の順に続く。「20歳未満」の回答はなく、前回調査と同様の傾向がみられる。

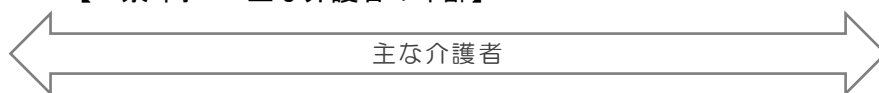
性別でみると、要介護者が男性では「70代」(27.6%)、女性では「60代」(39.8%)がそれぞれ最も高い。

年齢別でみると、70～79歳では「70代」、80～84歳では「50代」、85歳以上では「60代」がそれぞれ最も高い。

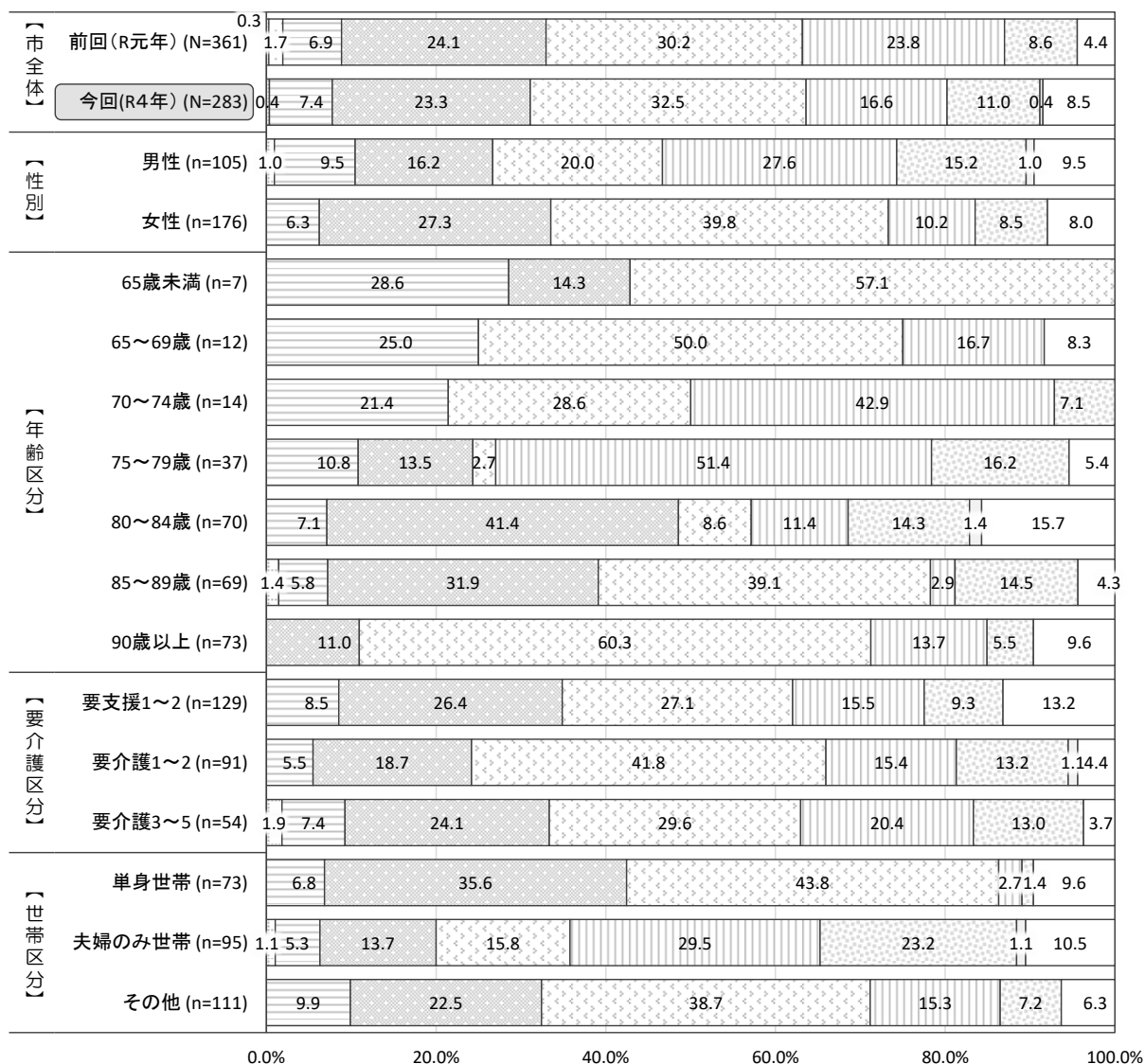
要介護区分でみると、要介護1～2では「60代」「70代」を合わせると57.2%、要介護3～5では「60代」「70代」を合わせると50.0%になる。

世帯区分でみると、単身世帯では「60代」(43.8%)、夫婦のみ世帯では「70代」(29.5%)、その他の世帯では「60代」(38.7%)がそれぞれ最も高い。また、夫婦のみ世帯では「80歳以上」が23.2%と他の世帯区分に比べて高く、老老介護の状況が推察される。

【B票-問4 主な介護者の年齢】



20歳未満 20代 30代 40代 50代
 60代 70代 80歳以上 わからない 無回答



(4) 勤務形態

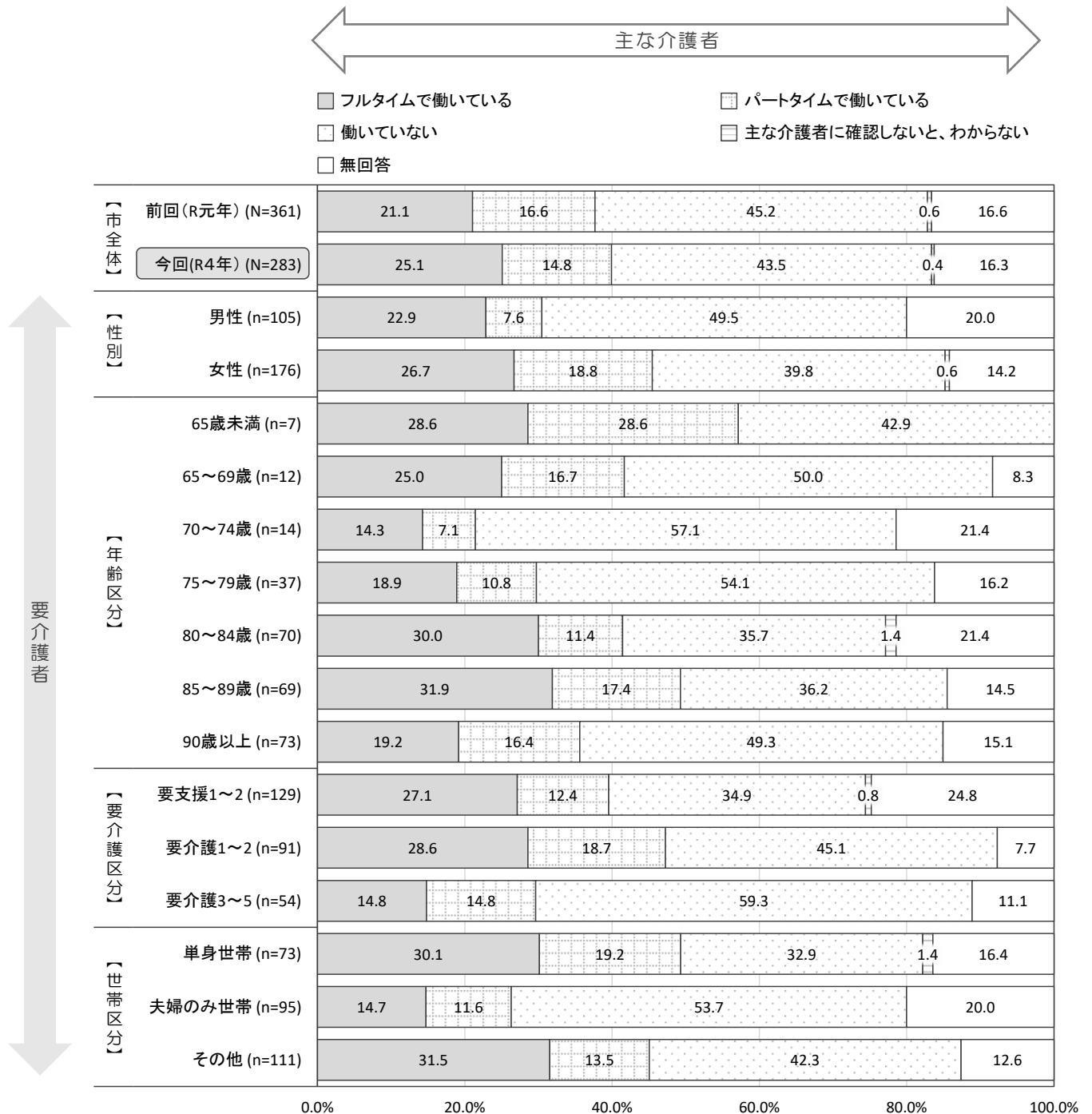
主な介護者の勤務形態は、市全体で「働いていない」が43.5%と最も高い。また、「フルタイムで働いている」(25.1%)と「パートタイムで働いている」(14.8%)を合わせた“勤務者”は39.9%と前回調査(37.7%)に比べて2.2ポイント増加している。

性別でみると、“勤務者”は、要介護者が男性では30.5%、女性では45.5%となる。年齢別でみると、“勤務者”は、要介護者が65歳未満(57.2%)、85~89歳(49.3%)が他の年齢に比べて高い。

要介護区分でみると、要介護3~5では“勤務者”の割合は減少している。

世帯区分でみると、“勤務者”は要介護者が単身世帯では49.3%と他の世帯区分に比べて高い。

【B票-問7 主な介護者の勤務形態】



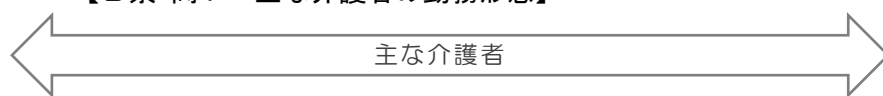
勤務形態を主な介護者の基本属性でみると次のとおりになる。

性別でみると、「フルタイムで働いている」は、男性（36.5%）が女性（21.5%）より15.0ポイント高く、「パートタイムで働いている」は、女性（17.2%）が男性（10.8%）より6.4ポイント高くなっている。“勤務者”は、男性は47.3%、女性は38.7%と男性の方が高い。

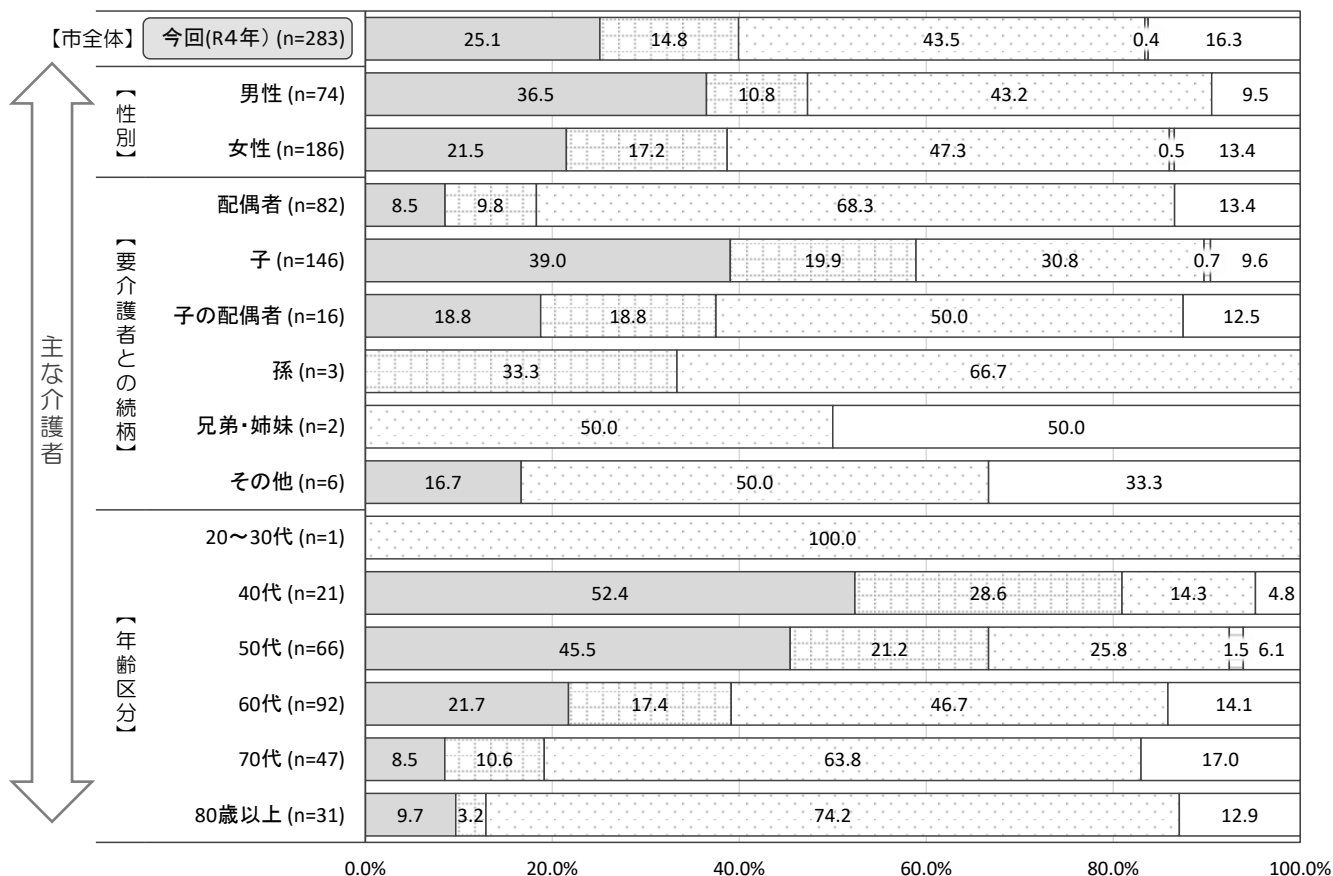
要介護者との続柄でみると、“勤務者”の割合は、主な介護者が子では58.9%、子の配偶者では37.6%、配偶者では18.3%となっている。また、「フルタイムで働いている」は、子（39.0%）が子の配偶者（18.8%）より20.2ポイント高い。

年齢別でみると、「フルタイムで働いている」は、40代（52.0%）と50代（45.5%）が他の年齢に比べて高く、“勤務者”の割合は、40代では81.0%、50代では66.7%となっている。

【B票-問7 主な介護者の勤務形態】



- フルタイムで働いている
- パートタイムで働いている
- 働いていない
- 主な介護者に確認しないと、わからない
- 無回答



3. 生活状況

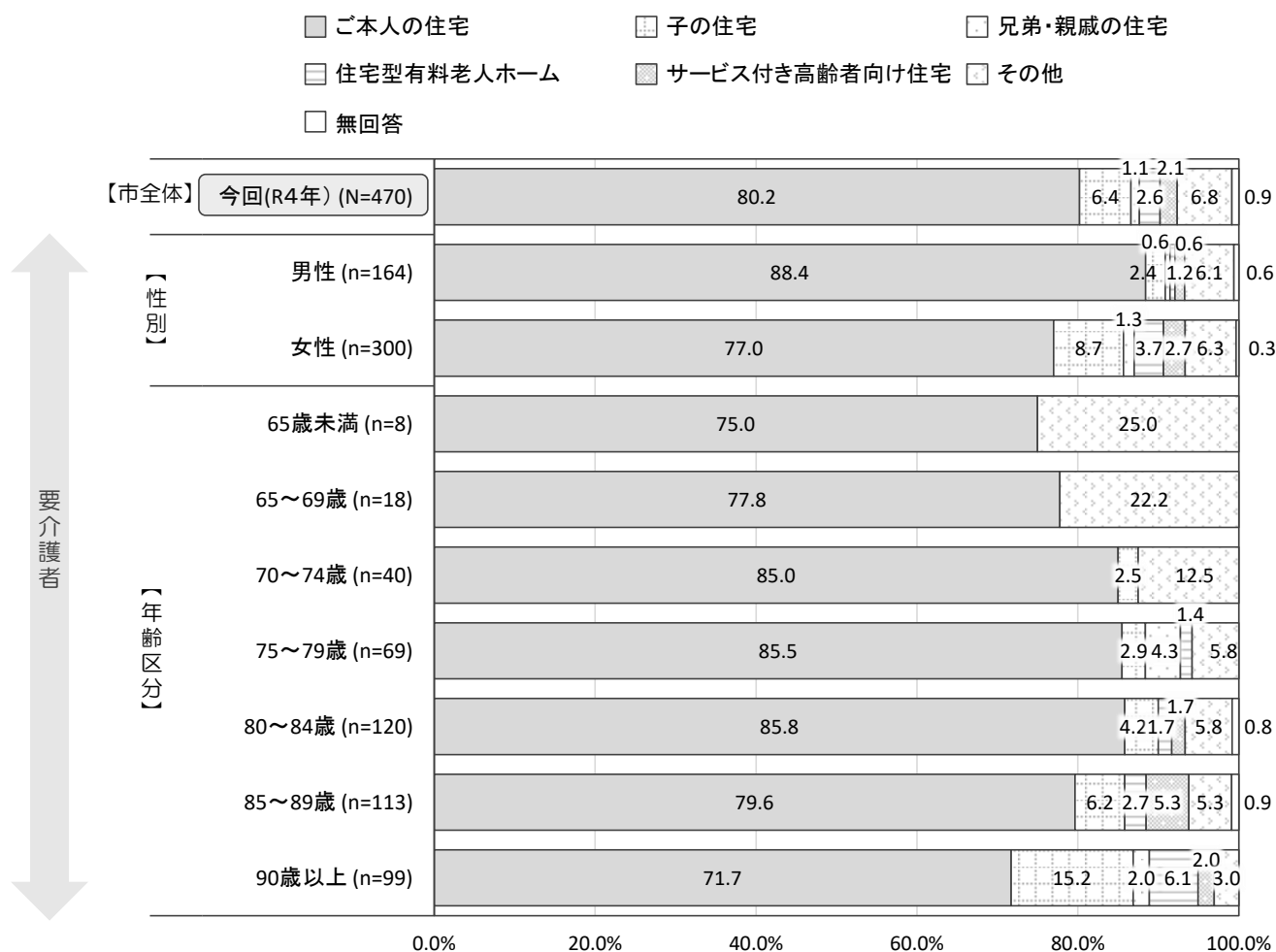
(1) 現在の住まい

現在の住まいは、市全体では「ご本人の自宅」が80.2%と最も高く、次いで「その他」(6.8%)、「子の住宅」(6.4%)の順に続く。また、「住宅型有料老人ホーム」(2.6%)や「サービス付き高齢者向け住宅」(2.1%)への入居もみられる。

性別でみると、「ご本人の自宅」は、男性が88.4%と女性(77.0%)より11.4ポイント高く、「子の住宅」は、女性が8.7%と男性(2.4%)より6.3ポイント高くなっている。

年齢別でみると、69歳未満では「その他」が他の年齢に比べて高く、具体的には賃貸住宅(借家・アパート等)と回答している。80～84歳では「ご本人の自宅」が85.8%と他の年齢に比べて高い。75歳以上では、年齢が上がるにつれて「子の住宅」の割合が増加し、90歳以上では15.2%となっている。

【A票-問3 現在の住まい】



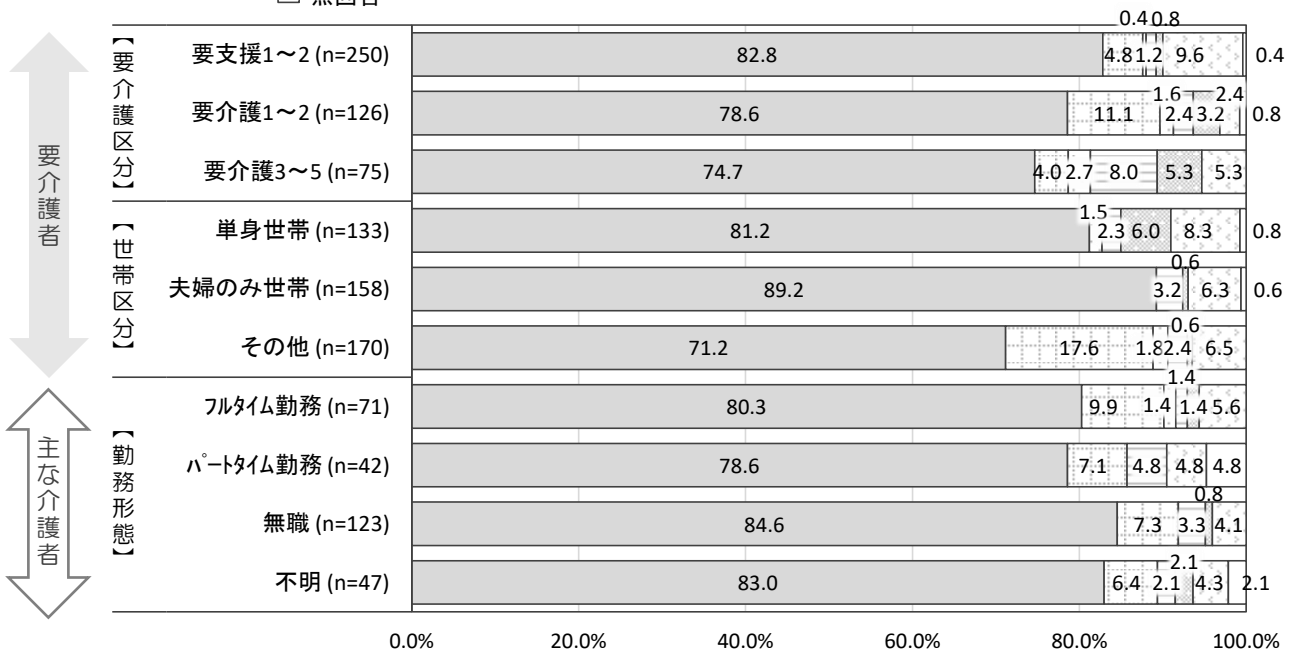
要介護区分でみると、要介護度が上がるにつれて「ご本人の自宅」が減少し、「住宅型有料老人ホーム」、「サービス付き高齢者向け住宅」が増加している。

世帯区分でみると、夫婦のみ世帯では「ご本人の自宅」(89.2%)、単身世帯では「その他」(8.3%)、「サービス付き高齢者向け住宅」(6.0%)、その他の世帯では「子の住宅」(17.6%)がそれぞれ他の世帯区分より高くなっている。

主な介護者の勤務形態でみると、「ご本人の自宅」は、無職が84.6%、フルタイム勤務が80.3%、パートタイム勤務が78.6%となっている。

【A票-問3 現在の住まい】

- ご本人の自宅
- 住宅型有料老人ホーム
- 子の住宅
- サービス付き高齢者向け住宅
- 兄弟・親戚の住宅
- その他
- 無回答



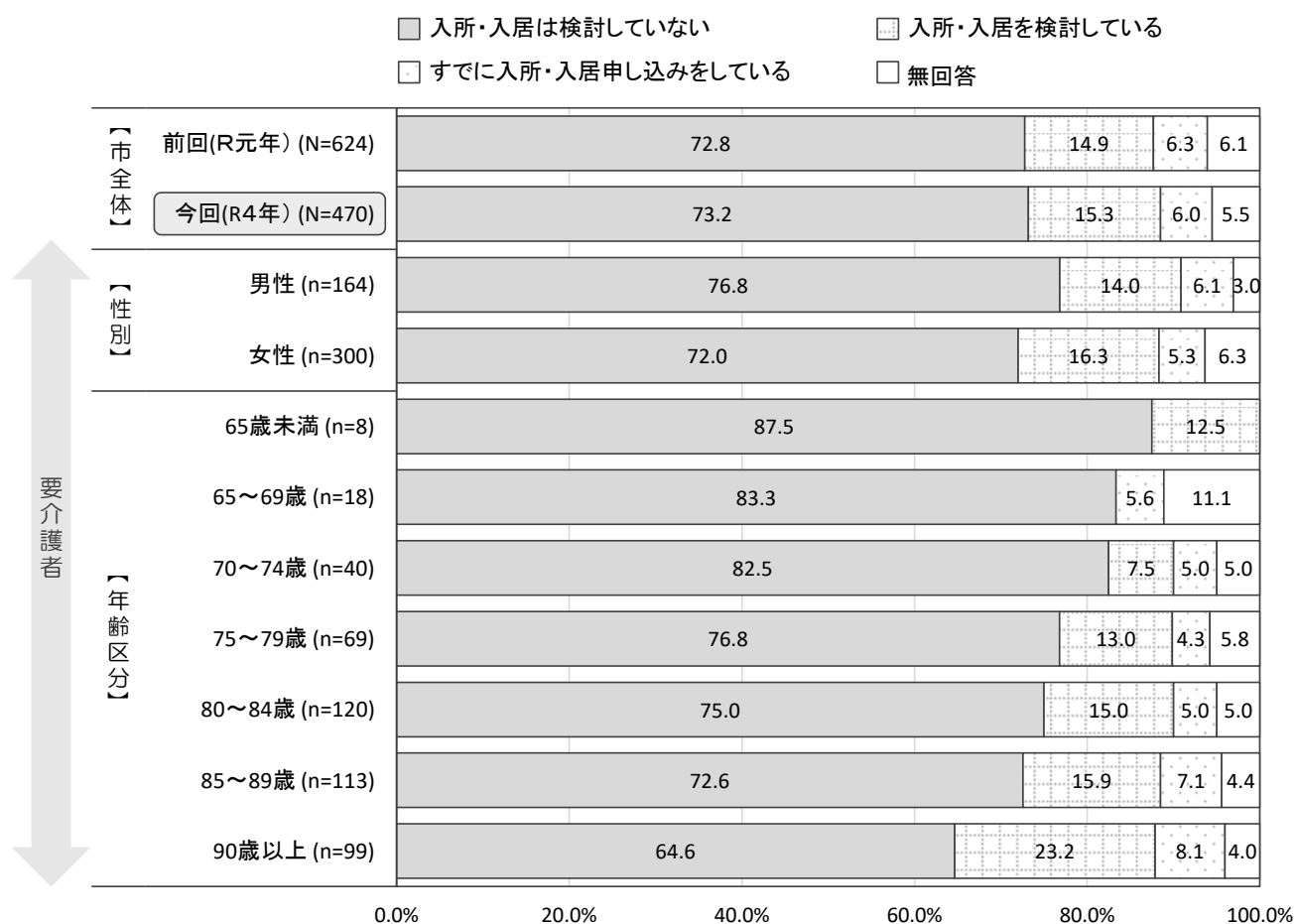
(2) 施設等への入所・入居の検討状況

施設等への入所・入居の検討状況は、市全体で「入所・入居は検討していない」が73.2%と最も高くなっている。また、「入所・入居を検討している」と「すでに入所・入居申し込みをしている」を合わせた“入所・入居意向あり”とする割合は21.3%となっており、前回調査(21.2%)と同様の傾向がみられる。

性別でみると、“入所・入居意向あり”の割合は、男性が20.1%、女性が21.6%とやや女性の方が高い。

年齢別でみると、“入所・入居意向あり”の割合は、年齢が上がるにつれて増加している。85～89歳で23.0%と市全体の割合を上回るようになり、90歳以上では31.3%と高くなっている。

【A票-問7 施設等への入所・入居の検討状況】



要介護区分でみると、“入所・入居意向あり”の割合は、要支援1～2では13.2%、要介護1～2では33.3%、要介護3～5では32.0%となっている。

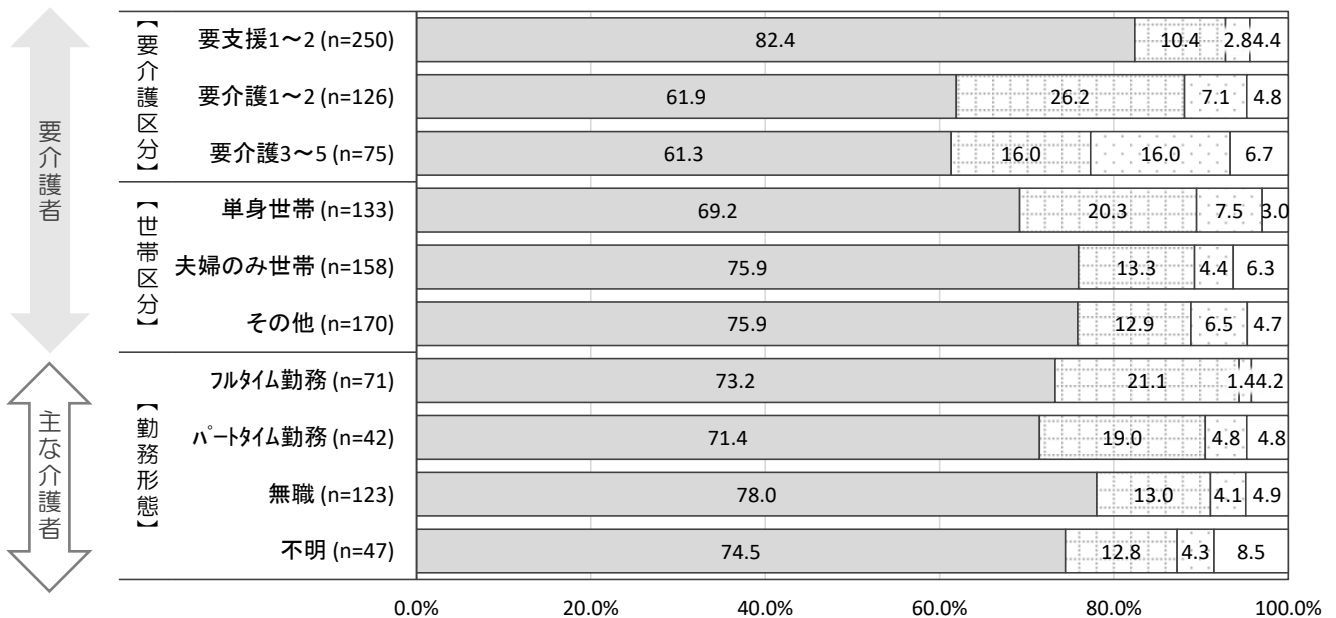
世帯区分でみると、“入所・入居意向あり”の割合は、単身世帯が27.8%と最も高く次いで、その他の世帯が19.4%、夫婦のみ世帯が17.7%の順に続く。

主な介護者の勤務形態でみると、“入所・入居意向あり”の割合は、フルタイム勤務では22.5%、パートタイム勤務では23.8%、無職では17.1%となっており、勤務者の入所・入居意向は高い。

加齢や心身の状態の悪化・重度化、単身世帯、勤務者による在宅介護の困難さなどが、入所・入居意向に影響していると考えられる。

【A票-問7 施設等への入所・入居の検討状況】

- 入所・入居は検討していない
- 入所・入居を検討している
- すでに入所・入居申し込みをしている
- 無回答

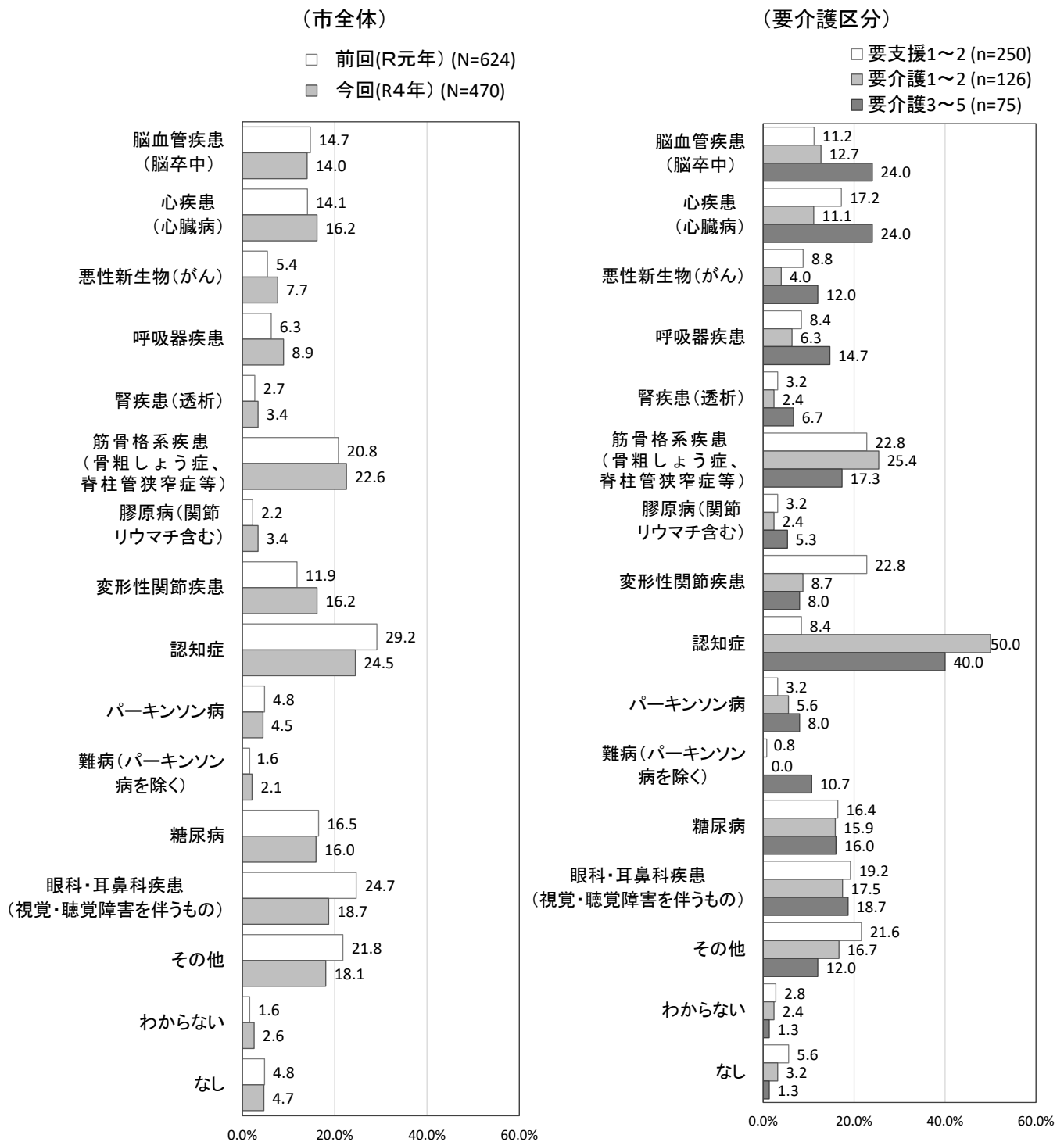


(3) 抱えている傷病

要介護者が現在抱えている傷病について、市全体で「認知症」が24.5%と最も高く、次いで「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」(22.6%)、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」(18.7%)、「その他」(18.1%)と続く。

要介護区分でみると、要介護度が上がるにつれて「脳血管疾患（脳卒中）」「パーキンソン病」の割合が増加している。また、要支援1～2では「変形性関節疾患」「糖尿病」「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」「その他」の割合が、要介護認定者より高い。

【A票-問8 要介護者が抱える傷病】



4. 介護保険サービスの利用について

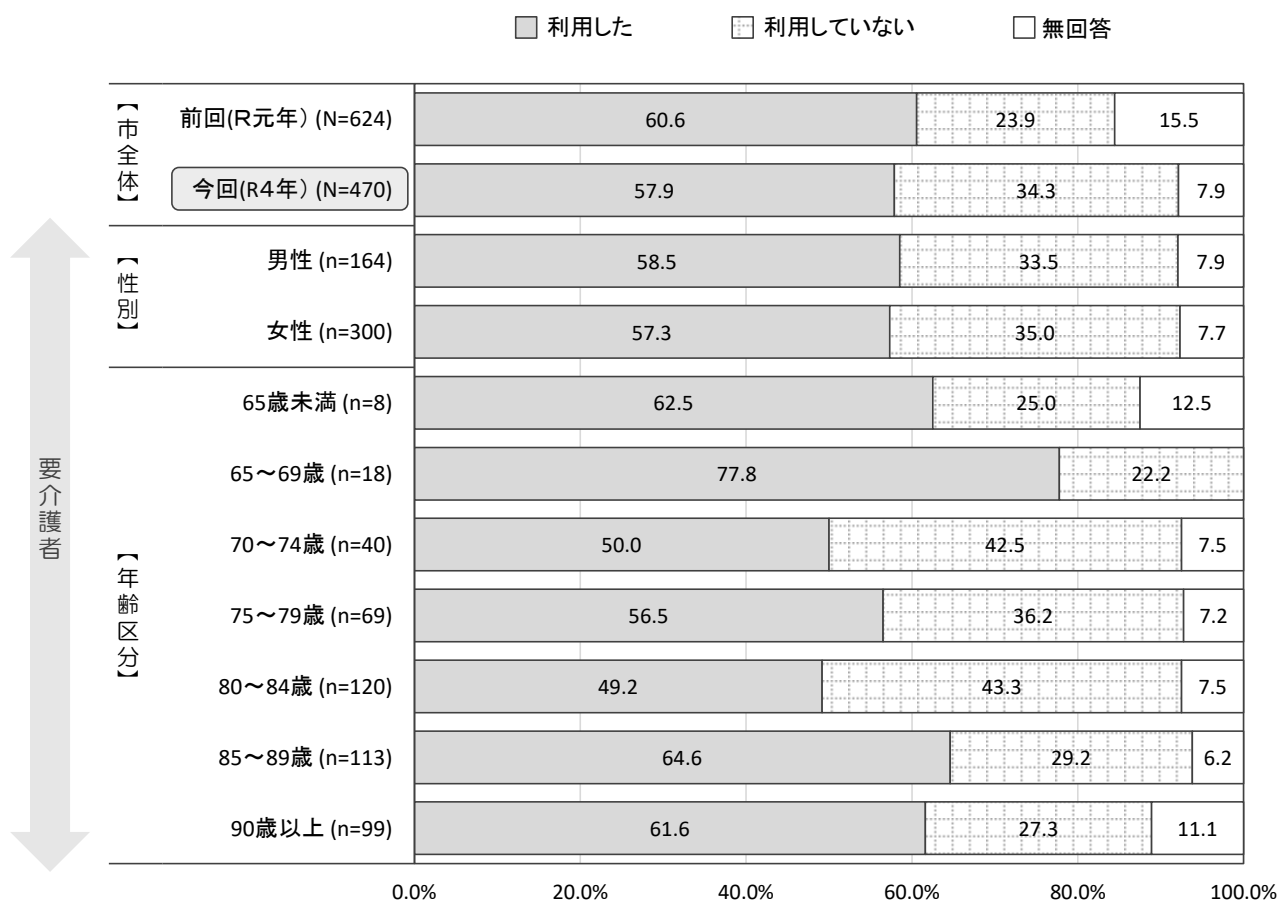
(1) 介護保険サービスの利用の有無

1か月の間に、住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービスの利用について、市全体では「利用した」が57.9%、「利用していない」が34.3%となっており、前回調査と比べて、介護保険サービスの利用はやや減少している。

性別で見ると、ほとんど差はみられない。

年齢別で見ると、「利用した」は、65～69歳が77.8%と最も高く、次いで85～89歳(64.6%)、65歳未満(62.5%)の順に続く。一方、80～84歳では49.2%と他の年齢に比べて低くなっている。

【A票-問9 介護保険サービスの利用】



要介護区分でみると、「利用した」は、要介護度が上がるにつれて増加し、要介護3～5では80.0%となっている。

世帯区分でみると、「利用した」は、単身世帯が60.9%と最も高く、次いで夫婦のみ世帯(58.2%)、その他の世帯(56.5%)

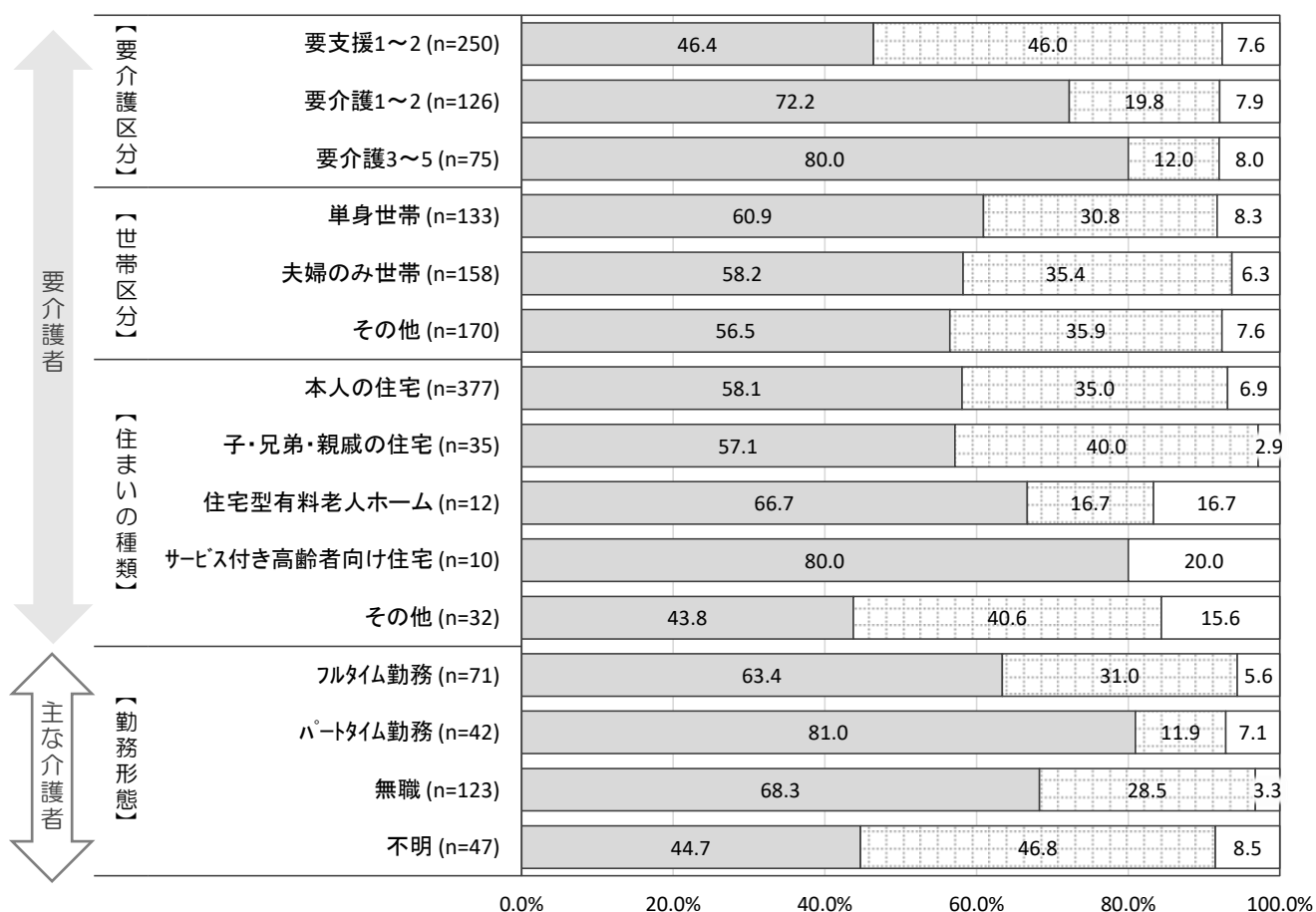
その他の世帯が64.1%と最も高く、次いで単身世帯(60.7%)、夫婦のみ世帯(57.7%)となっている。

住まいの種類でみると、「利用した」は、サービス付き高齢者向け住宅(80.0%)と住宅型有料老人ホーム(66.7%)が高くなっている。

主な介護者の勤務形態でみると、パートタイム勤務では「利用した」が81.0%となっており、主な介護者が勤務しながら在宅介護を続けるためには、介護保険サービスの利用が必要とされている。

【A票-問9 介護保険サービスの利用】

■ 利用した ■ 利用していない □ 無回答

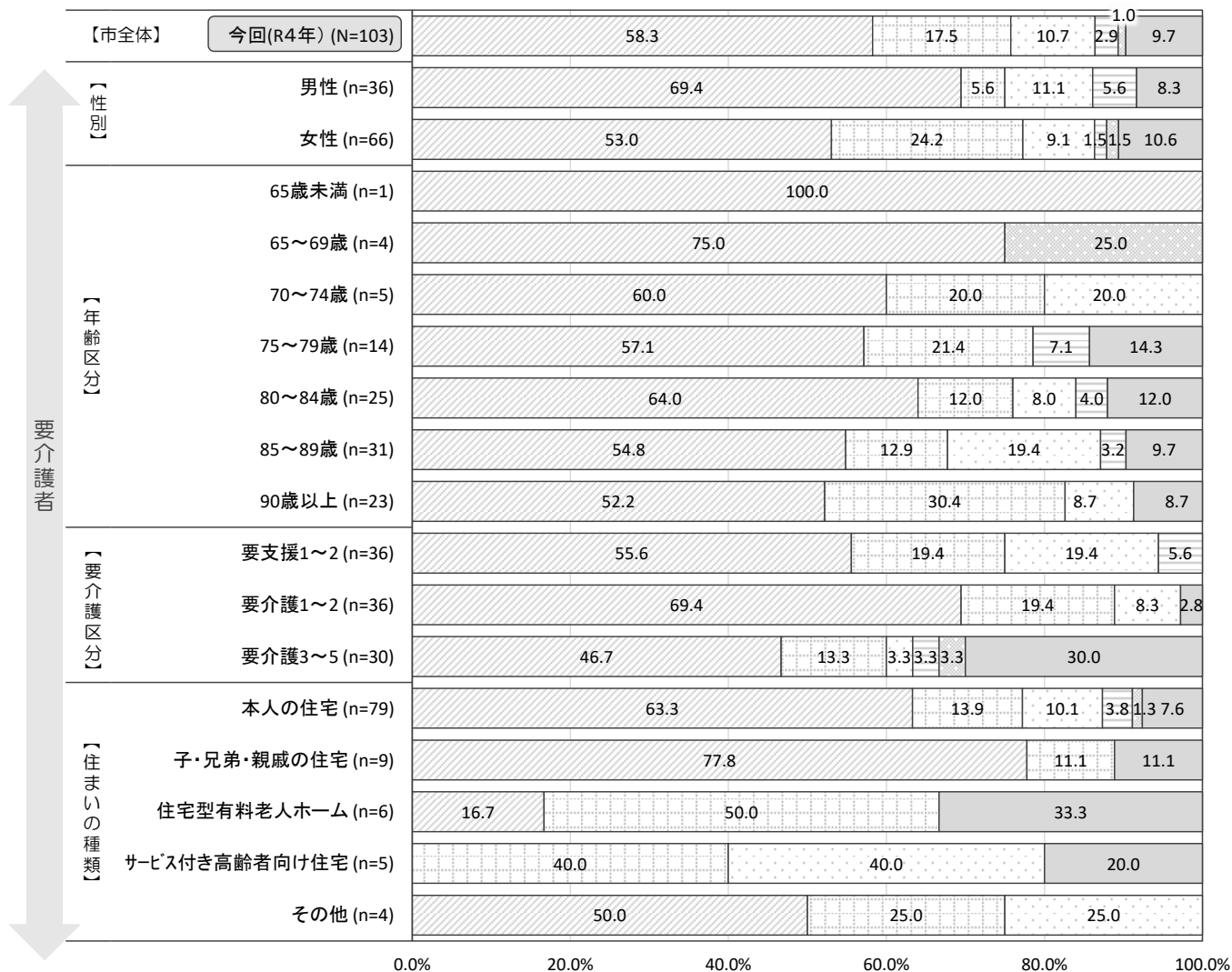


(2) 介護保険サービスの1か月間の利用状況（令和4年11月）

A. 訪問介護（ホームヘルプサービス）

「利用していない」（58.3%）、「週1回程度」（17.5%）、「週2回程度」（10.7%）の順に続く。

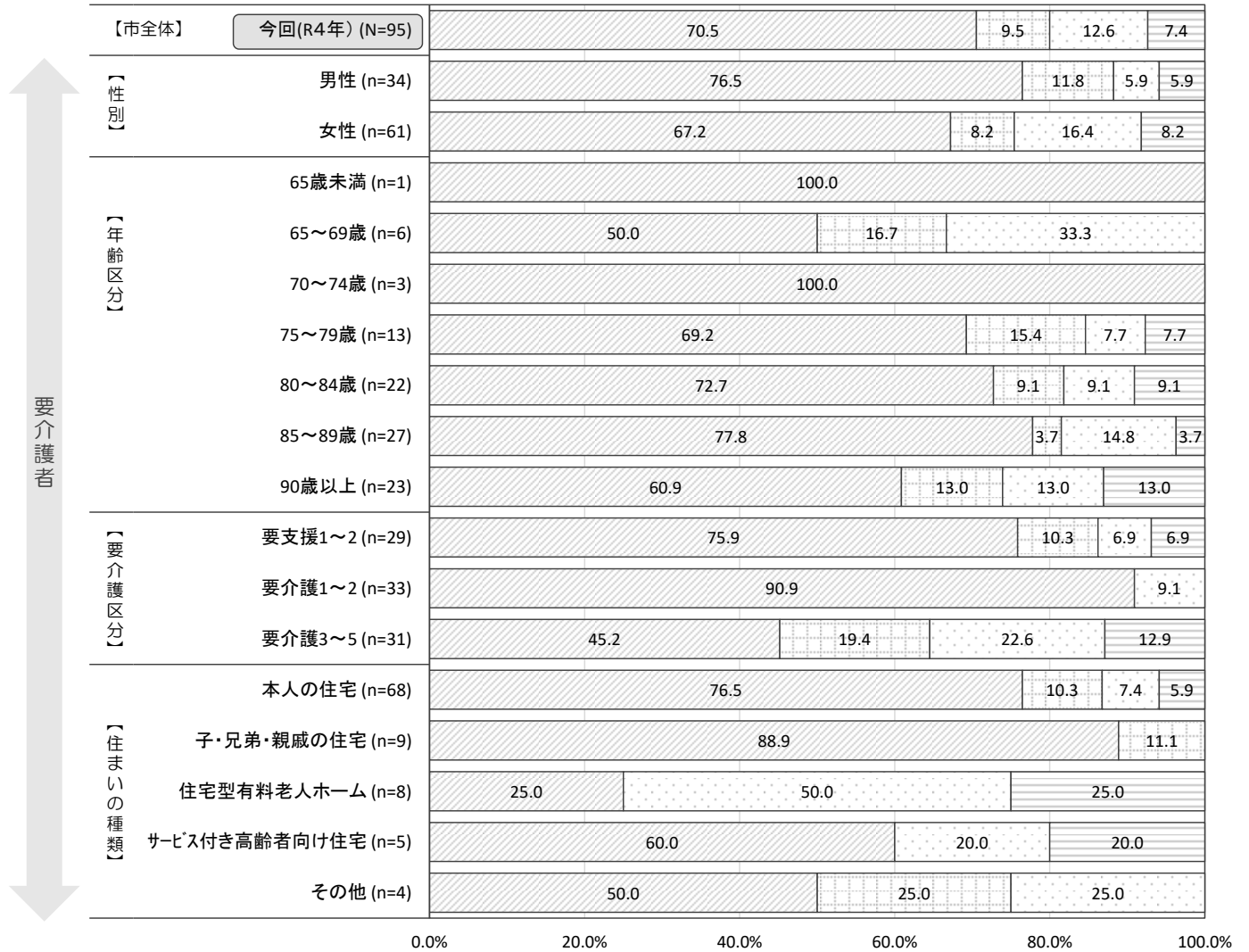
※母数は介護保険サービス未利用 □ 利用していない ▨ 週1回程度 □ 週2回程度 □ 週3回程度 ▨ 週4回程度 □ 週5回程度
と無回答除く



B. 訪問入浴介護

「利用していない」(70.5%)、「週2回程度」(12.6%)、「週1回程度」(9.5%)の順に続く。

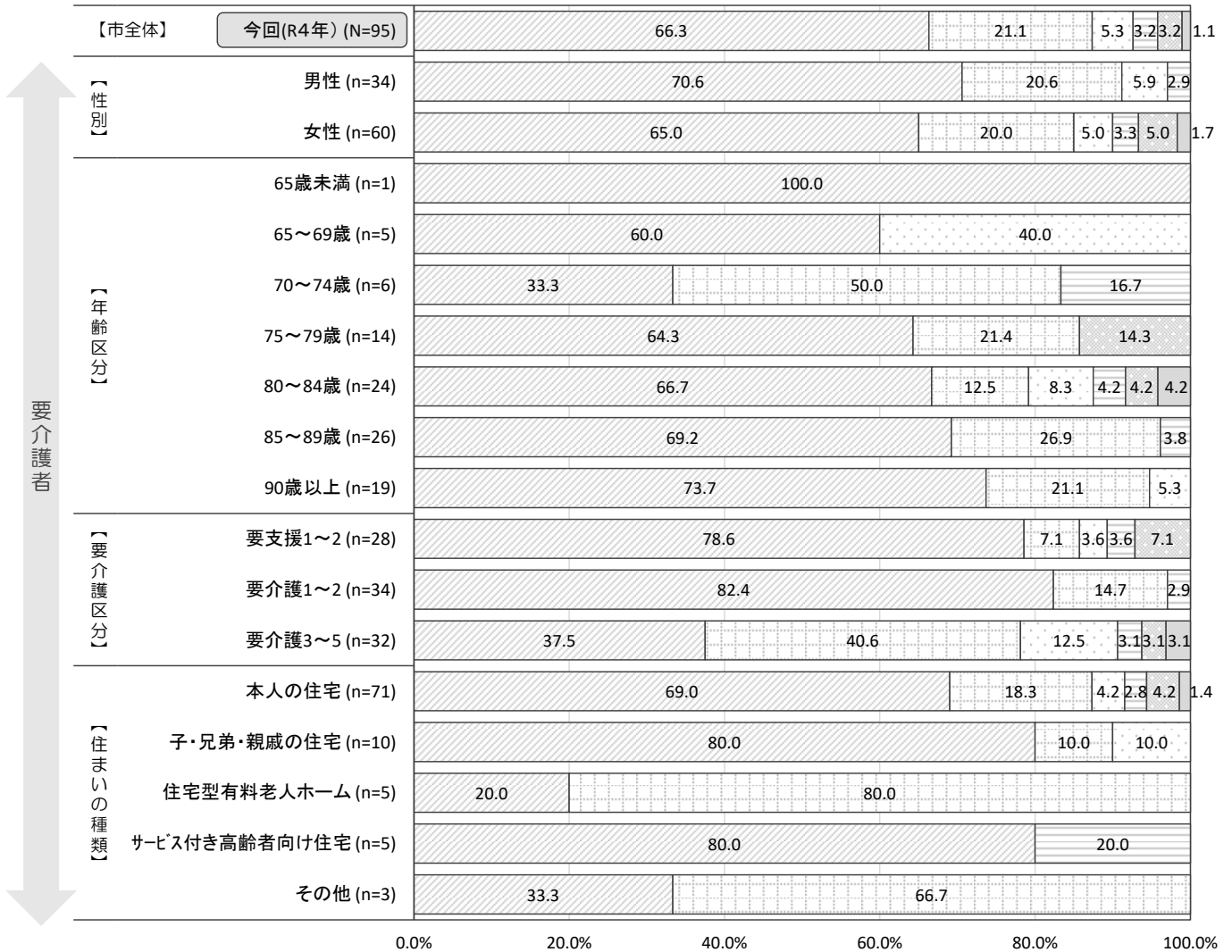
※母数は介護保険サービス未利用 利用していない 週1回程度 週2回程度 週3回程度 週4回程度 週5回程度
と無回答除く



C. 訪問看護

「利用していない」(66.3%)、「週1回程度」(21.1%)、「週2回程度」(5.3%)の順に続く。

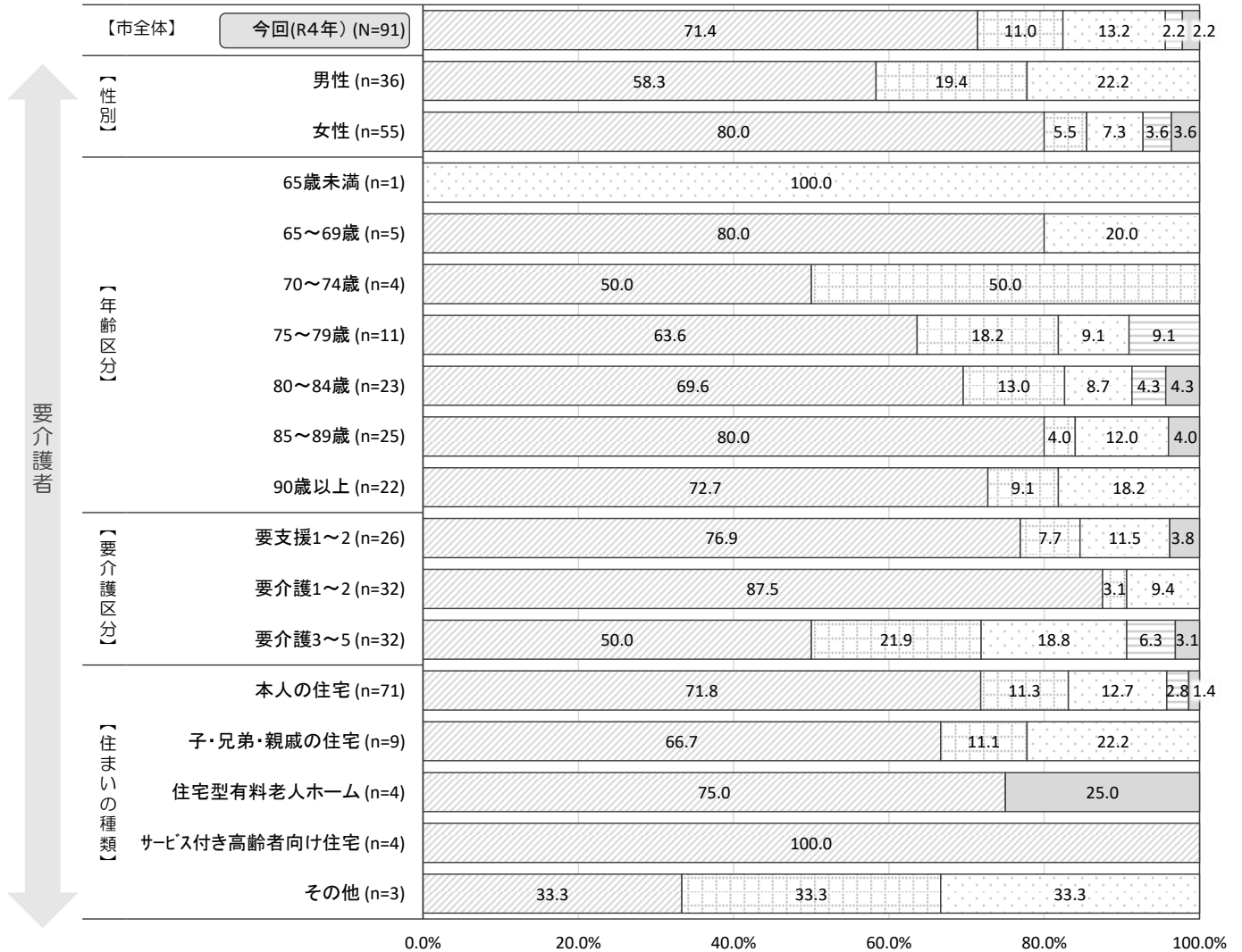
※母数は介護保険サービス未利用 利用していない 週1回程度 週2回程度 週3回程度 週4回程度 週5回程度
と無回答除く



D. 訪問リハビリテーション

「利用していない」(71.4%)、「週2回程度」(13.2%)、「週1回程度」(11.0%)の順に続く。

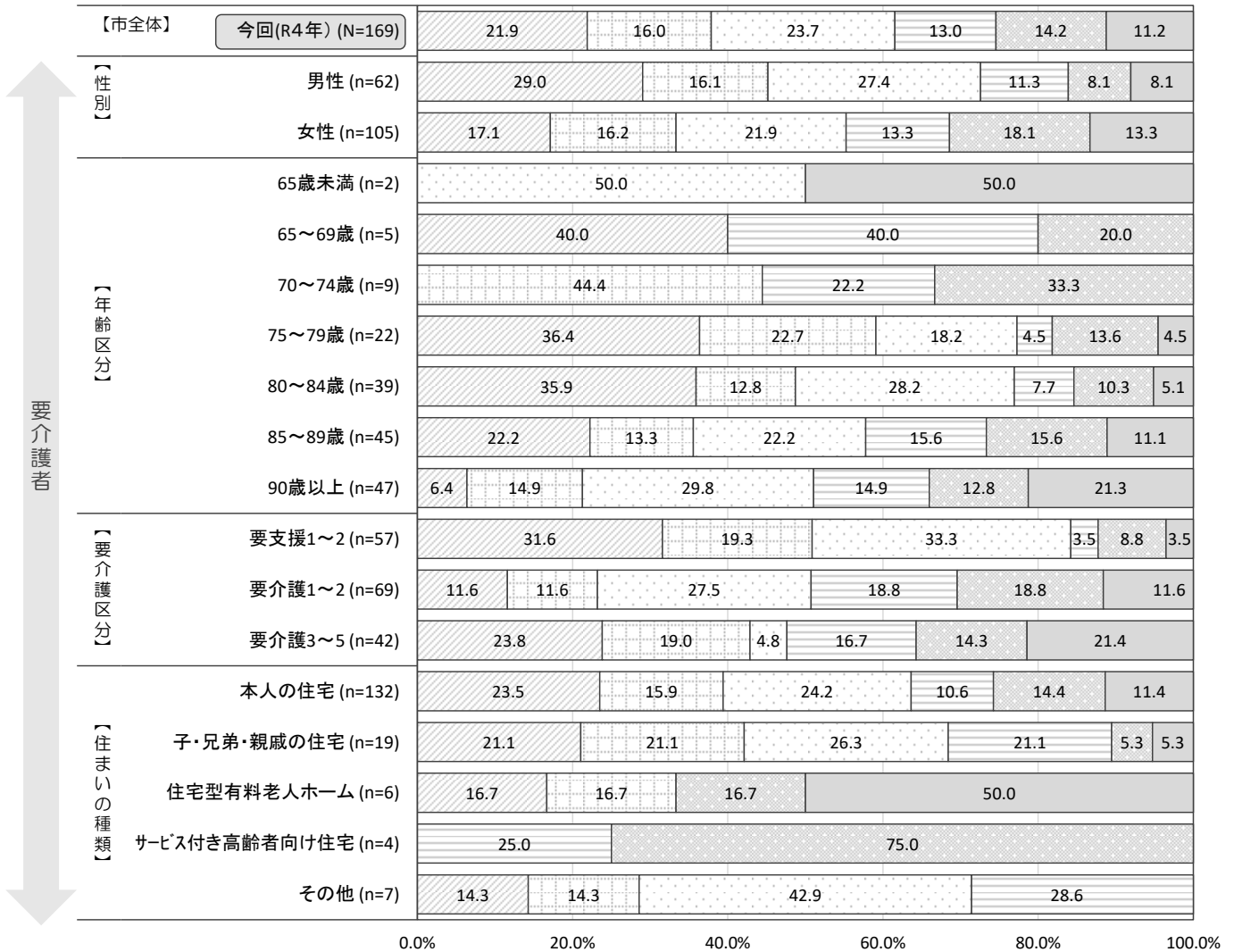
※母数は介護保険サービス未利用 利用していない 週1回程度 週2回程度 週3回程度 週4回程度 週5回程度
と無回答除く



E. 通所介護（デイサービス）

「週2回程度」（23.7%）、「利用していない」（21.9%）、「週1回程度」（16.0%）の順に続く。

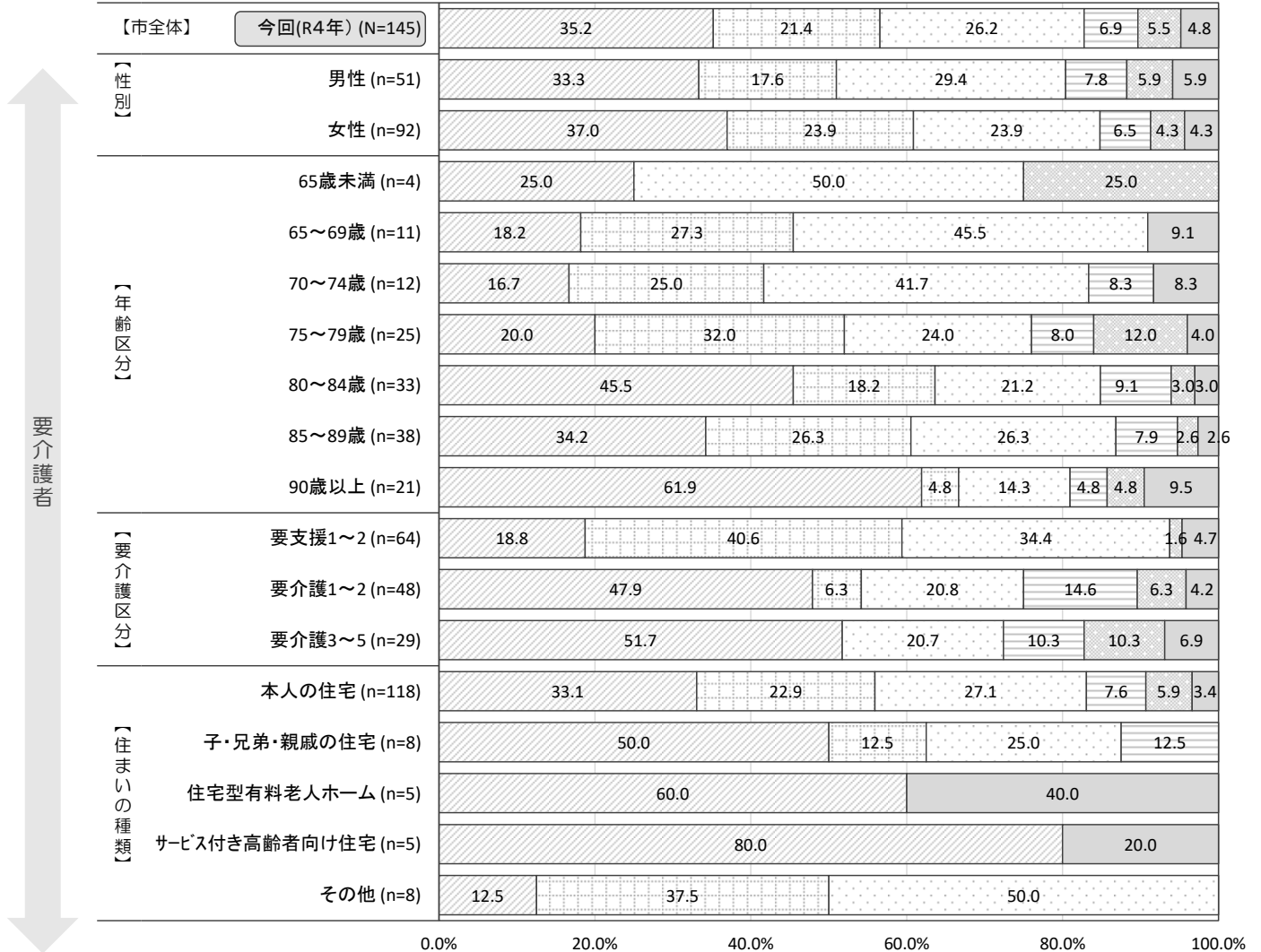
※母数は介護保険サービス未利用 利用していない 週1回程度 週2回程度 週3回程度 週4回程度 週5回程度
と無回答除く



F. 通所リハビリテーション（デイケア）

「利用していない」（35.2%）、「週2回程度」（26.2%）、「週1回程度」（21.4%）の順に続く。

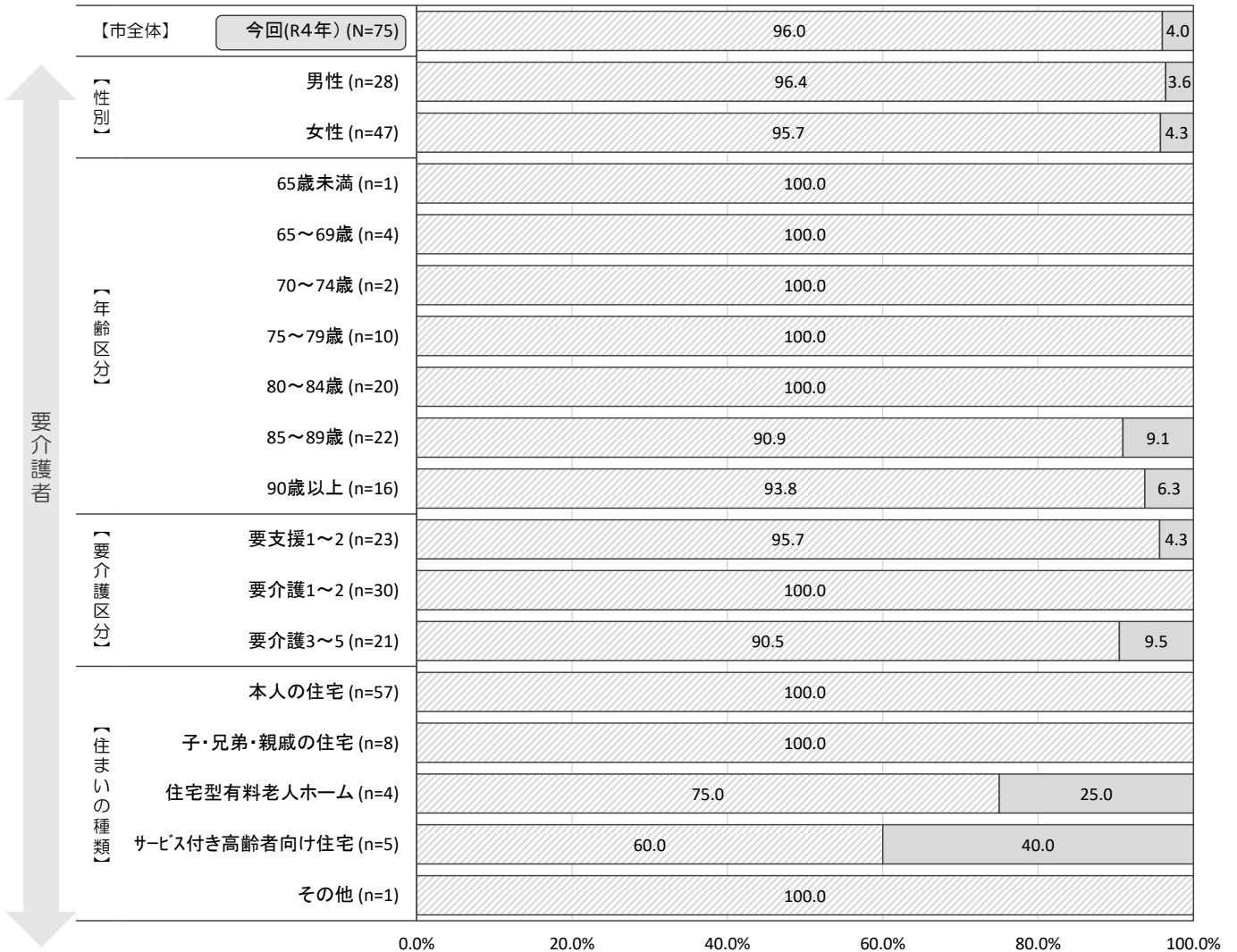
※母数は介護保険サービス未利用 □ 利用していない □ 週1回程度 □ 週2回程度 □ 週3回程度 □ 週4回程度 □ 週5回程度
と無回答除く



G. 夜間対応型訪問介護

「利用していない」(96.0%)、「週5回程度」(4.0%)の順に続く。

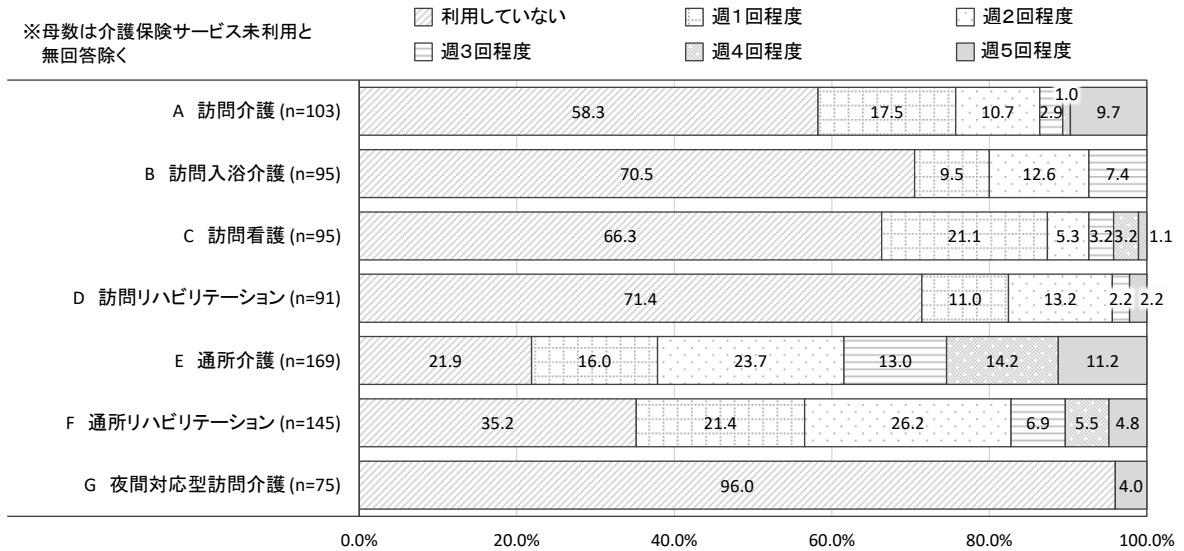
※母数は介護保険サービス未利用 □ 利用していない □ 週1回程度 □ 週2回程度 □ 週3回程度 □ 週4回程度 □ 週5回程度
と無回答除く



■ A～G（まとめ）

市全体で、“利用している”（「週1回」～「週5回」）とする割合は、[E 通所介護]が78.1%と突出して高く、次いで[F 通所リハビリテーション]（64.8%）、[A 訪問介護]（41.8%）、[C 訪問看護]（33.9%）、[B 訪問入浴介護]（29.5%）の順に続く。

【A票-問10 各種介護保険サービスの利用状況】



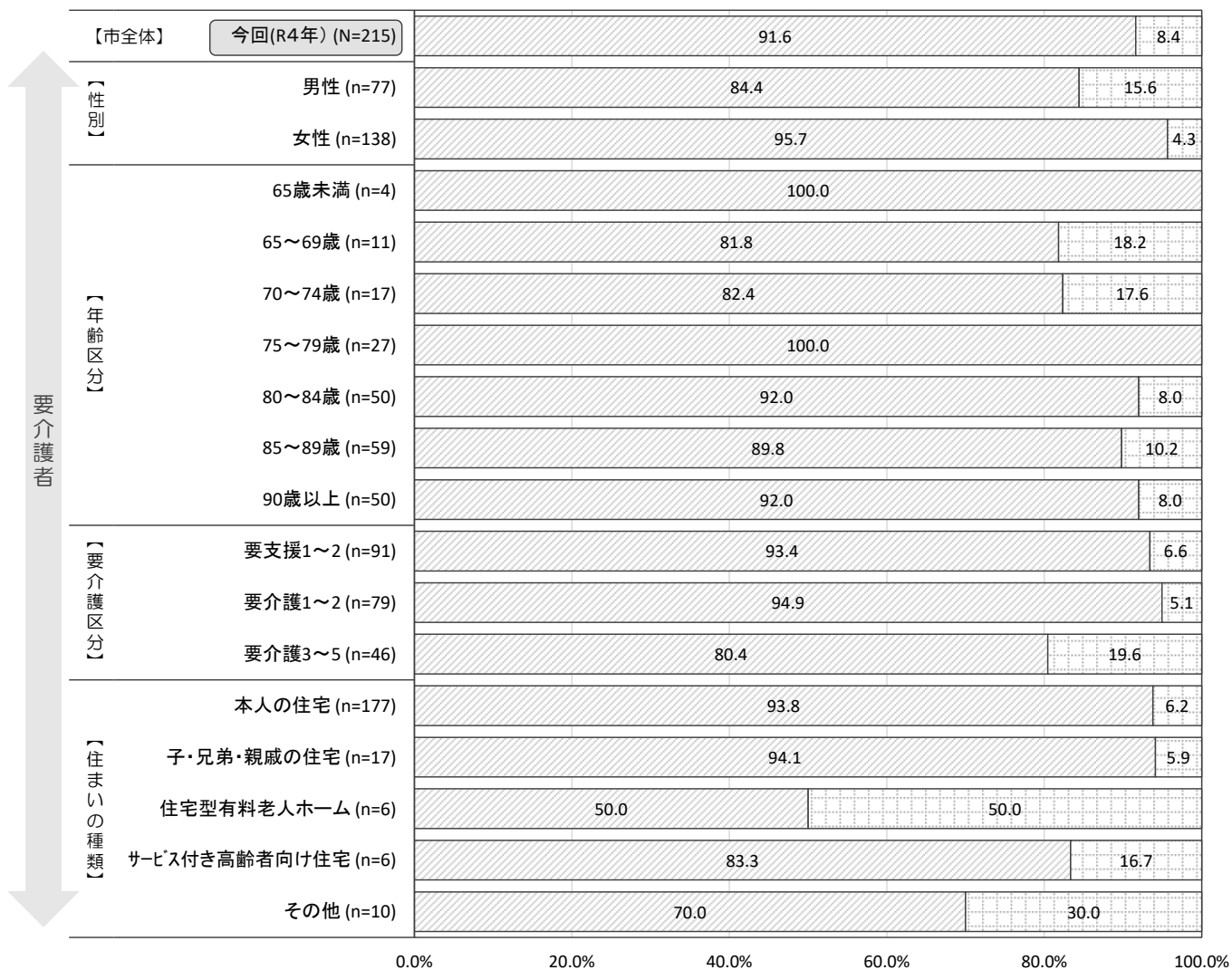
H. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

「利用していない」が91.6%、「利用した」が8.4%となっている。

※母数は介護保険サービス未利用
と無回答除く

利用していない

利用した



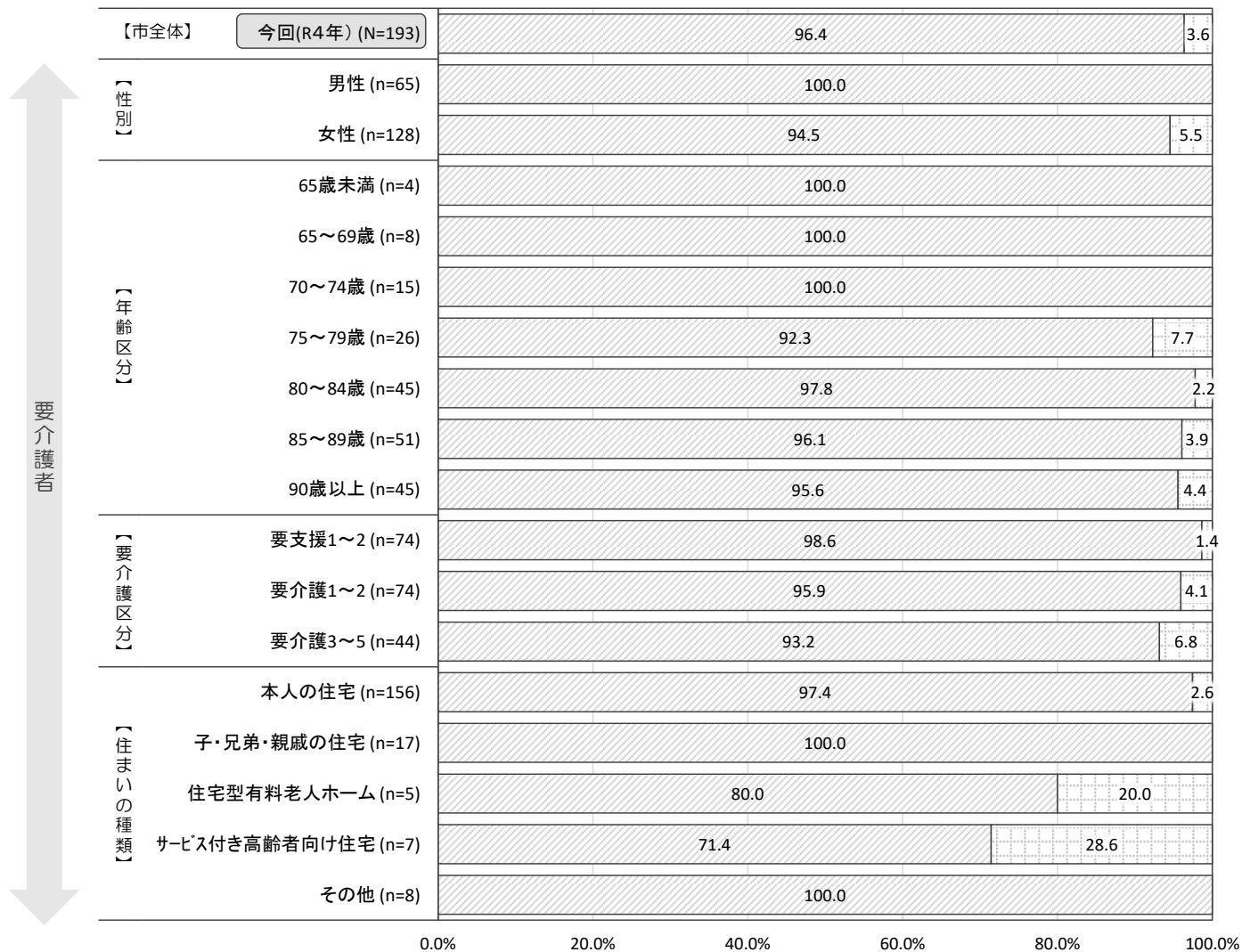
I. 小規模多機能型居宅介護

「利用していない」が96.4%、「利用した」が3.6%となっている。

※母数は介護保険サービス未利用
と無回答除く

☐ 利用していない

☑ 利用した



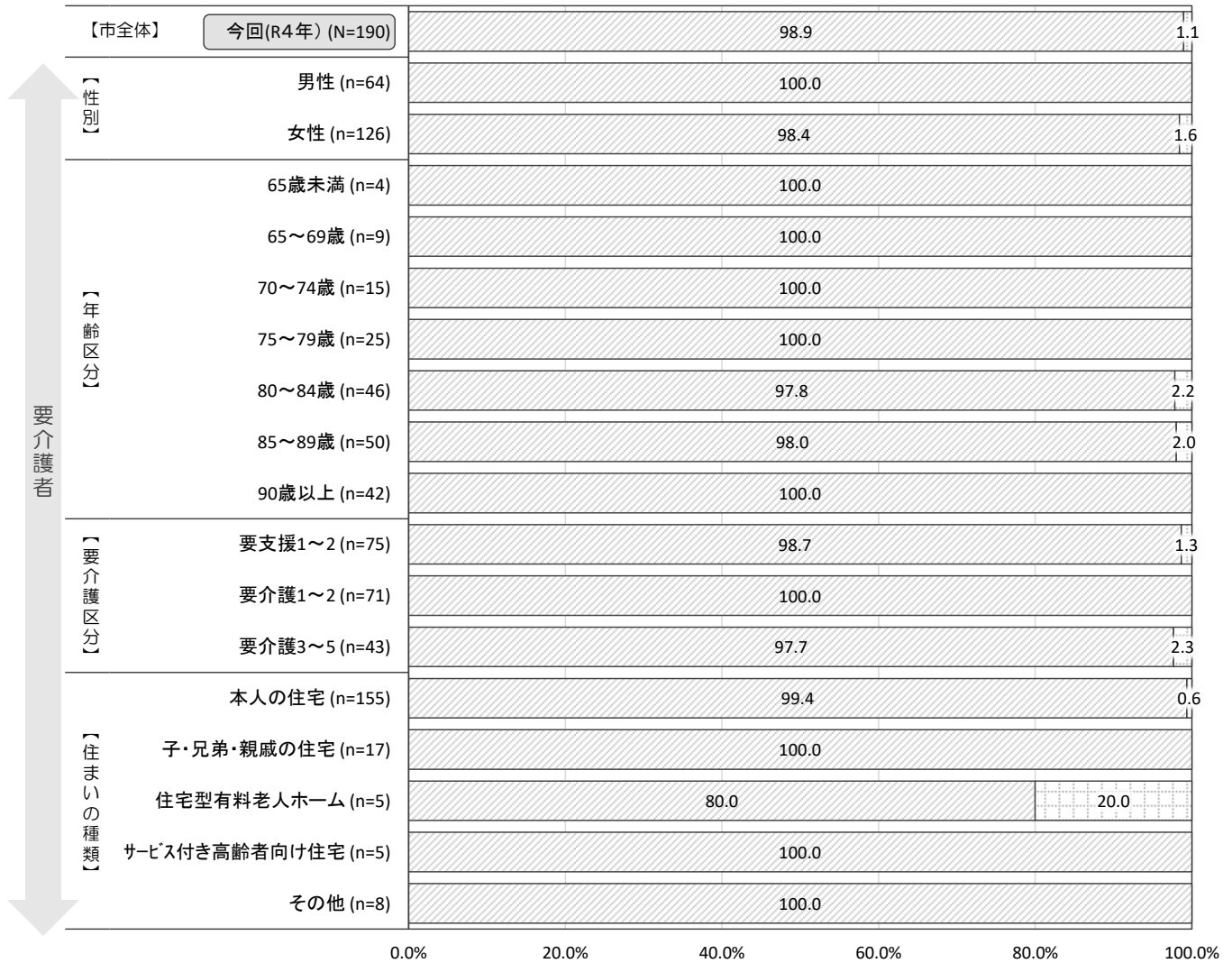
J. 看護小規模多機能型居宅介護

「利用していない」が98.9%、「利用した」が1.1%となっている。

※母数は介護保険サービス未利用
と無回答除く

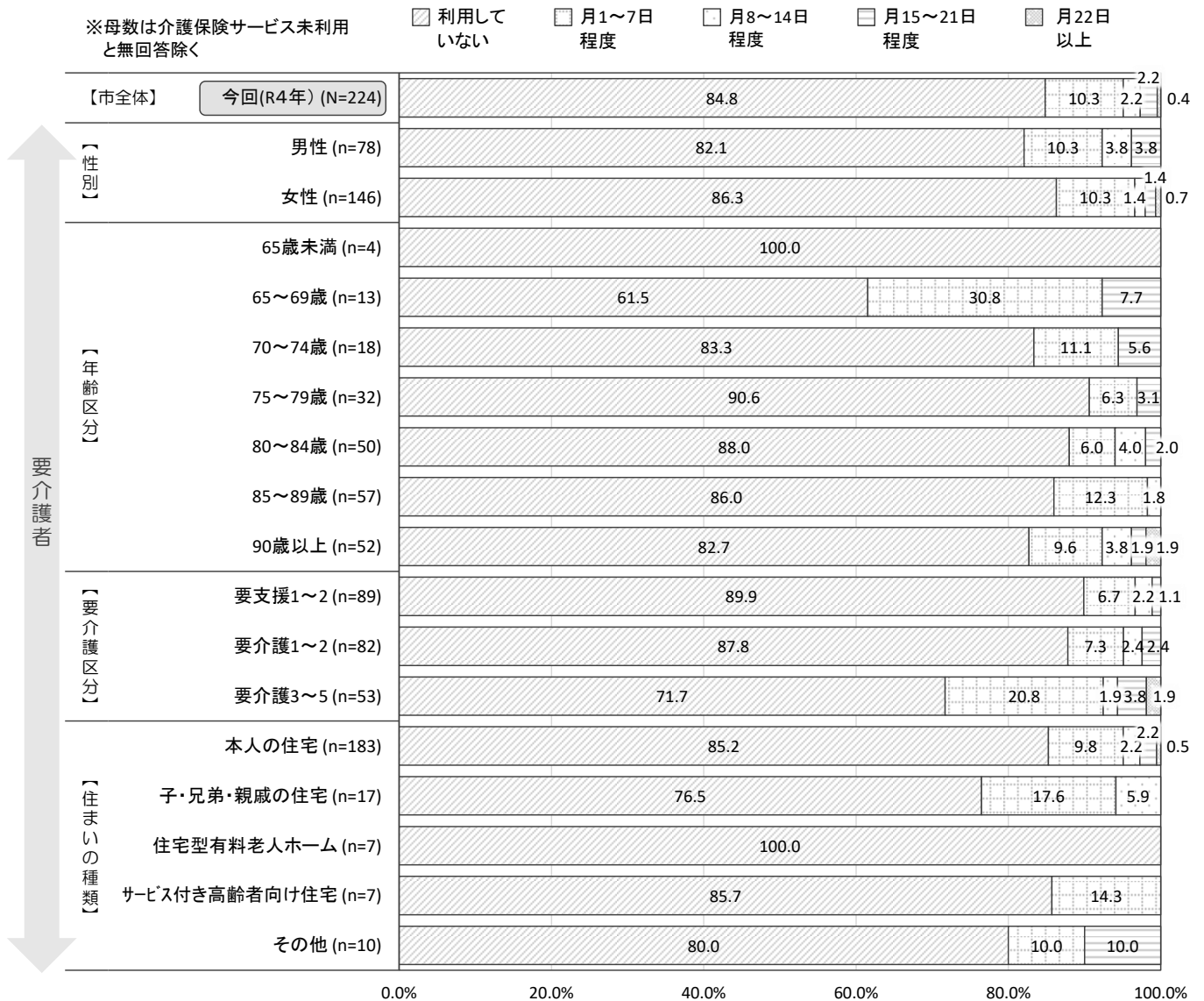
利用していない

利用した



K. ショートステイ

「利用していない」(84.8%)、「月1～7日程度」(10.3%)、「月8～14日程度」「月15～21日程度」(2.2%)の順に続く。

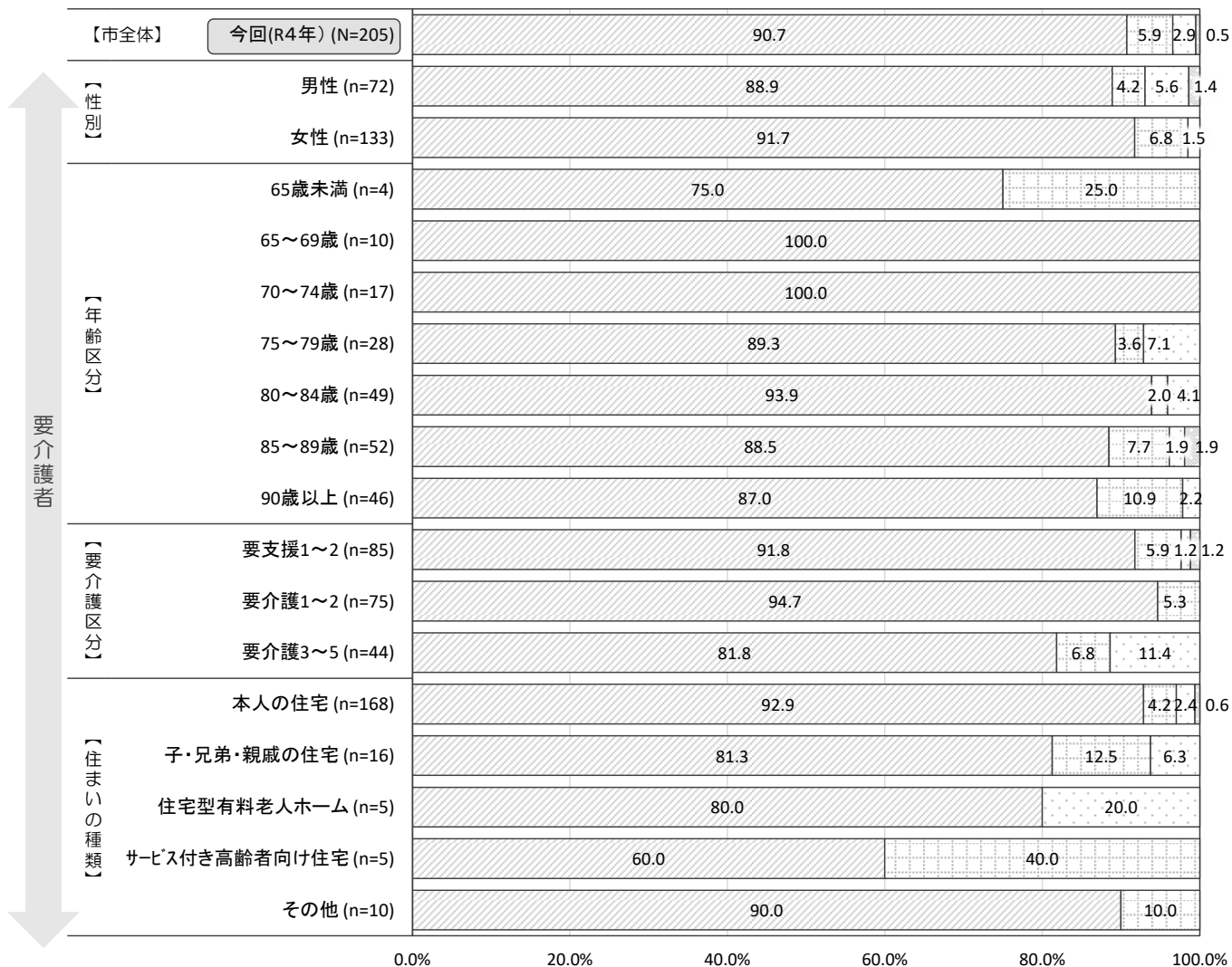


L. 居宅療養管理指導

「利用していない」(90.7%)、「月1回程度」(5.9%)、「月2回程度」(2.9%)の順に続く。

※母数は介護保険サービス未利用と無回答除く

利用していない
 月1回程度
 月2回程度
 月3回程度
 月4回程度

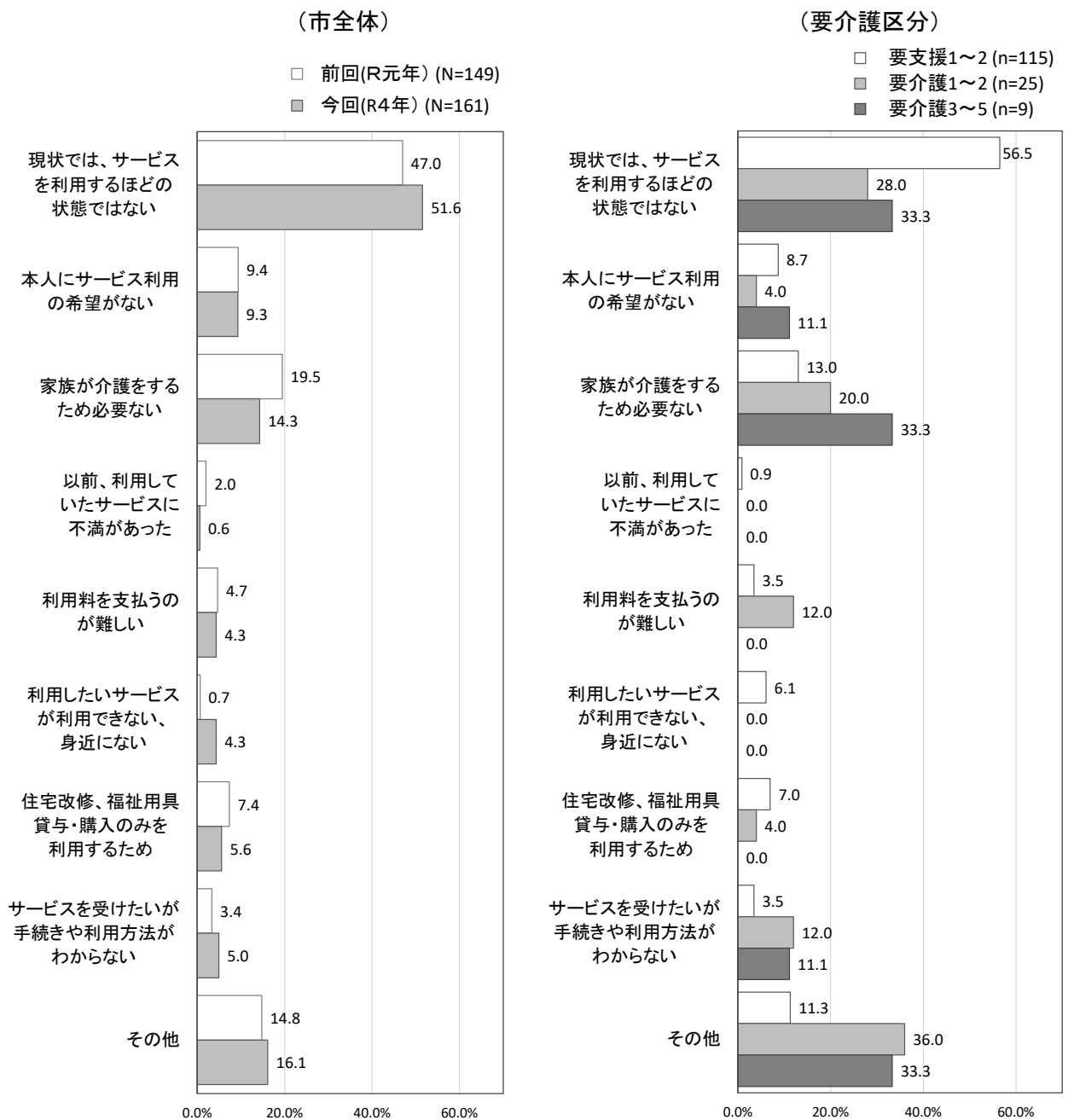


(3) 介護保険サービスを利用しない理由

住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービスを利用していない理由について、市全体で「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が51.6%と最も高く、次いで「その他」(16.1%)、「家族が介護をするため必要ない」(14.3%)、「本人にサービス利用の希望がない」(9.3%)と続く。

要介護区分でみると、要支援1～2では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が56.5%と最も高い。また、要介護度が上がるにつれて「家族が介護をするため必要ない」が増加しており、要介護3～5では33.3%となっている。

【A票-問11 介護保険サービスを利用しない理由】



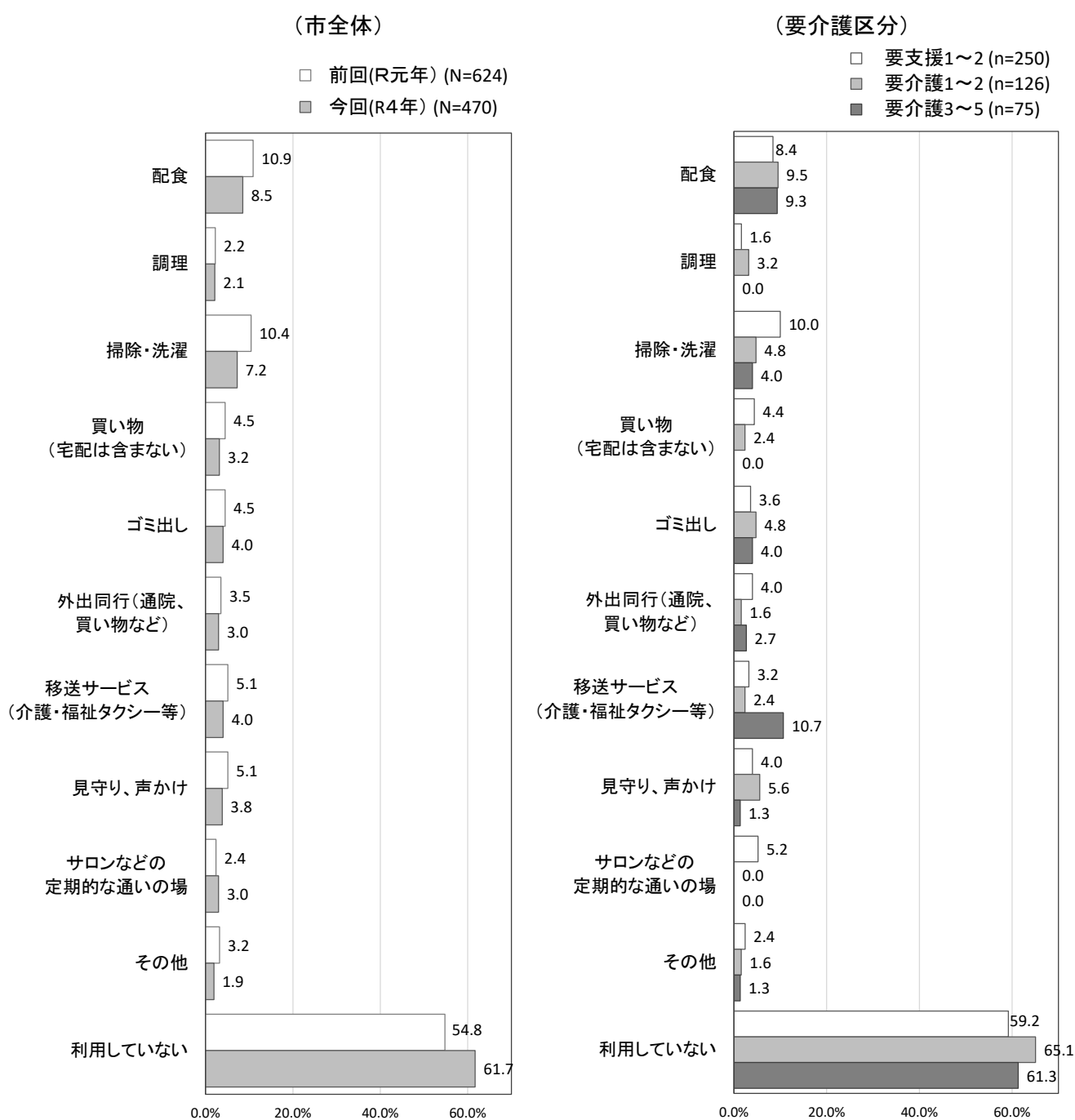
5. 介護保険サービス以外の支援や利用について

(1) 介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況

介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況について、市全体で「利用していない」が61.7%となっている。いずれかのサービスを利用している人では、「配食」が8.5%と最も高く、次いで「掃除・洗濯」(7.2%)、「ゴミ出し」「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」(4.0%)の順に続く。

要介護区分で見ると、要支援1～2では「掃除・洗濯」(10.0%)、要介護1～2では「配食」(9.5%)、要介護3～5では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」(10.7%)がそれぞれ最も高い。

【A票-問12 介護保険サービス以外の支援・サービスの利用】

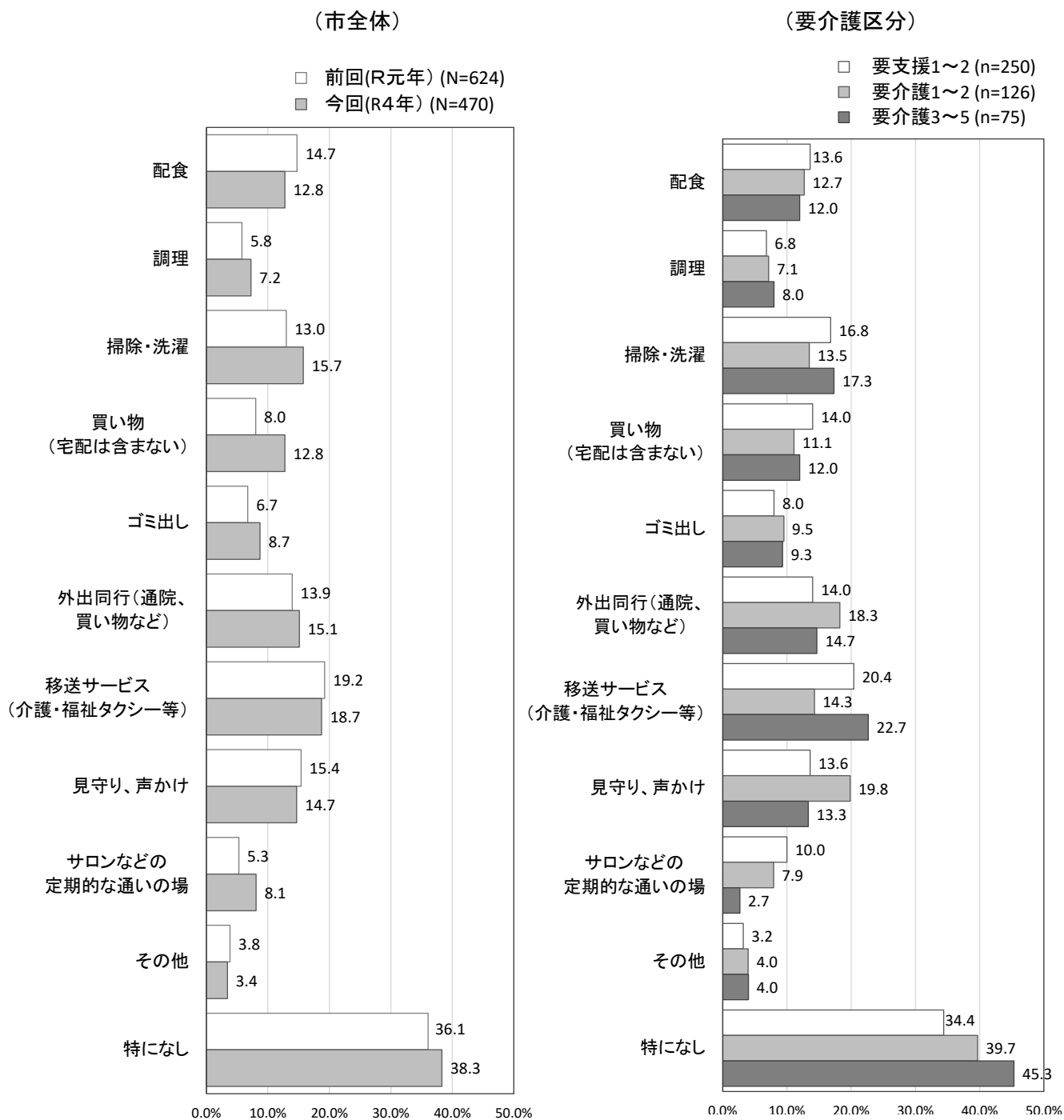


(2) 在宅生活の継続に必要な支援・サービス

今後の在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービスについて、市全体では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が18.7%と最も高く、次いで「掃除・洗濯」（15.7%）、「外出同行（通院、買い物など）」（15.1%）、「見守り・声かけ」（14.7%）の順に続く。

要介護区分でみると、要介護度が上がるにつれて「調理」の割合が増加している。また、要支援1～2と要介護3～5では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、要介護1～2では「見守り、声かけ」がそれぞれ最も高い。

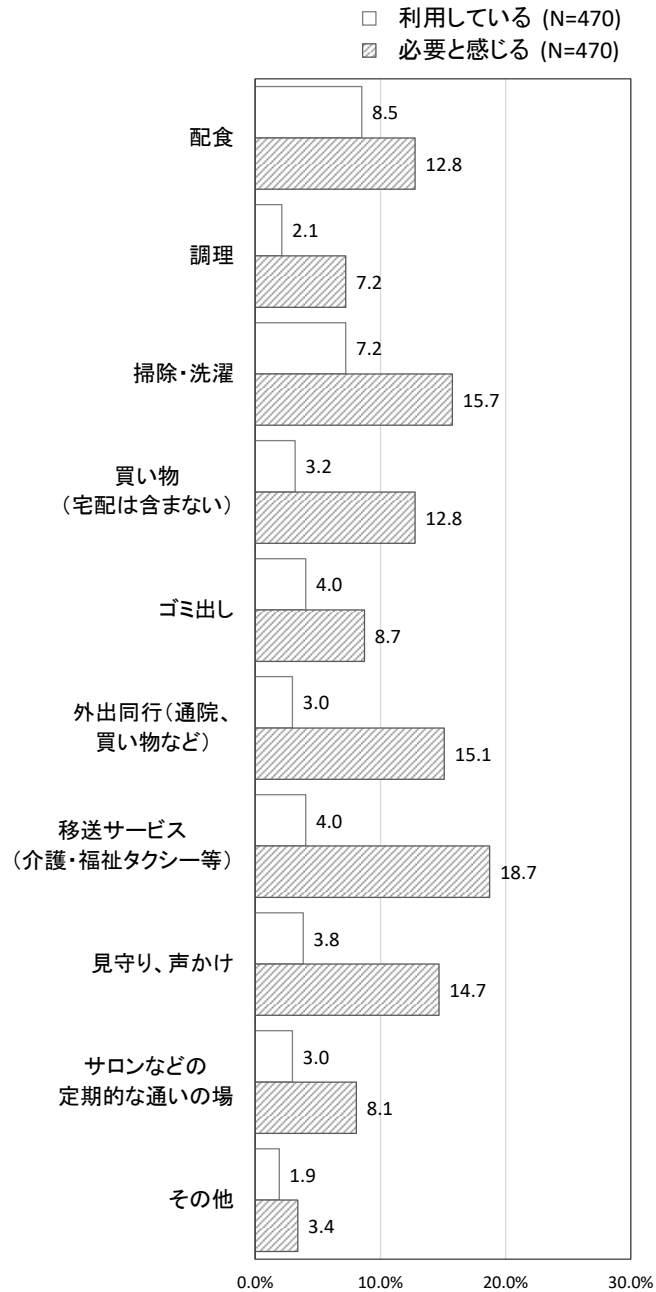
【A票-問13 必要な支援・サービス】



現在の利用状況と今後の必要性を比べると「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」
 「外出同行（通院、買い物など）」「見守り・声かけ」は、今後の必要性が現在の利用状
 況を10ポイント以上上回っており、必要性が高い支援・サービスと考えられる。

【A票-問13 必要な支援・サービス】

(利用状況・今後の必要性)



(3) 訪問診療の利用の有無

訪問診療の利用について、市全体で「利用していない」が82.8%、「利用している」が13.4%と利用は少ない。

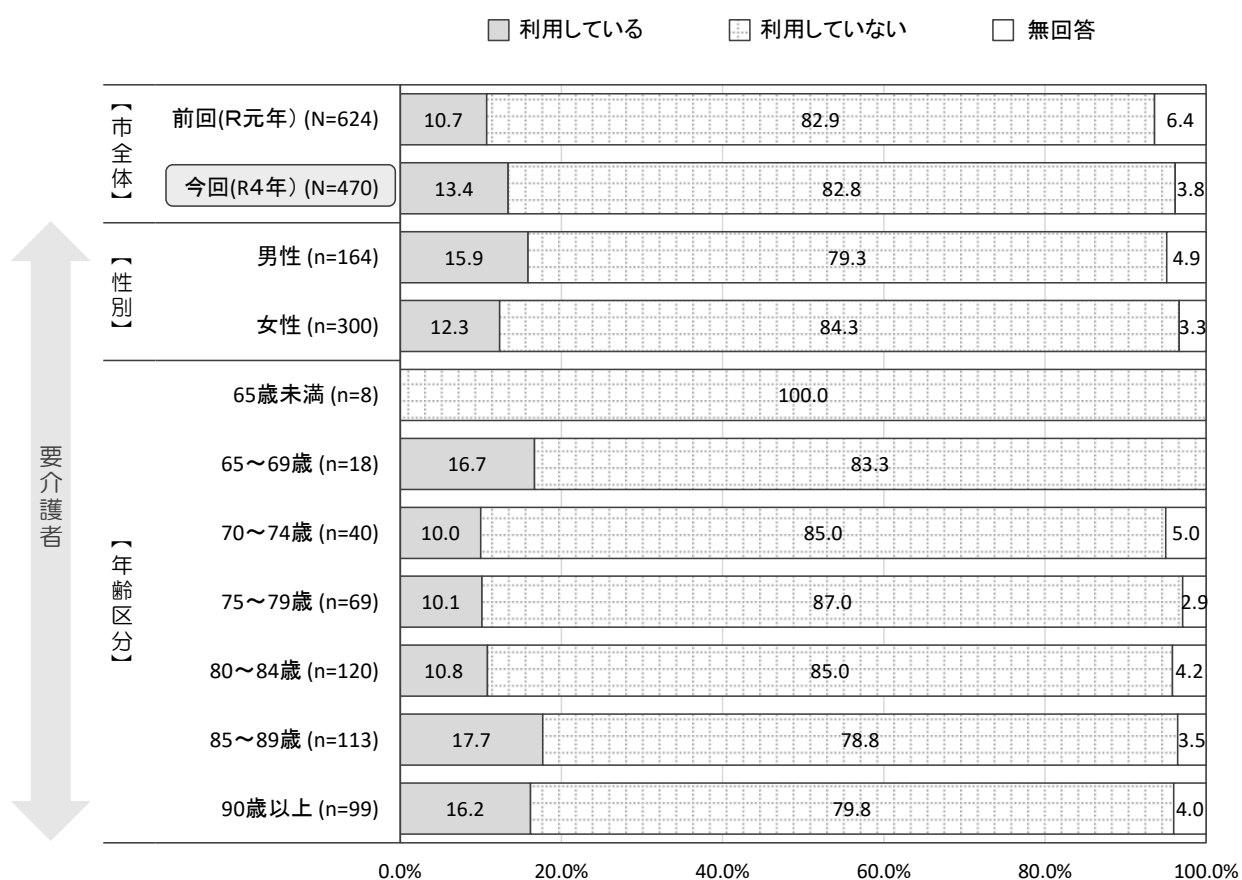
性別でみると、「利用している」は、男性が15.9%と女性（12.3%）よりやや高い。

年齢別でみると、「利用している」は、85～89歳（17.7%）、65～69歳（16.7%）、90歳以上（16.2%）が高い。

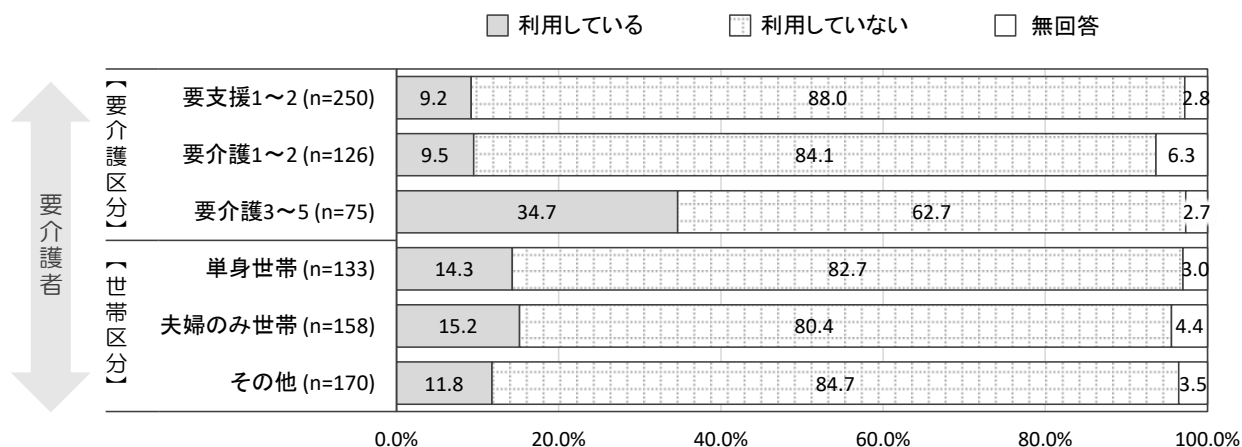
要介護区分でみると、「利用している」は、要介護度が上がるにつれて増加しており、要介護3～5では34.7%と高い。

世帯区分でみると、「利用している」は、夫婦のみ世帯が15.2%と他の世帯区分に比べてやや高い。

【A票-問14 訪問診療の利用】



【A票-問14 訪問診療の利用】



6. 成年後見制度について

(1) 成年後見制度の認知状況

成年後見制度の認知状況について、全体で「制度の名称は知っているが制度の内容は詳しくは知らない」が40.6%と最も高く、次いで「制度の名称だけではなく制度の内容も知っている」(18.9%)、「制度の名称は聞いたことがある」(17.2%)の順に続く。

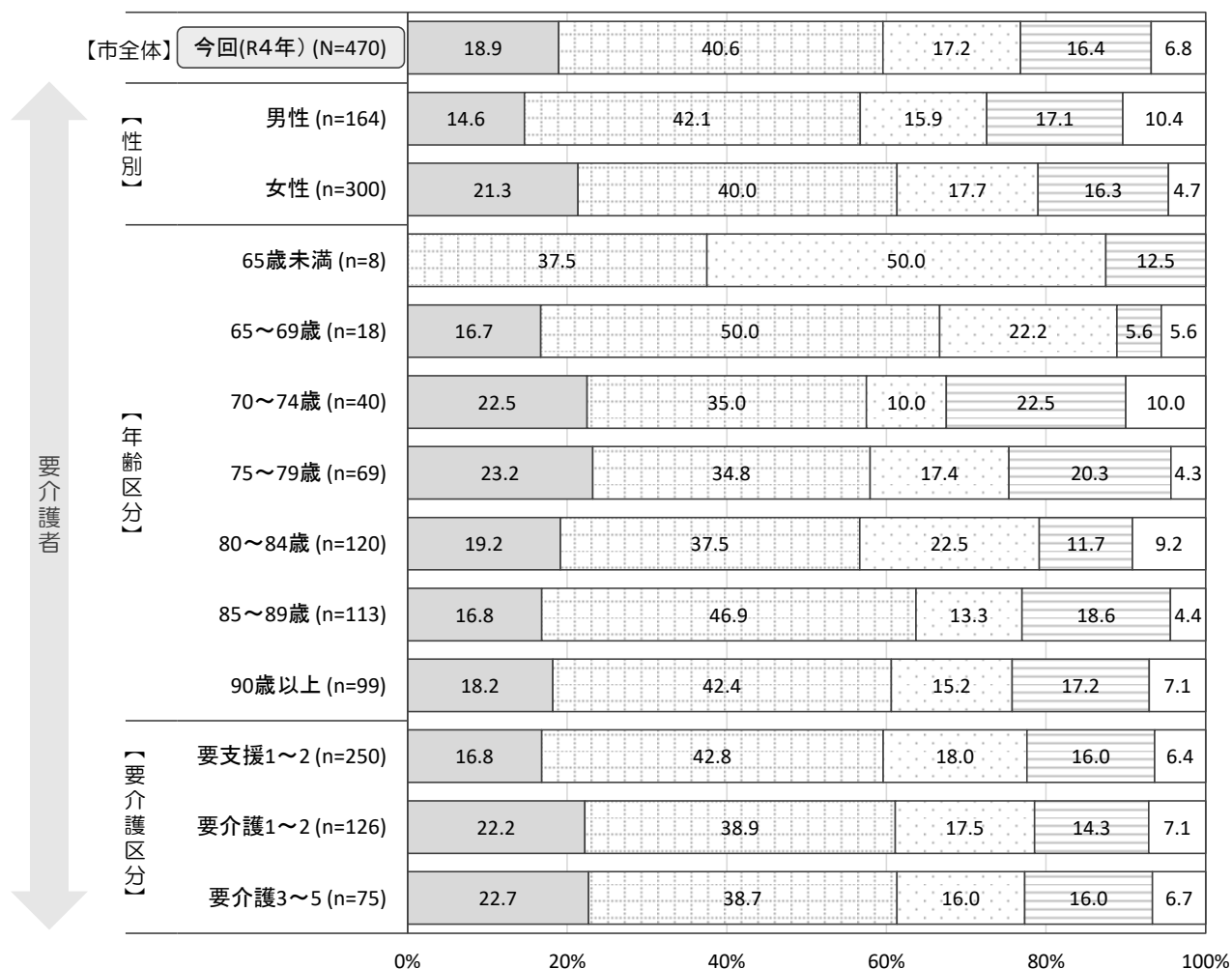
性別で見ると、「制度の名称だけではなく制度の内容も知っている」は女性が21.3%と男性(14.6%)より6.7ポイント高い。

年齢別で見ると、「制度の名称だけではなく制度の内容も知っている」が最も高いのは75～79歳で23.2%、次いで70～74歳で22.5%、80～84歳で19.2%の順に続いている。

要介護区分で見ると、「制度の名称だけではなく制度の内容も知っている」が要介護1～5では20%を超えている。

【A票-問15 成年後見制度の認知状況】

- 制度の名称だけではなく制度の内容も知っている
- 制度の名称は知っているが制度の内容は詳しくは知らない
- 制度の名称は聞いたことがある
- 全く知らない
- 無回答

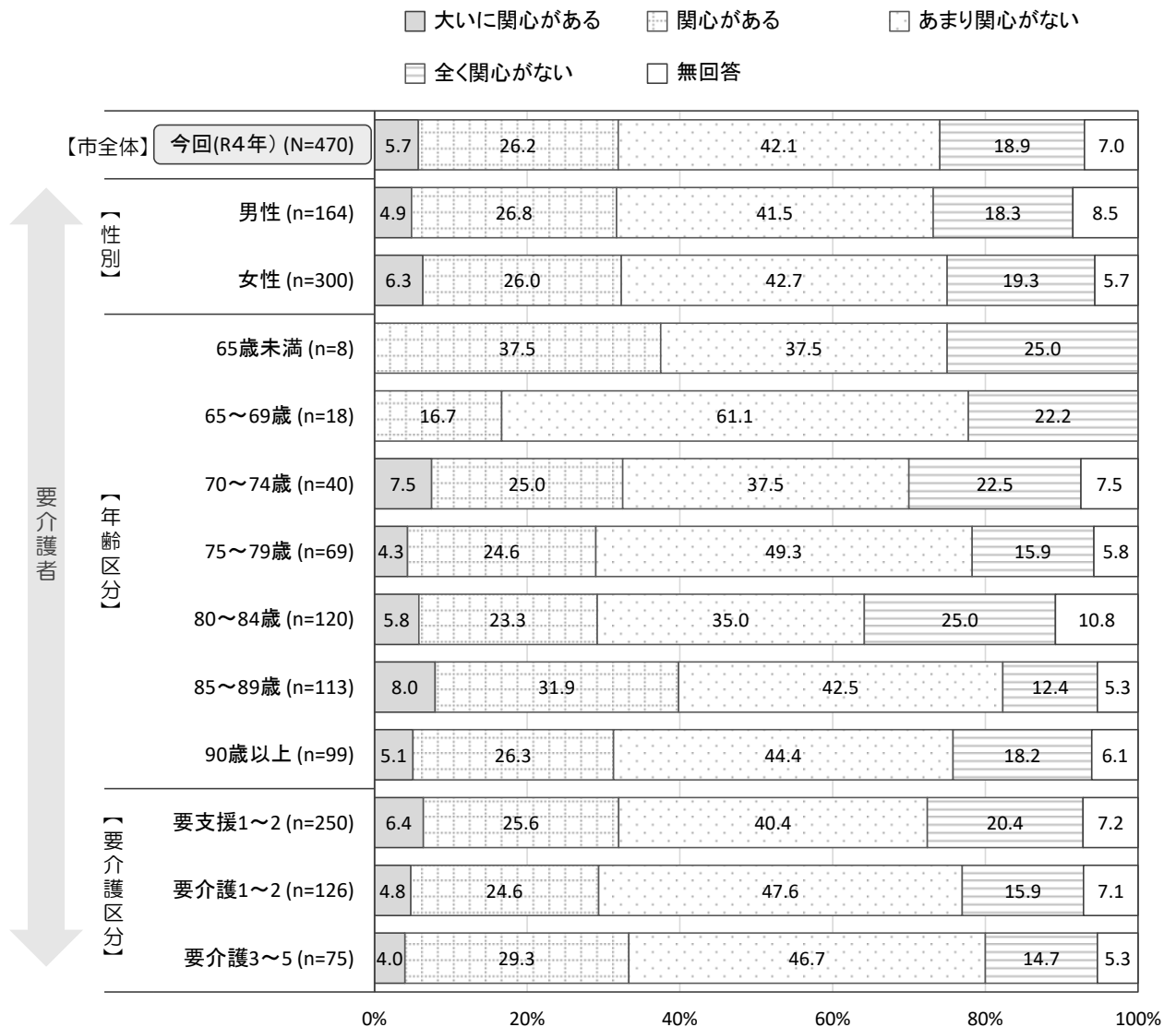


(2) 成年後見制度の関心度

成年後見制度の関心度について、市全体で「あまり関心がない」が42.1%と最も高く、次いで「関心がある」(26.2%)、「全く関心がない」(18.9%)の順に続く。「大いに関心がある」「関心がある」を合わせた“関心がある”割合は31.9%となっている。

性別でみると、“関心がある”割合は男性が31.7%、女性が32.3%と大きな差はない。年齢別でみると、“関心がある”割合は85～89歳では39.9%と他の年齢に比べて高い。要介護区分でみると、“関心がある”割合は要介護3～5では33.3%とやや高い。

【A票-問16 成年後見制度の関心度】

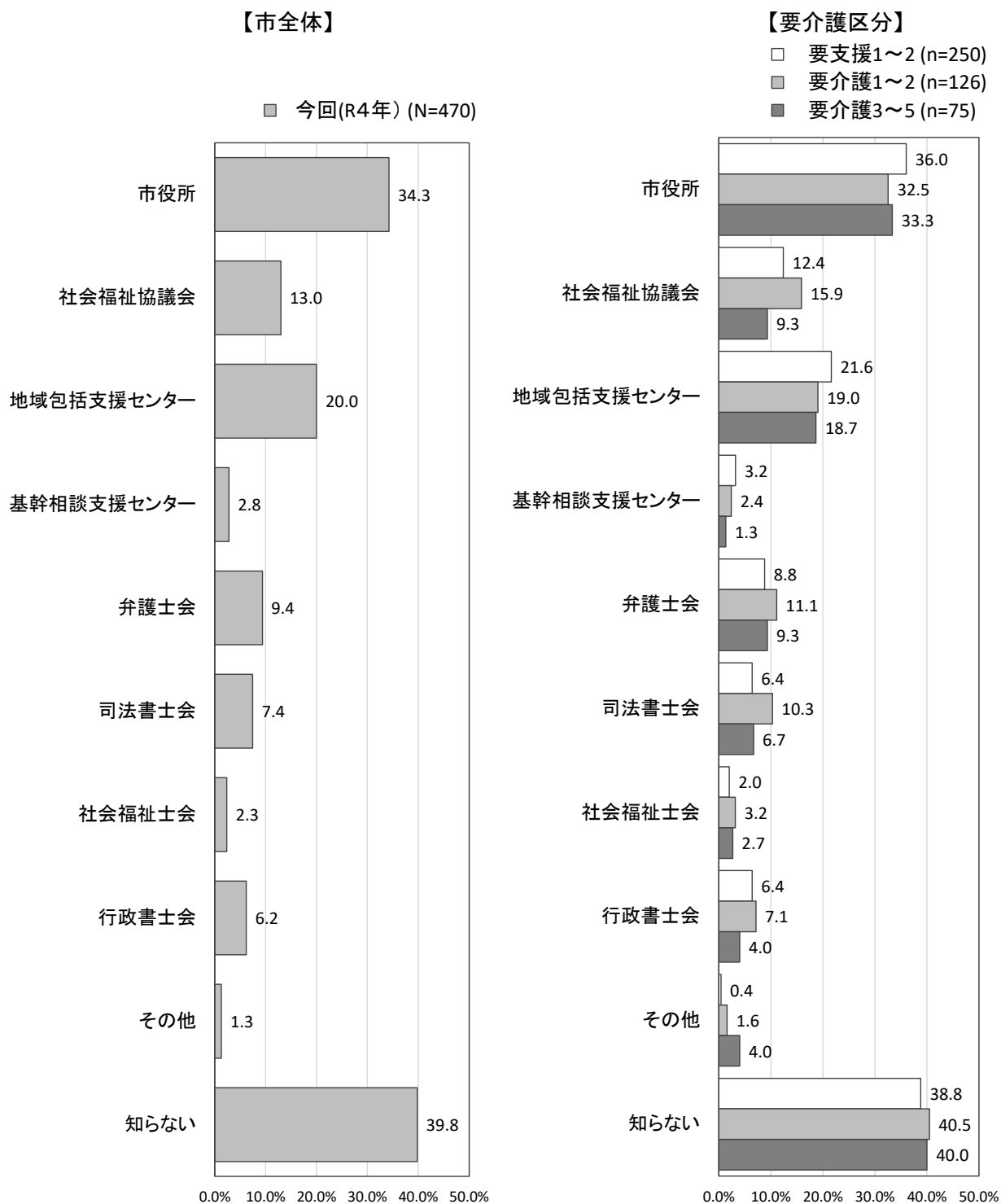


(3) 成年後見制度に関する相談窓口の認知状況について

成年後見制度に関する相談窓口の認知状況について、市全体で「知らない」が39.8%と最も高く、次いで「市役所」(34.3%)、「地域包括支援センター」(20.0%)「社会福祉協議会」(13.0%)、の順に続く。

要介護区分別でみると、大きな差はない。

【A票-問17 成年後見制度に関する相談窓口の認知状況】

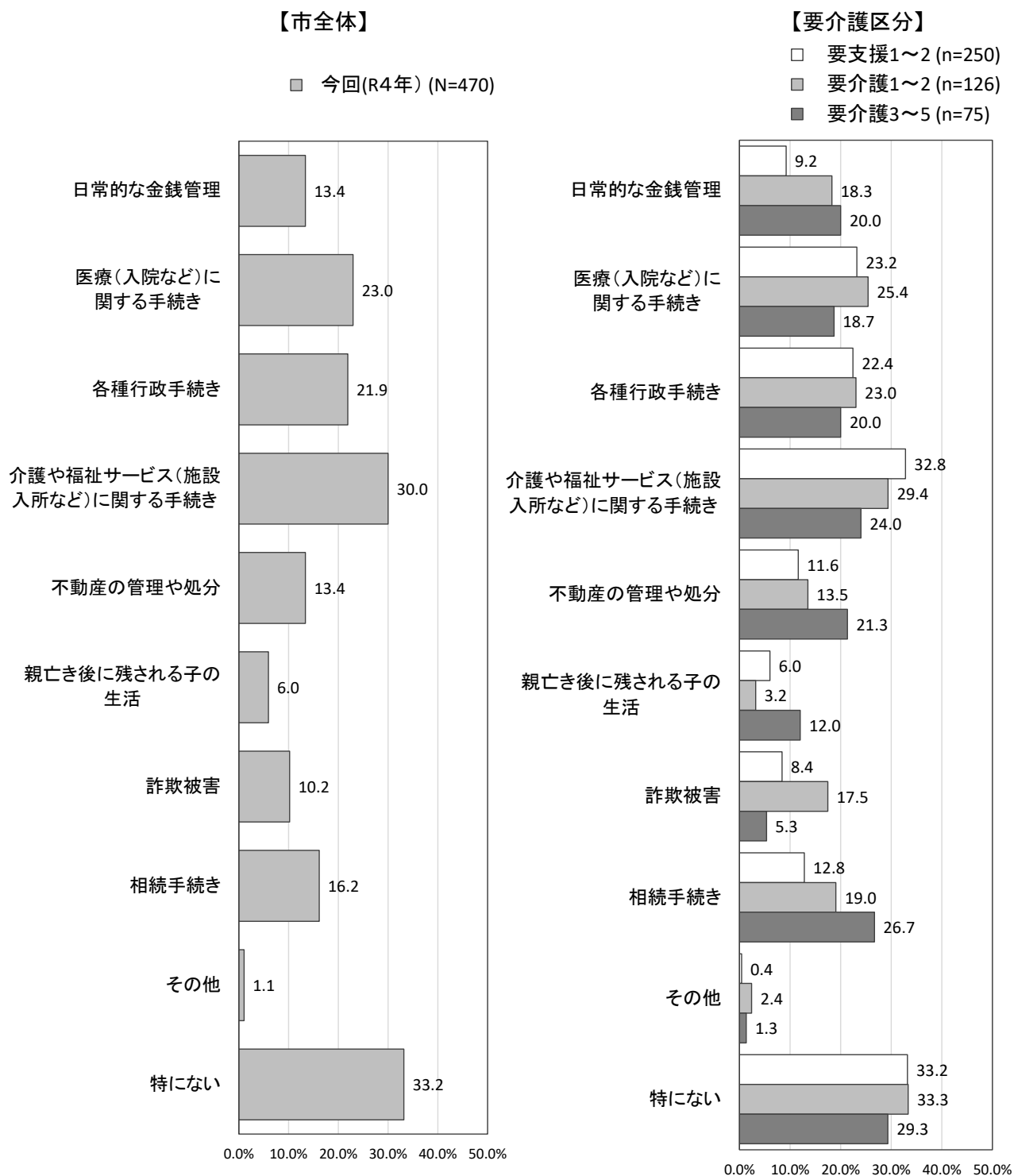


(4) 日常生活の中で将来不安に感じること

日常生活の中で将来不安に感じることについて、市全体で「特にない」が33.2%と最も高く、次いで「介護や福祉サービス（施設入所など）に関する手続き」（30.0%）、「医療（入院など）に関する手続き」（23.0%）、「各種行政手続き」（21.9%）の順に続く。

要介護区分でみると、要介護度が上がるにつれて「日常的な金銭管理」「不動産の管理や処分」「相続手続き」が高くなっている。

【A票-問18 日常生活の中で将来不安に感じること】



(5) 成年後見制度の利用意向について

成年後見制度の利用意向について、市全体で「わからない」が46.2%と最も高く、次いで「利用しない」(28.5%)、「利用する」(20.2%)の順に続く。

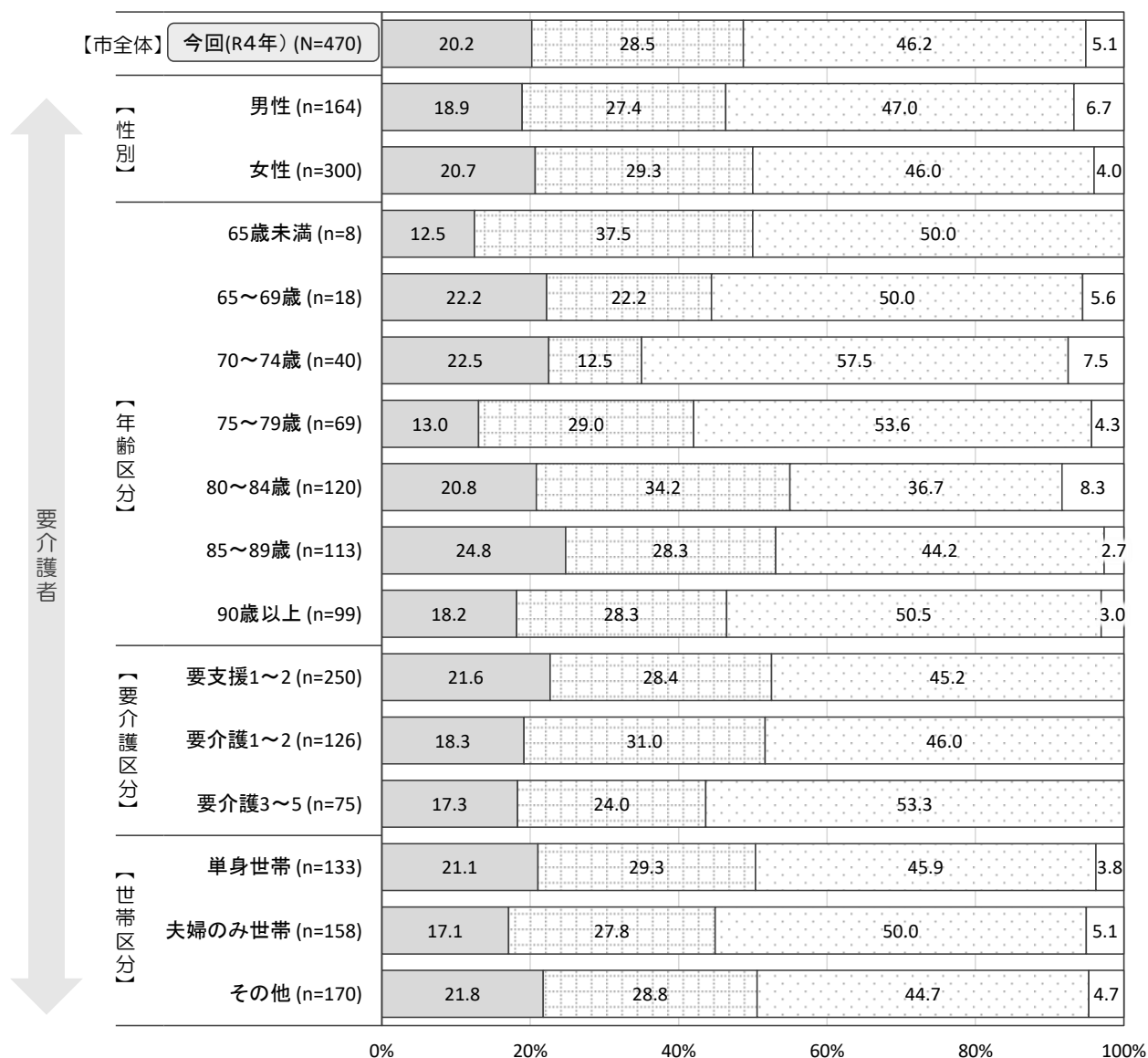
性別でみると、「利用する」は、男性が18.9%、女性が20.7%と女性の方が1.8ポイント高い。

年齢別でみると、「利用する」の割合85～89歳では24.8%と他の年代よりも高い。

世帯別でみると、「利用する」がその他の世帯では21.8%と単身世帯、夫婦のみ世帯と比べて高くなっている。

【A票-問19 成年後見制度の利用意向】

□ 利用する □ 利用しない □ わからない □ 無回答



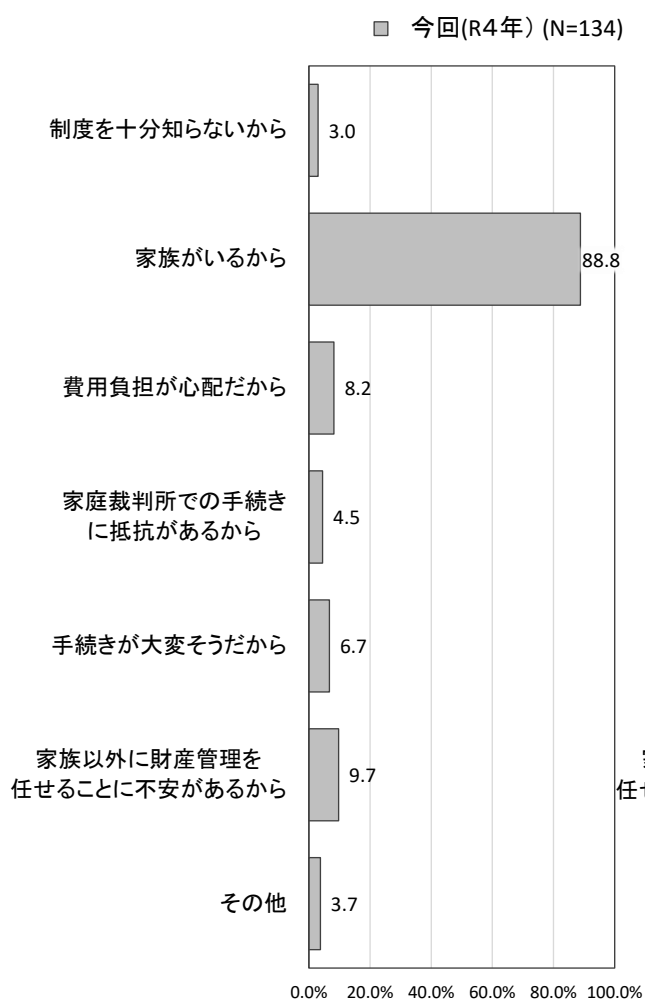
(6) 成年後見制度を利用しない理由

成年後見制度を利用しない理由について、市全体で「家族がいるから」が88.8%と最も高く、次いで「家族以外に財産管理を任せることに不安があるから」(9.7%)、「費用負担が心配だから」(8.2%)の順に続く。

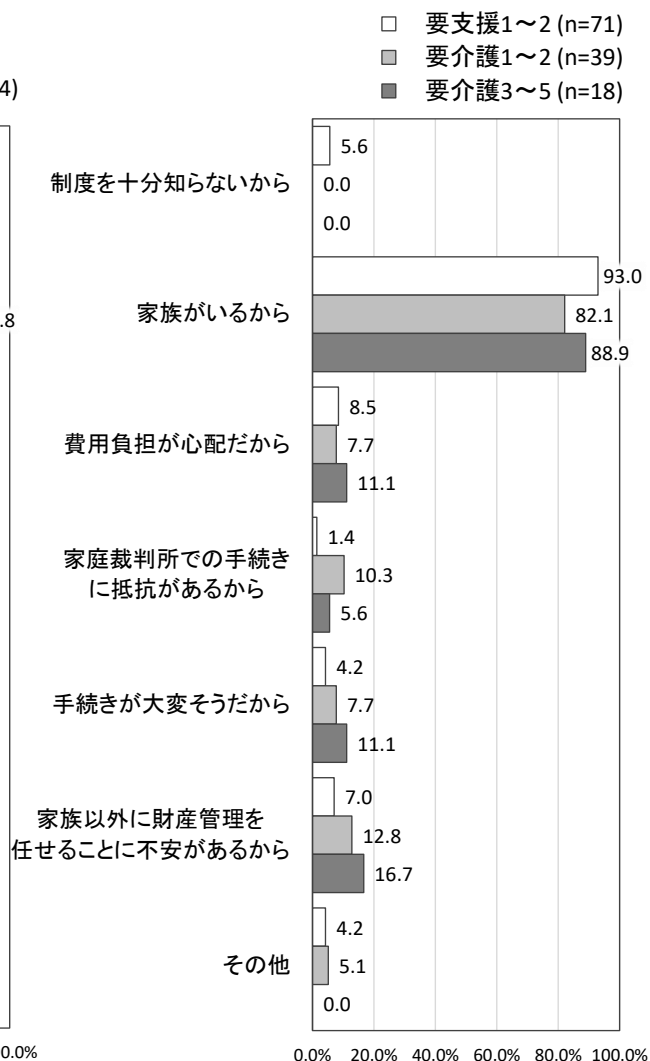
要介護区分別でみると、要支援1～2では「制度を十分知らないから」(5.6%)との回答がみられる。

【A票-問20 成年後見制度を利用しない理由】

【市全体】



【要介護区分】

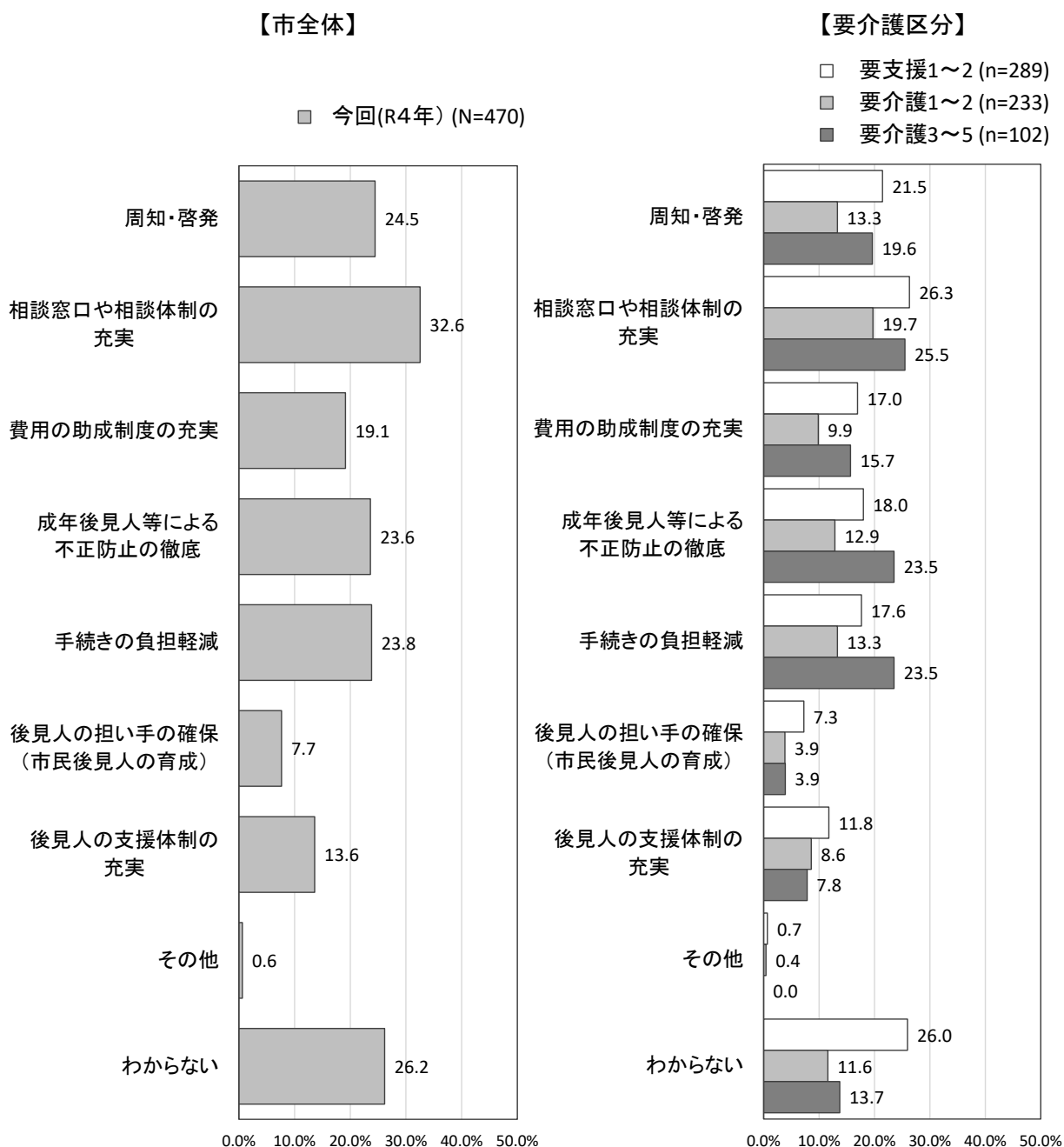


(7) 成年後見制度の利用の促進を図るために必要なこと

成年後見制度の利用の促進を図るために必要なことについて、市全体で「相談窓口や相談体制の充実」が32.6%と最も高く、次いで「わからない」(26.2%)、「周知・啓発」(24.5%)、「手続きの負担軽減」(23.8%)の順に続く。

要介護区分別でみると、要介護3～5では「成年後見人等による不正防止の徹底」「手続きの負担軽減」(23.5%)が他の要介護区分に比べて高くなっている。

【A票-問21 成年後見制度の利用の促進を図るために必要なこと】



(8) 市民後見人の認知状況

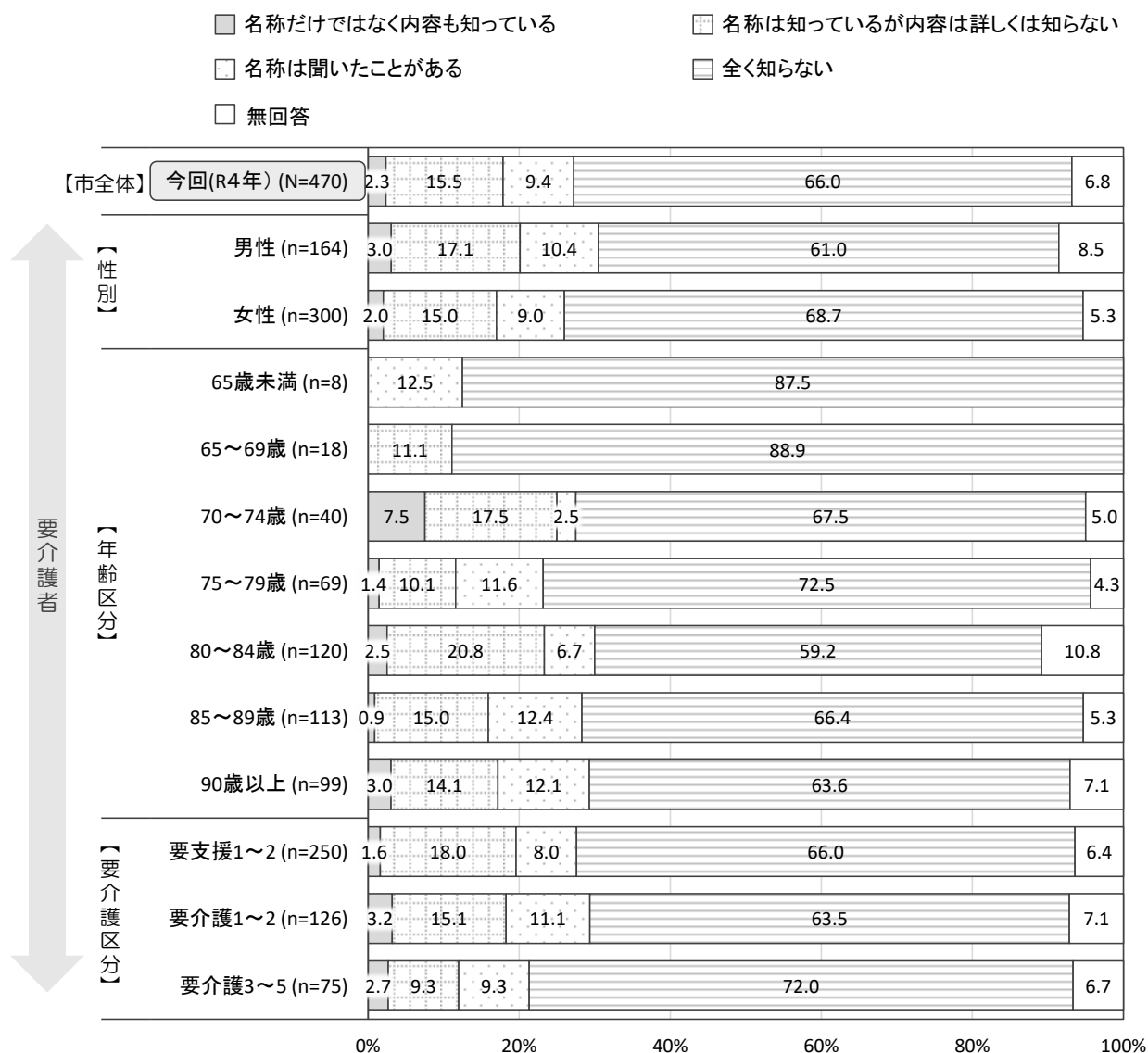
市民後見人の認知状況について、市全体で「全く知らない」が66.0%と最も高く、次いで「名称は知っているが内容は詳しくは知らない」(15.5%)、「名称は聞いたことがある」(9.4%)、「名称だけではなく内容も知っている」(2.3%)の順に続く。

性別でみると、「名称だけではなく内容も知っている」は、男性では3.0%と女性(2.0%)よりやや高い。

年齢別でみると、「名称だけではなく内容も知っている」が70～74歳では7.5%となっており、他の年代よりも高い。

要介護区分別でみると、「全く知らない」が要介護3～5では72.0%となっており、要支援1～2、要介護1～2と比べて高くなっている。

【A票-問22 市民後見人の認知状況】



(9) 市民後見人としての活動への興味について

市民後見人としての活動について、市全体で「興味はない」が68.5%と最も高く、次いで「少し興味がある(話しを聞いてみたい)」(17.0%)、「興味がある(研修を受けたい)」(2.3%)の順に続く。「機会があれば市民後見人として活動してみたい」「興味がある(研修を受けたい)」「少し興味がある(話しを聞いてみたい)」を合わせた“興味がある”割合は20.8%となっている。

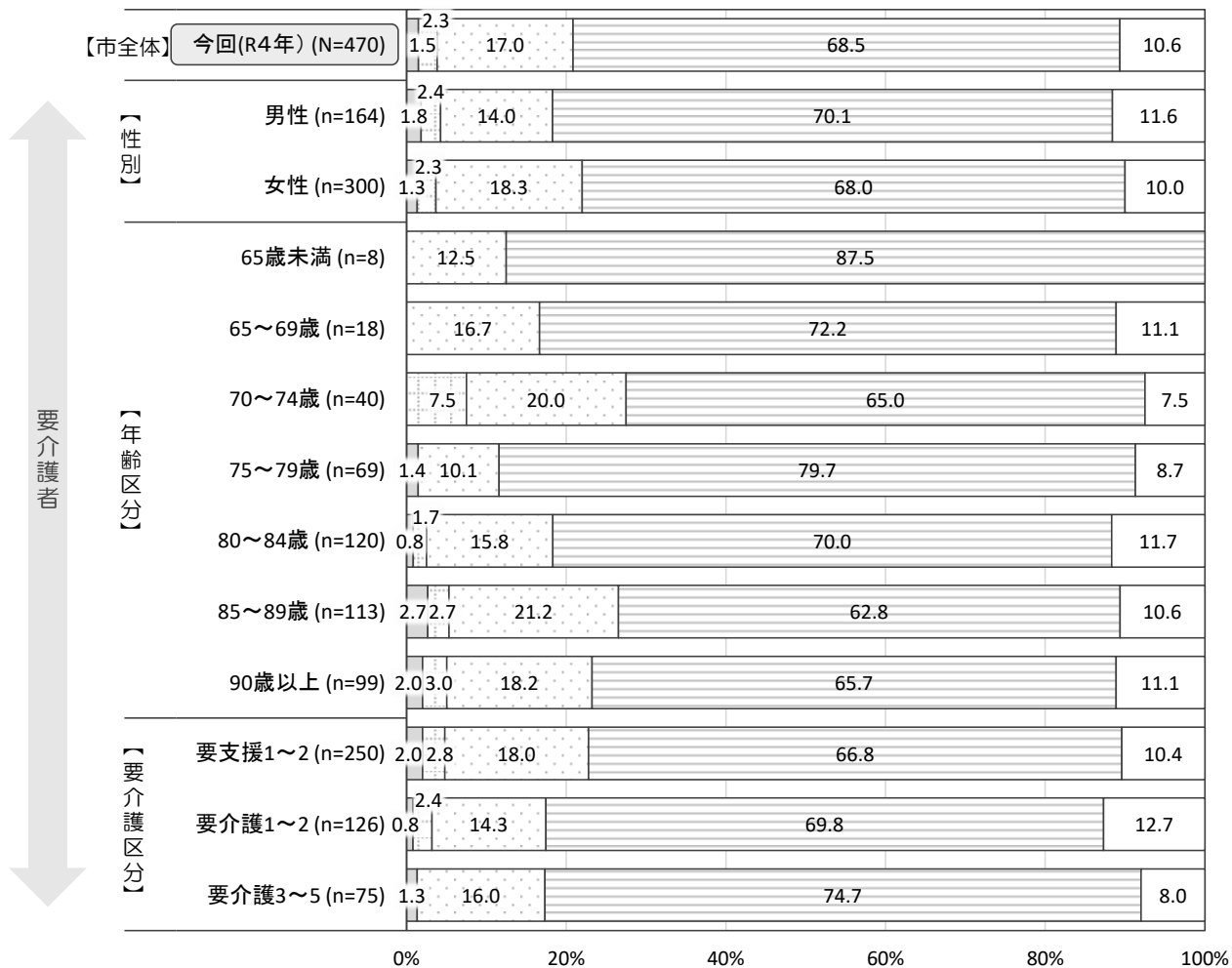
性別でみると、“興味がある”割合は、男性が18.2%、女性が21.9%と女性の方が3.7ポイント高い。

年齢別でみると、“興味がある”割合は、70～74歳では27.5%と他の年代よりも高い。

要介護区分別でみると、“興味がある”割合は要支援1～2では22.8%となっており、要介護1～2、要介護3～5と比べて高くなっている。

【A票-問23 市民後見人としての活動への興味について】

- 機会があれば市民後見人として活動してみたい 興味がある(研修を受けたい)
 少し興味がある(話しを聞いてみたい) 興味はない
 無回答



(10) 市民後見人の活用意向

市民後見人の活用について、市全体で「わからない」が63.4%と最も高く、次いで「活用しない」(23.8%)、「活用する」(6.6%)の順に続く。

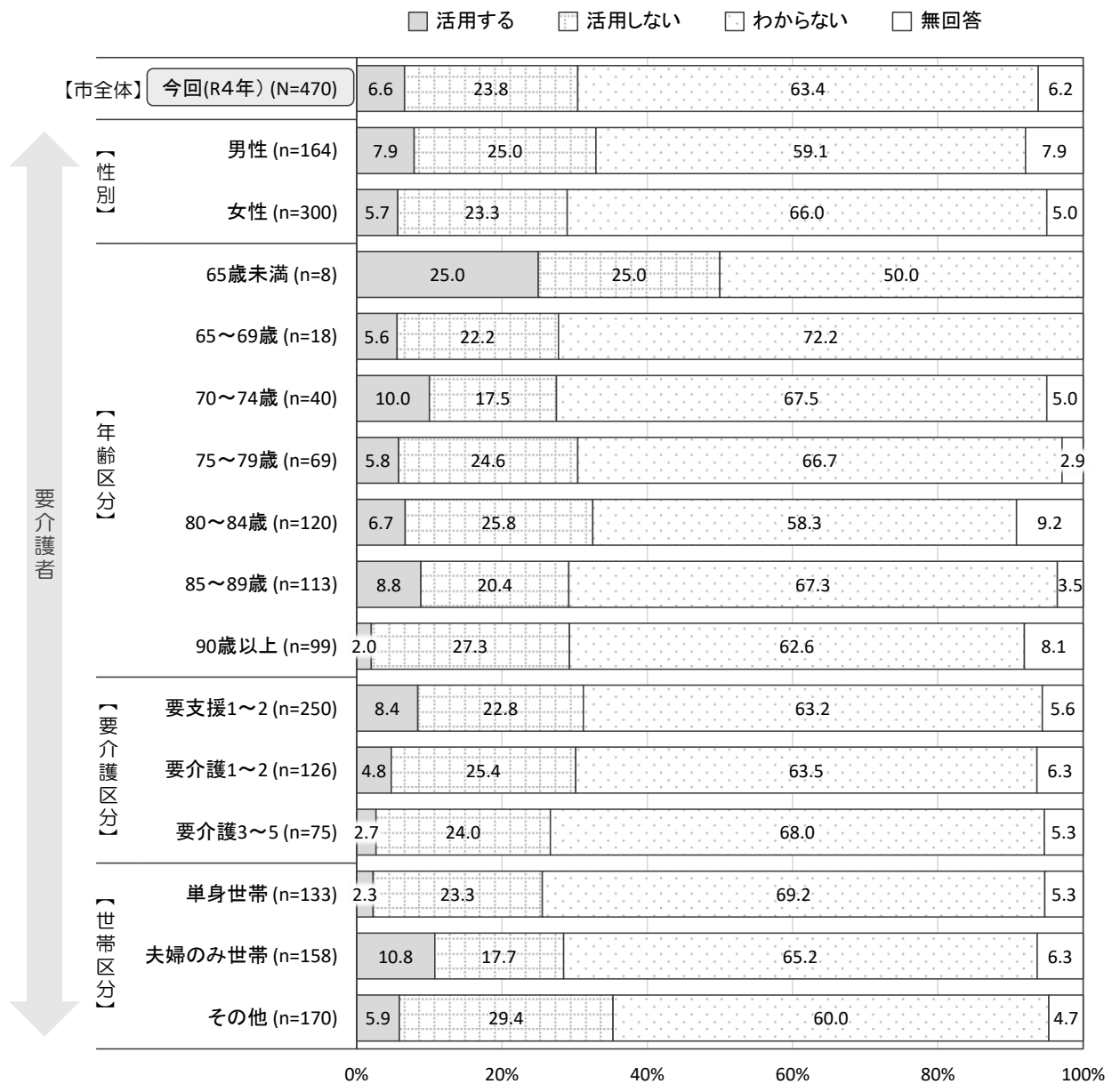
性別でみると、「活用する」は男性が7.9%、女性が5.7%と男性の方が2.2ポイント高い。

年齢別でみると、「活用する」は65歳未満(25.0%)が最も高く、次いで、70~74歳(10.0%)、85~89歳(8.8%)の順に続く。

要介護区分でみると、「活用する」は、要支援1~2では8.4%となっており、市全体の割合より高い。

世帯区分でみると、「活用する」は、夫婦のみ世帯が10.8%と他の世帯区分に比べて高い。

【A票-問24 市民後見人の利用意向】



(11) 市民後見人を活用しない理由

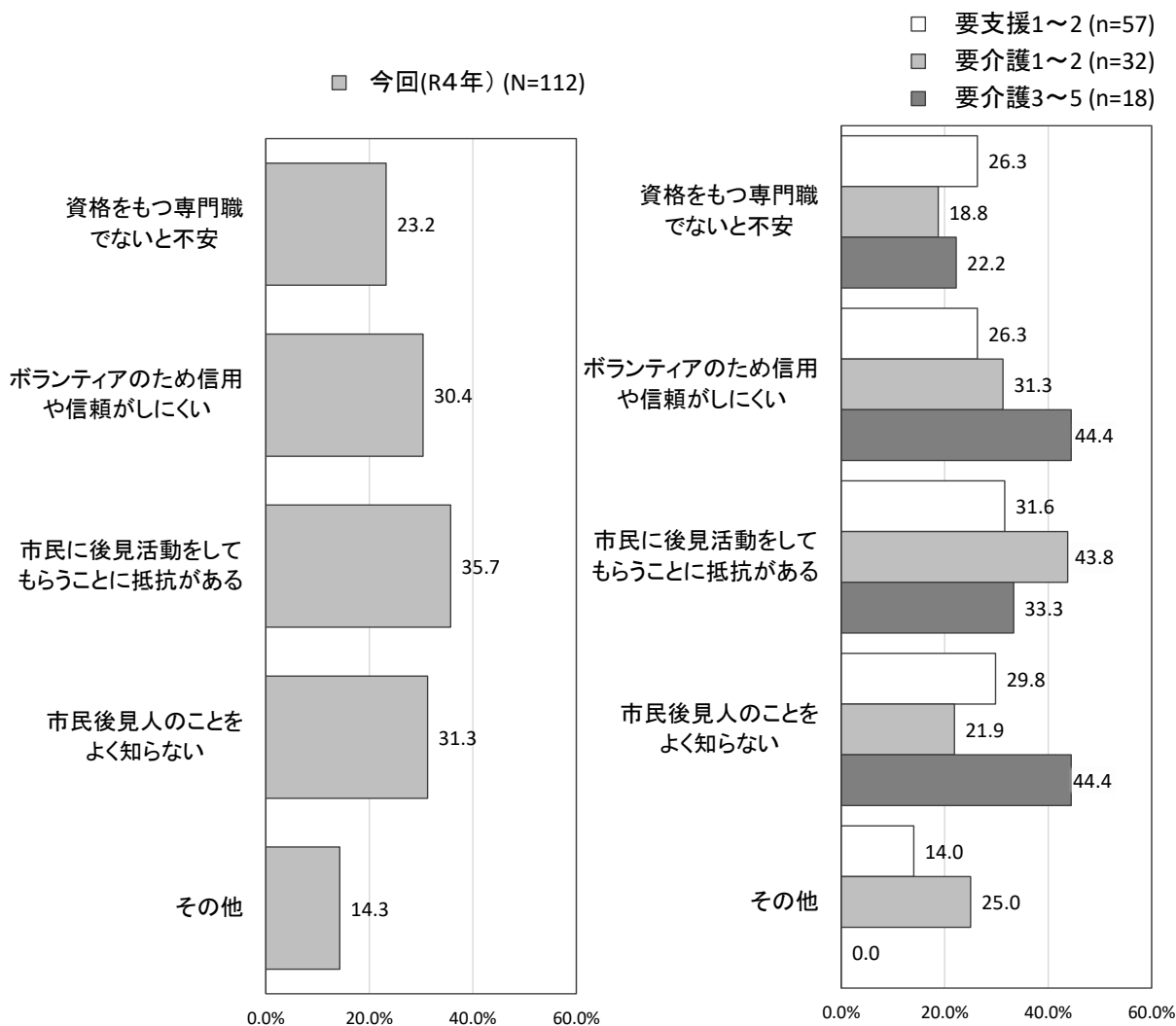
市民後見人を活用しない理由について、市全体で「市民に後見活動してもらうことに抵抗がある」が 35.7%と最も高く、次いで「市民後見人のことをよく知らない」(31.3%)、「ボランティアのため信用や信頼がしにくい」(30.4%)の順に続く。

要介護区分で見ると、要介護3～5では「ボランティアのため信用や信頼がしにくい」「市民後見人のことをよく知らない」が44.4%となっており、要支援1～2、要介護1～2と比べて高くなっている。

【A票-問24 市民後見人を活用しない理由】

【市全体】

【要介護区分】



7. 主な介護者の勤務状況

(1) 主な介護者が在宅介護を行う頻度

要介護者に対して、主な介護者が介護を行う頻度は、全体で「ほぼ毎日ある」が58.3%と多くを占めている。次いで「週に1～2日ある」(19.1%)、「家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない」(15.5%)、「週に3～4日ある」(7.1%)の順に続く。

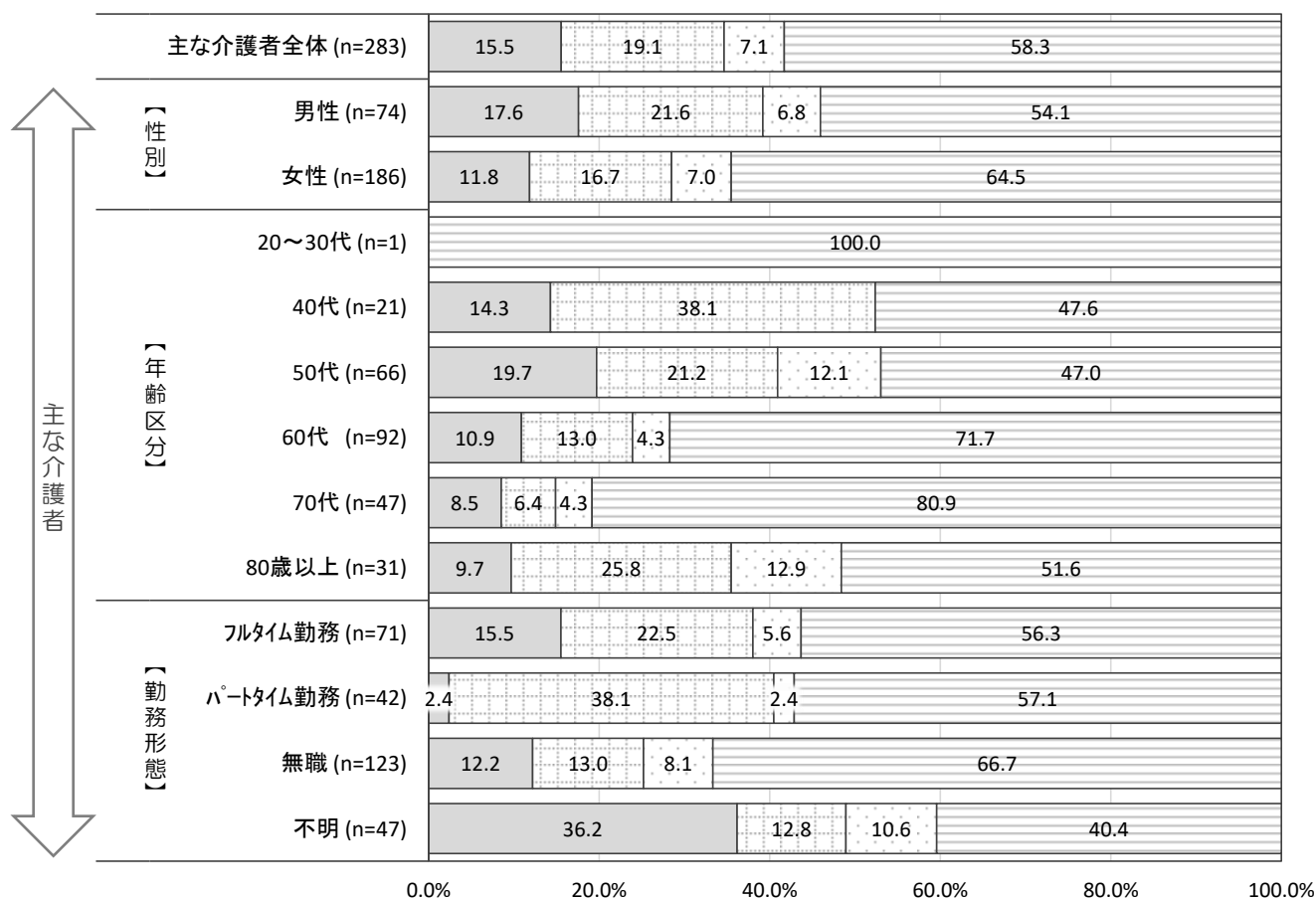
主な介護者の性別でみると、「ほぼ毎日ある」は女性が64.5%と男性(54.1%)より10.4ポイント高い。

主な介護者の年齢区分でみると、「ほぼ毎日ある」が最も高いのは20～30代で100.0%、次いで70代で80.9%、60代(71.7%)、の順に続いており、40～50代では、50%未満となっている。

主な介護者の勤務形態でみると、フルタイム勤務及びパートタイム勤務では、全体や無職と比べて、「ほぼ毎日ある」は低く、「週に1～2日ある」が高くなっている。また、“週に1日以上”(「週に1～2日ある」～「ほぼ毎日ある」)は、フルタイム勤務では84.4%、パートタイム勤務では97.6%と13.2ポイントの差があり、勤務形態によって介護の頻度にやや違いがみられる。

【A票-問26 家族・親族からの介護の頻度】

- 家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない
- 週に1～2日ある
- 週に3～4日ある
- ほぼ毎日ある



(2) 介護者の離職・転職状況

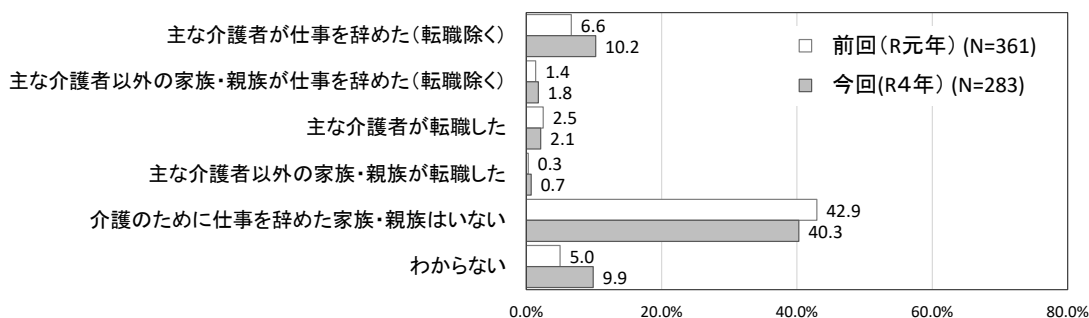
要介護者の介護を主な理由として、過去の1年間に仕事を辞めた、または転職した家族・親族等について、市全体で「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」は10.2%、「主な介護者が転職した」は2.1%となっており、これらを合わせた「主な介護者が離職・転職した」は12.3%となっている。前回調査と比べて3.2ポイント増加している。また、「主な介護者以外の家族・親族が離職・転職した」は2.5%となっている。

要介護区分で見ると、「主な介護者が離職・転職した」は、要支援1～2では11.6%、要介護1～2では13.2%、要介護3～5では14.8%となっている。要介護度が上がるにつれて、離職・転職が高まる傾向がみられる。

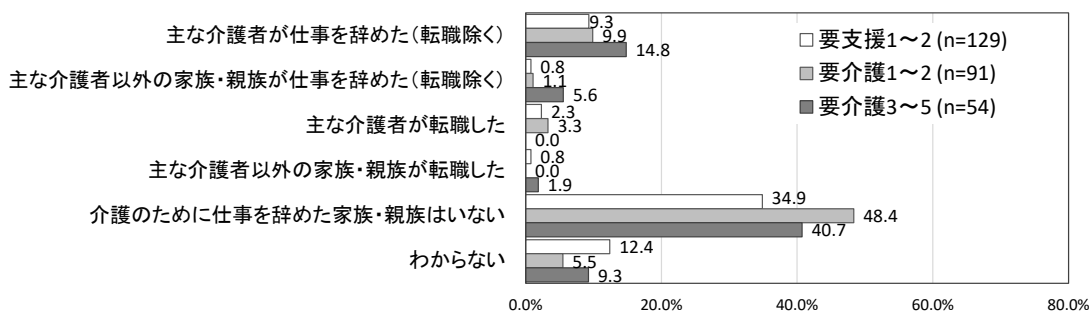
主な介護者の勤務形態で見ると、「主な介護者が離職・転職した」は、フルタイム勤務は7.0%、パートタイム勤務は16.6%、無職は14.6%となっており、パートタイム勤務で働いている人では離職・転職が高まる傾向がみられる。

【B票-問1 介護を主な理由として仕事を辞めた・転職した家族・親族】

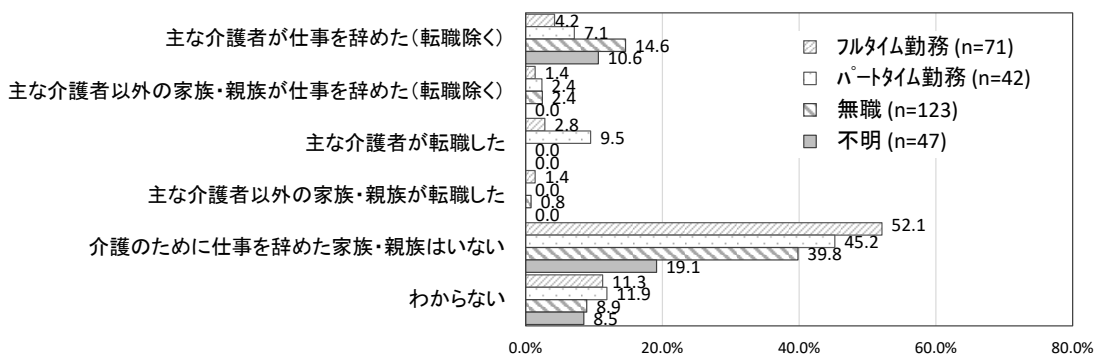
(市全体)



(要介護者の要介護区分)



(主な介護者の勤務形態)



(3) 介護者が行っている働き方の調整等

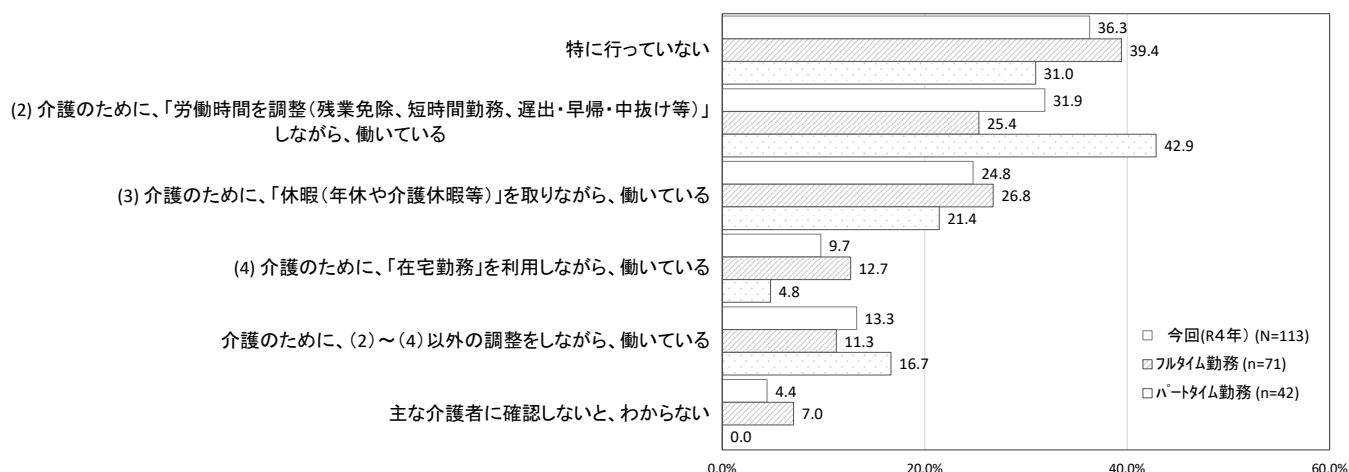
主な介護者のうち、フルタイム勤務又はパートタイム勤務の働き方の調整等は、市全体で「特に行っていない」が36.3%と最も高く、次いで「(2) 介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」(31.9%)、「(3) 介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」(24.8%)の順に続く。

勤務形態で見ると、パートタイム勤務では「(2) 介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が42.9%とフルタイム勤務(25.4%)より17.5ポイント高い。フルタイム勤務では「特に行っていない」が39.4%とパートタイム勤務(31.0%)より8.4ポイント高く、働き方の調整等をしなくても、介護と仕事の両立が可能な職場であることがうかがえる。

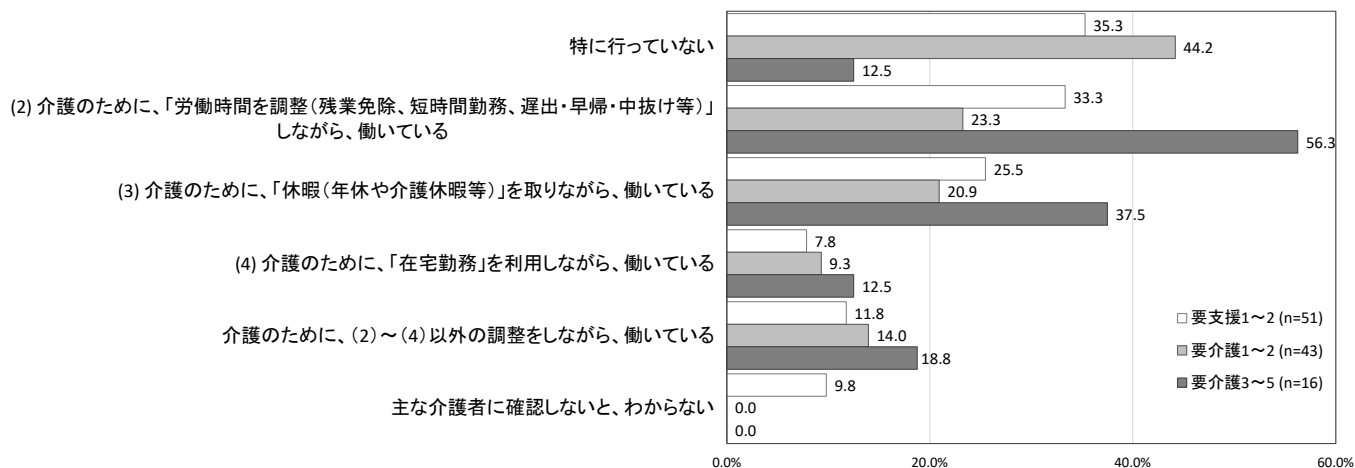
要介護区分で見ると、要介護3～5では「(2) 介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が56.3%と突出して高くなっている。

【B票-問8 介護者が行っている働き方の調整等】

(市全体・勤務形態)



(要介護者の要介護区分)



(4) 仕事と介護の両立に効果的な支援

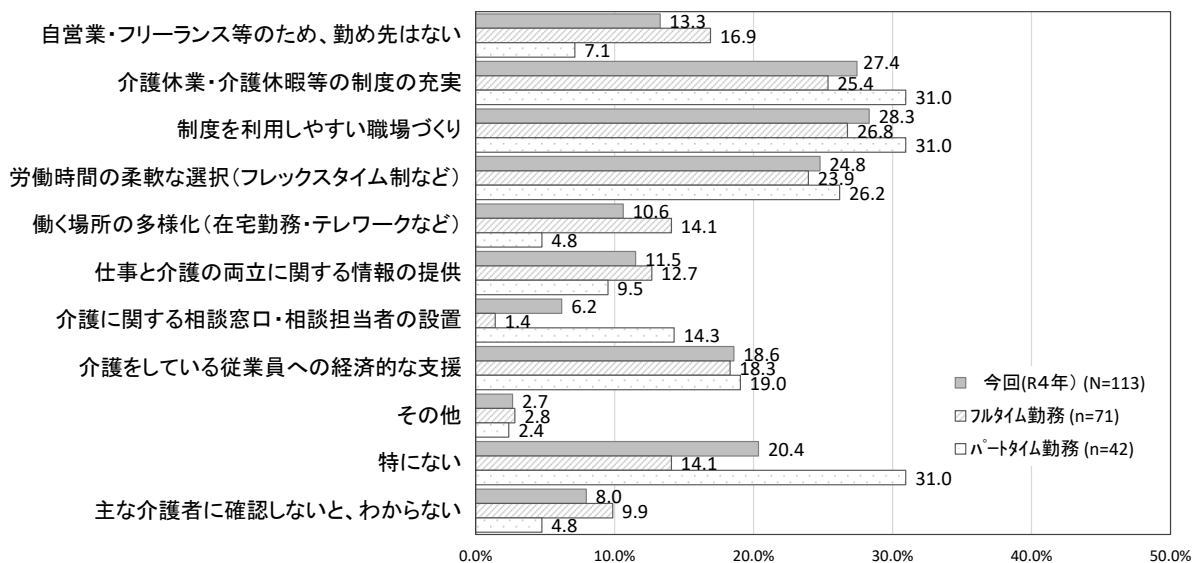
働きながら介護を行う介護者が、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思うかについて、市全体では「制度を利用しやすい職場づくり」が28.3%と最も高く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(27.4%)、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」(24.8%)の順に続く。

勤務形態でみると、フルタイム勤務では「制度を利用しやすい職場づくり」(26.8%)、パートタイム勤務では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」「制度を利用しやすい職場づくり」「特にない」(31.0%)がそれぞれ最も高い。

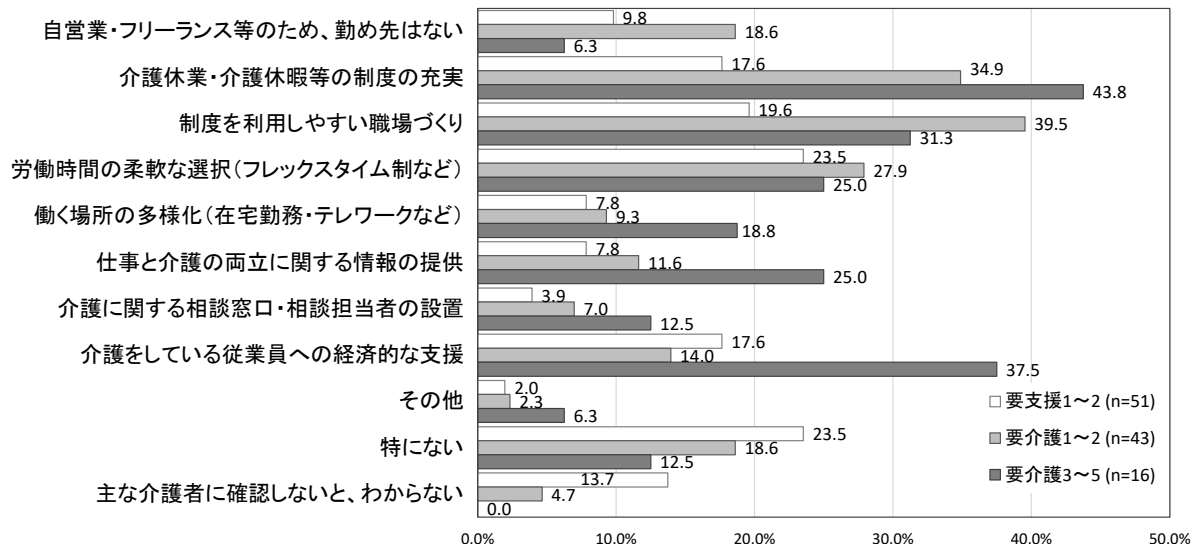
要介護区分でみると、要介護度が上がるにつれて「介護休業・介護休暇等の制度の充実」「働く場所の多様化(在宅勤務・テレワークなど)」「仕事と介護の両立に関する情報の提供」「介護に関する相談窓口・相談担当者の設置」が増加している。また、要支援1～2では「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」(23.5%)、要介護1～2では「制度を利用しやすい職場づくり」(39.5%)、要介護3～5では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(43.8%)がそれぞれ最も高くなっている。

【B票-問9 仕事と介護の両立に効果的な支援】

(市全体・勤務形態)



(要介護者の要介護区分)



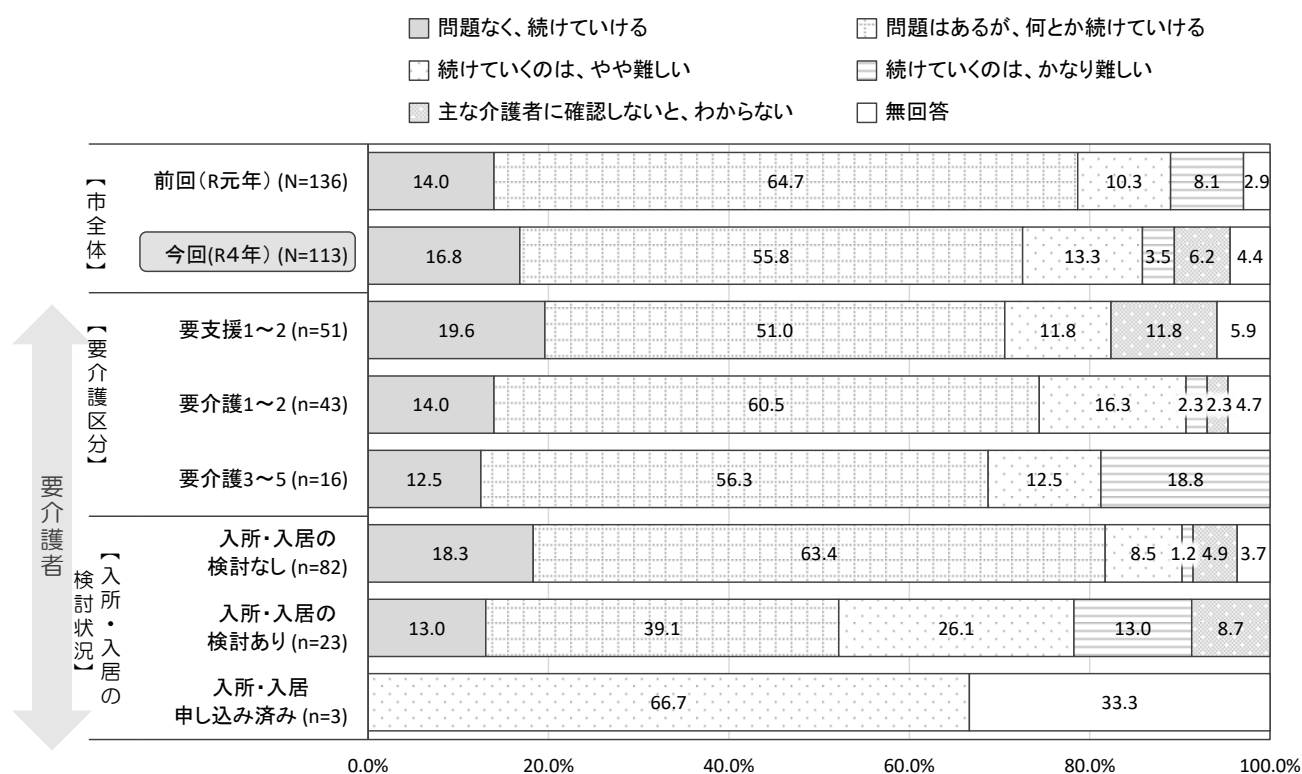
(5) 今後の就労継続の見込み

今後の就労継続の見込みについて、市全体で「問題はあるが、何とか続けていける」が55.8%と最も高く、次いで「問題なく、続けていける」(16.8%)となっており、これらを合わせた“就労継続可能”とする割合は72.6%となっている。一方、「続けていくのは、やや難しい」(13.3%)と「続けていくのは、かなり難しい」(3.5%)を合わせた“就労継続困難”とする割合は16.8%となっており、前回調査(18.4%)より1.6ポイント低い。

要介護者の要介護区分で見ると、“就労継続困難”は、要支援1～2が11.8%、要介護1～2が18.6%、要介護3～5が31.3%と要介護度が上がるにつれて増加している。

要介護者の施設等への入所・入居の検討状況別で見ると、“就労継続困難”は、入所・入居の検討なしでは9.7%、入所・入居の検討ありでは39.1%、入所・入居申し込み済みでは66.7%となっている。

【B票-問10 就労継続の見込み】



主な介護者の勤務形態でみると、“就労継続困難”は、フルタイム勤務では12.7%、パートタイム勤務では23.8%と11.1ポイントの差があり、パートタイム勤務では仕事と介護の両立に困難を感じている人が多い。

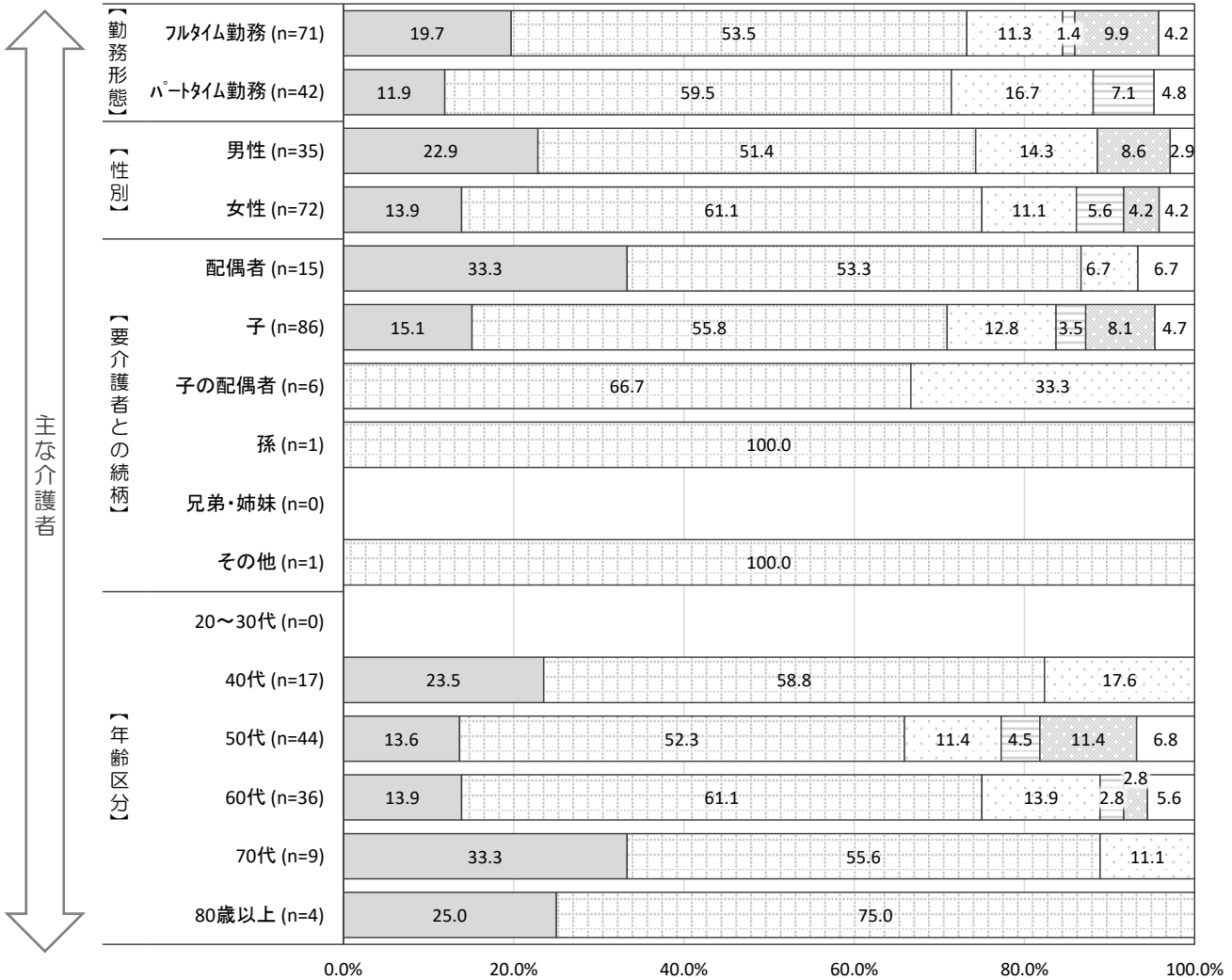
主な介護者の性別でみると、“就労継続困難”は、男性では14.3%、女性では16.7%と女性の方が2.4ポイント高い。また、「問題はあるが、何とか続けていける」は女性が61.1%と男性（51.4%）より9.7ポイント高くなっている。

主な介護者と要介護者の続柄でみると、“就労継続困難”は、配偶者では6.7%、子では16.3%、子の配偶者では33.3%となっている。

主な介護者の年齢区分でみると、働き盛りの年代であるとともに、親の介護が必要となる40代の“就労継続困難”は17.6%となっており、市全体の割合（16.8%）より高い。

【B票-問10 就労継続の見込み】

- 問題なく、続けていける
- 問題はあるが、何とか続けていける
- 続けていくのは、やや難しい
- 続けていくのは、かなり難しい
- 主な介護者に確認しないと、わからない
- 無回答



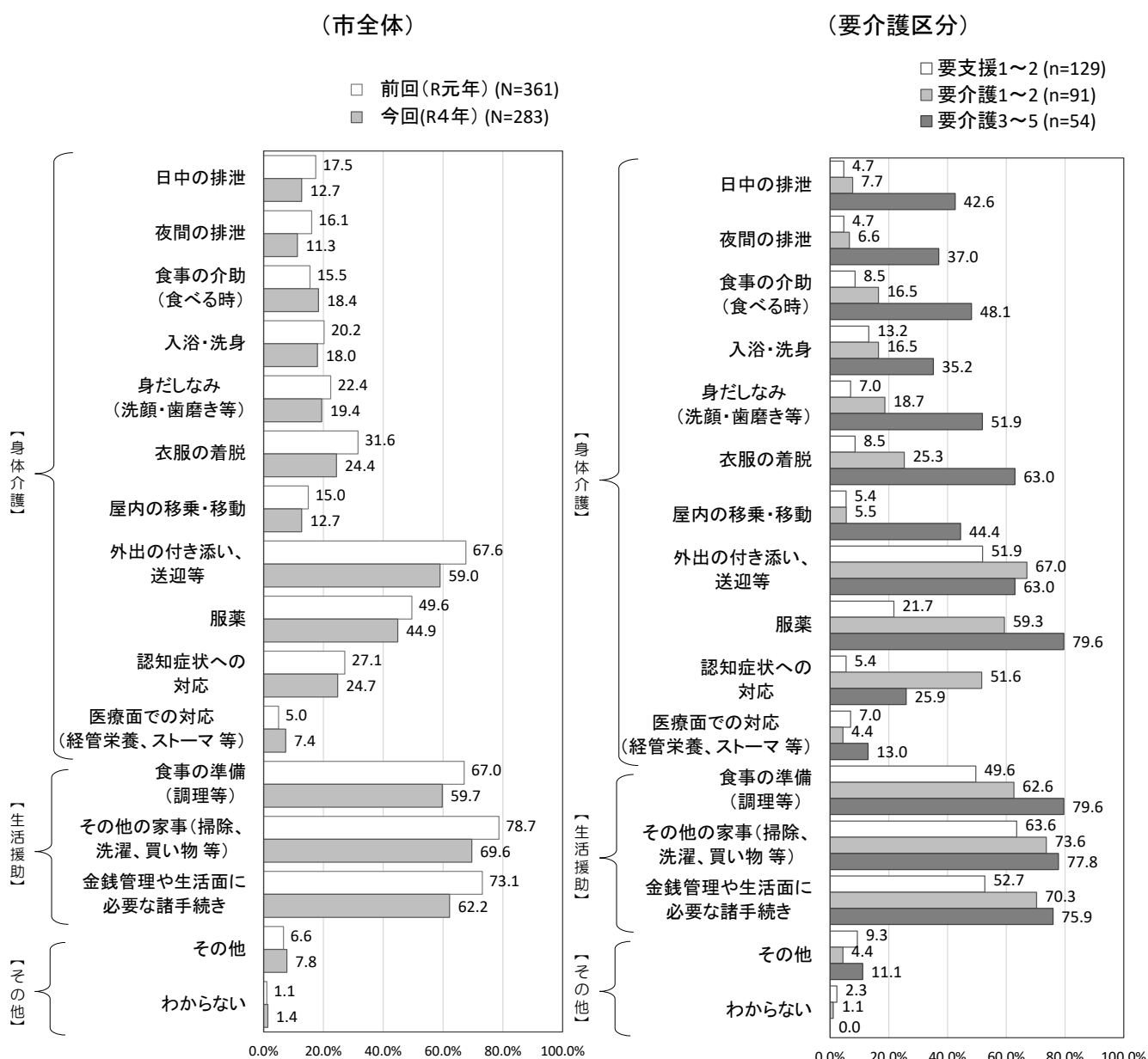
8. 介護者が行う介護内容について

(1) 介護者が行う介護等の内容

介護者が行う主な介護等の内容は、市全体で「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」（69.6%）や「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（62.2%）など【生活援助】が主な介護内容となっている。

身体介護では「外出の付き添い、送迎等」（59.0%）、「服薬」（44.9%）、「認知症状への対応」（24.7%）の順に続く。

【B票-問5 介護者が行っている介護等の内容】



(2) 介護者が不安に感じる介護

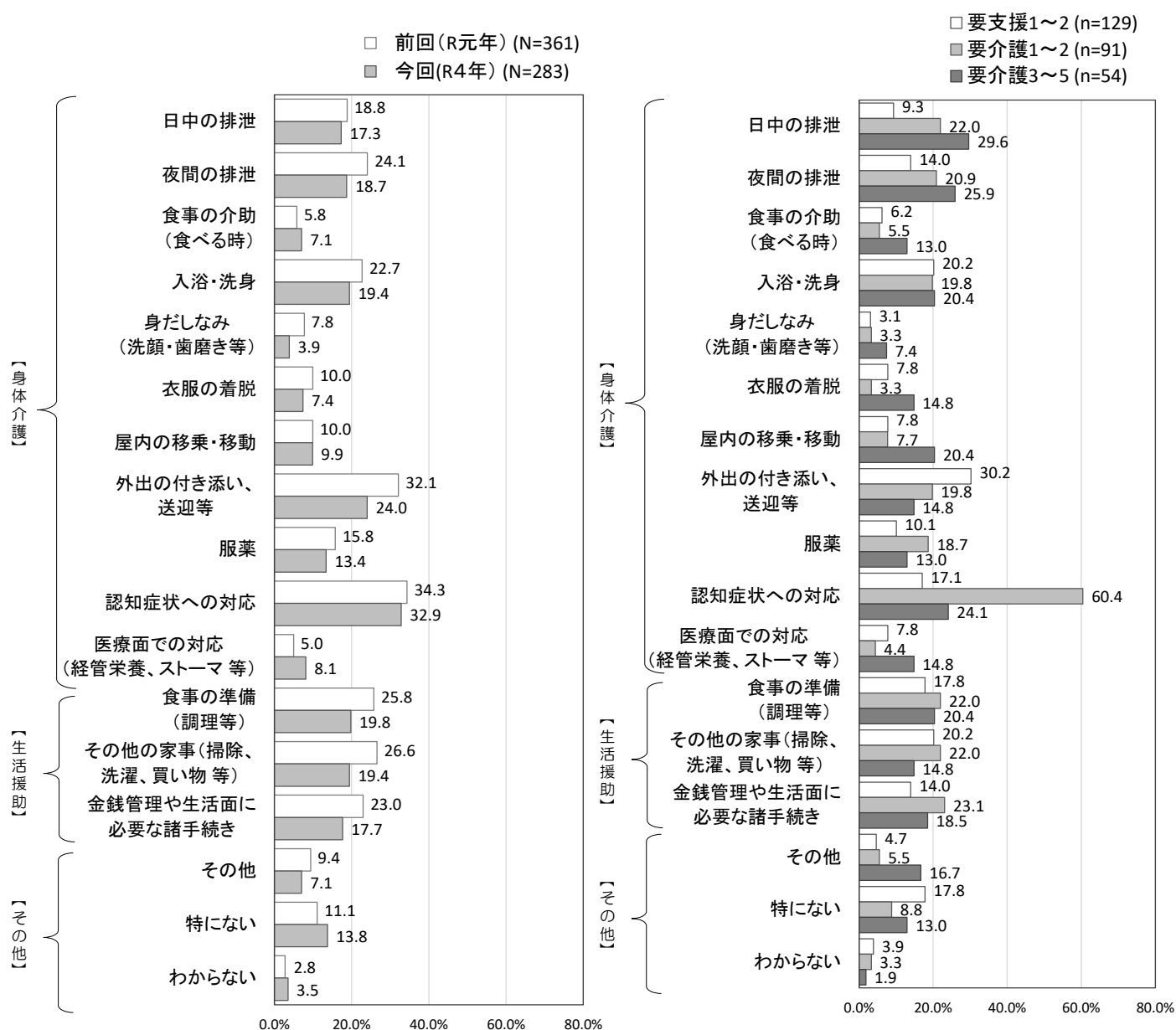
介護者が不安に感じる介護等の内容は、市全体で「認知症状への対応」が32.9%と最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」(24.0%)、「食事の準備(調理等)」(19.8%)、の順に続く。

要介護度別で見ると、要介護度が上がるにつれて「日中の排泄」「夜間の排泄」「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」の割合が増加する。また、要支援1～2では「外出の付き添い、送迎等」(30.2%)、要介護1～2では「認知症状への対応」(60.4%)、要介護3～5では「日中の排泄」(29.6%)がそれぞれ最も高い。

【B票-問6 介護者が不安に感じる介護等の内容】

(市全体)

(要介護区分)



介護者が不安に感じる介護等の内容について、勤務形態でみると、フルタイム勤務とパートタイム勤務ともに「認知症状への対応」が最も高く、次いでフルタイム勤務では「外出の付き添い、送迎等」(28.2%)、パートタイム勤務では「夜間の排泄」(31.0%)となっている。

就労継続意向別でみると、“続けていくのは、難しい”という意向の人では「日中の排泄」「夜間の排泄」「食事の介助(食べる時)」「認知症状への対応」「医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)」が就労継続可能とする人より高くなっており、これらの介護による不安が、就労継続への困難さを高めていると考えられる。

また、“続けていくのは、難しい”という意向の人より“問題はあるが、何とか続けていける”という意向の人では、「入浴・洗身」「衣服の着脱」「屋内の移乗・移動」「外出の付き添い、送迎等」「食事の準備(調理等)」「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」の割合が高い。今後も就労継続を見込む人たちの仕事と介護の両立支援を行うため、これらの介護等に対応することが必要と考えられる。

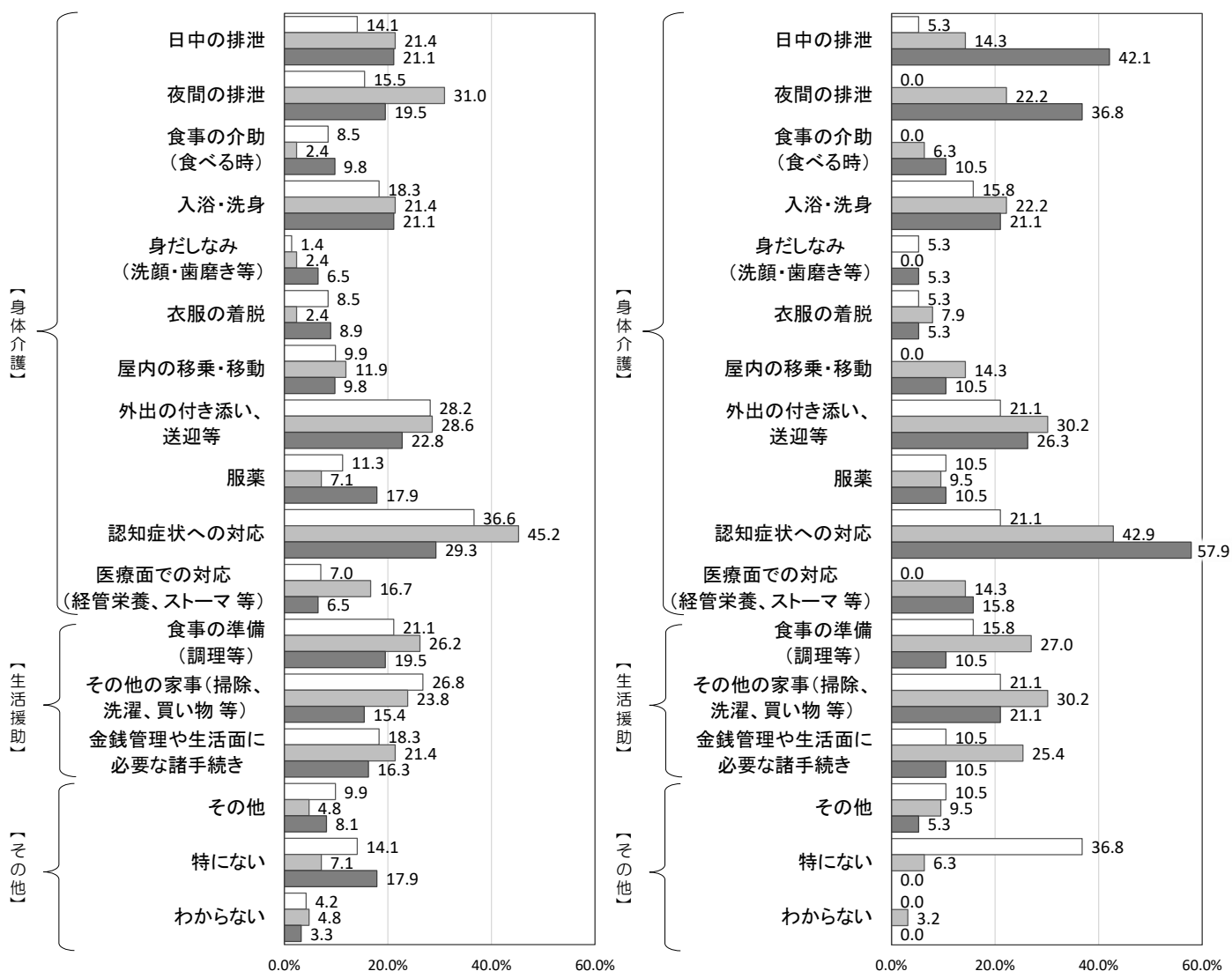
【B票-問6 介護者が不安に感じる介護等の内容】

(勤務形態)

- フルタイム勤務 (n=71)
- パートタイム勤務 (n=42)
- 無職 (n=123)

(就労継続意向別)

- 問題なく、続けていける (n=19)
- 問題はあるが、何とか続けていける (n=63)
- 続けていくのは、難しい (n=19)



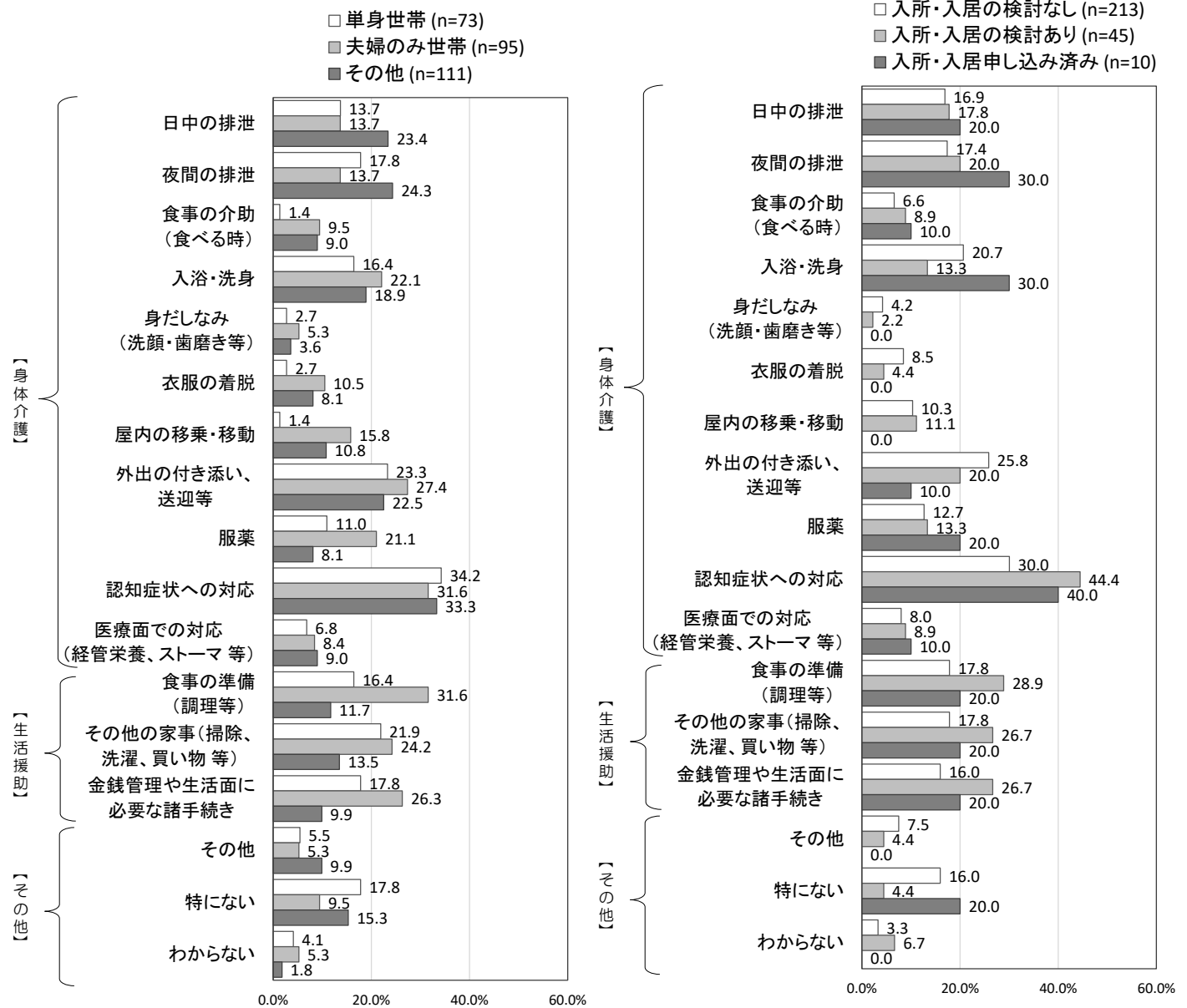
世帯区分でみると、単身世帯では「認知症状への対応」(34.2%)、夫婦のみ世帯では「食事の準備(調理等)」(31.6%)、「外出の付き添い、送迎等」(27.4%)、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(26.3%)、その他の世帯では「日中の排泄」(23.4%)、「夜間の排泄」(24.3%)が他の世帯に比べて高くなっている。

施設等への入所・入居の検討別でみると、“入所・入居の検討あり”又は“入所・入居申し込み済み”とする人では「認知症状への対応」が40%を超えており、認知症状への不安が施設等への入所・入居の検討に影響している。また、“入所・入居の検討なし”とする人では、「外出の付き添い、送迎等」(25.8%)が“入所・入居の検討あり”又は“入所・入居申し込み済み”とする人より高くなっており、在宅介護の継続を見込む人たちの不安を取り除くには、外出支援をさらに充実していくことが必要と考えられる。

【B票-問6 介護者が不安に感じる介護等の内容】

(世帯区分)

(施設等への入所・入居の検討別)



9. 介護者の状況について

(1) 現在の介護者の状況について

18歳以下（高校生まで）の子育てなどと家族・親族等の介護を同時に行うダブルケアの状況について、市全体で「(1)未就学児（小学校入学前までの子ども・孫）を育てている」は1.8%、「(2)小学生を育てている」は3.7%、「(3)中学生・高校生を育てている」は6.4%となっており、これらを合わせた“ダブルケア該当者”は11.9%となる。

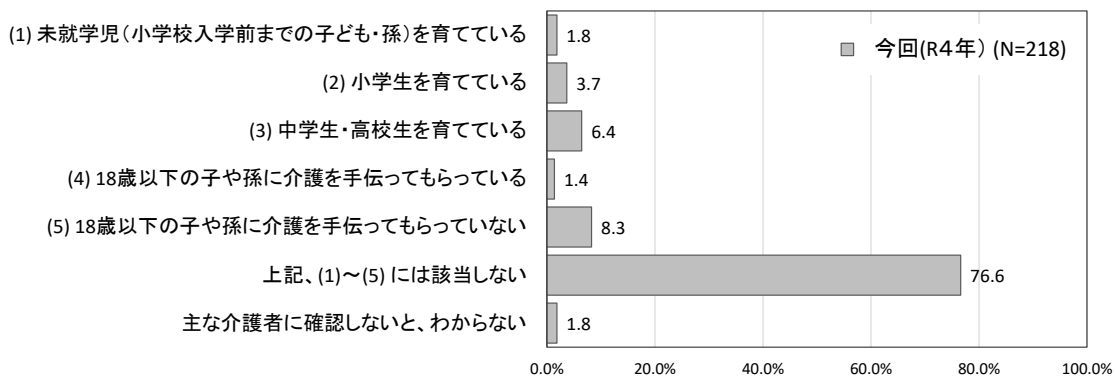
また、「(5)18歳以下の子や孫に介護を手伝ってもらっている」は1.4%となっている。

要介護区分でみると、“ダブルケア該当者”は、要支援1～2では11.6%、要介護1～2では6.6%、要介護3～5では7.5%となっている。

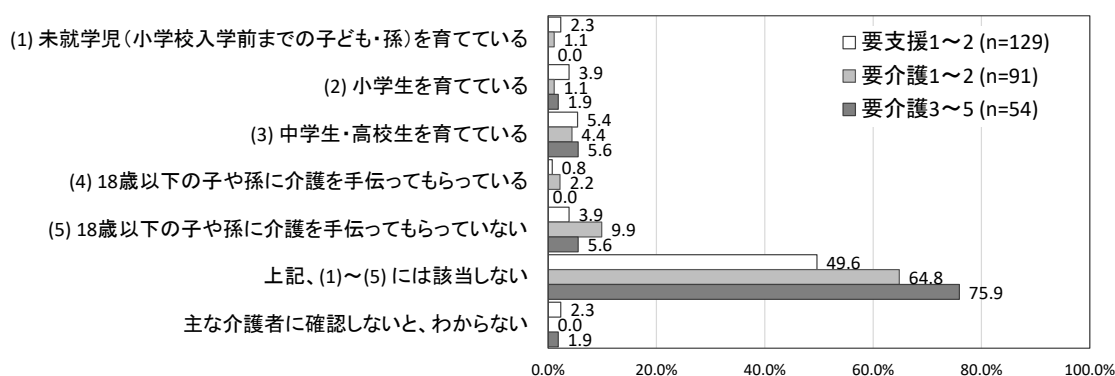
また、「(5)18歳以下の子や孫に介護を手伝ってもらっている」のは、要介護1～2では2.2%とやや高くなっている。

【B票-問11 現在の介護者の状況】

(市全体)



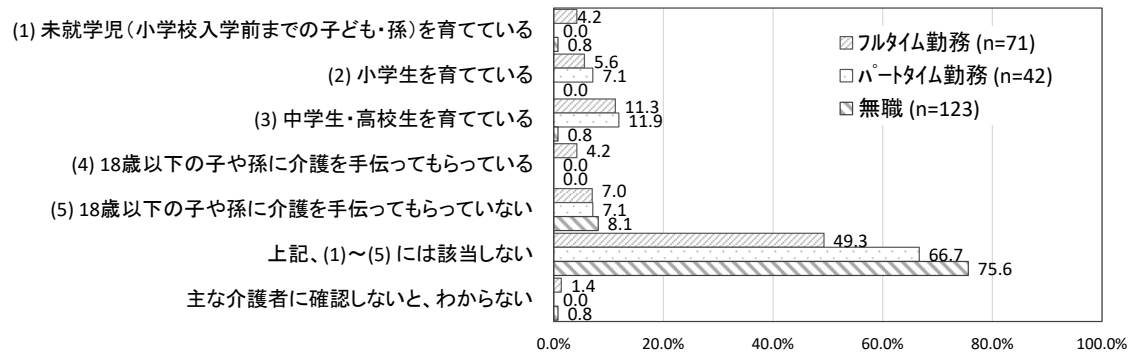
(要介護者の要介護区分)



主な介護者の勤務形態でみると、“ダブルケア該当者”は、フルタイム勤務では21.1%、パートタイム勤務では19.0%と市全体の割合（11.9%）を上回っており、働きながら育児と介護を行う状況もうかがえる。

【B票-問11 現在の介護者の状況】

（主な介護者の勤務形態）



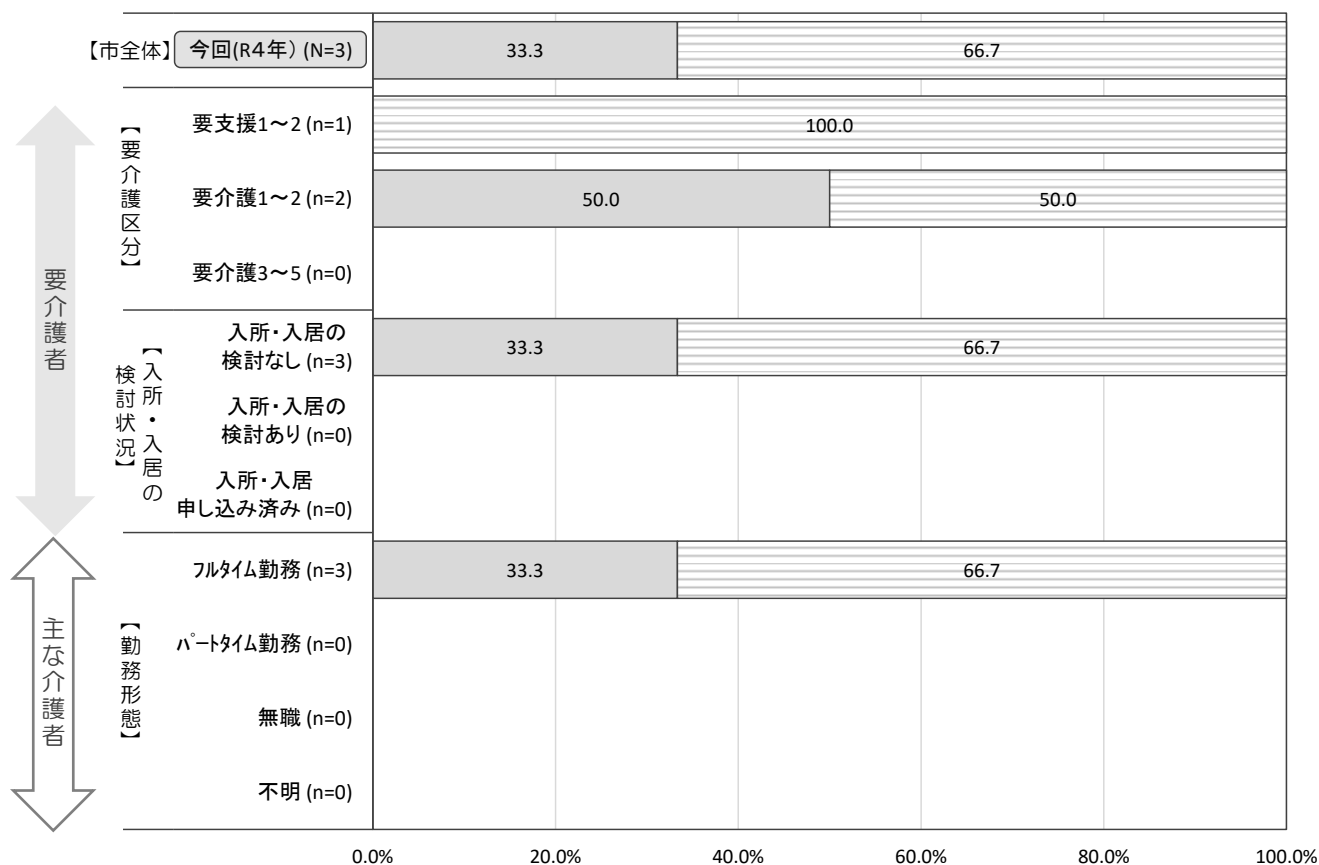
(2) 18歳以下の子や孫に手伝ってもらっている介護について

18歳以下の子や孫に介護を手伝ってもらっている人は3人と少ない。

手伝ってもらっている介護の内容について、市全体で「(1)～(3)以外の介護を手伝っている」が66.7%と最も高く、次いで「(1)食事の世話、家事、身の回りの世話、トイレや入浴の世話の一部を担っている」(33.3%)となっている。

【B票-問12 介護の内容】

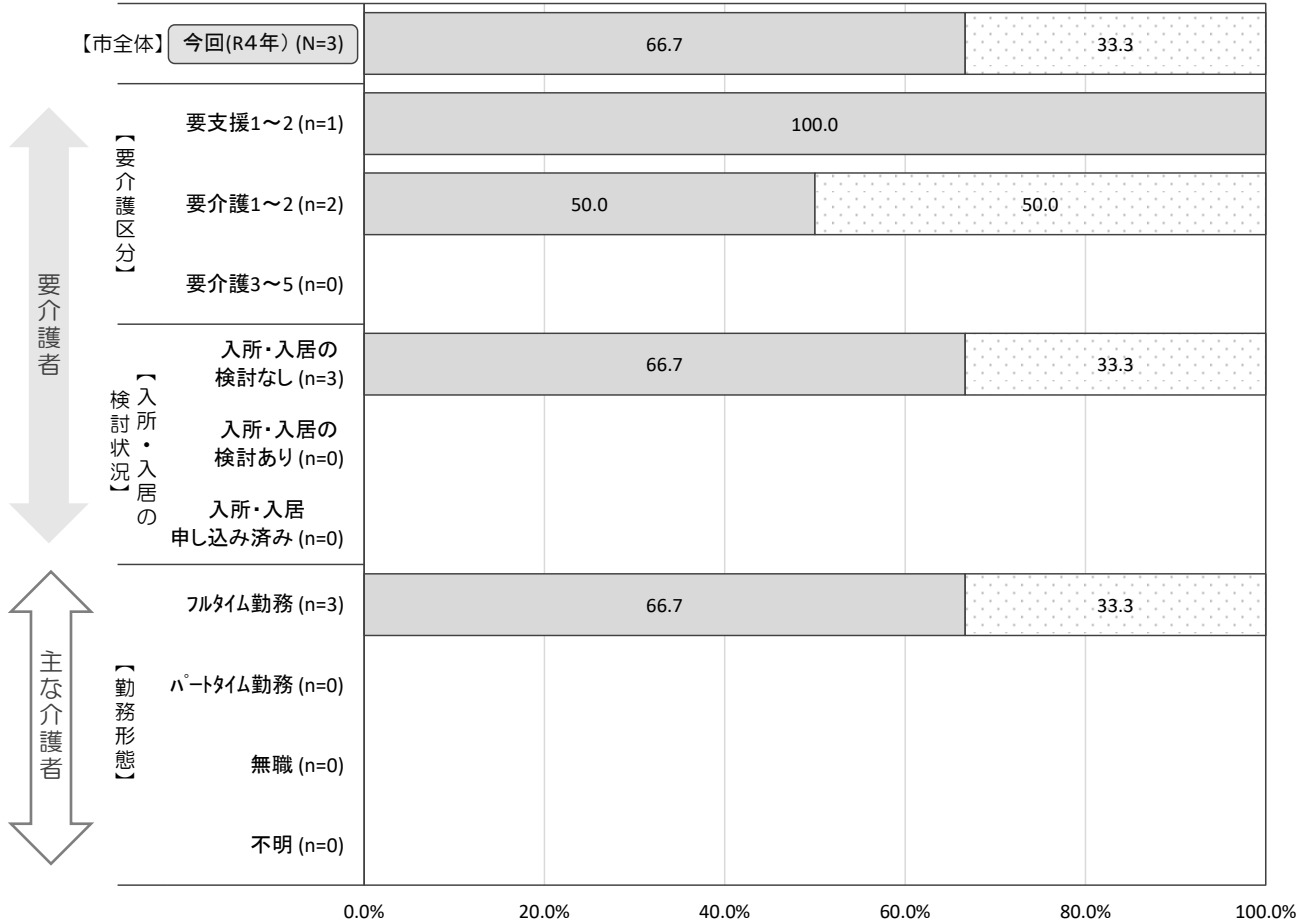
- (1)食事の世話、家事、身の回りの世話、トイレや入浴の世話の一部を担っている
- (2) 食事の世話、家事、身の回りの世話、トイレや入浴の世話全般を手伝っている
- (3) 食事の世話、家事、身の回りの世話をできる範囲で手伝っている
- (1)～(3)以外の介護を手伝っている
- 無回答



18歳以下の子や孫に手伝ってもらっている介護の頻度は、市全体で「週に1日程度」が66.7%と最も高く、次いで「週のほとんど」(33.3%)となっている。

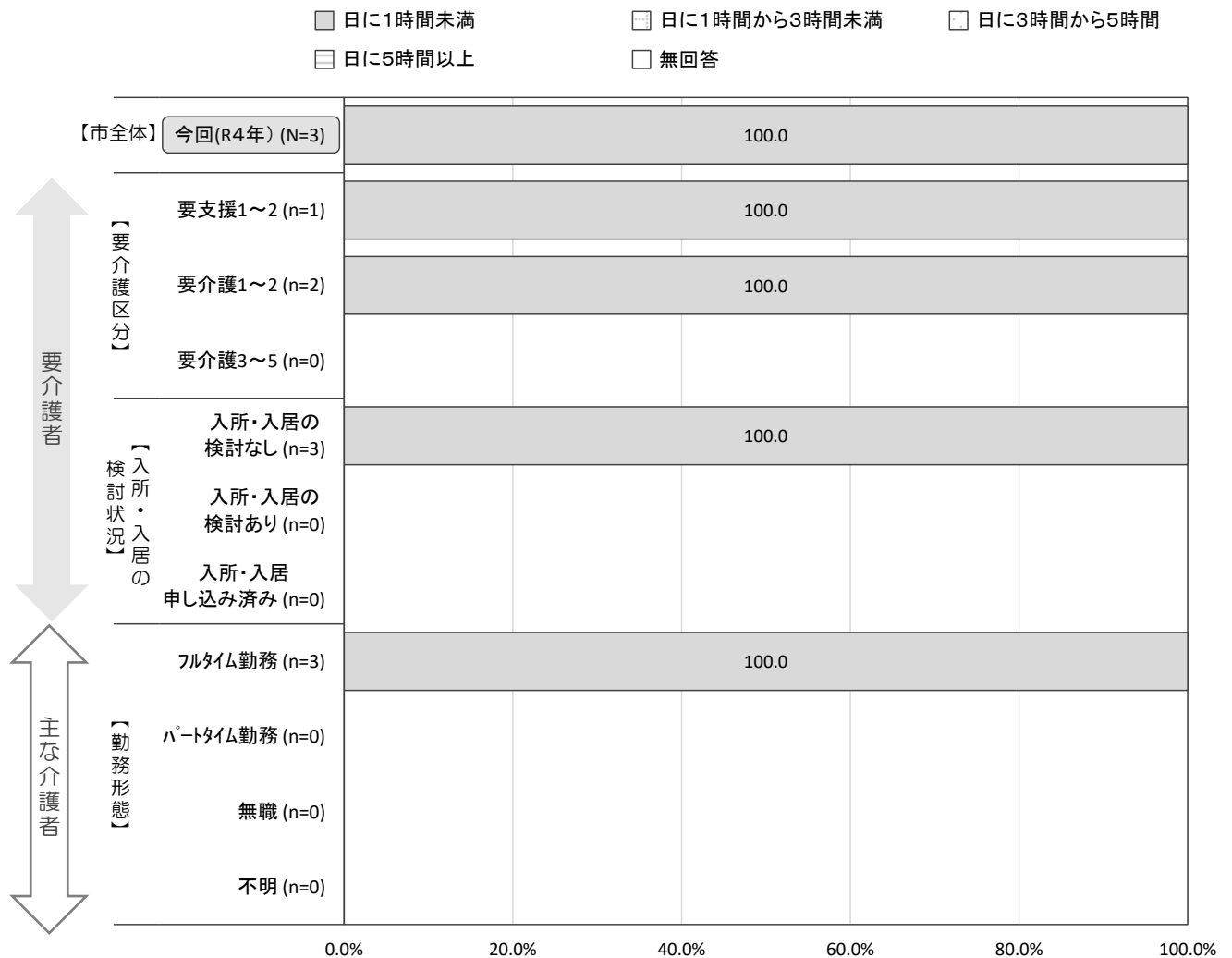
【B票-問12 介護の頻度】

■ 週に1日程度 ■ 週に2～3日程度 ■ 週のほとんど ■ 毎日必ず ■ 無回答



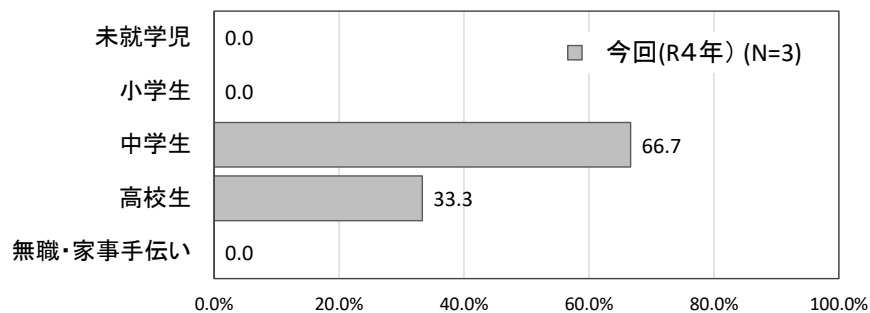
18歳以下の子や孫に手伝ってもらっている介護の時間について、市全体で「日に1時間未満」が100.0%となっている。

【B票-問12 介護の時間】



介護を手伝ってもらっている子や孫の属性は、市全体で「中学生」が66.7%と最も高く、次いで「高校生」(33.3%)となっている。

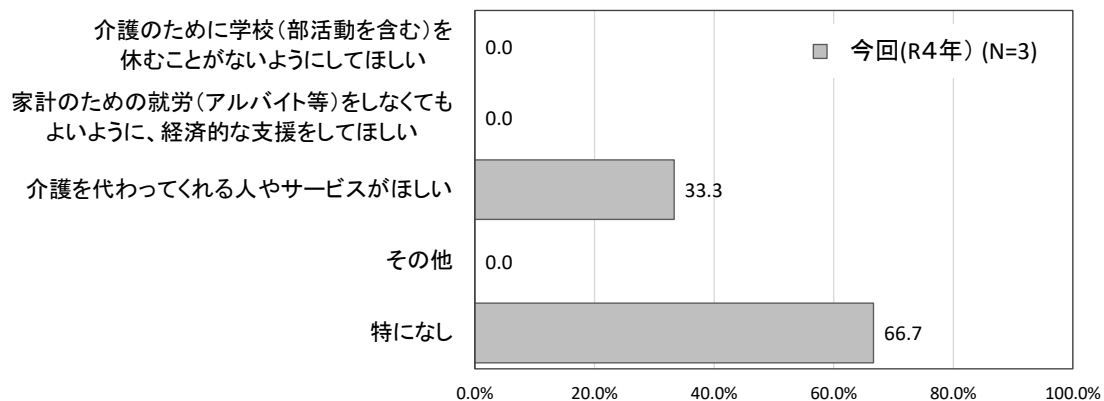
【B票-問12 子や孫の属性】



(3) 介護を手伝っている 18 歳以下の子や孫に対して必要な支援

今後、ご本人が在宅で生活を続けていくために、介護を手伝っている 18 歳以下の子や孫に対しての支援で必要と思われることについて、市全体では「特になし」が 66.7% と最も高く、次いで「介護を代わりにしてくれる人やサービスがほしい」(33.3%) の順に続く。

【B票-問 13 介護を手伝っている】



10. ダブルケアについて

(1) ダブルケアを行う上での負担

① 子育ての負担

ダブルケアの子育てを行う上で、精神的、体力的、経済的に感じる負担について、「非常に感じる」と「やや感じる」を合わせた“子育てに負担を感じる”は45.4%となっており、前回調査（60.6%）と比べて15.2ポイント減少している。

主な介護者の性別でみると、「非常に感じる」は女性が16.7%と男性（11.1%）より高くなっている。

主な介護者の年齢区分でみると、“子育てに負担を感じる”は、40代では38.5%、50代では80.0%となっている。

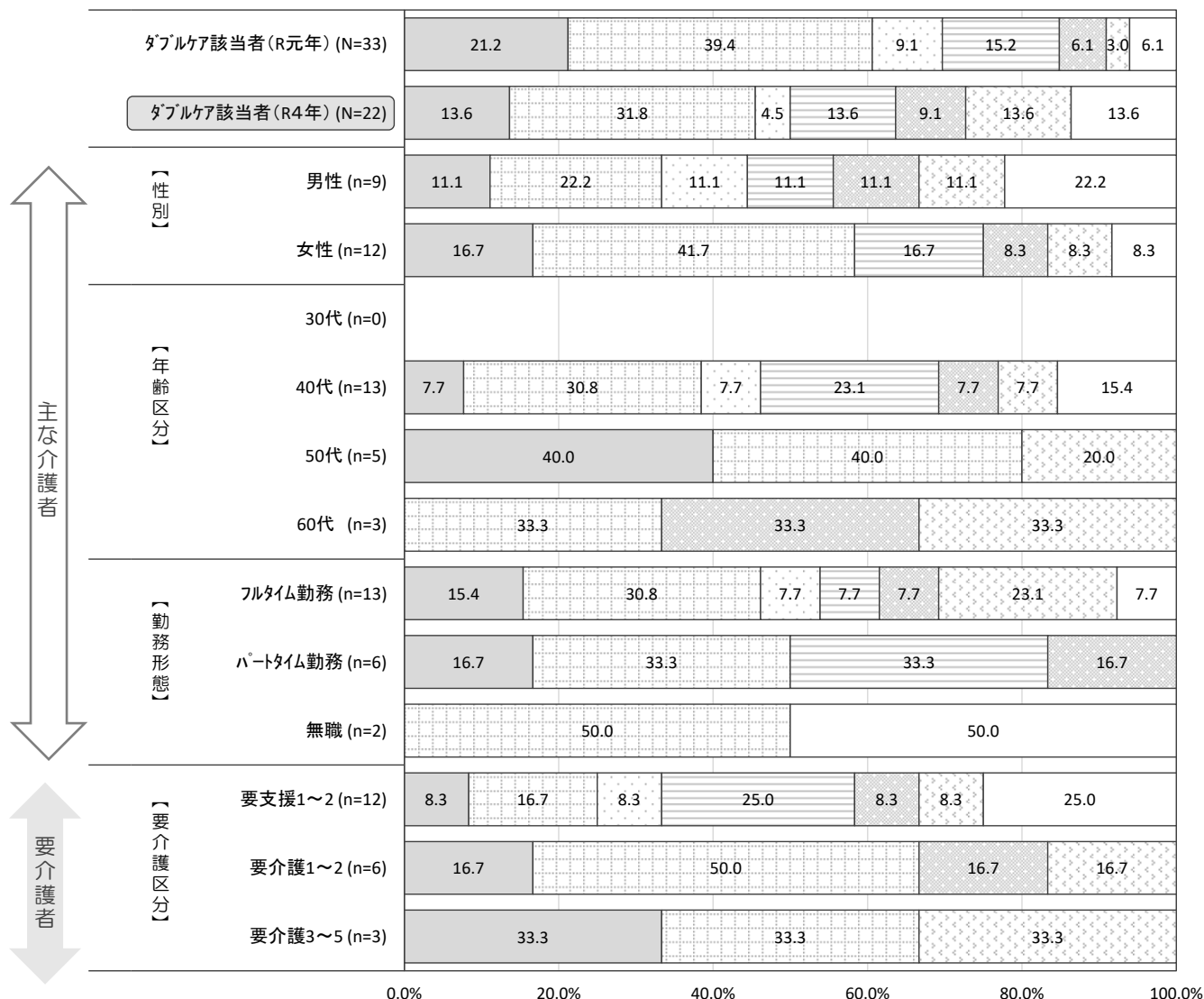
主な介護者の勤務形態でみると、“子育てに負担を感じる”は、フルタイム勤務では46.2%、パートタイム勤務では50.0%となっている。

要介護者の要介護区分でみると、“子育てに負担を感じる”は、要支援1～2が25.0%、要介護1～2が66.7%、要介護3～5が66.6%となっている、

【C票-問1-① 子育ての負担】

① 子育て

非常に感じる やや感じる どちらとも言えない あまり感じない
 感じない わからない 無回答



② 介護の負担

ダブルケアの介護を行う上で、精神的、体力的、経済的に感じる負担について、全体で「やや感じる」「非常に感じる」が 36.4%と最も高く、これらを合わせた“介護に負担を感じる”とする割合は 72.8%と高い。

主な介護者の性別でみると、“介護に負担を感じる”は女性が 83.4%と男性(66.6%)より 16.8 ポイント高い。

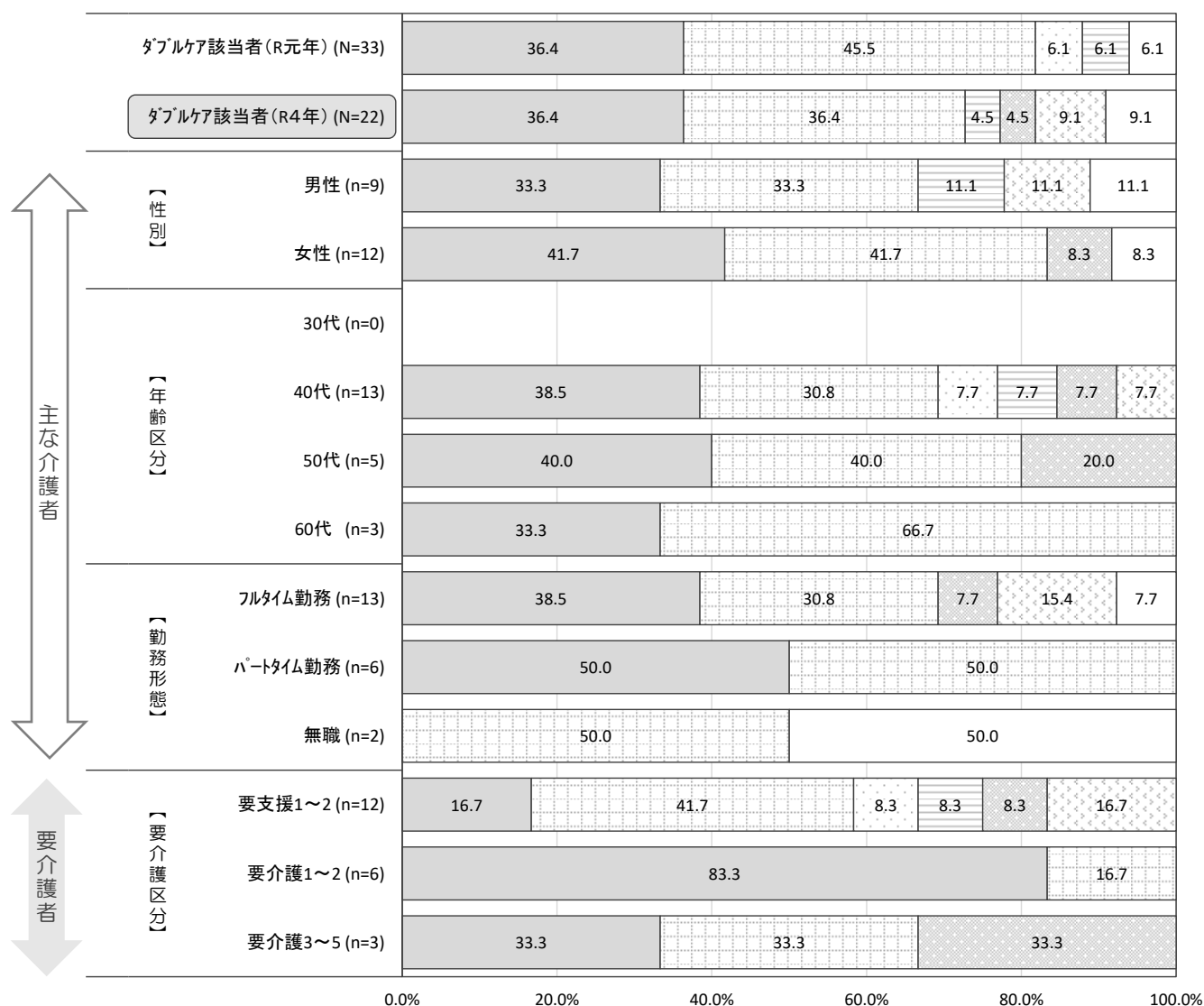
主な介護者の年齢区分でみると、“介護に負担を感じる”は、年齢が上がるにつれて高くなり、40代では 69.3%、50代では 80.0%、60代では 100.0%となっている。

主な介護者の勤務形態でみると、“介護に負担を感じる”は、フルタイム勤務では 69.3%、パートタイム勤務では 100.0%と高い。

要介護者の要介護区分でみると、“介護に負担を感じる”は、要介護 3～5 が 66.6%、要介護 1～2 が 100.0%、要支援 1～2 が 58.4%となっている。

【C票-問1-② 介護の負担】

- ② 介護
- 非常に感じる
 - やや感じる
 - どちらとも言えない
 - あまり感じない
 - 感じない
 - わからない
 - 無回答

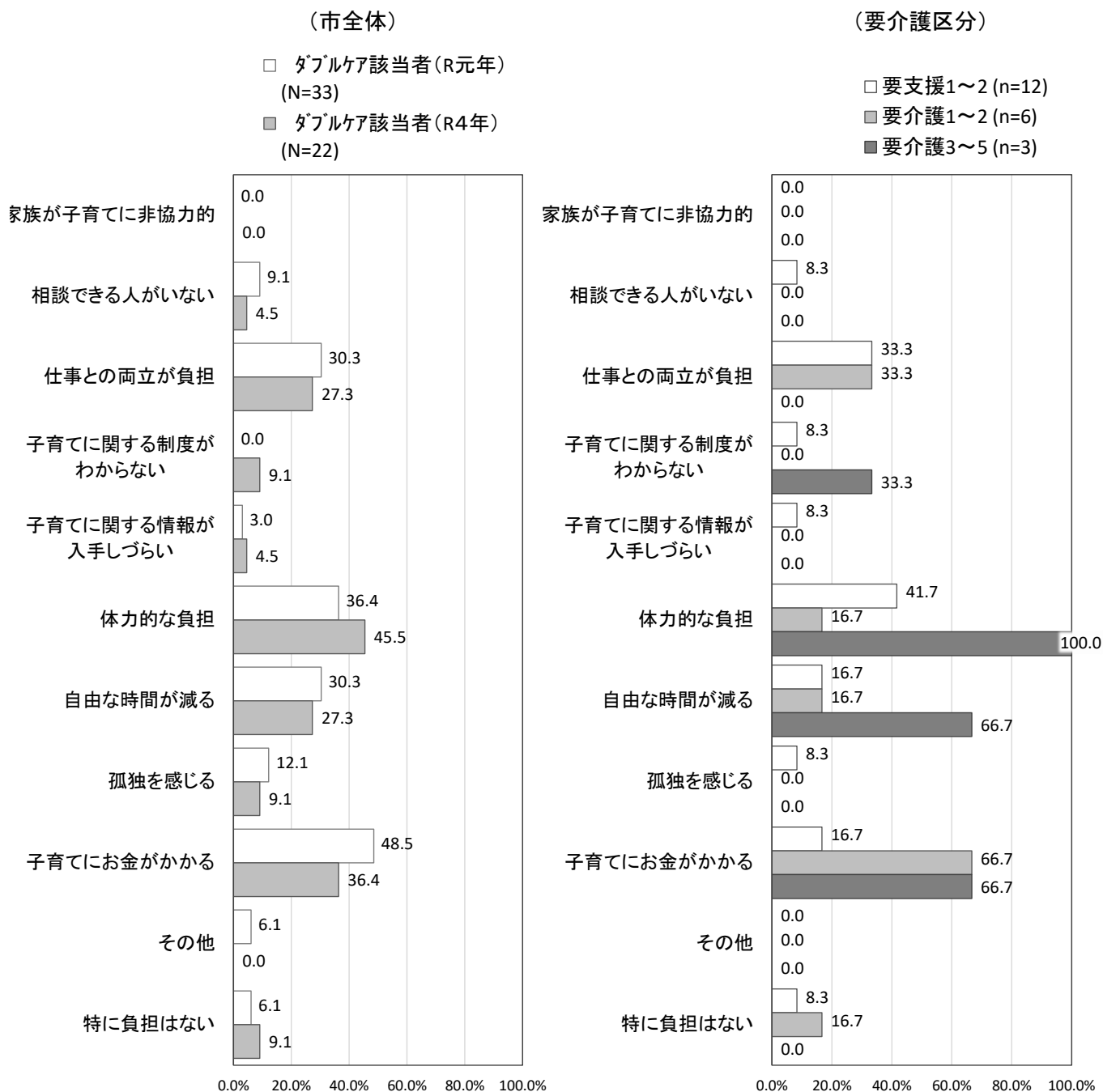


(3) 子育てに対して、特に負担を感じること

普段の子育てに対して、特に負担を感じることについて、全体で「体力的な負担」が45.5%と最も高く、次いで「子育てにお金がかかる」(36.4%)、「仕事との両立が負担」「自由な時間が減る」(27.3%)の順に続く。また、「子育てに関する制度がわからない」(9.1%)との回答がみられる。

要介護度別でみると、要介護3～5では「体力的な負担」が100.0%と他の要介護区分に比べて高い。

【C票-問2 子育てに対して、特に負担を感じること】



勤務形態でみると、フルタイム勤務では「体力的な負担」(53.8%)、パートタイム勤務では「仕事との両立が負担」「子育てにお金がかかる」(50.0%)、無職では「体力的な負担」(50.0%)がそれぞれ最も高くなっている。

前問の子育ての負担感でみると、“子育てに負担を感じる”とする人では、「体力的な負担」「子育てにお金がかかる」が60.0%と最も高く、次いで「自由な時間が減る」(50.0%)、「仕事との両立が負担」(30.0%)の順に続く。また、“子育てに負担は感じない”とする人でも、「仕事との両立が負担」が40.0%と“子育てに負担を感じる”とする人より高い。

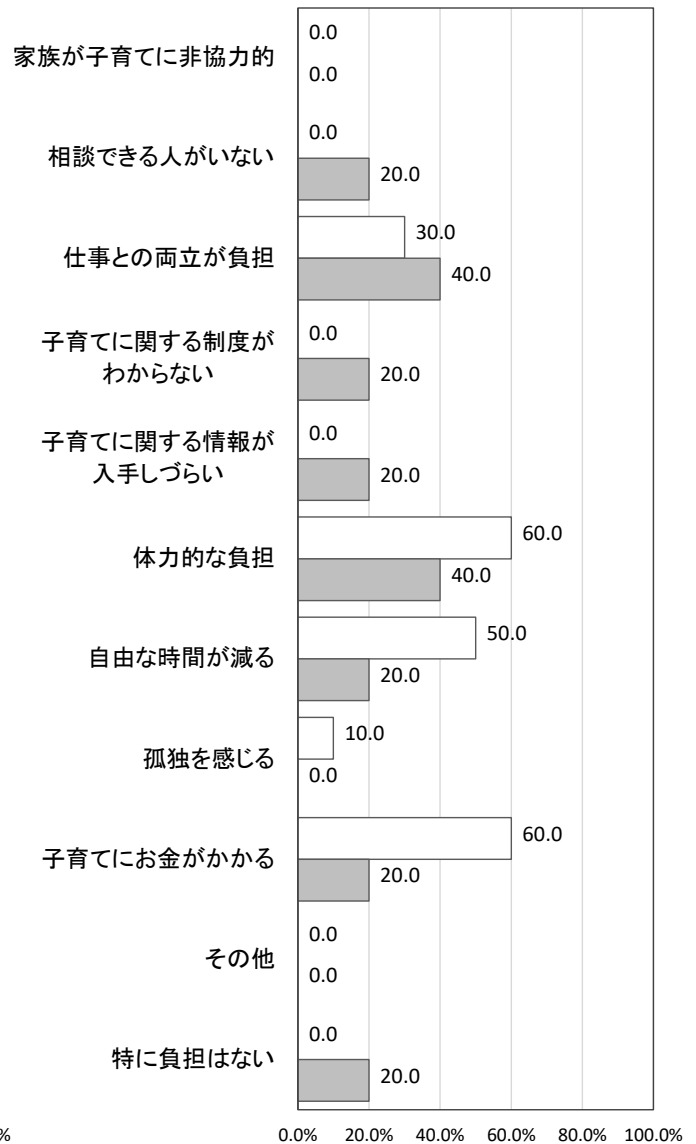
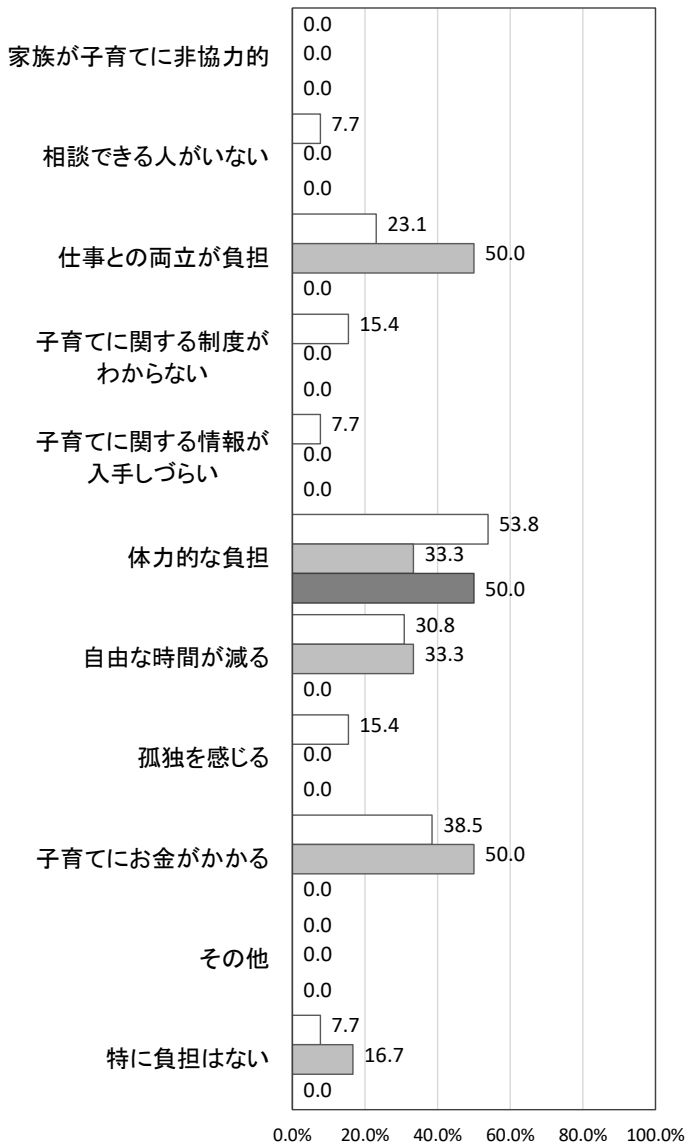
【C票-問2 子育てに対して、特に負担を感じること】

(勤務形態)

(子育ての負担感)

- フルタイム勤務 (n=13)
- パートタイム勤務 (n=6)
- 無職 (n=2)

- 子育てに負担を感じる (n=10)
- 子育てに負担は感じない (n=5)



(4) 介護に対して、特に負担を感じること

介護に対して、特に負担を感じることについて、全体で「仕事との両立が負担」が45.5%と最も高く、次いで「いつまで介護が続くかわからない」「自由な時間が減る」(40.9%)の順に続く。

要介護度別でみると、要介護度が上がるにつれて「(介護を必要とする人が)介護サービスの利用を嫌がる」「自由な時間が減る」の割合が増加する。要支援1～2では「いつまで介護が続くかわからない」(41.7%)、要介護1～2では「仕事との両立が負担」(83.3%)、要介護3～5では「(介護を必要とする人が)介護サービスの利用を嫌がる」「体力的な負担」「自由な時間が減る」(66.7%)がそれぞれ最も高くなっている。

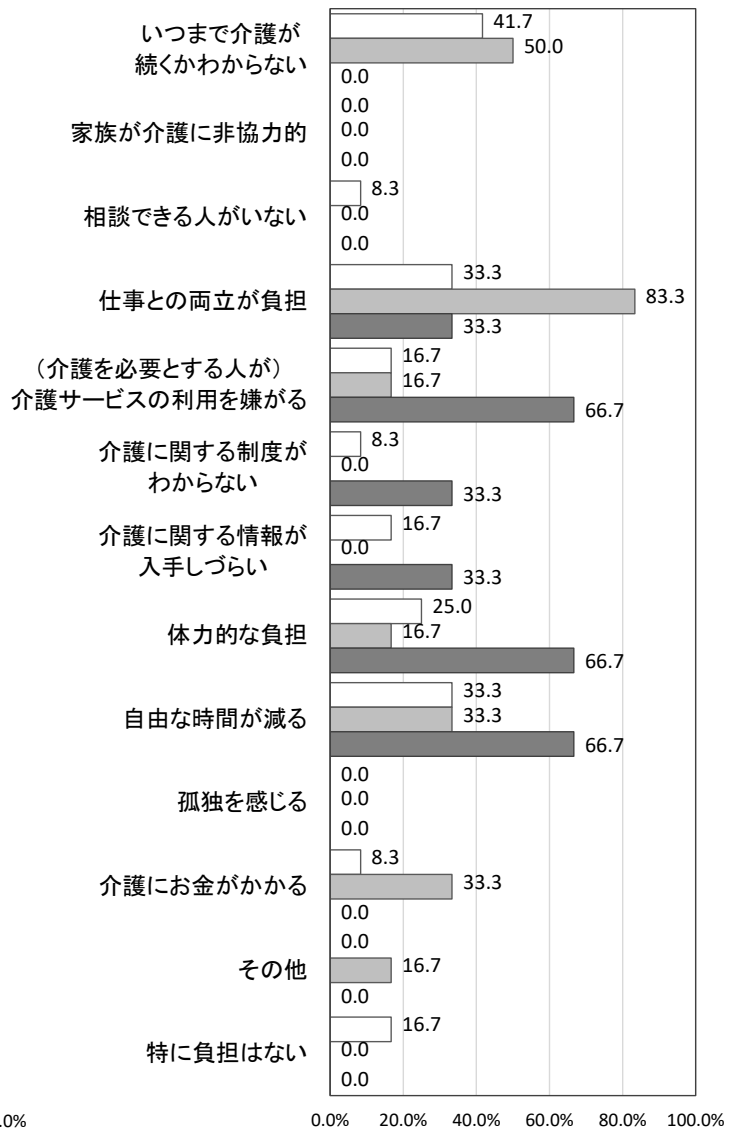
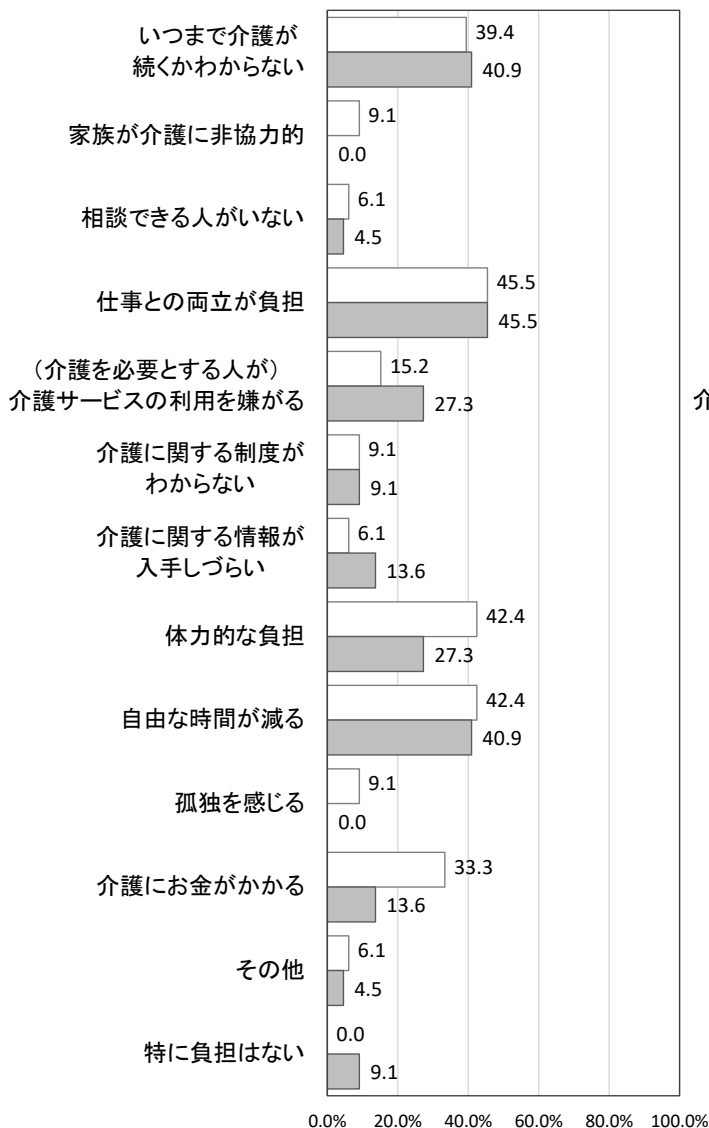
【C票-問3 介護に対して、特に負担を感じること】

(市全体)

(要介護区分)

□ ダブルケア該当者(R元年)
(N=33)
■ ダブルケア該当者(R4年)
(N=22)

□ 要支援1～2 (n=12)
■ 要介護1～2 (n=6)
■ 要介護3～5 (n=3)



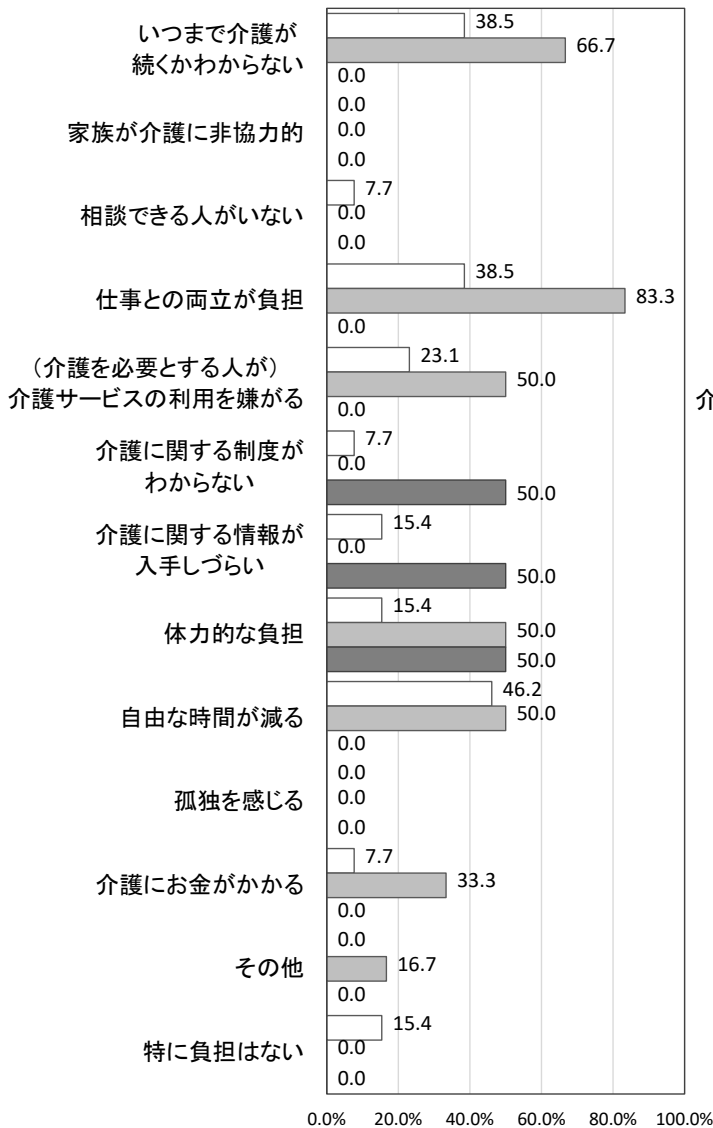
勤務形態でみると、フルタイム勤務では「いつまで介護が続くかわからない」「仕事との両立が負担」(38.5%)、パートタイム勤務では「仕事との両立が負担」(83.3%)、無職では「介護に関する制度がわからない」「介護に関する情報が入手しづらい」「体力的な負担」(50.0%) がそれぞれ最も高くなっている。

前問の介護の負担感でみると、“介護に負担を感じる”とする人では、「仕事との両立が負担」が 62.5%と最も高く、次いで「いつまで介護が続くかわからない」(56.3%)、「自由な時間が減る」(50.0%) の順に続く。

【C票-問3 介護に対して、特に負担を感じること】

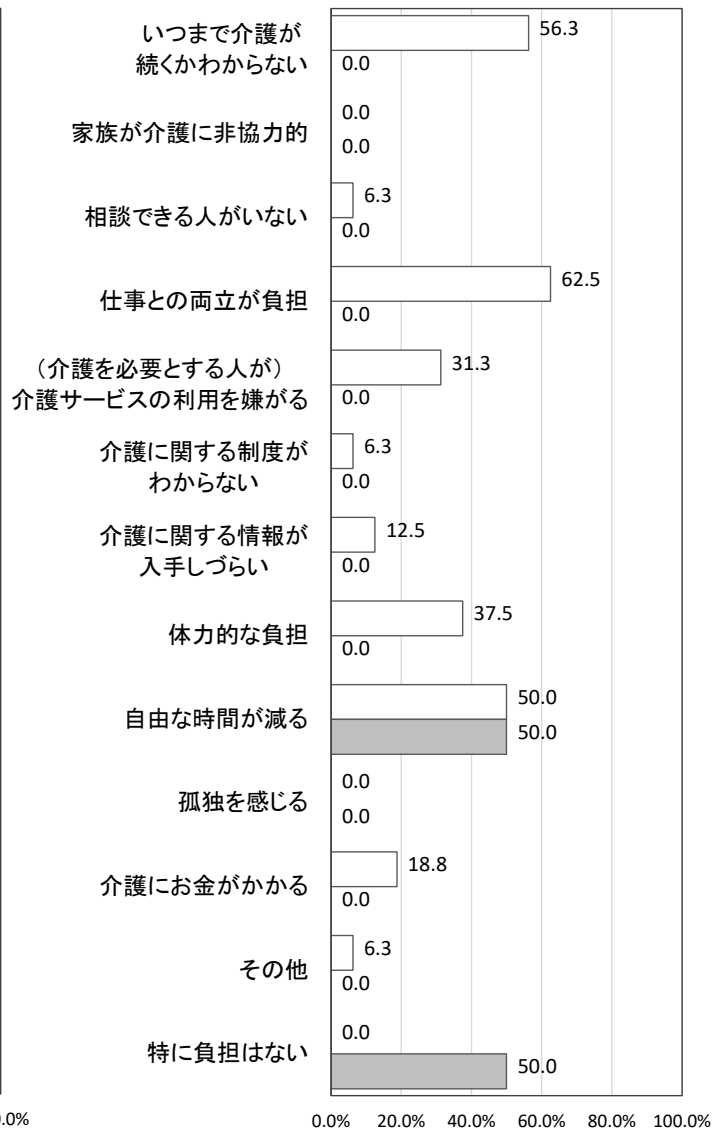
(勤務形態)

- フルタイム勤務 (n=13)
- パートタイム勤務 (n=6)
- 無職 (n=2)



(介護の負担感)

- 介護に負担を感じる (n=16)
- 介護に負担は感じない (n=2)



(5) ダブルケアの相談

ダブルケアであることを相談したことがあるかについて、全体で「相談したことはない」が59.1%と高く、「相談したことがある」は13.6%と低い。

主な介護者の性別でみると、「相談したことがある」は男性では0.0%、女性では25.0%となっている。

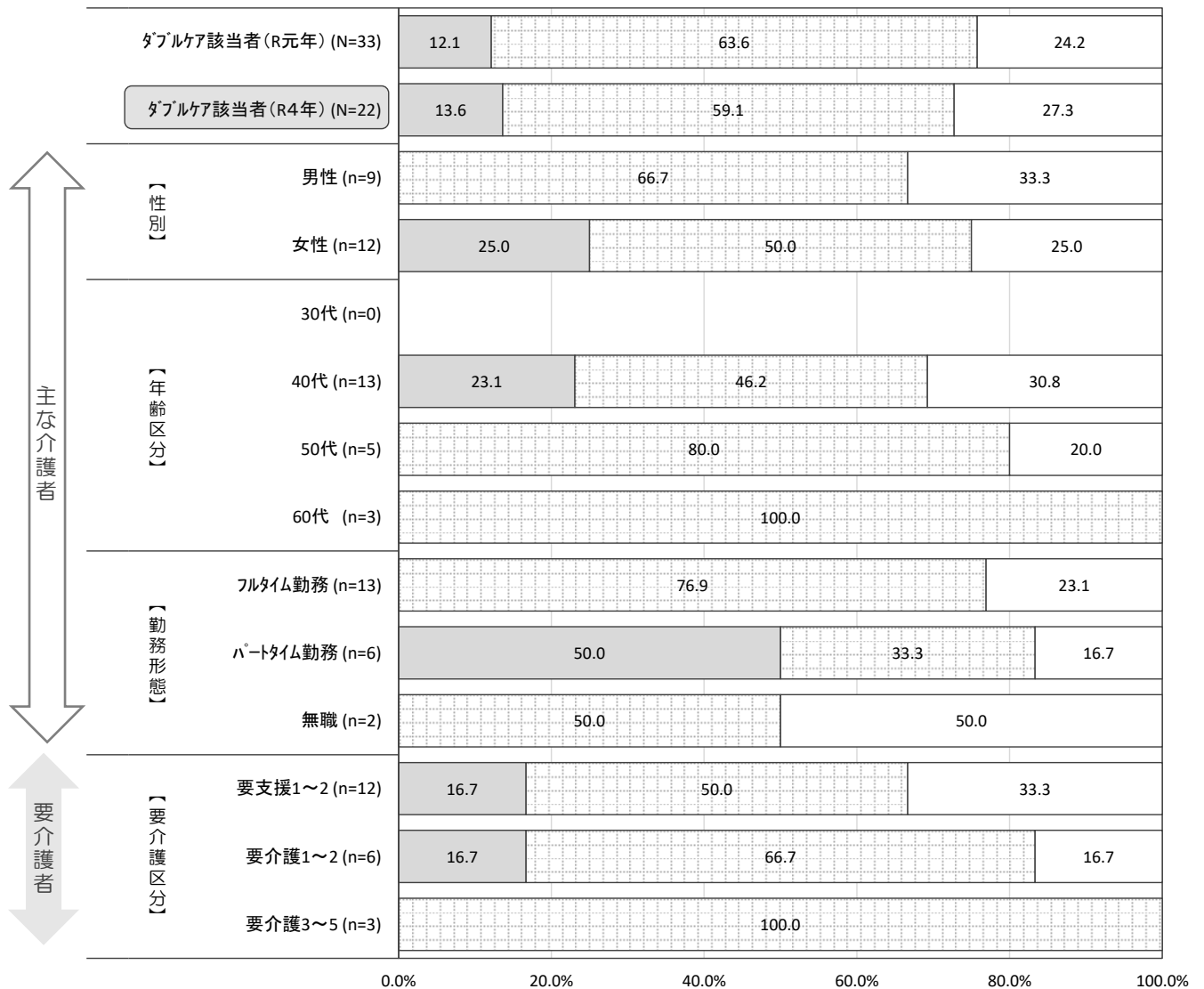
主な介護者の年齢区分でみると、「相談したことがある」は、40代が23.1%、50代と60代では0.0%となっている。

主な介護者の勤務形態でみると、「相談したことがある」は、フルタイム勤務と無職では0.0%とパートタイム勤務（50.0%）に比べて低い。

要介護区分でみると、要支援1～要介護2では「相談したことがある」のは16.7%となっているが、要介護3～5では0.0%となっている。

【C票-問4 ダブルケアの相談】

☐ 相談したことがある ☐ 相談したことはない ☐ 無回答

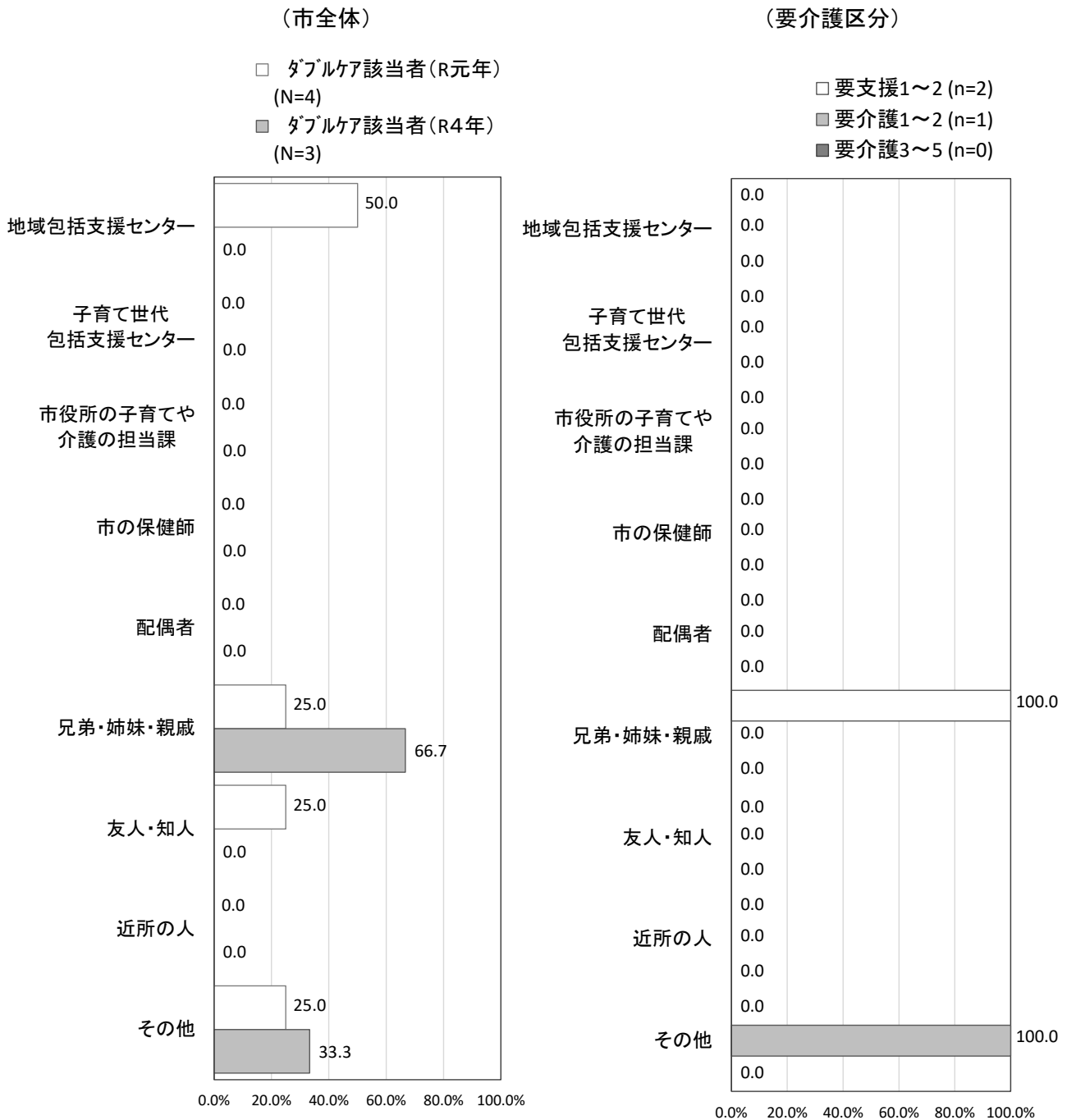


(6) ダブルケアに関する相談先

ダブルケアについて相談したことがある人は3人と少なく、相談先は「兄弟・姉妹・親戚」が66.7%、「その他」が33.3%となっている。「その他」は具体的には、「スクールカウンセラー」「ケアマネジャー」となっている。

要介護度別で見ると、要支援1～2では「兄弟・姉妹・親戚」が100.0%、要介護1～2では「その他」が100.0%となっている。

【C票-問5 ダブルケアに関する相談先】



(7) ダブルケアの相談をしたことがない理由

ダブルケアであることを相談したことがない理由について、全体で「相談する必要がある」が53.8%と最も高く、次いで「相談先がわからない」(30.8%)、「相談先がない」「その他」(7.7%)の順に続く。「その他」の内容は、「ケアマネがいる」「解決につながらないと考えるから」という回答がみられる。

主な介護者の性別でみると、男女ともに「相談する必要がある」が最も高い。また、男性では「相談先がわからない」が33.3%と女性(16.7%)の約2倍となっている。

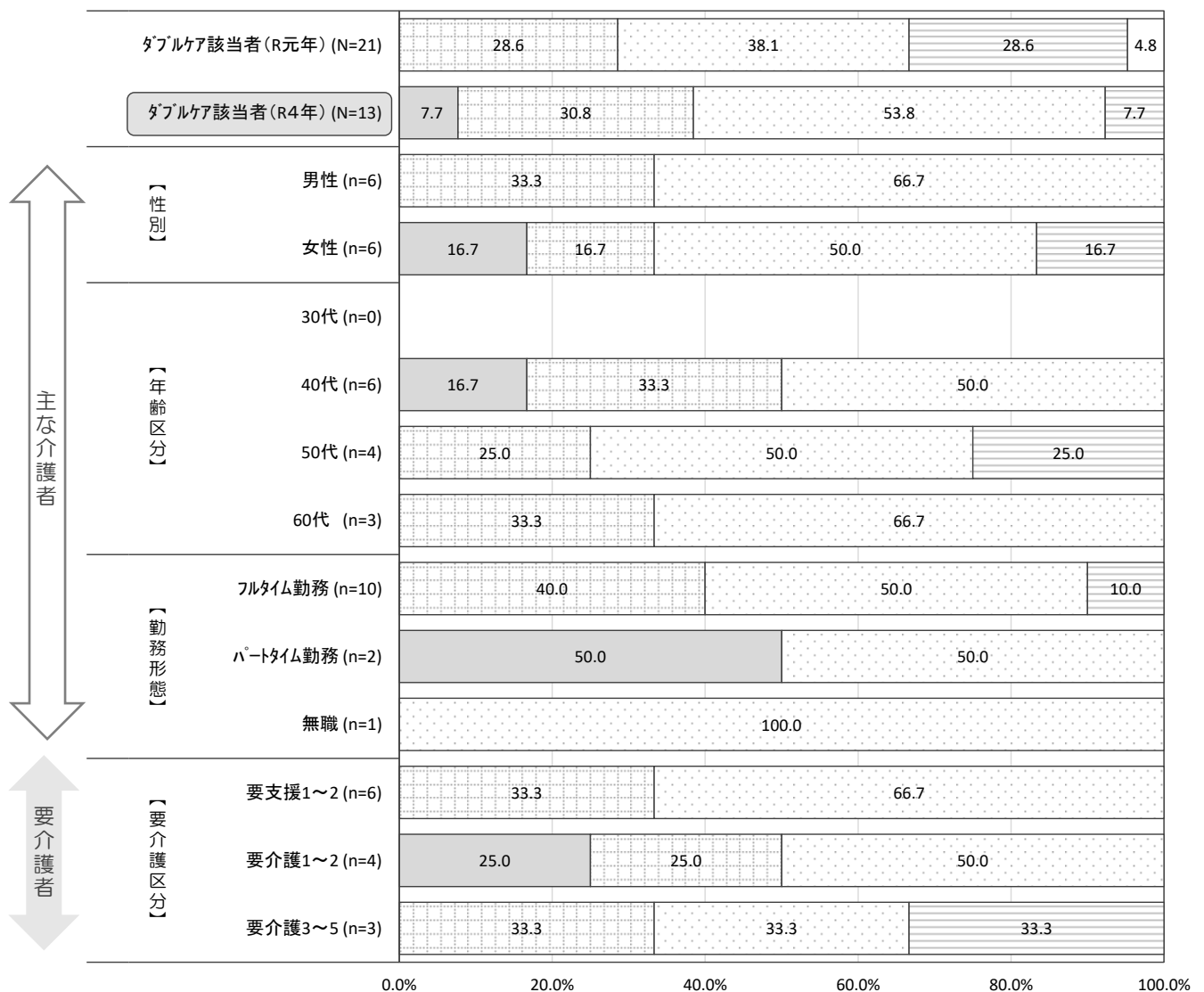
主な介護者の年齢区分でみると、「相談する必要がある」は、40代と50代が50.0%、60代が66.7%となっている。

主な介護者の勤務形態でみると、「相談先がわからない」は、フルタイム勤務では40.0%とパートタイム勤務や無職に比べて高い。また、パートタイム勤務では「相談先がない」が50.0%とフルタイム勤務・無職に比べて高い。

要介護区分でみると、「相談先がわからない」は、要支援1～2と要介護3～5では33.3%、要介護1～2では25.0%となっている。

【C票-問6 ダブルケアの相談をしたことがない理由】

相談先がない
 相談先がわからない
 相談する必要がある
 その他
 無回答

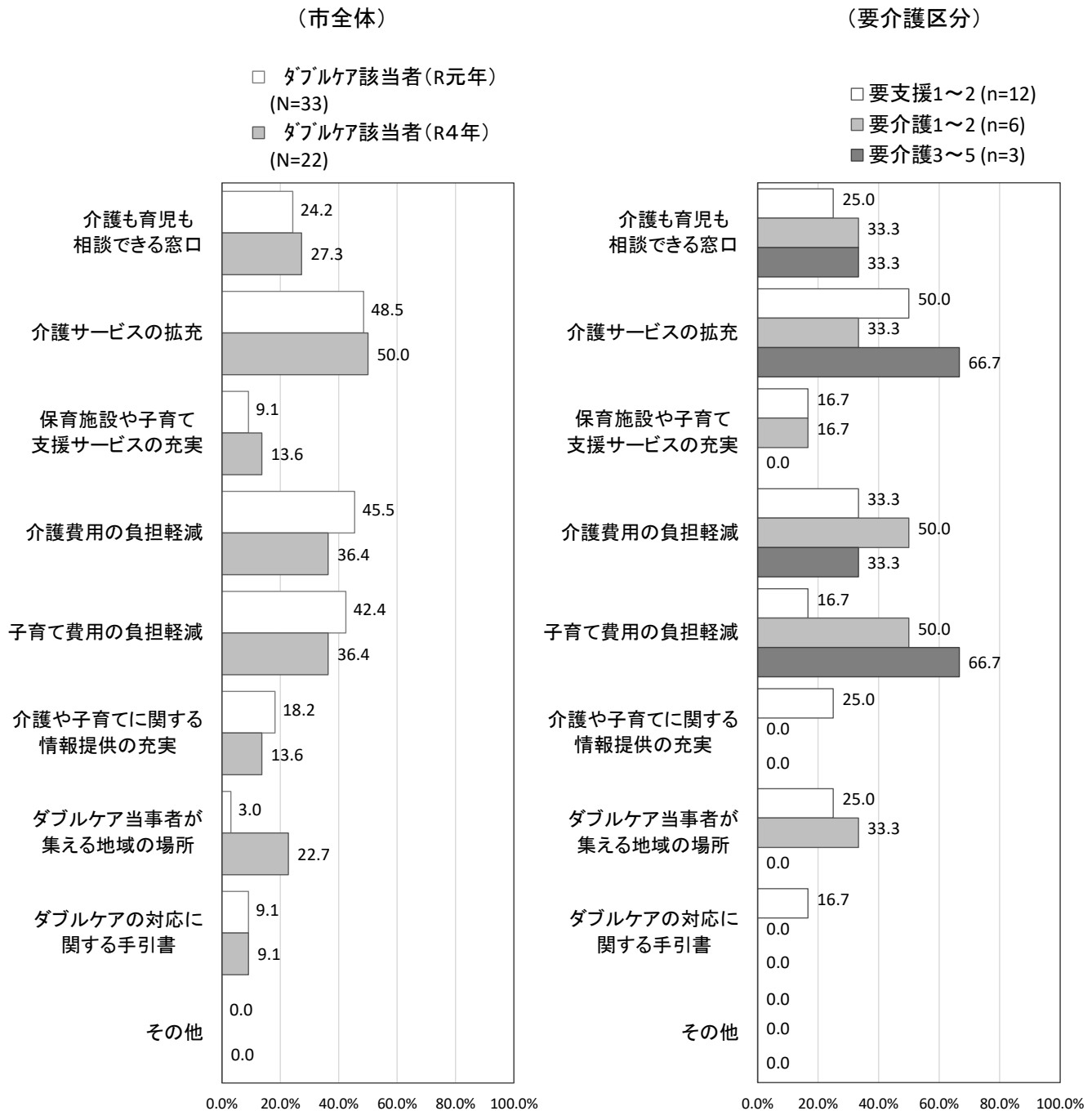


(8) ダブルケアに対する必要な支援策

ダブルケアを行う家族介護者等に対する必要な支援策について、全体で「介護サービスの拡充」が50.0%と最も高く、次いで「介護費用の負担軽減」「子育て費用の負担軽減」(36.4%)、「ダブルケア当事者が集える地域の場所」(22.7%)の順に続く。

要介護者の要介護度別で見ると、要支援1～2では「介護サービスの拡充」(50.0%)、要介護1～2では「介護費用の負担軽減」(50.0%)、要介護3～5では「介護サービスの拡充」「子育て費用の負担軽減」(66.7%)がそれぞれ最も高い。

【C票-問7 ダブルケアに対する必要な支援策】



11. 仕事と介護の両立に向けた必要な支援・サービス等について

- 家族等介護者のうち、就労している人の割合は39.9%となっている。また、勤務形態は「フルタイム勤務」が25.1%、「パートタイム勤務」が14.8%となっている。就労している主な介護者が男性の場合はフルタイム勤務が多く、女性の場合はパートタイム勤務が多い。(103～104頁)
- 主な介護者が在宅介護を行う頻度は、フルタイム勤務・パートタイム勤務では、就労していない人（無職）に比べて、介護の頻度は低くなっている。(141頁)
- 就労している介護者の多くは、労働時間の調整や休暇を取得しながら仕事と介護の両立を図っている。また、パートタイム勤務では「介護のために労働時間を調整しながら、働いている」がフルタイム勤務よりも多い。(143頁)
- 仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援は、「制度を利用しやすい職場づくり」が最も多い。勤務形態でみると、フルタイム勤務では「制度を利用しやすい職場づくり」、パートタイム勤務では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」「制度を利用しやすい職場づくり」がそれぞれ最も多い。介護をしている人に向けた情報の提供に加え、市民に対する周知も求められている。(144頁)
- 就労継続の見込みについて、“就労継続困難”と考える人は全体で16.8%となっている。勤務形態でみると、フルタイム勤務では12.7%、パートタイム勤務では23.8%とパートタイム勤務の方が、今後の“就労継続困難”と考える割合が高い。(145～146頁)
- 介護保険サービスの利用状況をみると、「利用した」という割合は、フルタイム勤務では63.4%、パートタイム勤務では81.0%となっており、介護サービスを利用しながら、仕事と介護の両立を図っている。(111頁)
- 就労している介護者が不安に感じる介護等の内容は、フルタイム勤務、パートタイム勤務ともに「認知症状への対応」が最も高い。就労継続意向別でみると、“就労継続困難”と考える人は「日中の排泄」「夜間の排泄」「食事の介助（食べる時）」「認知症状への対応」「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」が、「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」よりも高い。これらの介護に関する不安感の解消が、就労と在宅介護を両立できる期間を延ばすことにつながると考えられる。(149頁)
- 「問題はあるが、何とか続けていける」と考える介護者では「入浴・洗身」「衣服の着脱」「屋内の移乗・移動」「外出の付き添い、送迎等」「食事の準備（調理等）」「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が「問題なく、続けていける」や“就労継続困難”よりも高い。就労と在宅介護の両立を少しでも長く続けるためには、その問題となっている事項の解消が必要であり、介護者の不安感や負担の軽減に関する支援策の充実が求められている。(149頁)

大野城市 介護予防ニーズ調査・在宅介護実態調査

【報告書】

発行日:令和5年3月

発行者:大野城市 介護支援課